科目名	キャリアデザインⅠ			担当者	斉藤尚志（サイトウタカシ）						
区　分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	各教員のオフィスアワーまたは電子メール（info@cdl-c.com）											
専門的学習成果	①	自分の興味・関心・強みを多角的に分析し、将来に向けた具体的な「夢」や「目標」を言語化できる。										
	②	社会人として必要なマインドセット（主体性・レジリエンス・考動力）を理解し、日常の行動に反映できる。										
	③	他者の意見を尊重しながら、自分の考えを論理的に伝えるなど、基本的なコミュニケーションを実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	自己管理能力（セルフ・マネジメント）を活用し、社会的・職業的自立につなげることができる。 （専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	情報収集・分析能力（リサーチ＆ロジカルシンキング）を活用し、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、問題解決ができる。（専門的学習成果③に関連）										
	(3)	対人相互作用能力（コミュニケーション・リテラシー）を活用し、人との関わりに必要な他者理解の能力を有し、協働することができる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	本講義は、将来のキャリア形成に向けた「自律的キャリア形成」をつくる基本編です。変化の激しい現代社会において、主体的に人生を切り拓くためのマインドセット（考え方）と、自分自身の強みや価値観を言語化する自己理解を深めます。また㈱オリエンタルランド（東京ディズニーランド）の事例を交えながら、３つの視点（①創造的な風土を管理する能力　②個々の価値が十分に認められた参加型の環境　③建設的目標の達成に向けた自らの動機づけ）や「ホスピタリティマインド」などもお伝えします。また後半では「キャリアデザインⅡ」で実施する「課題解決型学習」（PBL：Project Based Learning）に必要な基礎スキル（論理的思考力、コミュニケーション力、情報収集術）を習得し、自ら問いを立て、行動し続けるための土台を構築します。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	45	毎回の授業で提出「参加カード：小テスト）（各３点×15回）
		提出課題	15	課題３回（５回・10回・15回）の節目で提出（各５点×３回）
		総合試験	20	最後の授業（15回）で試験
		平常点	20	授業への参加意欲、態度、考動など、全体を通して評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	理想経営	『学生のためのキャリアワークブック』	株式会社 理想経営

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	斉藤尚志	『ディズニーに学ぶ リーダーの授業』	BLA 出版
	斉藤尚志	『ディズニーに学ぶ 新人が伸びる仕事の授業』	BLA 出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回の授業において、テキスト『学生のためのキャリアワークブック』に基づいた予習・復習の目安を提示する。 学習過程において生じた不明点は事前に整理し、明確にしたうえで授業に臨むこと。 （予習：週２時間程度、復習：週２時間程度） ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	「キャリア」とは（Career）	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	社会人と学生の違い（見える景色の違い）を考察できる	
	予習復習の内容	担当教員よりテキストに基づいた予習・復習の目安を提示	
2回	授業内容	「自律的キャリア形成」を学ぶ	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	主体的にキャリアの方向性を考え、言語化できる	
	予習復習の内容	自身のキャリア形成について考察する	
3回	授業内容	「自己 PR には「型」がある（PREP 法・STAR モデル）	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	自分の強みや学びを、論理的に説明できる	
	予習復習の内容	自身の強みについて分析する	
4回	授業内容	「目的と目標」のつくり方・「達成」の仕方	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	目的を明確にし、達成可能な目標を設定し、具体的に行動・実行できる	
	予習復習の内容	自身のキャリア形成について目標を立てる	
5回	授業内容	「人生グラフ」作成（人生曲線・感情曲線）	参加カード提出（小テスト） 提出課題
	学習成果	これまでの人生経験を振り返り、自分の価値観・強み・成長の特徴を言語化できる	
	予習復習の内容	これまでの人生から、自己分析を行う	
6回	授業内容	「外発的動機」「内発的動機」	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	自分自身の「興味」「能力」「経験」「価値観」を言語化できる	
	予習復習の内容	動機概念の整理を行う	
7回	授業内容	「基本ベースのコミュニケーション」を探す	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	相手との「共通の物語」を見つけることで、安心と信頼の対話力を身につける	
	予習復習の内容	自己の対話傾向を分析する	
8回	授業内容	「価値観」の探索	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	自らの行動やキャリア選択の「判断基準」を明確にできる	
	予習復習の内容	自己の価値観を整理する	
9回	授業内容	「能力」の探索	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	ホランドタイプの分析を通して、自分の能力特性や興味傾向を客観的に理解できる	
	予習復習の内容	ホランド理論を予習し、理解しておく	
10回	授業内容	「社会行動特性」の探索	参加カード提出（小テスト） 提出課題
	学習成果	自らの対人行動の強みと特徴を認識し、職業場面での行動の活かし方が考えられる	
	予習復習の内容	対人行動特性について理解し、活用法を考察する	
11回	授業内容	「自己開示とフィードバック」（ジョハリの窓）	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	自己開示と相互フィードバックを通して、対人コミュニケーション力を向上させる	
	予習復習の内容	ジョハリの窓について予習し、理解しておく	
12回	授業内容	「コンセンサス」（意見の一致、合意）	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	個人と集団の意思決定の違いを体験し、他者の意見を取り入れる重要性を理解する	
	予習復習の内容	意思決定の過程について復習する	
13回	授業内容	「計画的・計画された偶発性理論」（Planned Happenstance Theory）	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	予測不能な変化を前提に、自ら機会を創りだす姿勢でキャリアを設計できる	
	予習復習の内容	VUCA の４つの要素について、理解しておく	
14回	授業内容	「自らの自己 PR ”取扱説明書”」をつくる！	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	他者に自己をアピールできる	
	予習復習の内容	作成した「自らの自己 PR ”取扱説明書”」を洗練する	
15回	授業内容	「最終まとめ」（チームビルディング：総合テスト）	参加カード提出（小テスト） 提出課題 総合試験
	学習成果	チームの中での自分の役割と、貢献の仕方を理解し、主体的に考動できる	
	予習復習の内容	自己役割について整理し、貢献行動を省察する	

科目名	キャリアデザインⅡ			担当者	斉藤（サイトウ）尚志（タカシ）						
区　分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	各教員のオフィスアワーまたは電子メール（info@cdl-c.com）											
専門的学習成果	①	キャリアを自律的に形成する意義を理解し、論じることができる。										
	②	目的・目標を持つ大切さを理解し、「内発的動機」の意義をもって、安定したモチベーションを維持できる。										
	③	自分を取り巻く過去から未来への環境変化を明確にし、今後自分が担うべき役割や身に着けるべき能力を明確に述べられる。										
汎用的学習成果	(1)	自己管理能力（セルフ・マネジメント）を活用し、社会的・職業的自立につなげることができる。 （専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	情報収集・分析能力（リサーチ＆ロジカルシンキング）を活用し、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、問題解決ができる。（専門的学習成果①③に関連）										
	(3)	対人相互作用能力（コミュニケーション・リテラシー）を活用し、人との関わりに必要な他者理解の能力を有し、協働することができる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	「キャリアデザインⅡ」で実施する「課題解決型学習」（PBL：Project Based Learning）に必要な基礎スキル（論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集術）を習得し、自ら問いを立て行動し続けるための土台を構築します。授業は「問題解決の場」です。問題とは「あるべき姿と現状とのギャップ」のことでギャップを明確化することが重要です。問題には3種類あり（見える問題・探す問題・創る問題）、自由に意見を出し合う「ブレーンストーミング」と「KJ法」により、テーマ別に問題点を洗い出し、最後は「創る問題」で解決を目指します。 「ブレーンストーミング」（集団発想法の手法を使って問題の阻害原因を洗い出す） 「KJ法」（アイデアや思いつきを効率よく整理。グループ化でまとめ因果関係を明確化する） 「マインドマップ・ロジックツリー」（効果や作り方を学びテーマの阻害原因を明確化する）											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	45	毎回の授業で提出「参加カード：小テスト）（各3点×15回）
		提出課題	15	課題3回（5回・10回・15回）の節目で提出（各5点×3回）
		総合試験	20	最後の授業（15回）で試験
		平常点	20	授業への参加意欲、態度、考動など、全体を通して評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	理想経営	『学生のためのキャリアワークブック』	株式会社 理想経営

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	斉藤尚志	『ディズニーに学ぶ リーダーの授業』	BLA 出版
		『ディズニーに学ぶ 新人が伸びる仕事の授業』	BLA 出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回の授業において、テキスト『学生のためのキャリアワークブック』に基づいた予習・復習の目安を提示する。 学習過程において生じた不明点は事前に整理し、明確にしたうえで授業に臨むこと。 （予習：週2時間程度、復習：週2時間程度） ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	「導入」（オリエンテーション）	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	PBLの意義を理解し、チーム編成できる	
	予習復習の内容	PBLの意義を予習し、理解しておく	
2回	授業内容	「準備」（グランドルールをつくる）	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	ビジネスマナー、守秘義務（企業の情報を扱う自覚を持つ）を遂行できる	
	予習復習の内容	担当教員よりグランドルール策定の作業を提示	
3回	授業内容	「開始」 第1回：企業登壇：企業にお越しいただき、現状と課題を直接聞く	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	課題を可視化できる	
	予習復習の内容	担当教員よりミッションの公開	
4回	授業内容	「調査」企業や業界をリサーチ	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	「見える問題」競合他社や市場環境を分析できる	
	予習復習の内容	各自で企業や業界をリサーチする	
5回	授業内容	「分析」現場の観察	参加カード提出（小テスト） 提出課題
	学習成果	「探す問題」設計準備（アンケート等）ができる	
	予習復習の内容	現場の課題を見出す準備をおこなう	
6回	授業内容	「考察」現場観察	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	「探す問題」調査結果と課題を再定義できる	
	予習復習の内容	作成した「調査結果と課題」を洗練する	
7回	授業内容	「企画」解決策のアイデア出し	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	「探す問題」ブレインストーミングができる	
	予習復習の内容	課題背景を整理し、分類しておく	
8回	授業内容	「中間」 第2回：企業登壇　中間報告会	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	「探す問題」方向性のズレを修正できる	
	予習復習の内容	現状課題と仮説を確認し、方向性の再設定を行う	
9回	授業内容	「改善」フィードバック	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	「探す問題」フィードバックを受けブラッシュアップできる	
	予習復習の内容	想定される質問を準備し、修正案を具体化しておく	
10回	授業内容	「構築」具体的な実行案	参加カード提出（小テスト） 提出課題
	学習成果	「創る問題」実行、収支、スケジュールを計画できる	
	予習復習の内容	必要資源を洗い出し、収支・工程を予想しておく	
11回	授業内容	「制作」提案書・プレゼン資料の作成	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	「創る問題」論理を構成し、デザインできる	
	予習復習の内容	作成したプレゼン資料を洗練する	
12回	授業内容	「演習」プレゼンリハーサル	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	「創る問題」相互評価と修正ができる	
	予習復習の内容	発表内容の確認をしておく	
13回	授業内容	「発表」 第3回：企業登壇　最終プレゼン大会	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	自分を取り巻く環境変化を明確にし今後自分が担うべき役割や身に着けるべき能力を明確に述べられる	
	予習復習の内容	発表内容の確認をしておく	
14回	授業内容	「振返」企業からの振返り	参加カード提出（小テスト）
	学習成果	フィードバックを分析し、個人の反省点を述べられる	
	予習復習の内容	企業からのフィードバックを活かしてプレゼン内容の反省をおこなう	
15回	授業内容	「総括」まとめ	参加カード提出（小テスト） 提出課題 総合試験
	学習成果	履歴書やエントリーシート、面接に反映することができる	
	予習復習の内容	自身の履歴書を作成する	

科目名	ビジネス実務総論				担当者	富田 幸重（トミタ ユキエ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回の授業で連絡する。授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	ビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を習得し実践できる。										
	②	簡単なビジネス文書について理解し、作成することができる。										
	③	ビジネスにおける対人関係においてコミュニケーションの必要性を理解し、主体的行動をとることができる。										
汎用的学習成果	(1)	実践的なビジネス実務を学ぶことを通して社会的職業的自立につながる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①③に関連）										
	(2)	簡単なビジネス文書の技術を習得することにより、簡潔で明快な表現を思考することができる。（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力が養われ、他者を理解し自己表現ができる。（専門的学習成果①③に関連）										
授業概要	学生生活と職場生活の違いは何か。組織や仕事とはどういうものなのか。基本的なビジネス社会の構造や仕事へのアプローチ及び働く意義を学ぶ。具体的には、これから社会人として仕事をしていく上での必要な基礎知識（ビジネス常識、ビジネス文書、及び対人関係におけるマナー・接遇）を習得する。さらには、あらゆる場面や人間関係に応じた敬語表現を身につけることにより、他者との豊かなコミュニケーションを築くことができるようになる。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	30	テーマに沿ったレポートの評価　（体裁・内容・根拠・独創性にて評価する。）
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価する。
		平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果②により評価を行う。 （3）は専門的学習成果①③により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習として、日常的に新聞・経済雑誌などを利用し、授業での学びを確認し理解を深めておくこと。（計30時間）　事後学習としては、授業の内容を復習し、課題や就職における業界研究について調べるなど、自主的に学びを発展させるようにすること。（計30時間） ②提出された課題・試験は全体的な解説・講評を行い、フィードバックするので、自らの理解を深めること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス　ビジネス社会の現状　働く意義とは	講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	学生と社会人の違い、働く意義について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	仕事の基本①　仕事の基本となる８つの意識　仕事への取り組み	
	学習成果	仕事の基本となる８つの意識について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、仕事の基本となる８つの意識について理解を深める。	
3回	授業内容	仕事の基本②　会社のルールと勤務条件	
	学習成果	企業倫理（コンプライアンス）、勤務条件を理解し、内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の勤務条件と給与のしくみについて考察する。	
4回	授業内容	仕事の基本③　会社の組織と運営	
	学習成果	組織を効率よく動かすための分業システムを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、分業システムを理解し整理しておく。	
5回	授業内容	ビジネス文書①　文書の目的と意義　ビジネス文書作成における留意点	
	学習成果	ビジネス文書の意義を理解し、用語・書式を説明できる。	
	予習復習の内容	ビジネス用語を復習し、理解を深める。	
6回	授業内容	ビジネス文書②　社内文書の種類と作成例	
	学習成果	簡単な社内文書が作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、社内文書についての理解を深める。	
7回	授業内容	ビジネス文書③　社外文書と社交文書の特徴と基本構成	
	学習成果	社外文書と社交文書の慣用句、書式を説明できる。	
	予習復習の内容	社外文書と社交文書を理解し、就職内定の礼状などに役立つようにする。	
8回	授業内容	ビジネス文書④　受信文書の取り扱い及び発信　郵便の知識	課題レポート提出　（テーマ詳細は授業内で指示）第11回までに提出 講義内で配布する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	葉書・封筒の宛名の書き方、郵便知識を説明できる。	
	予習復習の内容	文書の発信、郵便知識を理解し、就職活動に役立つようにする。	
9回	授業内容	ビジネス常識①　社会保険と税金	
	学習成果	社会保障の種類と仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、社会保障について理解を深める。	
10回	授業内容	ビジネス常識②　社会常識を高める情報収集　表とグラフの読み方	
	学習成果	新聞などからの情報収集ができるようになる。	
	予習復習の内容	新聞・インターネットなどを利用し、学習や就職活動に役立つようにする。	
11回	授業内容	ビジネス常識③　ビジネス用語　経済環境の変化と企業	講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用 筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回後半に実施
	学習成果	日本の経済環境、産業構造の変化を説明できる。	
	予習復習の内容	少子高齢化社会、労働制、男女雇用機会均等法などを調べておくこと。	
12回	授業内容	対人関係①　職場の人間関係と敬語、接遇用語の使い方	
	学習成果	敬語や接遇用語の必要性を理解し、場面に応じて使い分けができるようになる。	
	予習復習の内容	相手に応じた表現の仕方を考察し、積極的に実践する。	
13回	授業内容	対人関係②　接遇マナー　来客応対　訪問のマナー	
	学習成果	出迎えから見送りまでの基本マナーが説明できる。	
	予習復習の内容	ひととおりのマナーを心得ておくべき実践し、就職活動などに役立つようにする。	
14回	授業内容	対人関係③　話し方・指示の受け方と報連相	
	学習成果	ビジネスの場にふさわしい言葉遣いを実践できる。	
	予習復習の内容	自己紹介やプレゼンテーションの構成に役立つようにする。	
15回	授業内容	対人関係④　ビジネスと円滑なコミュニケーション　職場の人間関係	
	学習成果	仕事を円滑に進める上でのコミュニケーションが実務の効率を大きく変えることを理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、職場のコミュニケーションについて理解を深める。	

科目名	プレゼンテーション演習				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的学習成果	①	プレゼンテーションの準備を行うことができる。										
	②	わかりやすいプレゼンテーション資料を作ることができる。										
	③	効果的なプレゼンテーションを実施することができる。										
汎用的学習成果	(1)	プレゼンテーションの準備、資料作成、実施について学ぶことを通じて社会的・職業的自立に必要な知識を習得し実践に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	プレゼンテーションの仕組みを包括的に学び、論理的かつ人間的なプレゼンテーションを行い、説得、賛同、共感につなげることができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	習得した専門的知見や技術を活用して地域の課題解決に役立つプレゼンテーションを実施し地域社会の発展に寄与することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	「プレゼンテーションとは何か」などの基礎的理論について学ぶ。理論を踏まえ、準備、リハーサル、実施までの流れの的確な実行を目指す。「準備力」「表現力」など「プレゼンテーション・スキル」を総合し、効果的なプレゼンテーションができる。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	10	1回実施し、100%を配点する。								
		実技	40	2回実施し、各回50%を配点する。								
		平常点	50	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
	汎用的学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	富士通エフ・オー・エム	『よくわかる Microsoft Office PowerPoint 2013』	FOM 出版／富士通エフ・オー・エム									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2回のプレゼンテーション発表（実技①②）は必須。パワーポイントによりビジュアル資料を作成するため USB メモリを持参することが望ましい。教科書・配布資料の指定された箇所を熟読し、理解し、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと（予習：週2時間程度）。課題に対しては、随時フィードバックを行うので、理解不足の点や錯誤した箇所について、十分に振り返りを行うこと。（復習：週2時間程度） ②実技、レポート、その他評価については、口頭でコメントとして伝え、フィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	プレゼンテーション演習の概要	毎回の授業への取り組み、意欲、態度により評価する。実技を一回行う。
	学習成果	各種資格における本授業の位置づけと、目的、内容について適切に理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	世界的に有名なプレゼンテーションについて調査する。	
2回	授業内容	プレゼンテーションの準備①　作成手順と組み立て／表現力①	
	学習成果	プレゼンテーションを行うための一連の流れにを把握し、作業することができる。	
	予習復習の内容	効果的なコミュニケーションの在り方について調査する。	
3回	授業内容	プレゼンテーションの準備②　シナリオ準備／表現力②	
	学習成果	効果的なプレゼンテーションの在り方について探求し、独自のシナリオに活かすことができる。	
	予習復習の内容	効果的な演出方法について調査する。	
4回	授業内容	プレゼンテーションの準備③　シナリオ作成／表現力②	
	学習成果	コンピューターをスムーズに操作し、パワーポイントスライドを作成することができる。	
	予習復習の内容	コンピューターに触れる機会を増やし、OS およびアプリケーションの操作方法に慣れる。	
5回	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成①　機器の名称としくみ	
	学習成果	周辺機器の名称、操作方法を理解し、適切に運用することができる。	
	予習復習の内容	プレゼンテーションに関わる各種機器について調査する。	
6回	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成②　調査、資料作成、練習	
	学習成果	実技に向け、求められる内容に合致した情報について調査し、資料作成ができる。	
	予習復習の内容	より良い資料収集に向け、図書館、インターネット等で調査する。	
7回	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成②　資料作成、練習	
	学習成果	収集した素材を取捨選択し、効果的に組み合わせ、最適化されたコンテンツを意識し、作成していくことができる。	
	予習復習の内容	より良い構成について、優れた事例を調査する。	
8回	授業内容	プレゼンテーション（実技①）	
	学習成果	プレゼンテーションの実技（テスト）を行う。	
	予習復習の内容	他者のプレゼンテーションから学び、自らのプレゼンテーションのレベルアップについて思考する。	
9回	授業内容	総合演習ガイダンス	毎回の授業への取り組み、意欲、態度により評価する。実技を一回行う。レポートを一回課す。
	学習成果	調査、作成、実施の全てにおいて高いレベルを達成するために、意識を変え作業工程を見直すことができる。	
	予習復習の内容	他者を意識し、より優れたワークの提示の在り方について検討する。	
10回	授業内容	総合演習①　調査・情報収集／練習	
	学習成果	より良い実技を行うために求められるテーマを探求し、調査、精査をすることができる。	
	予習復習の内容	発表に向けたテーマについて調査・検討する。	
11回	授業内容	総合演習②　構成準備・情報収集／練習	
	学習成果	収集したプレゼンテーション用の素材を吟味し、取捨選択し、最適な組み合わせを志向し、最善を選択することができる。	
	予習復習の内容	雑多な情報群から、最適と思われる資料を探し求める。	
12回	授業内容	総合演習③　シナリオ作成／練習	
	学習成果	最善のコンテンツを志向し、校正することができる。	
	予習復習の内容	校正を繰り返し、よりよいワークになるよう、精査する。	
13回	授業内容	総合演習④　効果測定／練習	
	学習成果	コンテンツ、デリバリーの両面から、作成中のプレゼンテーションについて再検討することができる。	
	予習復習の内容	自分にあった語彙、スピード、リズムについて検討し、練習する。	
14回	授業内容	総合演習⑤　リハーサル	
	学習成果	実技に向け、最終的な調整を自分のベースで行うことができる。	
	予習復習の内容	実技に向け練習し、内容および操作の一連の手順を暗記し、スムーズにプレゼンテーションできるようにする。	
15回	授業内容	プレゼンテーション（実技②）	
	学習成果	プレゼンテーションの実技（テスト）を行う。	
	予習復習の内容	他者のプレゼンテーションから学び、自らのプレゼンテーションのレベルアップについて思考する。	

科目名	ビジネス実務演習				担当者	富田 幸重（トミタ ユキエ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回の授業で連絡する。授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	ビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を習得し実践できる。										
	②	状況に応じた的確な判断と表現を養うことにより、対人関係において豊かなコミュニケーションが取れるようになる。										
	③	日本の産業別GDP・昨今の日本業界を理解し、説明することができる。										
汎用的学習成果	(1)	実践的なビジネス実務能力を学ぶことを通して、社会的職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力が養われ、他者を理解し自己表現ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(3)	日本経済及び日本の業界を学ぶことで、将来の仕事に関わる分野を探求し、自ら課題を見出し解決に向け行動できる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	企業において求められているものは何か。それを踏まえながら社会人として仕事をしていく上で必要な実務（一般知識・対人関係・技能・マナー接遇など）の遂行について深い理解を持ち、実践できることを目的とする。特に仕事上の状況に応じた判断（予定外の仕事・クレームに対する処理・突発的な来客対応など）が自分の考えでできるように、企業人として社内外で得た実務経験及び具体的エピソードをもとに学習する。また昨今の時事問題・日本の業界を理解し、就職活動に役立てるようにする。さらには、ビジネス実務の重要性を認識し、洞察力・判断力・思考力を養う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	30	テーマに沿ったレポートの評価（体裁・内容・根拠・独創性にて評価する。）
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価する。
		平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		プリント資料配付	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①時間外学習として30時間の学習を求める。 受講後に講義内容をしっかり復習し、就職における情報収集や、専門的な知識・技術を身につけ、実践することで習得すること。節度を守った受講態度で授業に取り組むこと。 ②提出された課題・試験は全体的な解説・講評を行い、フィードバックするので、自らの理解を深めること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス　仕事にのぞむ意識　　企業組織と社会	ワークシートへの取り組み
	学習成果	企業はどのような組織で運営されているかを知り、説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	ビジネス実務①　業務の流れと部門運営　顧客のニーズ	講義時に配付される資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	階層別役割分担を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各部門におけるニーズ対応の例を整理しておく。	
3回	授業内容	ビジネス実務②　仕事への情報活用　情報の種類と性格	
	学習成果	情報化の進展や情報活用の具体的方法を知り、作成できる。	
	予習復習の内容	興味のある時事問題を取り上げ、情報を収集し、まとめておく。	
4回	授業内容	ビジネス実務③　統計・データの読み方、まとめ方	
	学習成果	統計・データを読み取り、まとめる際のポイントを説明できる。	
	予習復習の内容	文献などを利用し、実際に統計・データをまとめてみる。	
5回	授業内容	ビジネス実務④　産業と経済知識 業界研究①　日本のGDP　世界と国内の企業収益	
	学習成果	日本の産業構造の変化と社会の流れを理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	日本の主力産業を調べておく。	
6回	授業内容	ビジネス実務⑤　会議の種類と目的　基本的な流れ 業界研究②　電機・エレクトロニクス機器	
	学習成果	会議の種類と目的、その流れを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会議の種類と目的についての理解を深める。	
7回	授業内容	ビジネス実務⑥　就業規則と労働法 業界研究③　情報通信・インターネット	
	学習成果	就業規則と労働法、勤務条件を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法について調べておく。	
8回	授業内容	ビジネス実務⑦　ビジネスと法律知識 業界研究④　金融・生活用品	
	学習成果	債権と債務、売買契約、知的所有権について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	知的所有権について調べておく。	
9回	授業内容	ビジネス実務⑧　配慮の必要な社外文書　トラブルやクレームに関する文書 業界研究⑤　食品	
	学習成果	配慮の必要な社外文書を作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、作成にあたっての留意事項を整理しておく。	
10回	授業内容	ビジネス実務⑨　日本経済の基本構造と変化 業界研究⑥　生活用品	
	学習成果	産業構造の変化、社会生活と価値観の変化、環境問題への対応などを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	大きく変化した価値観について考察する。	
11回	授業内容	ビジネス実務⑩　経済環境の変化　業種ごとの動向 業界研究⑦　流通・外食	
	学習成果	業種ごとの動向を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	興味のある業種を調べておく。	
12回	授業内容	ビジネス実務⑪　業界研究のまとめ 業界研究⑧　娯楽・メディア	制作への取り組み
	学習成果	興味のある業界を調べてまとめ、レポートを提出することができる。	
	予習復習の内容	レポート制作に必要な準備を行う。	
13回	授業内容	人間関係の心理①　人間関係の基礎　パーソナリティについて　要求される人柄と資質	講義時に配付される資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	パーソナリティについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、要求される人柄と資質について理解を深める。	
14回	授業内容	人間関係の心理②　第一印象の重要性　メラビアンの法則　印象形成のメカニズム	
	学習成果	第一印象の重要性　メラビアンの法則を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	他人に会ったとき、どのように第一印象を決めるのか、考察する。	
15回	授業内容	人間関係の心理③　自己分析　　人間関係と性格	
	学習成果	自己分析を通して自分を客観的に捉えることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、人間関係と性格の理解を深める。	

授業計画			学習成果の評価
16回	授業内容	人間関係の心理④　交流分析　ジョハリの窓　アサーション	
	学習成果	ジョハリの窓・交流分析を通して自分を客観的に捉えることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジョハリの窓・アサーションの理解を深める。	
17回	授業内容	対人関係①　集団の心理　説得的コミュニケーション	
	学習成果	人はどのようなときに説得されやすいのかを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	自分が説得されたときのメカニズムを考察する。	
18回	授業内容	対人関係②　流行について　店内のディスプレイ　色の効用	
	学習成果	流行が普及する過程を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	流行に対して自分がどのように思うか考察する。	
19回	授業内容	対人関係③　職場の人間関係と生産性	
	学習成果	仕事に影響を及ぼす人間関係を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	良好な人間関係を作るにはどうすればよいか考察する。	
20回	授業内容	対人関係④　アクティブリスニング（積極的傾聴）　聴き方のステップ	
	学習成果	対人関係における聴くことの重要性を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、正しく効果的に聴くために練習してみる。	
21回	授業内容	対人関係⑤　効果的な話し方　話の構成	
	学習成果	目的に応じた話し方を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、相手にわかりやすく話してみる。	
22回	授業内容	対人関係⑥　ビジネス会話のポイント	演習への取り組み
	学習成果	ビジネス会話の始め方を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、相手に合わせた話し方を練習してみる。	
23回	授業内容	対人関係⑦　状況に応じた言葉づかい	課題レポート提出（テーマ・詳細は授業内で指示）　第26回までに提出 講義時に配付される資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	場や状況を的確に判断し、自分の立場を考えて話すことができる。	
	予習復習の内容	その場にふさわしい話し方を練習してみる。	
24回	授業内容	マナー接遇①　敬語・緩衝語の使い方	
	学習成果	ビジネスにふさわしい敬語・緩衝語を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、状況に応じて敬語・緩衝語を練習してみる。	
25回	授業内容	マナー接遇②　来客応対と面談のマナー　席次	
	学習成果	来客応対及び席次を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、来客応対・席次について理解を深める。	
26回	授業内容	マナー接遇③　交際の業務　慶事・弔事に伴う慈務	
	学習成果	日本の慶事・弔事のマナーについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、慶事・弔事の情報収集について理解を深める。	
27回	授業内容	マナー接遇④　贈答のマナー（上書きの書き方）　パーティーの知識	
	学習成果	贈答のマナー・パーティーについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	日本の贈答のしきたりを調べておく。	
28回	授業内容	マナー接遇⑤　接遇の実際　演習	
	学習成果	ビジネスにおいての接遇の仕方を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、接遇についての理解を深める。	
29回	授業内容	就職面接におけるビジネスマナー　立ち居振る舞い　面接の実際	演習への取り組み
	学習成果	面接においてのマナー・立ち居振る舞いを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	実際の面接を想定し、練習してみる。	
30回	授業内容	まとめと総括　キャリアデザイン	筆記試験（全30回分の内容を問う）
	学習成果	キャリアと仕事を考察し、目標を立てることができる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理し、まとめておく。	

科目名	ビジネス実務演習				担当者	三浦（ミウラ）貴子（タカコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	自らの職業観や就労観を確立し、職業的自立に向けて情報収集、および実務能力が発揮できる。										
	②	基本的、効率的な業務の進め方を理解し、問題解決のための円滑なコミュニケーションが図れる。										
	③	日本経済の基本構造、企業の役割、責任、権限等を理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス実務を学ぶことを通して、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を修得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ビジネスに必要な自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	日本経済を学ぶことで、将来の仕事に関わる分野を探求し、自ら課題に向き合い行動できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	ビジネス実務として、一般常識、キャリアマネジメント、産業と経済の基礎知識、接客営業、チームワーク等を学び、理解を深める中で、社会人としての土台を築くことを目標とする。また、グループワークを通して、ビジネスの基本となるコミュニケーション力を育み、良好な人間関係構築への自信をつけていく。そして、具体事例から、時代を読み取り、多面的な視点から考え抜く力を身につけ、変化の激しい現代社会に対応できるようになる。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート	40	グループワーク、個々の課題についてのレポートの内容、体裁、独創性で評価する。
		小テスト	40	学習内容に基づいた記述式の問題、および口述演習の問題を課し、評価する。
		平常点	20	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		印刷資料配付	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	実務技能検定協会	『秘書検定１級集中講義』	早稲田教育出版
	職業教育・キャリア教育財団	『ビジネス能力検定ジョブパス２級公式テキスト』	日本能率協会マネジメントセンター

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①時間外学習として週２時間の学習を求める。 事前学習として、授業内容に関連する文献を読み、理解を深めておくこと。 事後学習として、授業中に板書した内容を中心に内容を振り返り、復習しておくこと。あわせて関連する文献に触れ、理解の定着に努めること。 ②提出された課題・小テストについては、当該授業中、または次回の授業で、解答解説および講評を通し、フィードバックを行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス　キャリアと仕事へのアプローチ	レポート（顧客意識とホスピタリティマインドについて）
	学習成果	ビジネスキャリアは自分で作り出す時代だと自覚し、将来を考え行動できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	８つの意識	
	学習成果	顧客意識を中心とした仕事の基本となる８つの意識を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、８つの意識の関わり合いについて振り返り、各項目を整理しておく。	
3回	授業内容	会社活動の基本	小テスト（会社組織についての理解・社会人としての意識）
	学習成果	会社とは何か、経営、仕事の流れ、コンプライアンス等、理解し説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会社組織について内容を振り返り、各項目を整理しておく。	
4回	授業内容	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	
	学習成果	出社から退社までの基本マナーのほか、癌度や健康管理まで把握し実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、周囲との関わりの中で、自身のマナーや態度を客観的に確認し改善する。	
5回	授業内容	ビジネス会話の基本	小テスト（報告ロールプレイング）
	学習成果	文章の構成、正しい敬語等、ビジネスの場に相応しい言葉遣いを習得し使いこなせる。	
	予習復習の内容	日々の会話の中で、自身の話し方が社会人として相応しいか客観的に確認し、改善する。	
6回	授業内容	指示の受け方と、報告、連絡、相談	
	学習成果	社内での伝達、報連相の重要性を理解し、伝達方法を体現できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、正確な情報伝達の手段が取れるよう様々な状況を想定し表現してみる。	
7回	授業内容	話し方と聴き方のポイント	小テスト（応対ロールプレイング）
	学習成果	傾聴について理解を深め、心の通った会話ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、傾聴について日常生活の中で実践してみる。	
8回	授業内容	来客応対と訪問の基本	
	学習成果	名刺交換やあいさつ、立ち居振る舞い等の面談のマナーを理解し実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、来客応対の基本マナーについて確認しておく。	
9回	授業内容	接客と営業の進め方	小テスト（接客ロールプレイング）
	学習成果	顧客獲得、顧客満足度を高めるための接客について理解を深める。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、営業活動にあたっての留意事項を整理しておく。	
10回	授業内容	不満を信頼に変えるクレーム対応	
	学習成果	顧客心理を理解し、対応の仕方が信頼を左右することを理解し、問題解決につなげられる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、営業活動トラブル解決にあたっての留意事項を整理しておく。	
11回	授業内容	会議への出席とプレゼンテーション	レポート（グループワーク・会議）
	学習成果	会議の種類、進行、議事録、プレゼンテーションの基本を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会議の種類と目的についての理解を深める。	
12回	授業内容	チームワークと人のネットワーク	
	学習成果	リーダーシップとメンバーシップの意義を理解し、チームの和を築ける。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、チームでの目標達成に向けて必要なことについて理解を深め、整理しておく。	
13回	授業内容	会社関係での付き合い	レポート（仕事の効率的・合理的な進め方について）
	学習成果	仕事上での冠婚葬祭、会食等、お付き合いのマナーについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、マナーや文化について理解を深める。	
14回	授業内容	効率的・合理的な仕事の進め方	
	学習成果	スケジュール管理、情報整理、名刺整理、定型業務等、作業の効率性を考えられる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、効率的な作業の進め方を取り入れ実践する。	
15回	授業内容	ビジネス文書の基本	小テスト（文書作成）
	学習成果	社内文書、社外文書それぞれの役割を理解し、正しい書き方について実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ビジネス文書の種類について理解を深める。	

	授業計画		学習成果の評価
16回	授業内容	電子メール、手紙、郵便の知識	
	学習成果	電子メール、手紙、葉書の書き方、マナー、郵便知識を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、メール、郵便の基本について理解を深める。	
17回	授業内容	電話応対の重要性	小テスト（表グラフ読解）
	学習成果	正しい電話の受け方、かけ方、取り継ぎ方、伝言の仕方を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、電話の応対が正しく実践できるよう理解を深める。	
18回	授業内容	統計・データの読み方、まとめ方	
	学習成果	表やグラフの役割と特徴を理解し、情報を読み取ることができる。	
	予習復習の内容	新聞記事や文献などを利用し、実際に統計・データから情報を読み取る練習をしておく。	
19回	授業内容	情報収集とメディアの活用	レポート（メディアの活用について）
	学習成果	新聞からインターネットまで、状況に合わせた情報の収集、および取捨選択ができる。	
	予習復習の内容	新聞記事や文献などを利用し、情報を選びとる練習をしておく。	
20回	授業内容	会社数字の読み方	
	学習成果	企業活動の源泉、売上とコスト、利益の関係を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会社に関わる数字について理解を深める。	
21回	授業内容	ビジネスと法律・税金知識	小テスト（法律・税金の知識について）
	学習成果	就業規則と労働法、社会保障、税金の基礎知識等について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ビジネスに関わる法律や税金について理解を深める。	
22回	授業内容	問題解決の力	
	学習成果	場や状況をの確に判断し、問題に対処し自身で乗り越える力をつける。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、様々な状況での問題解消について理解を深める。	
23回	授業内容	日本経済の基本構造と変化	小テスト（日本経済の歴史について）
	学習成果	戦後日本の主力産業の移り変わりと現在までの歴史を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、戦後各年代での主力産業について確認し理解を深める。	
24回	授業内容	経済のグローバル化と社会構造の変革	
	学習成果	国際化の進む中で求められる人材の変化を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、グローバル化の状況に対応するには何が必要か考えておく。	
25回	授業内容	情報リテラシー	小テスト（ビジネス用語について）
	学習成果	溢れる情報の中から必要なものを選び出し使いこなすことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、図書館やインターネット等を利用し、情報の収集、取捨選択の実践を行う。	
26回	授業内容	ビジネス用語の基本	
	学習成果	経済、環境、業界、法律、時事、各用語の理解を深め、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種ビジネス用語の意味について確認し理解を深める。	
27回	授業内容	ビジネスの場での判断能力	小テスト（日本の政治の基本について）
	学習成果	場に合わせた敬語のレベル、社内の機密保持等、機転を利かせ正しい判断をし実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、状況にあわせた判断ができるように整理しておく。	
28回	授業内容	政治の基本	
	学習成果	国会、内閣、選挙、地方自治等、政治の基本について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、政治の基本について確認し理解を深める。	
29回	授業内容	働く意義	レポート（届われうる能力・自身のキャリアデザインについて）
	学習成果	今、社会に求められるには何が必要か判断し、エンプロイアビリティを身につけ行動に移せる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、届われうる能力について確認し行動に移せるよう理解を深める。	
30回	授業内容	総括	
	学習成果	これからの時代のキャリアマネジメントを考察し、目標を立てることができる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理し、まとめておく。	

科目名	秘書検定講座				担当者	富田幸重（トミタ エキエ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。　授業内容に関する質問は毎回、授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	秘書の役割と機能について理解し、その内容を説明できる。										
	②	秘書として必要とされる職務知識・技能を理解し、説明できる。										
	③	秘書としての身だしなみ・態度・言葉づかいを習得し、実践できる。										
	④	現代社会におけるマナー・接遇を習得し、実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	秘書実務を学ぶことを通して、秘書としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	秘書として必要とされる実務能力を習得することによって、社会人としてその技能を活用することができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	秘書としてふさわしい態度・人柄を理解し、身につけることによって、他者理解ができ、コミュニケーション能力を養うことができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	秘書検定試験合格のために必要な基礎的知識と技能の習得を目的とする。具体的には秘書として必要とされる資質、職務知識、一般知識を学び、その判断力・考え方・適切な対処法の実践力を養う。また、慶弔マナー・接遇、文書技能、交際業務を習得することにより、コミュニケーションの重要性を認識し、社会人として実践できるようにする。さらに、秘書技能に最も大切な論理的思考・問題解決能力を有し、「洞察力」および、「対人能力」を身につける。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	30	小テストを２回実施し、各15%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名		出版社名								
参考書参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	西村　この実	『現役審査員が教える秘書検定２・３級テキスト＆問題集』		成美堂出版								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①受講の際は秘書検定を必ず受験することを条件とする。　事前学習として、テキスト（特に授業の内容と関係の深い部分）や配付される資料をよく読んでおくこと（予習：週２時間程度）。　事後学習としては、検定に向け授業内容をしっかり理解しておくこと（復習：週２時間程度）。 ②小テスト・過去問題に対しては、授業内で返却し解説を行う。講義内の対策・アドバイス・解答例を持ってフィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	秘書の資質①　ガイダンス　社会人としての意義　求められる能力	小テスト（秘書の資質と役割について）第４回に実施 講義時に毎回配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	秘書として求められる能力を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	検定に向けて、学習計画をたてる。	
2回	授業内容	秘書の資質②　秘書に求められるパーソナリティ　身だしなみ	
	学習成果	身だしなみについての基本的な人柄・身だしなみを習得し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、秘書に求められるパーソナリティについて理解する。	
3回	授業内容	職務知識①　秘書の役割と機能　日常業務	
	学習成果	秘書の役割と機能を理解し、内容を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。	
4回	授業内容	職務知識②　業務の進め方　ケーススタディー	
	学習成果	特別な状況への対処方法が説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。	
5回	授業内容	一般知識①　企業についての基礎知識　人事・労務に関する知識　マーケティングの知識	小テスト（マナー・接遇について）第９回に実施 講義時に毎回配付する資料・ワークシートへの活用
	学習成果	経営における一般知識を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	会社の組織形態・マーケティングについて理解を深める。	
6回	授業内容	一般知識②　企業と法律　会計・税務の基礎知識　情報処理とニューメディア	
	学習成果	企業会計、社会常識を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深めておくこと。	
7回	授業内容	マナー・接遇①　正しい敬語の使い方　接遇の表現　話し方・聞き方の応用	
	学習成果	敬語と接遇表現を習得し、実践できる。真意をとらえる聞き方ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り表現力を養うため、日常実践し、練習しておくこと。	
8回	授業内容	マナー・接遇②　来客応対の常識とケーススタディー　電話応対の基本とケーススタディー	
	学習成果	来客応対と電話応対の基本を習得し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、様々な応対のケースについて理解を深める。	
9回	授業内容	マナー・接遇③　交際の業務　慶事・弔事・贈答のマナー	
	学習成果	交際の業務に関する業務とマナーを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深めておくこと。	
10回	授業内容	『秘書の資質・職務知識・一般知識・マナー接遇』に関する過去問題対策	過去問題への取り組み
	学習成果	検定レベルに必要な知識を正しく理解できる。	
	予習復習の内容	検定に向けて、学習内容をしっかり理解し対策を立てる。	
11回	授業内容	技能①　文書の取り扱い　社内文書・社外文書の作成　ビジネス文書の慣用表現	毎回配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用 筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回後半に実施
	学習成果	社内・社外文書を作成することができる。	
	予習復習の内容	ビジネス文書の基礎知識について理解し、復習しておく。	
12回	授業内容	技能②　グラフの種類と書き方　『秘』文書の取り扱い　通信	
	学習成果	グラフの種類を理解し、適切なグラフを作成できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。	
13回	授業内容	技能③　会議の知識　ファイリングと整理法	
	学習成果	会議の準備と秘書の仕事を理解し、説明できる。ファイルの作成、整理、保管ができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読み理解を深める。	
14回	授業内容	技能④　資料・情報の収集　スケジュール管理	
	学習成果	上司の日程管理を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	スケジュール作成・管理のポイントを確認し、まとめておく。	
15回	授業内容	技能⑤　環境の整備　環境整備とレイアウトの基本	
	学習成果	オフィスのレイアウトは上司の仕事に配慮することを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業の内容全体について、整理・確認しておく。	

科目名	IT パスポート試験対策講座Ⅰ			担当者	岩渕 正則（イワブチ マサノリ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1 年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											

専門的学習成果	①	IT パスポート試験合格に合格できる。
	②	コンピュータのソフトウェア構成の概要を説明できる。
	③	コンピュータのハードウェア構成の概要を説明できる。
	④	企業活動の関連業務について、その概要を説明できる。
	⑤	経営戦略やビジネスインダストリについて、その概要を説明できる。
	⑥	情報システムの開発やその運用について、その概要を説明できる。
	⑦	ネットワークや情報セキュリティについて、その概要を説明できる。
汎用的学習成果	(1)	IT パスポート試験に合格し、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果①に関連）
	(2)	コンピュータのソフトウェアやハードウェアを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向けて行動できる。（専門的学習成果②③に関連）
	(3)	企業活動や経営戦略の仕組みなどを通じて、IT 社会に役立つ行動ができる。（専門的学習成果④⑤に関連）
	(4)	情報システムの開発や情報セキュリティを学ぶことを通じて、将来のシステム構成の在り方を探求することができる。（専門的学習成果⑥⑦に関連）
授業概要	情報処理論および情報科学で学んだ知識を基礎にして、IT パスポート試験に合格できるスキルを身につける。過去問題を解説しながら IT パスポート試験の傾向と対策を行う。更に、IT を活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材を育成する。そのためには、最新の情報処理技術動向に関心を持ち、日々探求し、その仕組みについて理解する必要がある。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に対応できる内容を講義する。		

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各２％ずつ正解率（０点、１点、２点）に沿って評価を行う。
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	岡崎裕史	IT パスポート合格教本	技術評論社
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に配布した資料を読んでおくこと。（予習：週２時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週２時間程度） ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	システム戦略の実際	小テスト（システム戦略の実際）
	学習成果	システム戦略の実際例を説明できる。	
	予習復習の内容	現在のシステム戦略について調べておく。	
2回	授業内容	開発モデルの現状	小テスト（開発モデルの現状）
	学習成果	開発モデルの現状について説明できる。	
	予習復習の内容	現在の開発モデルの現状について調べておく。	
3回	授業内容	プロジェクトマネジメントの実際	小テスト（プロジェクトマネジメントの実際）
	学習成果	プロジェクトマネジメントの実際例について説明できる。	
	予習復習の内容	現在のプロジェクトマネジメントについて調べておく。	
4回	授業内容	サービスマネジメントの実際	小テスト（サービスマネジメント）
	学習成果	サービスマネジメントの実際例について説明できる。	
	予習復習の内容	サービスマネジメントの現状について調べておく。	
5回	授業内容	マーケティングの現状	小テスト（マーケティング）
	学習成果	マーケティングの現状について説明できる。	
	予習復習の内容	マーケティングの現状について調べておく。	
6回	授業内容	ビジネス戦略の現状	小テスト（ビジネス戦略）
	学習成果	ビジネス戦略の現状について説明できる。	
	予習復習の内容	ビジネス戦略の現状について調べておく。	
7回	授業内容	経営管理システムの実際	小テスト（経営管理システム）
	学習成果	経営管理システムの実際について説明できる。	
	予習復習の内容	経営管理システムの実際について調べておく。	
8回	授業内容	ソフトウェア開発の実際	小テスト（ソフトウェア開発の実際）
	学習成果	ソフトウェア開発の実際について説明できる。	
	予習復習の内容	ソフトウェア開発の実際について調べておく。	
9回	授業内容	システム企画の実際	小テスト（システム企画の実際）
	学習成果	システム企画の実際について説明できる。	
	予習復習の内容	システム企画の実際例について調べておく。	
10回	授業内容	データベースの実際	小テスト（データベースの実際）
	学習成果	データベースの実際について説明できる。	
	予習復習の内容	データベースの実際について調べておく。	
11回	授業内容	インターネットの現状	小テスト（インターネットの現状）
	学習成果	インターネットの現状について説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットの現状について調べておく。	
12回	授業内容	WEB 技術の実際	小テスト（WEB 技術の実際）
	学習成果	WEB 技術の実際について説明できる。	
	予習復習の内容	WEB 技術の実際について調べておく。	
13回	授業内容	暗号化技術の現状	小テスト（暗号化技術の現状）
	学習成果	暗号化技術の現状について説明できる。	
	予習復習の内容	暗号化技術の現状について調べておく。	
14回	授業内容	コンピュータウイルスの現状	小テスト（コンピュータウイルスの現状）
	学習成果	コンピュータウイルスの現状について説明できる。	
	予習復習の内容	コンピュータウイルスの現状について調べておく。	
15回	授業内容	AI 技術	小テスト（AI 技術）
	学習成果	AI 技術について説明できる。	
	予習復習の内容	AI 技術について調べておく。	

科目名	MOS スペシャリスト（Word）				担当者	小野寺（オノデラ） 幸子（サチコ） ・ 大澤（オオサワ） 栄子（エイコ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1 年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける											
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Word 365に合格するレベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによる実践的なドキュメント作成について学ぶ。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	社会に通用する資格取得を目指して学習することで、一般ビジネス文書はもとより、訴求力の高い文書や長文作成など、Word の幅広い操作や文書管理などを効率的よく学び、実務に生かせるパソコンスキルを習得する。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		実技試験	70	15回目授業内にて実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。
		提出物	30	全５回の提出物で各回６％を配点する。３～４回分の講義内容について理解の程度を評価する。
	汎用的 学習成果	各提出物で分野ごとの学習成果を評価する。 実技試験および資格試験で全体的な学習成果を評価する。 (1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Word 365対策テキスト & 問題集』	FOM 出版

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	全15回の授業終了後、別日に設定される MOS を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外にも模擬試験などで自習すること。 模試などで判明する苦手分野など、その場で評価を行い、解説と補足を行う。 さまざまな機能の知識と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないこと（復習：週１時間程度）

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、タイピング、文書作成練習問題実施	確認問題 （文書作成と管理について） 第３回に実施
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
	予習復習の内容	基本的な操作について確認する。	
2 回	授業内容	文書作成（外部データの利用）、文書内の移動、文書全体の書式設定	
	学習成果	基本的な文書の作成について操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的な操作について確認する。	
3 回	授業内容	文書のオプション、表示のカスタマイズ、印刷、保存、マクロ、プロパティ	
	学習成果	Word のオプションと表示のカスタマイズ設定、マクロの操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的なオプション操作について確認する。	
4 回	授業内容	文字や段落の書式設定、行の間隔、段落の間隔、インデント、配置	確認問題 （文字、段落、セクションの書式設定について） 第５回に実施
	学習成果	基本的な文書のレイアウトを操作できる。	
	予習復習の内容	一般的な文書のレイアウトについて確認する。	
5 回	授業内容	書式のコピー、ワードアートの挿入・変更、スタイル、セクション、段組	
	学習成果	文書内での編集操作ができる。	
	予習復習の内容	効率よく文書編集できることと、複雑なレイアウトについて確認する。	
6 回	授業内容	表の作成、テーブルスタイル、表の変更、セルの結合・分割、タイトル行の繰り返し	確認問題 （表やリストの作成について） 第７回に実施
	学習成果	文書内に表を取り組み編集操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的な表操作について確認する。	
7 回	授業内容	行頭文字、段落番号の定義、リストのレベルの変更、リストの書式設定	
	学習成果	文書内の箇条書きや段落の操作ができる。	
	予習復習の内容	簡潔に伝える箇条書きについて確認する。	
8 回	授業内容	脚注、文末脚注の挿入と書式設定、資料文献、引用文献、文献目録、目次	確認問題 （参考資料の適用について） 第９回に実施
	学習成果	参考資料の機能追加などを操作できる。	
	予習復習の内容	補足や資料文献追加について確認する。	
9 回	授業内容	図形の挿入、図の挿入、スクリーンショット、テキストボックスの挿入	確認問題 （オブジェクトの挿入と書式設定） 第11回に実施
	学習成果	文書内に図形や図、オブジェクトを利用して編集操作ができる。	
	予習復習の内容	文書内に図やオブジェクトを利用し作成できるか確認する。	
10回	授業内容	SmartArt の作成・書式設定、内容の変更	
	学習成果	伝えたい内容を一目で表現できる SmartArt の操作ができる。	
	予習復習の内容	SmartArt の機能について確認する。	
11回	授業内容	コメントの追加・編集、変更履歴の管理	確認問題 （文書の共同作業の管理） 第12回に実施
	学習成果	共同文書内にコメントを追加、変更履歴記録操作ができる。	
	予習復習の内容	コメントの追加や変更記録の操作について確認する。	
12回	授業内容	模擬プログラム１解説	実技テストにて確認 （全15回分の内容を問う） 第15回に実施
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
13回	授業内容	模擬プログラム２解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
14回	授業内容	模擬プログラム自己対策	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬プログラムを通じて、実践的なドキュメント作成に応用ができる。	
15回	授業内容	実技テスト　50分＋解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
	予習復習の内容	模擬プログラムを通じて、実践的なドキュメント作成に応用ができる。	

科目名	MOS スペシャリスト（Excel）				担当者	小野寺（オノデラ） 幸子（サチコ） ・ 大澤（オオサワ） 栄子（エイコ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1 年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける											
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Excel 365に合格するレベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによる実践的なドキュメント作成について学ぶ。（専門的学習成果①②③）										
授業概要	社会に通用する資格取得を目指して学習することで、データ集計や視覚的に表現できるグラフなど幅広い操作やシート・ブックの利活用などExcelを効率よく学び、実務に生かせるパソコンスキルの実務力を養う。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		実技試験	70	15回目授業内にて実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。
		提出物	30	全5回の提出物で各回6％を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。
	汎用的 学習成果	各提出物で分野ごとの学習成果を評価する。 実技試験および資格試験で全体的な学習成果を評価する。 (1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Excel 365対策テキスト & 問題集』	FOM 出版
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	全15回の授業終了後、別日に設定される MOS を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外にも模擬試験などで自習すること。 模試などで判明する苦手分野など、その場で評価を行い、解説と補足を行う。 さまざまな機能の知識と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないこと（復習：週1時間程度）

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、表作成練習問題実施	確認問題 （ワークシートやブックの作成と管理について） 第3回に実施
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
	予習復習の内容	基本的な操作について確認する。	
2回	授業内容	ワークシートやブックの作成、移動、書式設定	
	学習成果	基本的な表の作成について操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的な操作について確認する。	
3回	授業内容	表のオプション、表示のカスタマイズ、印刷、保存、プロパティ	
	学習成果	Excelのオプションと表示のカスタマイズ設定の操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的なオプション操作について確認する。	
4回	授業内容	セルやセル範囲にデータを挿入、行列の設定、書式設定（フォント、配置）	確認問題 （セルやセル範囲の作成について） 第5回に実施
	学習成果	基本的な表のレイアウトを操作できる。	
	予習復習の内容	一般的な表のレイアウトについて確認する。	
5回	授業内容	条件付き書式、スパークライン、名前付き範囲	
	学習成果	表内での編集操作、条件を設定した書式設定の操作ができる。	
	予習復習の内容	効率よく表を編集できることと、複雑なレイアウトについて確認する。	
6回	授業内容	テーブルの作成、テーブル名、追加、削除、スタイル設定、オプション設定	確認問題 （テーブルの作成について） 第7回に実施
	学習成果	表をテーブルに変換し編集の操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的なテーブル操作について確認する。	
7回	授業内容	テーブルの並べ替え（昇順、降順）、フィルタ（抽出）、重複データ削除	
	学習成果	テーブル内のデータの並べ替え抽出の操作ができる。	
	予習復習の内容	テーブル操作（並べ替え、抽出）について確認する。	
8回	授業内容	四則演算、数式の入力、編集、相対参照、絶対参照、オートSUM、基本の関数	確認問題 （数式や関数の適用について） 第9回に実施
	学習成果	基本的な関数の挿入や数式を入力操作できる。	
	予習復習の内容	基本の関数（SUM、AVERAGE、COUNT、MAX、MIN）について確認する。	
9回	授業内容	条件付き論理関数、文字列関数について	
	学習成果	応用的な関数について操作ができる。	
	予習復習の内容	論理関数、文字列関数について確認する。	
10回	授業内容	グラフの作成、編集、書式設定、グラフの変更、レイアウト、スタイル	確認問題 （グラフやオブジェクトの作成について） 第11回に実施
	学習成果	表からグラフを作成し、編集の操作ができる。	
	予習復習の内容	基本的なグラフを作成して編集、書式設定について確認する。	
11回	授業内容	オブジェクトの作成（画像の挿入、図形やテキストボックスの挿入、SmartArtの挿入）	
	学習成果	表やグラフのほかにオブジェクト操作ができる。	
	予習復習の内容	オブジェクト操作（画像、図形、SmartArt）について確認できる。	
12回	授業内容	模擬プログラム1解説	実技テストにて確認 （全15回分の内容を問う） 第15回に実施
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
13回	授業内容	模擬プログラム2解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
14回	授業内容	模擬プログラム自己対策	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬プログラムを通じて、実践的なドキュメント作成に応用ができる。	
15回	授業内容	実技テスト　50分＋解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
	予習復習の内容	模擬プログラムを通じて、実践的なドキュメント作成に応用ができる。	

科目名	MOS エキスパート（Word）			担当者	大澤 栄子（オオサワ エイコ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後、メール（初回授業で説明）で行う。											
専門的学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Word 365 Expert 合格レベルの操作ができる。										
汎用的学習成果	(1)	パソコンによる実践的なドキュメント作成および管理について学ぶ。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	MOS スペシャリスト（Word）の上級の内容になる。組織としての文書管理やデータ集計、グループワークを意識した機能や管理を目的とした機能など、組織としての事務効率向上および業務改善を重視した応用機能を中心に習得する。 共同作業用文書の準備、版の管理、高度な編集機能や書式設定機能の利用、ユーザ設定ドキュメント要素の作成管理（文書パーツ、デザインセット、索引、図表一覧など）、高度な Word 機能の利用（フォーム・フィールド・コントロールの管理、マクロ作成編集、差し込み印刷）などの機能を操作する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		実技試験	70	15回目授業内にて実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。
		提出物	30	全5回の提出物で各回6％配点する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Word 365 Expert 対策テキスト＆問題集』	FOM 出版

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかる Microsoft Word 2021 応用』	FOM 出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① MOS Word 365又は2019の資格を取得していること。 全15回の授業終了後、別日に設定される MOS を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外で自習すること。 機能における理解と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないこと（復習：週1時間程度） ②授業内で発生した課題に対しては、その場で解説と補足を行う。 授業外で発生した課題に対しては、授業前後の時間で対応する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、基礎スキルの確認	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
	予習復習の内容	MOS スペシャリスト（Word）スキルについて確認する。	
2回	授業内容	文書とテンプレートの管理	確認問題 （文書のオプションと設定管理について） 第3回に実施
	学習成果	ツールバー、リボン、セキュリティ、自動保存、テンプレート等環境設定・管理ができる。	
	予習復習の内容	管理環境について確認する。	
3回	授業内容	文書の共同作業	
	学習成果	編集制限、最終版、読み取り専用等の設定、パスワードによる保護ができる。	
	予習復習の内容	文書の共同作業について確認する。	
4回	授業内容	文書コンテンツの高度な検索、置換、貼り付け	確認問題 （高度な編集機能や書式設定機能の利用について） 第5回に実施
	学習成果	ワイルドカードや特殊文字による検索・置換、書式設定やスタイルの検索・置換、貼り付けオプションの適用ができる。	
	予習復習の内容	文書コンテンツの検索、置換、貼り付けについて確認する。	
5回	授業内容	段落レイアウト、スタイルの高度な設定	
	学習成果	段落レイアウトの適切なオプション設定、スタイルの作成管理ができる。	
	予習復習の内容	段落レイアウト、スタイルについて確認する。	
6回	授業内容	文書パーツの作成管理、ユーザー設定のデザイン要素の作成	確認問題 （ユーザ設定のドキュメント要素の作成について） 第7回に実施
	学習成果	クイックパーツの作成と文書パーツ管理、ユーザー設定の配色・フォント・テーマ・スタイルセットが作成できる。	
	予習復習の内容	文書パーツの作成管理、ユーザー設定のデザイン要素について確認する。	
7回	授業内容	索引・図表一覧の作成管理	
	学習成果	索引の登録作成更新、図表番号・図表目次の挿入変更ができる。	
	予習復習の内容	索引作成、図表一覧作成について確認する。	
8回	授業内容	フォーム、フィールド、コントロールの管理	確認問題 （高度な Word 昨日の利用について） 第10回に実施
	学習成果	ユーザ設定のフィールドの追加更新、標準的なコントロールの挿入設定ができる。	
	予習復習の内容	フォーム、フィールド、コントロールについて確認する。	
9回	授業内容	マクロの作成、編集	
	学習成果	簡単なマクロの記録と編集、マクロを他の文書っやテンプレートにコピーできる。	
	予習復習の内容	マクロについて確認する。	
10回	授業内容	差し込み印刷	
	学習成果	差し込みフィールドの挿入、宛名リストの管理ができる。	
	予習復習の内容	差し込み印刷について確認する。	
11回	授業内容	模擬試験プログラム1解説	実技テストにて確認 （全15回分の内容を問う） 第15回に実施
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
12回	授業内容	模擬試験プログラム2解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
13回	授業内容	模擬試験プログラム3解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
14回	授業内容	模擬試験プログラム自己対策	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	
15回	授業内容	実技テスト　50分＋解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	

科目名	MOS エキスパート（Excel）			担当者	大澤 栄子（おおさわ えいこ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後、メール（初回授業で説明）で行う。											
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Excel 365 Expert　合格レベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによるより効率的なデータ集計およびデータ管理・分析について学ぶ。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	MOS スペシャリスト（Excel）の上級内容になる。共同作業環境に必要な設定、組織として事務効率向上および業務改善を重視したデータ管理や分析を目指し、応用機能を中心に習得する。 共同作業に必要なブックの準備やバージョン管理、高度なデータ管理と書式設定、高度な関数（論理演算、データ検索、日時計算など）、データ分析やデータ予測、数式のトラブルシューティング、簡単なマクロ作成と編集、高度なグラフやテーブル管理などの機能を操作する。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		実技試験	70	15回目授業内にて実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。
		提出物	30	全5回の提出物で各回6％配点する。
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Excel 365 Expert 対策テキスト＆問題集』	FOM 出版

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかる Microsoft Excel 2021 応用』	FOM 出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① MOS Excel 365又は2019の資格を取得していること。 全15回の授業終了後、別日に設定される MOS を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外で自習すること。 機能における理解と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないこと（復習：週1時間程度） ②授業内で発生した課題に対しては、その場で解説と補足を行う。 授業外で発生した課題に対しては、授業前後の時間で対応する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、基礎スキルの確認	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
	予習復習の内容	MOS スペシャリスト（Excel）スキルについて確認する。	
2回	授業内容	ブック管理と共同作業	確認問題 （ブック管理と共同作業について） 第3回に実施
	学習成果	ブックの管理、共同作業のためのブックの準備ができる。	
	予習復習の内容	ブック管理について確認する。	
3回	授業内容	ブックのオプションと設定の管理	
	学習成果	共同作業のためのブックの準備、言語オプション設定ができる。	
	予習復習の内容	ブック管理、共同作業について確認する。	
4回	授業内容	効率のよいセルへのデータ入力	確認問題 （データの管理と書式設定について） 第5回に実施
	学習成果	既存データ利用のセル入力、ユーザ定義表示形式、入力規則、データのグループ化の設定ができる。	
	予習復習の内容	データの管理について確認する。	
5回	授業内容	集計と詳細な条件付き書式	
	学習成果	小計や合計計算、重複レコード削除、詳細な条件付き書式やフィルターの適用ができる。	
	予習復習の内容	データ計算、条件付き書式・フィルターについて確認する。	
6回	授業内容	論理演算関数	確認問題 （高度な機能を使用した数式およびマクロの作成について） 第9回に実施
	学習成果	関数のネスト、論理演算関数が設定できる。	
	予習復習の内容	論理演算関数について確認する。	
7回	授業内容	データベース関数・高度な日付時刻関数	
	学習成果	関数でデータ検索できる。日時計算ができる。	
	予習復習の内容	データベース関数・日付時刻関数について確認する。	
8回	授業内容	データ分析、数式のトラブルシューティング	
	学習成果	統合、ゴールシーク、シナリオによる分析や関数によるデータ予測、数式エラーの分析ができる。	
	予習復習の内容	データ分析、数式のトラブルシューティングについて確認する。	
9回	授業内容	簡単なマクロの作成と変更	
	学習成果	マクロの記録と編集ができる。	
	予習復習の内容	マクロについて確認する。	
10回	授業内容	高度な機能を使用したグラフの作成と変更	確認問題 （高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理について） 第11回に実施
	学習成果	２軸グラフ、ヒストグラム、箱ひげグラフ、マップグラフ、サンバースト、じょうごグラフ、ウォーターフォール図が作れる。	
	予習復習の内容	高度な機能を使用したグラフについて確認する。	
11回	授業内容	ピボットテーブルとピボットグラフ	
	学習成果	ピボットテーブル、ピボットグラフが作成変更できる。	
	予習復習の内容	ピボットテーブルとピボットグラフについて確認する。	
12回	授業内容	模擬試験プログラム１解説	実技テストにて確認 （全15回分の内容を問う） 第15回に実施
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
13回	授業内容	模擬試験プログラム２解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
14回	授業内容	模擬試験プログラム自己対策	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	
15回	授業内容	実技テスト　50分＋解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	

科目名	FP 技能士検定対策講座				担当者	大澤 栄子（オオサワ エイコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	ライフプランニングの基本を理解し、その内容を説明できる。										
	②	リスク管理についての知識を習得し、課題を解くことができる。										
	③	タックスプランニングの理解を深め、簡単な確定申告書作成や税額計算ができる。										
	④	不動産、相続について理解を深め、その内容、仕組みが説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	FP 全般に繋がるライフプランニングに関する学習を通して知識と技能を職業に活用できる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	タックスプランニングの知識と技能を活かして、地域社会の発展に貢献できる。（専門的学習成果③に関連）										
	(3)	不動産、相続等で習得した知識を職業的自立に活用できる。（専門的学習成果④に関連）										
授業概要	「年金」、「保険」、「株式や預貯金などの金融資産」、「税金」、「不動産」、「相続」などに関する理解を深めることを第一の目標とする。その上で、お金に関するお客様の悩みや相談を的確に判断して「ライフプランニング」、「リスク管理」を生涯にわたって担当できるよう「お金の専門家」として的確なアドバイスを行うことができる力を身につけると同時に、FP 技能士検定3級の合格を目指し、検定試験に対応した演習等の試験対策を行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	70	学習した単元を中心に7回実施、各10% ずつ正解率に沿って評価を行う。
		平常点	30	授業、演習への意欲、取り組み、態度により評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①②で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③で評価を行う。 （3）は専門的学習成果④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	滝澤ななみ	『'25-'26年版 みんなが欲しかった！FP の教科書3級』	TAC 出版
	滝澤ななみ	『'25-'26年版 みんなが欲しかった！FP の問題集3級』	TAC 出版

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①当科目は、経済用語、法律用語が頻出するので、それらを理解するために授業前にテキストをしっかりと読んでおくこと（予習は週2時間程度必要）。また、学習した単元の問題を小テストとして課し、その内容を評価の対象をする（復習は週2時間程度必要）。 ②小テストは添削の上、次回授業にて返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、ライフプランニングと資金計画①	小テスト①（ライフプランニングと資金計画）第3回に実施
	学習成果	FP の基本について理解できる。	
	予習復習の内容	FP の職業的原則、ファイナンシャル・プランニングとは何かを理解する。	
2回	授業内容	ライフプランニングと資金計画②	
	学習成果	ライフプランニングの内容、利用するツールについて理解できる。	
	予習復習の内容	ライフイベントの意味を理解し、ライフプランニングにどうつなげていくのかを考える。	
3回	授業内容	ライフプランニングと資金計画③	
	学習成果	社会保険や年金の内容や仕組みを理解できる。	
	予習復習の内容	数多くの社会保険、年金がどのような意義で成り立って活用されているかの理解を深める。	
4回	授業内容	リスクマネジメント①	小テスト②（リスクマネジメント）第5回に実施
	学習成果	生活上におけるリスクに対して保険を中心とした対応策を考えることができる。	
	予習復習の内容	聞きなれない用語が多数あるので、しっかりと内容を理解する。	
5回	授業内容	リスクマネジメント②	
	学習成果	自然災害等のリスクに対して、保険を中心とした対応策を考えることができる。	
	予習復習の内容	様々なタイプの保証があるので、しっかりと違いを認識する。	
6回	授業内容	金融資産運用①	小テスト③（金融資産運用）第7回に実施
	学習成果	経済、景気の知識が理解できる。	
	予習復習の内容	扱う範囲が広いので、しっかりと理解し整理する。	
7回	授業内容	金融資産運用②	
	学習成果	金融商品を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	商品により税法等の処理が異なるので、整理しておく。	
8回	授業内容	タックスプランニング①	小テスト④（タックスプランニング）第9回に実施
	学習成果	生活に関わる様々な税について理解できる。	
	予習復習の内容	課税、非課税対象について区別、整理する。	
9回	授業内容	タックスプランニング②	
	学習成果	税額の計算や簡単な申告書作成ができる。	
	予習復習の内容	総合所得や分離所得などの違いを理解する。	
10回	授業内容	不動産①	小テスト⑤（不動産）第11回に実施
	学習成果	不動産の土地価格の評価、取引、建物の評価、規則等の内容を理解できる。	
	予習復習の内容	似ている内容が多いので、丁寧に確認、整理する。	
11回	授業内容	不動産②	
	学習成果	不動産の譲渡の際の税金や、土地を活用する際の知識について理解する。	
	予習復習の内容	税金等特殊な計算が多いため、それぞれの違いを整理する。	
12回	授業内容	相続・事業承継①	小テスト⑥（相続・事業承継）第13回に実施
	学習成果	相続に関する知識を身につけ、相続税等を計算することができる。	
	予習復習の内容	相続の内容や計算について、確実に理解すること。	
13回	授業内容	相続・事業承継②	
	学習成果	贈与に関する知識を身につけ、贈与税額の計算や相続財産の評価ができる。	
	予習復習の内容	相続、贈与のそれぞれの特例を混同しないよう、整理、確認をすること。	
14回	授業内容	資産設計提案業務	小テスト⑦（実技・資産設計提案業務）第15回に実施
	学習成果	資産設計提案業務について、演習問題を例にして正しく解答できる。	
	予習復習の内容	与えられた内容から、求められている答えを導き出すことができるようにすること。	
15回	授業内容	資産設計提案業務テスト	
	学習成果	FP 技能士3級程度の資産設計提案業務ができる。	
	予習復習の内容	内容全体について確実に整理、確認をしておくこと。	

科目名	簿記検定Ⅰ				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。											
専門的学習成果	①	取引内容を理解し基本的な仕訳を行うことができる。										
	②	簿記の用語や勘定科目の意味を正しく理解できる。										
	③	日商簿記３級第１問形式の問題に対応できる。										
	④	仕訳を通して会計の基本的な考え方を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	学習課題を整理し計画的に取り組むことができる。										
	(2)	基礎から段階的に学び理解を深めることができる。										
	(3)	間違いを振り返り改善につなげることができる。										
	(4)	学んだ知識を学習や実生活に生かすことができる。										
授業概要	本授業は、簿記を初めて学ぶ学生を対象に、日商簿記３級第１問で出題される仕訳問題を解くための基礎力を身につけることを目的とする。取引とは何か、なぜ仕訳が必要なのかといった会計の考え方から学び、勘定科目や用語の意味を一つずつ確認しながら理解を深めていく。計算や暗記に偏るのではなく、取引の内容を読み取り、会計のルールに沿って整理する力を養うことを重視する。演習を中心に繰り返し取り組むことで、初心者でも仕訳問題に自信をもって対応できる力を身につける。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		小テスト	85	毎回、小テストを実施する。[15回、各15問]
		小レポート	15	毎回、小リポートが課される。[15回]
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	CPA 会計学院 監修	『いちばんわかる日商簿記３級の教科書 第２版』	CPA 出版
	CPA 会計学院 監修	『いちばんわかる日商簿記３級の問題集 第２版』	CPA 出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 簿記は計算や暗記を目的とするものではなく、取引の内容を整理し、経営活動やお金の流れを理解するための基本的な考え方である。本授業では、初心者でも無理なく学べるよう、身近な取引を例にしながら仕訳の意味を確認していくため、分からない点をそのままにせず、一つずつ理解する姿勢をもって授業に臨んでほしい。 ② 授業では、取引の読み取り方や勘定科目の考え方を段階的に学習し、演習を通して仕訳の定着を図る。事前学習として、配布資料や指定された内容を確認し、用語や基本的なルールに目を通してから授業に参加すること（予習：週１時間程度）。事後学習としては、授業で扱った仕訳問題を解き直し、誤りの原因を確認すること（復習：週２～３時間程度）。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	簿記と仕訳の役割を学び授業の全体像を理解する。	小テスト 小リポート
	学習成果	簿記が必要な理由を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み学習の流れを整理する。	
2回	授業内容	取引とは何かを身近な例から理解する。	小テスト 小リポート
	学習成果	取引の内容を読み取ることができる。	
	予習復習の内容	身近な取引を振り返り整理する。	
3回	授業内容	勘定科目の基本と考え方を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	主要な勘定科目を区別できる。	
	予習復習の内容	用語の意味を確認し復習する。	
4回	授業内容	借方と貸方の基本的な考え方を学ぶ。	小テスト 小リポート
	学習成果	借方貸方の役割を理解できる。	
	予習復習の内容	例題を用いて整理する。	
5回	授業内容	現金取引の仕訳を中心に学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	現金取引の仕訳を行うことができる。	
	予習復習の内容	演習問題を解き直す。	
6回	授業内容	売掛金・買掛金の仕訳を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	掛取引の仕訳を理解できる。	
	予習復習の内容	例題を確認し復習する。	
7回	授業内容	商品売買の基本的な仕訳を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	商品売買の流れを理解できる。	
	予習復習の内容	取引の流れを整理する。	
8回	授業内容	費用と収益の考え方を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	費用と収益を区別できる。	
	予習復習の内容	例題を用いて確認する。	
9回	授業内容	資産・負債・純資産の基本を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	三要素の関係を理解できる。	
	予習復習の内容	図表を用いて整理する。	
10回	授業内容	複数取引を含む仕訳問題に取り組む。	小テスト 小リポート
	学習成果	取引内容を整理して仕訳できる。	
	予習復習の内容	演習問題を解き直す。	
11回	授業内容	日商簿記３級第１問形式の問題を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	出題形式に慣れて解答できる。	
	予習復習の内容	時間配分を意識して演習する。	
12回	授業内容	よくある誤りと注意点を確認する。	小テスト 小リポート
	学習成果	間違いやすい点を説明できる。	
	予習復習の内容	自分の弱点を整理する。	
13回	授業内容	総合演習を通して理解を深める。	小テスト 小リポート
	学習成果	仕訳問題に自信をもって対応できる。	
	予習復習の内容	正答率を意識して演習する。	
14回	授業内容	これまでの学習内容を総合的に整理する。	小テスト 小リポート
	学習成果	仕訳の考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	検定試験への取り組み方を整理する。	
15回	授業内容	学習内容を総合演習で確認する。	小テスト 小リポート
	学習成果	安定して仕訳問題を解答できる。	
	予習復習の内容	全体を振り返り理解をまとめる。	

科目名	簿記検定Ⅱ				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。											
専門的学習成果	①	帳簿記入を通して取引内容を正確に処理できる。										
	②	試算表を作成し取引の集計を行うことができる。										
	③	決算整理を行い精算表を作成できる。										
	④	貸借対照表と損益計算書を作成できる。										
汎用的学習成果	(1)	作業手順を整理し計画的に課題に取り組める。										
	(2)	誤りを分析し修正につなげることができる。										
	(3)	全体の流れを意識して作業を進められる。										
	(4)	学習成果を振り返り説明することができる。										
授業概要	本授業は、日商簿記３級第２問および第３問に対応し、帳簿記入から決算整理、財務諸表作成までの一連の流れを理解することを目的とする。帳簿への記入を通して取引を継続的に処理し、その結果を試算表、精算表へと集計する過程を学ぶ。また、決算整理仕訳を行い、貸借対照表および損益計算書を作成することで、会計情報がどのようにまとめられるのかを理解する。演習を中心に繰り返し取り組むことで、処理の流れを確実に身につけ、検定試験に対応できる実践力を養う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		小テスト	85	毎回、小テストを実施する。[15回、各15問]
		小レポート	15	毎回、小リポートが課される。[15回]
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	CPA 会計学院 監修	『いちばんわかる日商簿記３級の教科書 第２版』	CPA 出版
	CPA 会計学院 監修	『いちばんわかる日商簿記３級の問題集 第２版』	CPA 出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 本授業では、帳簿記入から決算整理、財務諸表作成までの流れを通して、会計処理がどのようにつながっているかを理解することを重視する。個々の処理を暗記するのではなく、「なぜその処理が必要なのか」「次に何につながるのか」を意識し、全体の流れを捉えながら授業に臨んでほしい。 ② 授業では、帳簿記入、試算表、精算表、決算整理、財務諸表作成を段階的に学習し、演習を中心に理解を深めていく。事前学習として、配布資料や指定された内容を確認し、帳簿や決算整理の基本的な考え方に目を通してから授業に参加すること（予習：週１時間程度）。事後学習としては、授業で扱った問題を解き直し、処理の流れと誤りの原因を確認すること（復習：週２～３時間程度）。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	帳簿と決算の全体的な流れを確認する。	小テスト 小リポート
	学習成果	帳簿から財務諸表までの流れを説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み学習内容を整理する。	
2回	授業内容	帳簿の役割と基本的な記入方法を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	帳簿記入の目的を理解できる。	
	予習復習の内容	帳簿の種類を整理し復習する。	
3回	授業内容	現金出納帳の記入方法を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	現金取引を帳簿に記入できる。	
	予習復習の内容	例題を解き復習する。	
4回	授業内容	売掛帳・買掛帳の記入方法を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	掛取引を帳簿で処理できる。	
	予習復習の内容	記入内容を確認し整理する。	
5回	授業内容	商品有高帳の基本を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	商品管理と帳簿の関係を理解できる。	
	予習復習の内容	例題を用いて復習する。	
6回	授業内容	帳簿から試算表を作成する。	小テスト 小リポート
	学習成果	帳簿内容を集計して試算表を作成できる。	
	予習復習の内容	計算過程を確認し整理する。	
7回	授業内容	試算表の役割と確認方法を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	試算表から誤りを発見できる。	
	予習復習の内容	よくある誤りを整理する。	
8回	授業内容	決算整理の考え方を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	決算整理の目的を理解できる。	
	予習復習の内容	整理仕訳を確認し復習する。	
9回	授業内容	決算整理仕訳を行う。	小テスト 小リポート
	学習成果	基本的な決算整理仕訳を行うことができる。	
	予習復習の内容	例題を解き直す。	
10回	授業内容	精算表の構造と作成方法を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	精算表を用いて決算を整理できる。	
	予習復習の内容	作成手順を確認する。	
11回	授業内容	貸借対照表の構造を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	資産負債純資産の関係を説明できる。	
	予習復習の内容	図表を用いて整理する。	
12回	授業内容	損益計算書の構造を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	収益費用の流れを説明できる。	
	予習復習の内容	計算過程を確認する。	
13回	授業内容	財務諸表作成の総合演習を行う。	小テスト 小リポート
	学習成果	財務諸表を一連の流れで作成できる。	
	予習復習の内容	演習結果を振り返る。	
14回	授業内容	検定試験第２問・第３問形式に取り組む。	小テスト 小リポート
	学習成果	出題形式に対応して解答できる。	
	予習復習の内容	時間配分を意識して復習する。	
15回	授業内容	これまでの学習内容を総合的に整理する。	小テスト 小リポート
	学習成果	帳簿から決算までの流れを説明できる。	
	予習復習の内容	全体を振り返り理解をまとめる。	

科目名	簿記検定Ⅲ				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。											
専門的 学習成果	①	商業簿記の取引を適切に仕訳処理できる。										
	②	決算整理を行い財務諸表を作成できる。										
	③	連結会計、税効果会計など高度な内容に対応できる。										
	④	会計処理の背景を踏まえて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	複雑な課題を整理し段階的に解決できる。										
	(2)	処理の誤りを分析し修正につなげられる。										
	(3)	全体の流れを意識して作業を進められる。										
	(4)	専門知識を用いて自分の考えを説明できる。										
授業概要	本授業は、日商簿記２級商業簿記の範囲を対象とし、取引の仕訳から決算整理、財務諸表作成までの一連の会計処理を理解することを目的とする。３級で学んだ基礎的な仕訳を踏まえ、特殊商品売買や引当金、有価証券の細分化された内容、連結会計や税効果会計などより高度で実務に近い取引を扱うことで、会計処理の幅を広げていく。計算手順や処理方法を暗記するのではなく、取引の背景や意味を意識しながら処理を行うことを重視する。演習を中心に繰り返し取り組むことで、検定試験に対応できる実践的な処理能力と理解力を養う。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		小テスト	85	毎回、小テストを実施する。[15回、各15問]
		小レポート	15	毎回、小リポートが課される。[15回]
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	CPA 会計学院 監修	『いちばんわかる 日商簿記２級 商業簿記の教科書』	サンクチュアリ出版
	CPA 会計学院 監修	『いちばんわかる 日商簿記２級 商業簿記の問題集』	サンクチュアリ出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 本授業では、日商簿記２級商業簿記で扱う取引を通して、会計処理の考え方や仕組みを理解することを重視する。処理方法を暗記するのではなく、取引の背景や意味を考えながら仕訳や決算整理を行い、なぜその処理が必要なのかを意識して授業に臨んでほしい。 ② 授業では、特殊商品売買や引当金、有価証券などを段階的に学習し、演習を通して理解を深めていく。事前学習として、配布資料や指定された内容を確認し、取引の概要や処理の流れを把握してから授業に参加すること（予習：週１時間程度）。事後学習としては、授業で扱った問題を解き直し、誤りの原因や処理の流れを整理すること（復習：週２～３時間程度）。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	商業簿記２級の学習範囲と全体構造を確認する。	小テスト 小リポート
	学習成果	商業簿記の学習目的を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み学習の流れを整理する。	
2回	授業内容	収益認識と現金・預金取引を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	収益と現金取引の処理を理解できる。	
	予習復習の内容	取引事例を確認し復習する。	
3回	授業内容	債権債務と関連する評価処理を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	債権債務の処理を行うことができる。	
	予習復習の内容	引当金の基本的な考え方を整理する。	
4回	授業内容	有価証券取引の基本と評価を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	有価証券の分類と処理を理解できる。	
	予習復習の内容	評価の考え方を整理する。	
5回	授業内容	有形固定資産の取得と管理を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	固定資産の取得処理を理解できる。	
	予習復習の内容	減価償却の考え方を整理する。	
6回	授業内容	固定資産の処分と減少を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	固定資産処分時の処理ができる。	
	予習復習の内容	損益への影響を整理する。	
7回	授業内容	無形固定資産と研究開発の処理を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	資産計上と費用処理を区別できる。	
	予習復習の内容	処理基準を確認する。	
8回	授業内容	リース取引の基本構造を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	リース取引の区分を理解できる。	
	予習復習の内容	処理の違いを整理する。	
9回	授業内容	引当金全体の考え方を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	将来費用の見積処理を理解できる。	
	予習復習の内容	各引当金を整理する。	
10回	授業内容	純資産の構成と変動を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	純資産項目の関係を説明できる。	
	予習復習の内容	仕訳例を確認する。	
11回	授業内容	利益剰余金と処分を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	利益の処理過程を理解できる。	
	予習復習の内容	流れを整理する。	
12回	授業内容	外貨建取引と税効果会計を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	決算時の評価処理を理解できる。	
	予習復習の内容	基本的な考え方を整理する。	
13回	授業内容	株主資本等変動計算書を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	純資産変動を説明できる。	
	予習復習の内容	計算書の構造を整理する。	
14回	授業内容	月次決算と管理会計的視点を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	月次決算の目的を理解できる。	
	予習復習の内容	実務的意義を整理する。	
15回	授業内容	本支店会計と連結会計の概要を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	企業グループ会計の考え方を理解できる。	
	予習復習の内容	個別会計との違いを整理する。	

科目名	簿記検定Ⅳ				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。											
専門的 学習成果	①	原価計算の目的と仕組みを説明できる。										
	②	材料費・労務費・経費を区別できる。										
	③	各種原価計算の特徴を理解できる。										
	④	製造原価情報を経営判断・経営改善に活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	複雑な計算過程を整理して理解できる。										
	(2)	条件の違いを踏まえて分析できる。										
	(3)	数値情報をもとに判断できる。										
	(4)	学習内容を図表で分かりやすく説明できる。										
授業概要	本授業は、日商簿記２級工業簿記の範囲を対象とし、製造業における原価計算の考え方と仕組みを理解することを目的とする。工業簿記とは何か、原価計算とは何かを出発点とし、材料費・労務費・経費といった原価要素や、製造間接費の配賦計算、部門別計算、個別原価計算・総合原価計算などを体系的に学習する。さらに、標準原価計算や直接原価計算、CVP 分析を通して、原価情報が経営判断や意思決定にどのように活用されるかを考察する。計算手順の暗記にとどまらず、原価計算の意味や役割を理解し、実務や経営の視点から工業簿記を捉える力を養う。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		小テスト	85	毎回、小テストを実施する。[15回、各15問]
		小レポート	15	毎回、小リポートが課される。[15回]
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	CPA 会計学院 監修	『いちばんわかる 日商簿記２級 工業簿記の教科書』	サンクチュアリ出版
	CPA 会計学院 監修	『いちばんわかる 日商簿記２級 工業簿記の問題集』	サンクチュアリ出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 本授業では、工業簿記を単なる計算技法としてではなく、製造業における原価管理や経営判断を支える仕組みとして理解することを重視する。原価計算が何のために行われるのかを常に意識し、数値の意味や背景を考えながら授業に臨んでほしい。 ② 授業では、原価要素や配賦計算、各種原価計算方法を段階的に学習し、演習を通して理解を深めていく。事前学習として、配布資料や指定された内容を確認し、用語や計算の流れを把握してから授業に参加すること（予習：週１時間程度）。事後学習としては、授業で扱った計算問題を解き直し、原価構造や計算過程を整理すること（復習：週２～３時間程度）。

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	工業簿記とは何か、原価計算の目的を確認する。	小テスト 小リポート
	学習成果	工業簿記と商業簿記の違いを説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み学習の全体像を整理する。	
2回	授業内容	原価要素としての材料費・労務費・経費を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	原価要素の区別と意味を理解できる。	
	予習復習の内容	原価構成を整理し復習する。	
3回	授業内容	勘定連絡図の構造と役割を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	原価計算全体の流れを説明できる。	
	予習復習の内容	勘定間の関係を整理する。	
4回	授業内容	製造間接費の考え方と配賦計算を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	製造間接費配賦の仕組みを理解できる。	
	予習復習の内容	計算手順を整理する。	
5回	授業内容	製造間接費の配賦差異と再分析を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	配賦差異の意味を説明できる。	
	予習復習の内容	差異分析を整理する。	
6回	授業内容	部門別原価計算の基本構造を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	部門別計算の流れを理解できる。	
	予習復習の内容	計算過程を整理する。	
7回	授業内容	部門費の配賦方法と処理を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	部門配賦方法の違いを説明できる。	
	予習復習の内容	例題を確認し復習する。	
8回	授業内容	個別原価計算の考え方と処理を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	個別原価計算の流れを理解できる。	
	予習復習の内容	製造指図書との関係を整理する。	
9回	授業内容	総合原価計算の基本構造を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	総合原価計算の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	計算方法を整理する。	
10回	授業内容	工程別総合原価計算を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	工程別計算の流れを理解できる。	
	予習復習の内容	完成品原価の算定を整理する。	
11回	授業内容	標準原価計算の目的と仕組みを学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	標準原価と実際原価の違いを理解できる。	
	予習復習の内容	差異分析の基本を整理する。	
12回	授業内容	直接原価計算の考え方を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	固定費と変動費を区別できる。	
	予習復習の内容	意思決定との関係を整理する。	
13回	授業内容	CVP 分析の基本を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	損益分岐点分析を説明できる。	
	予習復習の内容	数値関係を整理する。	
14回	授業内容	本社工場会計の基本構造を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	本社と工場の関係を理解できる。	
	予習復習の内容	勘定処理を整理する。	
15回	授業内容	工業簿記全体を通した総合演習を行う。	小テスト 小リポート
	学習成果	原価計算を一連の流れで処理できる。	
	予習復習の内容	全体を振り返り理解をまとめる。	

科目名	現代会計と企業経営				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的学習成果	①	現代の会計制度のしくみの概要を説明することができる。										
	②	企業がどのように会計制度を活用しているか、説明することができる。										
	③	企業の財務諸表から、企業の経営状態や経営成績について読み取り、議論することができる。										
汎用的学習成果	(1)	企業会計に関する知識を身につけ、社会的自立に必須の知見を修得し、実践に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	多様な業種・業態・規模の企業を調査・分析することで、企業評価の実践に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	同業他社の企業比較を行い、分析する手法を駆使し、職業人としての実務に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	企業を評価する一つの方法は決算書から得られる情報によって分析を行うことである。社会人・職業人として必須のこの知識・技術を、会計制度が成り立つ歴史的変遷を踏まえ、現存する企業群を会計的アプローチから精査し、自分なりの見解を述べ、討議することができるようになることを目指す。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	100	各回のテストにより、各回12.5%を配点する。
	汎用的学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①１年次学生の、春休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布、小テストを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持参すること。 ②小テストは、原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。 ③予習復習には、それぞれ１時間程度かけることが期待されるが、集中授業のため授業と授業の間に行うことは難しいことが予想される。そのため、事前課題、事後学習を入念に行うこと。 ④企業分析を行う予定の企業については、授業実施の際の社会状況を踏まえたり、参加学生の関心に応じて変更することがある。

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	会計制度とは何か？	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	会計制度の成立について、歴史的変遷を踏まえ、理解する。	
	予習復習の内容	事前の課題に基づき、会計制度の歴史について資料を読み込む。	
2回	授業内容	企業の財務情報はどのようにして入手するか？	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	有価証券報告書や決算短信の入手方法や、コンセプトの違いを理解する。	
	予習復習の内容	事前の課題に基づき、複数の決算資料の違いについての資料を読み込む。	
3回	授業内容	決算書の構成と名称	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書について学ぶ。	
	予習復習の内容	決算書の名称ならびに主要な勘定科目について理解・記憶する。	
4回	授業内容	企業分析の実際①安全性	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	貸借対照表を利用した代表的分析手法を学ぶ。例：トヨタ自動車	
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	
5回	授業内容	企業分析の実際②収益性	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	損益計算書を利用した代表的分析手法を学ぶ。例：オリエンタルランド	
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	
6回	授業内容	企業分析の実際③効率性	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	貸借対照表と損益計算書を合わせた効率性の代表的手法を学ぶ。例：ファーストリテイリング	
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	
7回	授業内容	企業分析の実際④分析結果を総合的に評価する（1）時系列変化	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	これまで学んだ分析方法を総合し、時系列の変化に着目し、評価する。	
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	
8回	授業内容	企業分析の実際⑤分析結果を総合的に評価する（2）同業他社比較	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	これまで学んだ分析手法を総合し、同業他社を比較し評価する。	
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	情報科学				担当者	岩渕 正則（イワブチ マサノリ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。	
専門的学習成果	①	コンピュータのハードウェア分野に関する基礎理論を説明できる。
	②	コンピュータシステムの基本構成を説明できる。
	③	IT パスポート試験のテクノロジ系分野について、論じることができる。
	④	コンピュータのシステム構成について、その種類と特徴を説明できる。
	⑤	データベースの構成について、説明できる。
	⑥	インターネットの構成について、説明できる。
	⑦	セキュリティの構成について、説明できる。
汎用的学習成果	(1)	情報科学に関する概要を学ぶことを通じて、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果③に関連）
	(2)	データベースやインターネットを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果⑤⑥に関連）
	(3)	セキュリティの構成を学ぶことを通して、現在のセキュリティ環境に関して、批判的に思考することができる。（専門的学習成果⑦に関連）
	(4)	コンピュータのハードウェア構成を学ぶことを通じて、未来のハードウェア構成を探求することができる。（専門的学習成果①②に関連）
授業概要	現代社会では、すべての職業人に共通して、情報技術の幅広い分野の総合的知識が必要である。更に、ただ IT を利用できる人材ではなく IT を活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材が求められる。この授業は、IT パスポート試験におけるテクノロジ分野について学ぶ。また、情報処理技術者の登竜門である国家試験「基本情報処理技術者試験」へのテクノロジ分野についての問題解決について指導する。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に説明できる内容を講義する。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各２％ずつ正解率（０点、１点、２点）に沿って評価を行う。
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果⑤⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑦で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	岡嶋裕史	『IT パスポート合格教本』	技術評論社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に配布した資料を読んでおくこと。（予習：週２時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週２時間程度） ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	数の表現	小テスト（用語の説明と２進数の特徴について）
	学習成果	ビット、バイト、ワード、２進数について説明できる。	
	予習復習の内容	２進数の特徴について調べておく。	
2回	授業内容	基数変換	小テスト（基数変換について）
	学習成果	２進数、10進数、16進数について相互変換の計算ができる。	
	予習復習の内容	各進数の特徴について調べておく。	
3回	授業内容	補助単位	小テスト（補助単位について）
	学習成果	補助単位の意味を説明できる。	
	予習復習の内容	補助単位について調べておく。	
4回	授業内容	RAM と ROM	小テスト（RAM と ROM の特徴について）
	学習成果	RAM と ROM の区別を説明できる。	
	予習復習の内容	RAM と ROM の特徴について調べておく。	
5回	授業内容	補助記憶装置	小テスト（補助記憶装置について）
	学習成果	補助記憶装置の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	補助記憶装置について調べておく。	
6回	授業内容	入出力装置	小テスト（入出力装置）
	学習成果	入出力装置の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	入出力装置について調べておく。	
7回	授業内容	入出力インタフェース	小テスト（入出力インタフェース）
	学習成果	入出力インタフェースの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	現在の入出力インタフェースについて調べておく。	
8回	授業内容	システム構成	小テスト（システム構成）
	学習成果	システム構成の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	システム構成について調べておく。	
9回	授業内容	システムの信頼性	小テスト（システムの信頼性）
	学習成果	システムの信頼性に関する計算ができる。	
	予習復習の内容	システムの信頼性に関する計算法を調べておく。	
10回	授業内容	ファイル管理	小テスト（ファイル管理）
	学習成果	ファイル管理の特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	ファイル管理について調べておく。	
11回	授業内容	データベース	小テスト（データベース）
	学習成果	データベースの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	データベースについて調べておく。	
12回	授業内容	インターネット	小テスト（インターネット）
	学習成果	インターネットのしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットについて調べておく。	
13回	授業内容	電子メールと WEB 技術	小テスト（電子メールと WEB）
	学習成果	電子メールと WEB 技術について説明できる。	
	予習復習の内容	電子メールの仕組みと WEB 技術について調べておく。	
14回	授業内容	暗号化技術	小テスト（暗号化技術）
	学習成果	暗号化技術について説明できる。	
	予習復習の内容	暗号化技術について調べておく。	
15回	授業内容	コンピュータウイルスと不正行為	小テスト（ウイルスと不正行為）
	学習成果	ウイルスの種類と不正行為の方法について説明できる。	
	予習復習の内容	ウイルスの種類と不正行為の方法について調べておく。	

科目名	情報処理論				担当者	岩渕 正則（イワブチ マサノリ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	コンピュータの経営全般に関する基礎理論を説明できる。										
	②	コンピュータシステムのIT管理を説明できる。										
	③	コンピュータシステムのIT技術を説明できる。										
	④	コンピュータのストラテジ系（戦略系）を説明できる。										
	⑤	コンピュータのマネジメント系（経営管理系）について、説明できる。										
	⑥	ソフトウェア開発の工程について、説明できる。										
	⑦	ITパスポート国家試験の内容について、説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	情報処理に関する概要を学ぶことを通じて、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果⑦に関連）										
	(2)	ストラテジ系とマネジメント系を通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果④⑤に関連）										
	(3)	経営全般やIT管理、IT技術を学ぶことを通して、現在の情報処理環境に関して、批判的に思考することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(4)	コンピュータのソフトウェア開発を学ぶことを通じて、未来のソフトウェア開発を探求することができる。（専門的学習成果⑥に関連）										
授業概要	現代社会では、すべての職業人に共通して、情報処理の幅広い分野の総合的知識が必要である。更に、ただITを利用できる人材ではなくITを活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材が求められる。この授業は、ITパスポート試験におけるストラテジ分野及びマネジメント分野について学ぶ。また、情報処理技術者の登竜門である国家試験「基本情報処理技術者試験」へのストラテジ分野及びマネジメント分野についての問題解決について指導する。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に説明できる内容を講義する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各2％ずつ正解率（0点、1点、2点）に沿って評価を行う。
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果⑦で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (4) は専門的学習成果⑥で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	岡嶋裕史	『ITパスポート合格教本』	技術評論社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に配布した資料を読んでおくこと。（予習：週2時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週2時間程度） ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ITパスポート試験についてのガイダンス	小テスト（PDCAについて）
	学習成果	ITパスポート試験について説明できる。	
	予習復習の内容	ITパスポート試験について調べておく。	
2回	授業内容	PDCA	
	学習成果	PDCAを説明できる。	
	予習復習の内容	PDCAの特徴について調べておく。	
3回	授業内容	品質管理	小テスト（品質管理について）
	学習成果	品質管理の各種手法を説明できる。	
	予習復習の内容	品質管理について調べておく。	
4回	授業内容	財務会計と管理会計	小テスト（財務会計と管理会計の特徴について）
	学習成果	財務会計と管理会計の区別を説明できる。	
	予習復習の内容	財務会計と管理会計の特徴について調べておく。	
5回	授業内容	知的財産権	小テスト（知的財産権について）
	学習成果	知的財産権の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	知的財産権について調べておく。	
6回	授業内容	経営戦略	小テスト（経営戦略）
	学習成果	経営戦略の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	経営戦略について調べておく。	
7回	授業内容	システム戦略	小テスト（システム戦略）
	学習成果	システム戦略の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	現在のシステム戦略について調べておく。	
8回	授業内容	開発モデル	小テスト（開発モデル）
	学習成果	開発モデルの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	開発モデルについて調べておく。	
9回	授業内容	プロジェクトマネジメント	小テスト（プロジェクトマネジメント）
	学習成果	プロジェクトマネジメントに関する説明ができる。	
	予習復習の内容	プロジェクトマネジメントについて調べておく。	
10回	授業内容	サービスマネジメント	小テスト（サービスマネジメント）
	学習成果	サービスマネジメントについて説明できる。	
	予習復習の内容	サービスマネジメントについて調べておく。	
11回	授業内容	マーケティング	小テスト（マーケティング）
	学習成果	マーケティングについて説明できる。	
	予習復習の内容	マーケティングについて調べておく。	
12回	授業内容	ビジネス戦略	小テスト（ビジネス戦略）
	学習成果	ビジネス戦略のしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	ビジネス戦略について調べておく。	
13回	授業内容	経営管理システム	小テスト（経営管理システム）
	学習成果	経営管理システムについて説明できる。	
	予習復習の内容	経営管理システムについて調べておく。	
14回	授業内容	ソフトウェア開発	小テスト（ソフトウェア開発）
	学習成果	ソフトウェア開発手法について説明できる。	
	予習復習の内容	ソフトウェア開発について調べておく。	
15回	授業内容	システム企画	小テスト（システム企画）
	学習成果	システム企画について説明できる。	
	予習復習の内容	システム企画について調べておく。	

科目名	AI 概論				担当者	岩渕 正則（イワブチ マサノリ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	ディープラーニング G 検定及び AI 検定に合格できる。										
	②	人工知能（AI）の歴史と動向を説明できる。										
	③	人工知能分野の問題について説明できる。										
	④	機械学習の具体的手法を説明できる。										
	⑤	人工知能（AI）の手法を説明できる。										
	⑥	人工知能（AI）の研究分野について説明できる。										
	⑦	人工知能（AI）の技術を事業に活用できる。										
汎用的学習成果	(1)	ディープラーニング G 検定又は AI 検定に合格し、AI 技術者としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	問題解決のために AI 技術を利用することができる。（専門的学習成果③に関連）										
	(3)	コンピュータ技術と融合することにより汎用的な成果を上げることができる。（専門的学習成果④に関連）										
	(4)	事業活動の中で AI 技術の活用分野を見つけ出し、社会に役立つことができる。（専門的学習成果⑥⑦に関連）										
授業概要	現在は第３次 AI ブームと呼ばれている。最初に人工知能（AI）の歴史を学び、なぜ今第３次 AI ブームなのかを理解する。次に、現在注目を浴びているディープラーニングの概要と手法を学ぶ。ディープラーニングは汎用技術の一つであると呼ばれている。この技術は、発明や発見が世界全体に影響を与える可能性がある技術のことである。ディープラーニングが実現できるようになった背景にはデータ量が増え、それを処理するコンピュータの性能が向上した結果でもある。続いて、現在ディープラーニングの技術がどのような分野で活用されているのかを理解し、今後どのような分野に活用できるのかを模索し、応用する方法を理解する。最後に、人工知能を取り巻く法律、倫理などについて講義する。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	５回ごとに小テストを３回実施し、各10点満点で評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習評価③で評価を行う。 (3) は専門的学習評価④で評価を行う。 (4) は専門的学習評価⑥⑦で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	吉田雅裕、岡嶋裕史	『はじめての AI リテラシー』	技術評論社									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを読んでおくこと。（予習：週２時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週２時間程度） ②５回ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	人工知能（AI）について	
	学習成果	人工知能（AI）の定義や歴史について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第１章を読んで調べておく。	
2回	授業内容	人工知能をめぐる動向	
	学習成果	探索・推論について、簡単な手法を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第２章を読んで調べておく。	
3回	授業内容	人工知能（AI）の問題	
	学習成果	人工知能分野の問題点について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第３章を読んで調べておく。	
4回	授業内容	機械学習の手法	
	学習成果	教師あり学習と教師なし学習について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第４章を読んで調べておく。	
5回	授業内容	AI 技術の概要	第１回～第５回の小テスト
	学習成果	ニューラルネットワークとディープラーニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第５章を読んで調べておく。	
6回	授業内容	AI 技術の概要②	
	学習成果	オートエンコーダ、ファインチューニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	オートエンコーダ、ファインチューニングについて調べておく。	
7回	授業内容	CPU と GPU	
	学習成果	CPU と GPU、および GPGPU について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第７章を読んで調べておく。	
8回	授業内容	情報セキュリティの基礎	
	学習成果	情報セキュリティについて説明できる。	
	予習復習の内容	情報セキュリティについて調べておく。	
9回	授業内容	統計と数学の基本	
	学習成果	AI に必要な統計と数学を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第９章を読んでおく。	
10回	授業内容	AI とアルゴリズム	第６回～第10回の小テスト
	学習成果	AI とアルゴリズムについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第10章を読んでおく。	
11回	授業内容	データの構造とプログラミング	
	学習成果	データの構造とプログラミングについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第11章を読んでおく。	
12回	授業内容	画像認識	
	学習成果	画像認識について説明できる。	
	予習復習の内容	画像認識について調べておく。	
13回	授業内容	自然言語処理	
	学習成果	自然言語処理について説明できる。	
	予習復習の内容	自然言語処理について調べておく。	
14回	授業内容	音声認識	
	学習成果	音声認識について説明できる。	
	予習復習の内容	音声認識について調べておく。	
15回	授業内容	人工知能の法律・倫理	第11回～第15回の小テスト
	学習成果	人工知能関連の法律について説明できる。	
	予習復習の内容	人工知能関連の法律について調べておく。	

科目名	データサイエンス基礎論				担当者	岩渕 正則（イワブチ マサノリ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	データサイエンス基礎検定に合格できる。										
	②	データ分析の基礎知識を論じることができる。										
	③	観測値の標準化について説明できる。										
	④	確率の基本的な性質について説明できる。										
	⑤	標本調査について説明できる。										
	⑥	ビッグデータの収集法と調査について説明できる。										
	⑦	ビッグデータの分析について説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	データサイエンス基礎検定に合格し、職業自立につなげることができる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	統計的な思考を身に付け、情報処理分野や人工知能分野に役立つことができる。（専門的学習成果⑥⑦に関連）										
	(3)	統計的問題解決能力を身に付け、実際の問題解決に生かすことができる。（専門的学習成果⑤に関連）										
	(4)	多くの分野において、信頼できるデータの収集と分析を行い、合理的な解決方法ができる。（専門的学習成果③④に関連）										
授業概要	情報社会において最も必要性のある学問として統計学があげられる。統計的思考の重要性を確認しながら、人工知能で扱うデータ処理やビッグデータの取り扱い方法についてのデータ分析法を学ぶ。また、統計グラフの種類や特徴について理解する。さらに、観測値の処理方法や相関関係について理解し、確率の基本的な手法について学ぶ。問題解決のためのプロセスと、実験と調査の計画法や、データの評価法と解釈法を学ぶ。その後、データサイエンス基礎検定の合格のための対策を行う。データサイエンス基礎検定対策を実施し、確実にスキルアップの向上を目指す。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを３回実施し、各10点満点で評価する。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果③④で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	伊藤大河、川村和也、内田　瑛、河合麗奈	『大学基礎 データサイエンス』	実教出版									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストをよく読んでおくこと。（予習：週２時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週２時間程度） ②５回ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	調査項目の種類と集計	
	学習成果	調査項目の種類と集計について説明できる。	
	予習復習の内容	調査項目の種類と集計について調べておく。	
2回	授業内容	グラフの種類と特徴	
	学習成果	グラフの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	グラフの種類と特徴について調べておく。	
3回	授業内容	時系列データの特徴	
	学習成果	時系列データの特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	時系列データの特徴について調べておく。	
4回	授業内容	度数分布とヒストグラム	
	学習成果	度数分布とヒストグラムについて説明できる。	
	予習復習の内容	度数分布とヒストグラムについて調べておく。	
5回	授業内容	５数要約と箱ひげ図	第１回～第５回までの小テスト
	学習成果	５数要約と箱ひげ図について説明できる。	
	予習復習の内容	５数要約と箱ひげ図について調べておく。	
6回	授業内容	分散と標準偏差	
	学習成果	分散と標準偏差について説明できる。	
	予習復習の内容	分散と標準偏差について調べておく。	
7回	授業内容	相関と散布図	
	学習成果	相関と散布図について説明できる。	
	予習復習の内容	相関と散布図について調べておく。	
8回	授業内容	相関係数	
	学習成果	相関係数について説明できる。	
	予習復習の内容	相関係数について調べておく。	
9回	授業内容	確率	
	学習成果	確率について説明できる。	
	予習復習の内容	確率について調べておく。	
10回	授業内容	標本調査	第６回～第10回までの小テスト
	学習成果	標本調査について説明できる。	
	予習復習の内容	標本調査について調べておく。	
11回	授業内容	PPDAC サイクル	
	学習成果	PPDAC サイクルについて説明できる。	
	予習復習の内容	PPDAC サイクルについて調べておく。	
12回	授業内容	実験計画法	
	学習成果	実験計画法について説明できる。	
	予習復習の内容	実験計画法について調べておく。	
13回	授業内容	ビッグデータの収集と分析	
	学習成果	ビッグデータの収集と分析について説明できる。	
	予習復習の内容	ビッグデータの収集と分析について調べておく。	
14回	授業内容	データサイエンス基礎対策	
	学習成果	データサイエンス基礎問題について説明できる。	
	予習復習の内容	データサイエンス基礎問題について調べておく。	
15回	授業内容	データサイエンス基礎対策	第11回～第15回までの小テスト
	学習成果	データサイエンス基礎問題について説明できる。	
	予習復習の内容	データサイエンス基礎問題について調べておく。	

科目名	プログラミング演習Ⅰ（VBA）				担当者	大澤 栄子（オオサワ エイコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中、授業前後、メール（1回目授業で説明）で受け付ける。											
専門的学習成果	①	マクロ/VBAの概要を理解し、開発環境の基本操作ができる。										
	②	変数と制御構造を活用した変数と制御構造を活用したモジュールを作成できる。										
	③	適切な手法を選択したデバッグができる。										
	④	ニーズを分析し入力から出力までのデータ活用が設計できる。										
汎用的学習成果	(1)	ワークシートおよびモジュールの設計を通して、論理的思考、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①④に関連）										
	(2)	ワークシートおよびモジュールの開発を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	資格取得に向けた演習を通して、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し実践できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	Excelに組み込めるプログラミング言語「VBA（VisualBasic forApplication）」を用い、Excelによる日常業務をさらに効率よく遂行する為のスキルを身につける。また、ワークシートを基本とする簡単なシステムを開発することにより、ニーズの分析、設計、デバッグ、テスト、運用など一連の開発手法の基礎を教員のシステム開発の現場のエピソードも交えながら習得する。さらに、VBAエキスパート試験への道筋を示し、合格への挑戦意欲と実践力も養う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		確認問題	30	6回実施し、各回5％を配点する。
		演習課題	40	27回目授業で提示する最終課題が、適切に分析設計されニーズが実現されているかを評価する。
		平常点	30	演習や実習への取り組み・意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習効果①④で評価を行う。 （2）は専門的学習効果②③で評価を行う。 （3）は専門的学習効果①②③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『よくわかるMicrosoftExcelマクロ/VBAOffice2021/2019/2016/Microsoft365対応』	FOM出版

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『よくわかるExce2024応用　Office2024/Microsoft365対応』	FOM出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①欠席した場合、授業は前回の継続となるので次の受講までに必ず欠席した内容を補習しておくこと。また、事前にテキストを読み不明点を明確にしておくことや、得られる演習結果の確認などの授業準備、復習、提出課題作成などに30時間程度の時間外学習が必要である。 ②課題について、授業時間内または次の時間に結果のフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス、マクロ／VBAの概要、基本的なマクロの作成	4回目授業後半で「記録マクロ」に関する確認問題演習を実施
	学習成果	授業の内容およびマクロ／VBAの概要を理解し、記録マクロの基本操作ができる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。ガイダンスの内容をふまえて学習計画を立てる。	
3・4回	授業内容	複数の処理のマクロ化、マクロの保存と削除	
	学習成果	複数処理のマクロの作成ができる。マクロの保存と削除ができる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りマクロの理解を深める。	
5・6回	授業内容	VBEの基本操作、マクロの編集	10回目授業後半で「モジュールとプロシージャ」に関する確認問題演習を実施
	学習成果	VBEの基本操作を理解し、記録マクロの編集ができる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りVBE基本理解を深める。	
7・8回	授業内容	モジュールとプロシージャーの概要	
	学習成果	モジュールとプロシージャーの概要、プロシージャーの構成要素が理解できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、モジュールとプロシージャーの理解を深める。	
9・10回	授業内容	プロシージャーの作成と登録	
	学習成果	基本的なメソッド、プロパティを理解し、それらを活用したプロシージャーが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りメソッド、プロパティの理解を深める。	
11・12回	授業内容	変数と制御構造の概要、分岐構造（If～Then）	14回目授業で変数、分岐構造に関する確認問題演習を実施
	学習成果	変数の使い方、If～Thenステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャーが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り変数、If～Thenの理解を深める。	
13・14回	授業内容	分岐構造（Select～Case）、変数と分岐構造のまとめ演習	
	学習成果	Select～Caseステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャーが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り分岐構造全般の理解を深める。	
15・16回	授業内容	繰り返し構造（For～Next）	16回目授業でFor～Nextに関する確認問題演習を実施
	学習成果	For～Nextステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャーが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り分岐構造全般の理解を深める。	
17・18回	授業内容	繰り返し構造（Do～Loop）	18回目授業Do～Loopに関する確認問題演習を実施
	学習成果	Do～Loopステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャーが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り繰り返し構造全般の理解を深める。	
19・20回	授業内容	デバッグ、販売管理システムの概要	26回目授業でシステム化に関する確認問題演習を実施
	学習成果	エラーの種類を理解し適切なデバッグができる。Excelを用いた業務のシステム化が理解できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、デバッグ手法、システム化の理解を深める。	
21・22回	授業内容	販売管理システム作成（対話形式のプログラム、データ抽出の自動化、印刷の簡便化）	
	学習成果	対話形式、データ抽出、印刷に関する関数、メソッド、プロパティが理解でき、それらを活用したプロシージャーが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。対話形式、データ抽出、印刷に関する関数、メソッド、プロパティの理解を深める。	
23・24回	授業内容	販売管理システム作成（ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化）	
	学習成果	ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化に関する関数、メソッド、プロパティが理解でき、それらを活用したプロシージャーが作成できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化に関する関数、メソッド、プロパティの理解を深める。	
25・26回	授業内容	販売管理システム作成（アプリケーションの仕上げ）	
	学習成果	アプリケーションの仕上げとして必要な内容と設定が理解でき、操作できる。	
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、システム化の理解を深める。	
27・28回	授業内容	VBAによる開発演習課題（1）	最終課題としてワークシートおよびプロシージャーを開発し提出する。
	学習成果	課題を分析し適切なシート、プロシージャーが作成できる。	
	予習復習の内容	これまでを振り返り、課題の分析とプログラミング設計を進める。	
29・30回	授業内容	VBAによる開発演習課題（2）、まとめ	
	学習成果	課題を解決するExcelブックが作成できる。	
	予習復習の内容	れまでを振り返り、Excelによるシステム化の理解を深める。	

科目名	プログラミング演習Ⅱ（Python）				担当者	大澤 栄子						
区　分	選択		2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
					授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中、授業前後、メール（1回目授業で説明）で受け付ける。												
専門的 学習成果	①	Pythonの基本文法と記述ルールの習得：変数、データ型、リストなどの基本概念を理解し、正しい構文でプログラムを記述できる。											
	②	制御構造を用いた動的な処理の実装：条件分岐（if）や繰り返し（for）を組み合わせ、状況に応じて動作が変わるプログラムを作成できる。											
	③	GUIアプリや人工知能の基礎概念の把握：デスクトップアプリの作成やAI（機械学習）の基礎に触れ、技術が動く仕組みを説明できる。											
	④	目的に応じた簡単なアプリが開発できる。											
汎用的 学習成果	(1)	論理的思考力とプロセス分解能力：複雑な作業をコンピュータが理解できる最小の手順に分解し、再構築する力を養う。（専門的学習成果①②に関連）											
	(2)	自動化による業務改善マインドの醸成：手作業による単純反復を技術で解決しようとする、効率化の視点と思考習慣を身につける。（専門的学習成果②③に関連）											
	(3)	デジタルリテラシーと人口知能：人口知能の組み込みを体験し、情報の価値を正しく判断する力を高める。（専門的学習成果③に関連）											
	(4)	トライ＆エラーによる問題解決能力：エラーの原因を特定し、試行錯誤を経て正解に辿り着く粘り強いレジリエンスを養う。（専門的学習成果①④に関連）											
授業概要	現代においてプログラミングは、エンジニアのみならず全てのビジネスパーソンに求められる「新しい読み書きそろばん」である。本授業では、初心者向けの主教材を用い、Pythonの基礎から人工知能の入り口までを体験的に学習する。 非エンジニア職にとっても、本スキルの習得は「作業の自動化」という強力な武器をもたらす。大量の画像・データの一括処理など、従来の手作業を劇的に効率化する視点が得られるからだ。 実習を通じ、コードの書き方だけでなく、物事を順序立てて考える論理的思考力を養う。デジタル技術の仕組みを理解することで、AI時代において技術を「使われる側」から「使いこなす側」へとステップアップすることを目指す。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		提出物	50	小レポートまたは練習問題を計10回実施し、各回5％を配点する。									
		演習課題	25	14、15回目授業で提示する最終課題が、適切に分析設計されニーズが実現されているかを評価し25％を配点する。									
		平常点	25	演習や実習への取り組み・意欲・態度により評価する。									
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習効果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果③④で評価を行う。 (4) は専門的学習効果①④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名										
	リブロワークス	『Python 1年生 第2版』	株式会社翔泳社										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名										
	斎藤大輔他	『できるイラストで学ぶ　プログラミング1年目からのPython』	株式会社インプレス										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①欠席した場合、授業は前回の継続となるので次の受講までに必ず欠席した内容を補習しておくこと。また、事前にテキストを読み不明点を明確にしておくことや、得られる演習結果の確認などの授業準備、復習、提出課題作成などに30時間程度の時間外学習が必要である。 ②提出物について、授業時間内または次の時間に結果のフィードバックを行う。												

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンスと環境構築	教科書ふくめ、履修する環境が準備できているか
	学習成果	演習の目的を理解し、Pythonの学習環境を構築できる。	
	予習復習の内容	教科書「第1章」を読みPythonでできることを把握する。 環境が正常に動作するか最終確認する。	
3・4回	授業内容	プログラムの作り方と実行（第2章）	小レポート
	学習成果	ファイルにコードを書いて保存し、それを読み込んで実行できる。	
	予習復習の内容	ファイルの保存場所と拡張子のルールを確認する。 print関数を使い、文字や数値を表示するプログラムを保存・実行する。	
5・6回	授業内容	変数の仕組み（第3章）	小レポート
	学習成果	変数の概念を理解し、数値や文字列の代入と利用ができる。	
	予習復習の内容	変数名の付け方のルールを学ぶ。 複数の変数を使った四則演算を行い、結果を画面に表示させる。	
7・8回	授業内容	リストによるデータの管理（第3章）	練習問題①
	学習成果	リスト（配列）を作成し、複数のデータをまとめて管理できる。	
	予習復習の内容	インデックス（添え字）の数え方を把握する。 リスト内の要素を書き換えたり、特定の場所の値を取り出したりする。	
9・10回	授業内容	条件分岐の基本：if文（第3章）	練習問題②
	学習成果	条件に応じて処理を分けるif文の構造とインデントを正しく記述できる。	
	予習復習の内容	比較演算子の記号と意味を確認する。 数値の大小によって出力メッセージが変わるプログラムを作成する。	
11・12回	授業内容	繰り返し処理：for文（第3章）	練習問題③
	学習成果	同じ処理を自動で繰り返す反復構造を理解し、実装できる。	
	予習復習の内容	繰り返しを継続する条件の書き方を学ぶ。 指定した回数だけ同じ処理を繰り返すコードを書く。	
13・14回	授業内容	関数の利用と作り方（第3章）	練習問題④
	学習成果	組み込み関数の利用と、独自の関数を定義して処理をまとめる方法を習得する。	
	予習復習の内容	引数と戻り値の役割をイメージする。 複数の命令を1つの関数にまとめ、それを呼び出して実行する。	
15・16回	授業内容	GUIアプリの基礎：ウィンドウとボタン（第4章）	練習問題⑤
	学習成果	ウィンドウの表示やボタンなどの部品を配置できる。	
	予習復習の内容	GUI部品（ウィジェット）の配置方法を学ぶ。 画面上にボタンを表示させ、クリックできるか確認する。	
17・18回	授業内容	アプリに動きをつける（第4章）	
	学習成果	ボタンを押したときに特定の処理を実行させるプログラムが記述できる。	
	予習復習の内容	ボタンと関数の結びつけ方を学習、整理する。	
19・20回	授業内容	アプリで画像表示をする（第4章）	
	学習成果	画像ファイルをアプリで操作できる。	
	予習復習の内容	画像表示アプリの全体像を把握しておく。 画像変換を完成させる。	
21・22回	授業内容	人工知能の仕組みと準備（第5章）	小レポート
	学習成果	機械学習の概念を理解し、AIに必要なライブラリを導入できる。	
	予習復習の内容	AIが「学習」する流れを把握する。 開発環境にAI用のライブラリを正しくインストールする。	
23・24回	授業内容	画像認識AIの体験（第5章）	小レポート
	学習成果	画像に何が写っているかをAIに判定させるプログラムを作成できる。	
	予習復習の内容	画像判定に必要な手順を確認する。 プログラムを完成させ認識結果を確認する。	
25・26回	授業内容	人工知能アプリを作る	小レポート
	学習成果	過去のデータから将来の結果を予測するAIのモデルを作成・検証できる。	
	予習復習の内容	学習用データとテストデータの違いを理解する。 予測の精度（正答率）を算出し、AIの得意・不得意を考察する。	
27・28回	授業内容	総合演習（1）：課題解決の設計	総合演習問題（1）
	学習成果	これまで学んだ文法やGUI、AIの知識を使い、解決したい課題を整理できる。	
	予習復習の内容	自分が作成したいプログラムの構想を練る。 プログラムの処理の流れを箇条書きやフローチャートで整理する。	
29・30回	授業内容	総合演習（2）：実装と総括	総合演習問題（2）
	学習成果	独自に設計したプログラムを完成させ、その論理構造を説明できる。	
	予習復習の内容	演習に必要なコードを準備し、エラーがないか確認する。 全体の学びが、実社会のデータ活用にどう繋がるか総括する。	

科目名	グラフィックデザイン演習（Illustrator）			担当者	村上（ムラカミ） 航士（コウジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。	
専門的 学習成果	①	Illustrator の基本操作（図形、パス、文字、色）を理解し、正確に扱える。
	②	Web で使用するロゴ・バナー・UI 用グラフィックを設計・制作できる。
	③	情報の優先順位と視線の流れを意識したレイアウトを構成できる。
	④	画像とベクターを組み合わせた実践的なビジュアル表現ができる。
	⑤	Web 用に適切なサイズ・形式（PNG・SVG 等）で書き出しができる。
	⑥	クライアントの意図を踏まえたデザイン案を制作できる。
	⑦	作物を他者に分かりやすく説明し、改善に反映できる。
汎用的 学習成果	(1)	作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①～⑦に関連）
	(2)	制作の流れと作成方法を学習することで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。（専門的学習成果⑥～⑦に関連）
	(3)	デザイン的な思考と企画開発力を育てることができる。（専門的学習成果③⑥⑦に関連）
授業概要	本授業では、デザイン制作を通して課題を整理し、目的に応じた表現を考える力を養う。指示を受けて制作するだけでなく、「誰に」「何を」「どのように伝えるか」を自ら考え、形にする経験を積むことで、問題解決力と創造的思考力を高める。また、制作過程での試行錯誤や講評を通じて、自分の考えを他者に伝え、他者の意見を取り入れて改善するコミュニケーション能力も身につける。これらの力は、Web 制作や広告制作に限らず、社会で求められる汎用的なスキルとして活用できる。	

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		授業内課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。
	汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①～⑦で評価を行う。 (2)は専門的評価⑥⑦で評価を行う。 (3)は専門的評価③⑥⑦で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
	石川洋平 / 清水　建次 / 堀内良太	『Illustrator よくばり入門 CC 対応（できるよくばり入門）』	インプレスブックス

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	植田阿希	『不滅のデザインルール』	SB Creative
	坂本伸二	『デザイン入門教室』	SB Creative

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業ではパソコンを使用するため、各回までに指定されたファイルのダウンロードや参考資料の確認を行うこと。課題制作は授業時間内だけで完結しない場合があるため、自宅等での復習・作業時間を確保することが望ましい。操作に不安がある場合は、配布するチュートリアル動画や資料を活用して予習・復習を行うこと。 ②提出された課題は、授業内で講評を行い、良い点と改善点を具体的に示す。必要に応じて画面を用いて修正例を提示し、どのように直せばよいかを実演する。また、個別コメントにより、学生一人ひとりの理解度や到達度に応じた助言を行い、次の制作に活かせるようにする。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	Illustrator の役割と Web 制作での使い方、基本操作	
	学習成果	Web 用グラフィック制作の全体像を理解する	
	予習復習の内容	配布資料を読み、画面構成と基本ツールを確認する	
2回	授業内容	図形ツール、整列、色の基本	
	学習成果	基本図形を使って整ったデザインを作成できる	
	予習復習の内容	ショートカットや整列機能を復習する	
3回	授業内容	文字ツールとロゴデザインの基礎	
	学習成果	Web 向けの簡単なロゴを制作できる	
	予習復習の内容	文字組みやフォントの違いを調べる	
4回	授業内容	余白とレイアウトの考え方	
	学習成果	情報を整理した見やすい構成を理解する	
	予習復習の内容	Web サイトの見出しデザインを観察する	
5回	授業内容	Web バナーの構造と役割	
	学習成果	目的に合ったバナーを設計できる	
	予習復習の内容	SNS 広告のバナー事例を集める	
6回	授業内容	視線誘導と情報の優先順位	実習課題
	学習成果	伝えたい情報を強調したデザインができる	
	予習復習の内容	情報量の違うバナーを比較する	
7回	授業内容	写真とベクターの組み合わせ	
	学習成果	写真を活かした Web 用ビジュアルを作れる	
	予習復習の内容	写真の使われ方を Web で確認する	
8回	授業内容	UI パーツ（ボタン・アイコン）の制作	実習課題
	学習成果	Web 画面を想定した部品を作成できる	
	予習復習の内容	Web サイトの UI を観察する	
9回	授業内容	書き出し設定と Web 最適化	実習課題
	学習成果	用途に応じた形式で書き出せる	
	予習復習の内容	PNG・SVG の違いを整理する	
10回	授業内容	架空 Web 案件の設定と企画	
	学習成果	目的と世界観を整理できる	
	予習復習の内容	テーマに近い Web サイトを調べる	
11回	授業内容	キービジュアル・ロゴ制作	実習課題
	学習成果	サイトの印象を決めるデザインを作れる	
	予習復習の内容	テーマに近い Web サイトを調べる	
12回	授業内容	Web 用パーツ一式の制作	実習課題
	学習成果	サイト全体を意識した制作ができる	
	予習復習の内容	不足パーツを洗い出す	
13回	授業内容	制作物の調整と完成	
	学習成果	完成度を高める修正ができる	
	予習復習の内容	改善点を振り返る	
14回	授業内容	発表準備とプレゼン資料作成	
	学習成果	制作意図を説明できる	
	予習復習の内容	説明内容を整理する	
15回	授業内容	発表・講評・まとめ	最終課題
	学習成果	学習内容を振り返り次に活かす	
	予習復習の内容	全体の学びを文章で整理する	

科目名	画像編集（Photoshop）			担当者	村上 航士（ムラカミ コウジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。	
専門的学習成果	①	Photoshop の基本操作（レイヤー、選択範囲、調整機能）を理解し活用できる。
	②	Web 制作を前提とした画像サイズ・解像度・色の扱いを理解できる。
	③	写真の明るさ・色・構図を調整し、見やすく魅力的に加工できる。
	④	被写体の切り抜きや合成を行い、目的に応じた画像を作成できる。
	⑤	SNS や Web サイト用の画像を用途に応じた形式で書き出せる。
	⑥	架空案件を想定し、意図をもった画像編集を行うことができる。
	⑦	制作した画像について、工夫点や改善点を説明できる。
汎用的学習成果	(1)	作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①～⑦に関連）
	(2)	制作の流れと作成方法を学習することで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。（専門的学習成果⑥～⑦に関連）
	(3)	デザイン的な思考と企画開発力を育てることができる。（専門的学習成果③⑥⑦に関連）
授業概要	本授業を通して、画像の目的や見る人を意識しながら編集を行う思考力を身につける。課題制作では、試行錯誤を重ねながら調整や修正を行い、より良い表現を目指す姿勢を養う。また、完成した画像について意図や工夫点を言語化し発表することで、表現力とコミュニケーション能力を高める。Web や SNS で使われる実践的な画像制作に取り組むことで、社会や仕事に結びつくデザインの考え方を理解し、将来に活かせる実践力を育成する。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		授業内課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。
	汎用的学習成果	(1)は専門的評価①～⑦で評価を行う。 (2)は専門的評価⑥⑦で評価を行う。 (3)は専門的評価③⑥⑦で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	senatsu	『Photoshop よくばり入門 改訂版（できるよくばり入門）』	インプレスブックス
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	植田阿希	『不滅のデザインルール』	SB Creative
	尾沢早飛	『イメージをパッと形に変えるデザイン大全』	SB Creative

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業では毎回 Photoshop を使用するため、事前にソフトの起動確認を行うこと。配布された画像素材や操作手順を事前に確認し、復習を行うことで理解が深まる。制作課題は授業時間内だけでなく、自主的な作業時間を確保して取り組むことが望ましい。提出期限を守り、未完成でも必ず提出すること。 ②各回の制作課題について、授業中の個別指導および全体講評によりフィードバックを行う。仕上がりだけでなく、調整の工夫や改善点に着目してコメントし、より良い表現につながる具体的なアドバイスを行う。必要に応じて画面を用いた操作説明や修正例を提示する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	Photoshop の役割と Web 画像の基礎	
	学習成果	Web で使う画像編集の全体像を理解する	
	予習復習の内容	配布資料で画面構成と基本用語を確認	
2回	授業内容	レイヤーと基本操作	
	学習成果	画像を分けて管理しながら編集できる	
	予習復習の内容	レイヤー操作を復習する	
3回	授業内容	明るさ・色の調整	
	学習成果	写真を見やすく自然に補正できる	
	予習復習の内容	色調補正の効果を比較する	
4回	授業内容	トリミングと構図	
	学習成果	目的に合った画像の切り取りができる	
	予習復習の内容	Web 画像の構図を観察する	
5回	授業内容	選択範囲と切り抜き	
	学習成果	被写体を正確に切り抜ける	
	予習復習の内容	切り抜き事例を確認する	
6回	授業内容	背景の削除と合成	
	学習成果	複数の画像を自然に組み合わせられる	
	予習復習の内容	合成写真の例を調べる	
7回	授業内容	文字と画像の組み合わせ	
	学習成果	SNS や Web 用画像を作成できる	
	予習復習の内容	バナー画像を観察する	
8回	授業内容	フィルターと効果	
	学習成果	表現を調整し印象を変えられる	
	予習復習の内容	効果の違いを比較する	
9回	授業内容	Web 用書き出し設定	
	学習成果	用途に合った形式で保存できる	
	予習復習の内容	JPEG・PNG の違いを整理	
10回	授業内容	架空 Web 案件の画像企画	
	学習成果	目的に沿った画像設計ができる	
	予習復習の内容	参考サイトを調べる	
11回	授業内容	メインビジュアル制作	実習課題
	学習成果	印象的な Web 画像を作れる	
	予習復習の内容	配色や構図を再確認	
12回	授業内容	SNS・バナー画像制作	実習課題
	学習成果	用途別の画像を作成できる	
	予習復習の内容	不足素材を整理	
13回	授業内容	調整と仕上げ	
	学習成果	完成度を高める修正ができる	
	予習復習の内容	改善点を振り返る	
14回	授業内容	発表準備	
	学習成果	画像の意図を説明できる	
	予習復習の内容	説明内容を整理	
15回	授業内容	発表・講評・まとめ	最終課題
	学習成果	学習内容を振り返り次に活かす	
	予習復習の内容	全体の学びを文章で整理する	

科目名	動画編集				担当者	木村 浩之（キムラ ヒロユキ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的学習成果	①	動画、ノンリニア編集の概要を理解する										
	②	基礎知識とスキルで、動画制作のプロセスが説明できる										
	③	短時間のコンテンツが制作できる										
汎用的学習成果	(1)	オーサリングツールでの作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	サイト公開や管理をすることで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。（専門的学習成果③に関連）										
	(3)	オリジナルコンテンツの開発を通して、企画開発力を育てることができる。（専門的学習成果②③に関連）										
授業概要	Adobe 社のアプリケーション Premiere Pro の基本操作を通して、ビデオカメラやスマートフォンからの素材の取り込み、動画の並べ替えや不要部分の削除、特殊効果の設定、文字や音楽の挿入など、基本的な編集加工を習得する。また、DVD や Blu-ray ディスクへの保存やインターネット配信など、メディアに合わせた形式の理解や出力を行うことで、動画編集の一連の流れを実習する。最後の課題制作では、企画から撮影・編集までを行い、ショートムービーを制作する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。
	汎用的学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価③で評価を行う。 (3)は専門的評価②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		『さわる、楽しむ、理解する Premiere Pro 入門』	技術評論社

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週２時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、動画編集の基礎知識	実習課題１（動画の提出）
	学習成果	動画編集の流れや動画形式を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画の用語などを確認する。	
2回	授業内容	動画編集の準備と基本操作	
	学習成果	素材の読み込みやワークスペースを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Premeire Pro の設定を確認する。	
3回	授業内容	動画編集の基本 -1	
	学習成果	作例を通してカット編集と音調整の基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。	
4回	授業内容	動画編集の基本 -2	
	学習成果	作例を通してカット編集と音調整の基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。	
5回	授業内容	テロップの基本	実習課題２（動画の提出）
	学習成果	文字情報の扱いについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。	
6回	授業内容	品質を上げるための演出 -1	
	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。	
7回	授業内容	品質を上げるための演出 -2	
	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。	
8回	授業内容	品質を上げるための演出 -3	
	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。	
9回	授業内容	品質を上げるための音質調整	実習課題３（動画の提出）
	学習成果	音声調整や効果音などを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、音声の調整機能について確認する。	
10回	授業内容	効率を上げるテクニック	
	学習成果	ショートカットキーなど、効率を上げるテクニックを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ショートカットを確認する。	
11回	授業内容	総合演習（企画と撮影準備）	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
	予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。	
12回	授業内容	総合演習（撮影）	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
	予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。	
13回	授業内容	総合演習（編集）	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
	予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。	
14回	授業内容	総合演習（編集～書き出し）	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
	予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、動画編集の理解を深める。	

科目名	Webデザイン基礎			担当者	村上航士（ムラカミコウジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的学習成果	①	Webオーサリングツールの基本概念が説明できる										
	②	Webオーサリングツールの基本操作ができる										
	③	小規模なウェブサイトが制作できる										
汎用的学習成果	(1)	オーサリングツールでの作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	サイト公開や管理をすることで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。（専門的学習成果①～③に関連）										
	(3)	オリジナルコンテンツの開発を通して、企画開発力を育てることができる。（専門的学習成果②に関連）										
授業概要	Microsoft社のアプリケーション「Visual Studio Code」を使い、オーサリングツールの基本操作とサイト制作の基本を習得する。前半は基本操作を、後半では基本をベースによく使われる実践的なスキルを習得していく。簡単なページの制作を繰り返すことで、知識とスキルを結び付けていく。最後の課題制作では、それぞれ小規模のWebサイトを企画し、制作から公開までの一連を体験する。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。								
	汎用的学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価②で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	竹内直人、竹内留美	『これだけで基本がしっかり身につくHTML/CSS & Webデザイン』	翔泳社									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	服部雄樹	『Webデザイン 見るだけノート』	宝島社									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、アプリケーションの基礎知識	
	学習成果	制作環境を確認し、セットアップできる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アプリケーションの用語などを確認する。	
2回	授業内容	HTMLの基本の学習	実習課題1（WEBサイトの提出）
	学習成果	マークアップとは何かを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、WEBサイト制作の流れとHTMLの仕組みを確認する。	
3回	授業内容	CSSの基本の学習	
	学習成果	CSSの書き方を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、CSSの仕組みについて確認する。	
4回	授業内容	2カラムページの作成-1	
	学習成果	2カラムページのHTMLを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用したHTMLタグについて確認する。	
5回	授業内容	2カラムページの作成-2	
	学習成果	2カラムページのCSSを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用したセレクタとCSSについて確認する。	
6回	授業内容	1カラムページの作成-1	
	学習成果	複雑な構造のHTMLを作成できる。	
	予習復習の内容	マークアップについて予習・復習をしっかりしておくこと。	
7回	授業内容	1カラムページの作成-2	
	学習成果	新しいCSSプロパティを学び、表現の幅を広げられる。	
	予習復習の内容	多くのCSSプロパティが出るので、復習しておくこと。	
8回	授業内容	1カラムページの作成-3	
	学習成果	新しいCSSプロパティを学び、表現の幅を広げられる。	
	予習復習の内容	多くのCSSプロパティが出るので、予習復習しておくこと。	
9回	授業内容	1カラムページの作成-4	実習課題2（WEBサイトの提出）
	学習成果	CSSアニメーションとレスポンシブデザインについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、新しく出た用語について確認する。	
10回	授業内容	制作の流れとWebデザインの基本	
	学習成果	レイアウトや色彩など、Webデザインの基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、デザインの基本について確認する。	
11回	授業内容	レストランサイトの装飾-1	
	学習成果	複数ページのスマートフォン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
12回	授業内容	レストランサイトの装飾-2	
	学習成果	複数ページのスマートフォン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
13回	授業内容	レストランサイトの装飾-3	
	学習成果	複数ページのパソコン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
14回	授業内容	レストランサイトの装飾-4	実習課題3（WEBサイトの提出）
	学習成果	複数ページのパソコン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEBサイト制作の理解を深める。	

科目名	Webデザイン応用				担当者	村上航士（ムラカミコウジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的学習成果	①	Webデザインの基礎を理解し、ワイヤーフレームを作成できる										
	②	デザインツールの基礎を理解し、アイデアを形にすることができる										
	③	デザインの目的と表現方法を説明できる										
汎用的学習成果	(1)	ワイヤーフレームの構造と作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①～③に関連）										
	(2)	情報を整理し分類することで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。（専門的学習成果①～③に関連）										
	(3)	デザインの目的を明確に制作する事で、問題解決に向けた提案ができる。（専門的学習成果②～③に関連）										
授業概要	情報をまとめ、整理し発信することはビジネスの現場で必須である。この授業では、Webサイトを制作していく上で欠かせないワイヤーフレームの作成方法を学習していく。同時に見やすいデザインや配色など、デザインの基礎知識も身につけていく。ユーザー（閲覧者）を意識し情報の整理を学ぶことで、情報伝達の本質を理解していく。「誰のために、何を使って、どう表現するか」を意識することで、ビジネスの現場でも求められる、提案力を鍛える事ができる。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。
	汎用的学習成果	(1)は専門的評価①～③で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	阿部文人、今聖菜、田口冬菜、中川小雪	『これからはじめるFigma Web・UIデザイン入門』	マイナビ出版
	松下絵梨	『Adobe XDではじめるWebデザイン＆プロトタイピング』	翔泳社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	伊東庄平、益子貴寛、久保知己、宮田優希、伊藤由暁	『Webデザインの基本 きちんと入門』	SBクリエイティブ

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、アプリケーションの基礎知識-1	実習課題1（WEBサイトの提出）
	学習成果	使用するアプリケーションの準備を行う。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用するツールの用語などを確認する。	
2回	授業内容	アプリケーションの基礎知識-2	
	学習成果	ツールやコンポーネントなど、アプリケーションの基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用するツールの用語などを確認する。	
3回	授業内容	デザイン制作実践-1	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Webデザインの流れを体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
4回	授業内容	デザイン制作実践-2	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Webデザインの流れを体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
5回	授業内容	デザイン制作実践-3	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Webデザインの流れを体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
6回	授業内容	デザイン制作応用-1	実習課題2（WEBサイトの提出）
	学習成果	コーポレートサイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
7回	授業内容	デザイン制作応用-2	
	学習成果	コーポレートサイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
8回	授業内容	デザイン制作応用-3	
	学習成果	インテリアECサイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
9回	授業内容	デザイン制作応用-4	
	学習成果	インテリアECサイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
10回	授業内容	デザイン制作応用-5	
	学習成果	レシピアプリを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
11回	授業内容	デザイン制作応用-6	
	学習成果	マルチデバイス対応の基本を理解し、レスポンシブデザインを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
12回	授業内容	総合演習	実習課題3（WEBサイトの提出）
	学習成果	複合ページのWEBデザインを企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEBサイトを完成させる。	
13回	授業内容	総合演習	
	学習成果	複合ページのWEBデザインを企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEBサイトを完成させる。	
14回	授業内容	総合演習	
	学習成果	複合ページのWEBデザインを企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEBサイトを完成させる。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEBサイト制作の理解を深める。	

科目名	生涯学習概論				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的学習成果	①	生涯学習の歴史と理念を省察できる。										
	②	関連施設の運営業務のについて説明できる。										
	③	関係施設の担当の役割について解説できる。										
	④	地域の関連施設の視察を基に生涯学習の課題が見出せる。										
汎用的学習成果	(1)	生涯学習の概要を学ぶことを通じて社会的・職業的自立に必要な知識を習得し、実践に活かすことができる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	生涯学習の仕組みを学び、公的関連施設の機能を理解、その役割と機能について解説できる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	習得した専門的知識や知見を活用して地域の生涯学習システムの向上に貢献することができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	高齢化が進み、ライフスタイルが多様化する中、生涯学習への関心が高まっている。生涯学習の歴史と理論を学び、関連施設の取り組みと専門職の役割を調査し、理解を深める。司書・公務員として市民の期待に応えうる今後の生涯学習論、生涯学習施設について省察する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	70	5回実施し、各回20%を配点する。
		小テスト	30	5回実施し、各回20%を配点する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	田中雅文他	『テキスト生涯学習　学びがつむぐ新しい社会』	学芸社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	堀薫夫／三輪健二	『生涯学習と自己実現』	放送大学教育振興会
	近畿大学	『生涯学習概論』	樹村房
	朝比奈大作	『図書館員のための生涯学習概論』	日本図書館協会
	石井敦	『日本近代公共図書館の研究』	日本図書館協会
	ポール・ラングラン著／波多野完治訳	『生涯教育入門』	全日本社会教育連合会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①司書資格取得及び公務員を目指す者必修。生涯学習施設の学外研究・調査は、生涯学習施設と調整のうえ土曜日に実施する予定である。教科書・配布資料の指定された箇所を熟読し、理解し、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと（予習：週２時間程度）。課題に対しては、随時フィードバックを行うので、理解不足の点や錯誤した箇所について、十分に振り返りを行うこと。（復習：週２時間程度） ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館と生涯学習論のかかわり	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	生涯学習概論が、司書資格の必須科目である意味・理由について説明できる。	
	予習復習の内容	司書、学芸員、社会教育主事の役割、図書館の自由について調査する。	
2回	授業内容	図書館の自由について	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	図書館の自由の起源と内容、そして、生涯学習との関わりついて説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の自由の広まりについて調査する。	
3回	授業内容	生涯学習の起源と近代における展開と変遷	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	生涯学習という考え方がどのようにして誕生したか、および、近代における変遷について説明できる。	
	予習復習の内容	古代ローマの哲学や、第一次・第二次世界大戦の歴史と惨状、冷戦時代の世界の状況について調査する。	
4回	授業内容	生涯学習施設としての図書館の役割	
	学習成果	図書館の生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。	
	予習復習の内容	視察予定の図書館について事前調査する。	
5回	授業内容	生涯学習施設としての博物館の役割	
	学習成果	博物館の生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。	
	予習復習の内容	視察予定の博物館について事前調査する。	
6回	授業内容	生涯学習施設としての生涯学習支援センターの役割	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	生涯学習支援センターの、生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。	
	予習復習の内容	視察予定の生涯学習支援センターについて事前調査する。	
7回	授業内容	文部科学省と生涯学習	
	学習成果	日本における生涯学習の進展における文部科学省の足跡と現状について理解を深めた上で、解説できる。	
	予習復習の内容	文部科学省の部署と仕組みについて調査する。	
8回	授業内容	生涯学習の理念と理論	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	代表的な生涯学習論の理念と理論について、区別して説明ができる。	
	予習復習の内容	各生涯学習理論について、精読する。	
9回	授業内容	人間の発達段階における課題と生涯学習	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	人間の発達段階についての諸説を踏まえ、生涯学習のあり方について説明できる。	
	予習復習の内容	人間の発達段階理論の諸説について、比較し検討を行う。	
10回	授業内容	自己実現と生涯学習	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	代表的な自己実現にかかる諸説を踏まえ、生涯学習のあり方について説明できる。	
	予習復習の内容	自己実現理論の諸説について、比較し検討を行う。	
11回	授業内容	教育制度と生涯学習	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	公的教育制度の歴史と役割と、生涯学習を比較し、教育のあり方について論じることができる。	
	予習復習の内容	教育制度の歴史について調査する。	
12回	授業内容	メディアリテラシーと生涯学習	
	学習成果	社会人として、現実世界の情報をどのように収集し、受容し、理解していくことが適切かについて論じることができる。	
	予習復習の内容	メディア情報の真正性（オーセンティシティー）について、検討する。	
13回	授業内容	生涯学習機会の推進	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	各種生涯学習施設の状況、個人の生涯学習のとらえ方を踏まえ、今後どのような生涯学習の機会が提供されるべきかについて論じることができる。	
	予習復習の内容	視察した各種生涯学習支援施設について、総括する。	
14回	授業内容	ネットワーク社会における生涯学習の進展	
	学習成果	ユビキタス化され、テクノロジカル・シンギュラリティを目前に控えた現在、生涯学習の意義について論じることができる。	
	予習復習の内容	AI・ネットワーク社会がもたらす変容について調査する。	
15回	授業内容	日本における生涯学習論の将来	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
	学習成果	日本における生涯学習のあるべき姿について、授業内容・調査内容に基づいて提示することができる。	
	予習復習の内容	見識ある司書として、自らの生涯学習概論を語るために必要な知識・見識・技能について検討する。	

科目名	図書館概論				担当者	関根 俊二（セキネ シュンジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Eメールで行う。 sekine.shunji@seiwa.ac.jp

専門的学習成果	①	図書館の意義について理解でき、概要を説明できる。
	②	図書館の歴史について理解でき、概要を説明できる。
	③	司書の使命と責任について理解でき、概要を説明できる。
	④	多様な図書館や図書館の類縁機関について理解し概要を説明できる。
	⑤	図書館の課題を全体的に理解し、改善のための指針を提示できる。
汎用的学習成果	(1)	図書館運営の概要を学ぶことを通して、司書としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）
	(2)	図書館の文化や歴史を学ぶことを通し、批判的に思考することができる。（専門的学習成果②⑤に関連）
	(3)	図書館の課題を学ぶことを通して、問題解決の方法を提示できる。（専門的学習成果⑤に関連）

授業概要	図書館とは何か。情報の保存と提供により私たち人類の文化を支えてきた図書館について学ぶ。司書課程で学ぶ全ての専門的な受講科目の学びに先立ち、図書館運営の全体像の概要を把握する。図書館の社会的な意義や機能、図書館の成り立ちや変遷、図書館の現在の課題やそれを改善しようとする新しい試みなどについて理解する。また、図書館の館種別の違いや類縁機関について把握し、さらに専門職としての司書の使命について理解する。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。
	汎用的学習成果	(1)は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②及び⑤で評価を行う。 (3)は専門的学習成果⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	二村健	『図書館の基礎と展望』	学文社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本図書館協会	『図書館年鑑』	
	日本図書館協会	『図書館雑誌』	
		公共図書館の発行する各種のリーフ類	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握した上で（計15時間）授業に臨み、日常的に司書の視点を意識しながら公共図書館・短大図書館に親しみ講義内容の理解を深めておく（計30時間）。また、小テスト・筆記試験の準備を行い（計15時間）、理解の定着に努めること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。筆記試験は後期の開講期に「図書館サービス論」（1年後期・担当、関根）で返却し、解説を行う。

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	図書館の役割　①図書館とは	小テスト（図書館の役割について）第3回に実施
	学習成果	図書館の社会的な意義を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館見学を行い、専門的な用語とその実際を確認しておく。	
2回	授業内容	図書館の役割　②生涯学習と図書館	
	学習成果	生涯学習と図書館の関係を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館資料で生涯学習について調べておく。	
3回	授業内容	図書館の役割　③情報社会と図書館	
	学習成果	情報社会における図書館の意義を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	情報社会における図書館の意義が理解できる。	
4回	授業内容	図書館の歴史　①古代から中世まで	小テスト（図書館の歴史について）第6回に実施
	学習成果	中世までの世界の図書館の歴史を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	百科事典を活用し関連事項の理解を深めておくこと。	
5回	授業内容	図書館の歴史　②公共図書館の成立	
	学習成果	公共図書館の意義・歴史を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	公共図書館がどう生まれたか、アメリカと日本での違いについてまとめておく。	
6回	授業内容	図書館の歴史　③戦後の日本の図書館	
	学習成果	日本の戦後の図書館の歴史を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館法の特徴について整理しておく。	
7回	授業内容	図書館の歴史　④日本の公共図書館の展開	小テスト（図書館関係法規などについて）第10回に実施
	学習成果	「市民の図書館」までの公共図書館の取り組みを理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「中小レポート」「市民の図書館」の理念と実践についてまとめておく。	
8回	授業内容	地域社会と図書館	
	学習成果	地域社会と図書館の結びつきを理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の見学を行い、図書館が地域に向けてどんなサービスを展開しているか確認しておく。	
9回	授業内容	図書館に関係する法規など	
	学習成果	図書館関係法規を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「望ましい基準」などについて、理念と実践を調べておく。	
10回	授業内容	知的自由と図書館	
	学習成果	図書館の自由について背景と理念を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の自由に係る事例について調べておくこと。	
11回	授業内容	館種別の図書館	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回後半に実施
	学習成果	図書館の館種ごとの違いを理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	国立国会図書館のホームページを開き、デジタルコレクションなどについて確認しておく。	
12回	授業内容	図書館の類縁機関・関係団体	
	学習成果	図書館の類縁機関・関係団体が理解できる。	
	予習復習の内容	図書館協議会について、どんな活動をしているか調べる。	
13回	授業内容	図書館の現状と課題	
	学習成果	図書館の現状・課題を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「これからの図書館像」などの図書館の今日的な取り組みを理念として理解できる。	
14回	授業内容	図書館における先進的な取り組み①全国の実践	
	学習成果	図書館の今日的な取り組みの実践について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「図書館雑誌」などで図書館の今日的な取り組みについて調べておく。	
15回	授業内容	図書館における先進的な取り組み②地域の実践	
	学習成果	図書館の今日的な取り組みの実践について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	図書館サービス概論				担当者	関根 俊二						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）											
専門的学習成果	①	図書館サービスの流れ全般について概要を理解し説明できる。										
	②	近年の図書館サービスの変化と広がりを理解し、説明できる。										
	③	基礎的な行事運営を理解し実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	図書館サービスの先進的事例の理解を通し、地域課題を理解し説明できる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	行事運営の実践を通し、課題解決能力や表現力が身につき活用できる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	生涯学習や情報化の進展に伴い、図書館に寄せられる利用者の要求はますます多様化し、高度化している。現在の図書館利用者のニーズに応えられるように、司書が行うべき各種の図書館サービスについて、利用案内、閲覧、貸出、情報提供、レファレンスサービス、集会・行事活動、利用対象別サービスなどを基本から先進的事例まで学ぶ。講義を中心とするが、一部演習的な内容も含み、図書館行事の一種であるブックトークの実践にもあたってもらう。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	50	第15回目の授業後半に実施し、全15回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
		発表	50	ブックトークの発表による								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果②の評価で行う。 (2) は専門的学習成果③の評価で行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
		印刷物等配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	小田光宏	『図書館サービス論』	日本図書館協会									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常的に図書館を利用し、図書館サービスの様子を観察しておくこと（15時間）。各回の授業ごとに2時間程度の時間をかけ、テキストの該当部分を読みポイントを把握してくこと。インターネットや図書館資料を活用した講義内容関連事項などの追跡調査も必要である。また、ブックトークの発表を行うが、紹介する資料の調査・決定、発表の準備などに15時間をかける。 ②ブックトーク発表はその場で評価を伝える。筆記試験は年度内に返却を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館サービスの意義	筆記試験（全15回分の内容を範囲とする。第15回目に実施）
	学習成果	図書館サービスの意義と概要について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の見学を行って各種の図書館サービスに触れておく。	
2回	授業内容	資料提供サービス①　閲覧サービス	
	学習成果	閲覧サービスを機能させる諸要件を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で閲覧・貸出サービスの諸要素を確認しておく。	
3回	授業内容	資料提供サービス②　貸出サービス	
	学習成果	貸出サービスを機能させる諸要件を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	閲覧・貸出サービスについて整理しておく。	
4回	授業内容	資料提供サービス③　資料提供サービスの展開	
	学習成果	図書館相互貸借他、資料提供サービスの展開について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	応用的な資料提供サービスについて整理しておく。	
5回	授業内容	情報提供サービス　レファレンスサービスなど	
	学習成果	レファレンスサービスなどの情報提供サービスについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	事例集でレファレンスサービスなどの実際に触れておく。	
6回	授業内容	図書館と著作権	
	学習成果	図書館サービスに不可欠な著作権のルールを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットを活用しケーススタディを行う。	
7回	授業内容	利用対象に応じたサービス①　高齢者・障害者・多文化	
	学習成果	高齢者・障害者・多文化サービスについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館を訪問し利用対象別のサービスの実際を確認する。	
8回	授業内容	利用対象に応じたサービス②　児童・ヤングアダルト	
	学習成果	児童・ヤングアダルトについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館を訪問し利用対象別のサービスの実際を確認する。	
9回	授業内容	多様な利用者サービス　集会・文化活動ほか	
	学習成果	集会・文化活動ほかの多様な利用者サービスについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の行事に参加し視聴する。	
10回	授業内容	行事展開の実践　ブックトーク	ブックトーク発表
	学習成果	ブックトークについて理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ブックトークの発表に備え準備を行う。	
11回	授業内容	行事展開の実践　ブックトーク	
	学習成果	ブックトークについて理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ブックトークの発表に備え準備を行う。	
12回	授業内容	利用者とのコミュニケーション	
	学習成果	利用案内や図書館ツアーについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備え、これまでの授業内容全般を整理・確認しておく。	
13回	授業内容	図書館サービスの拡がり	
	学習成果	先進的な図書館サービスの事例について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットなどを活用して様々な先進事例に触れる。	
14回	授業内容	図書館サービスのマネージメント	
	学習成果	サービス計画の立案や業務分析について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備え、これまでの授業内容全般を整理・確認しておく。	
15回	授業内容	まとめ　既習事項の整理	筆記試験（全15回分の内容を範囲とする）
	学習成果	図書館のサービス全般やサービスの新しい広がりについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験での誤答箇所について確認する。	

科目名	図書館情報資源概論			担当者	庄子 隆弘（ショウジ タカヒロ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受け付け方法		授業内で受け付ける。
専門的 学習成果	①	図書館で扱う情報資源の種類や特徴を挙げて、説明できる。
	②	図書館情報資源を司書、図書館員の視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。
	③	図書館情報資源を学術的視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。
	④	図書館情報資源を社会や地域の視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。
	⑤	図書館情報資源を経営的視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。
	⑥	図書館情報資源に関わる技術やツールを挙げて、説明できる。
	⑦	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。
汎用的 学習成果	(1)	図書館情報資源の基礎的な学習スキルを身につけることで、司書、図書館員として職業的自立につなげることができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）
	(2)	図書館情報資源に関わる多様な主体への理解を深めることで、総合的な判断力を身につけ、実践につなげることができる。（専門的学習成果②～⑤に関連）
	(3)	図書館情報資源の特性を学び、活用方法を議論することで、地域社会の課題解決や発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①⑦に関連）
授業概要		図書館を構成する要素でも重要な「情報資源」について学ぶ。図書館＝本、と考えがちであるが、雑誌や新聞はもちろん、映画や音楽などの視聴覚メディア、CD-ROMなどの電子媒体、ネットワークを通してアクセスするデータベースなど、多種多様な「情報資源」を扱うのが現代の図書館である。こうした「情報資源」の概要を学ぶことで、司書としての基盤だけでなく、社会人としてこれから対峙するであろう様々な課題解決に役立つ知識を身につけることができる。

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。
		筆記試験	70	第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回の講義内容の理解について評価する。
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②～⑤で評価を行う。 (3)は専門的学習成果①及び⑦で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	藤原是明	『図書館情報資源概論』	ミネルヴァ書房
		『カレントアウェアネス・ポータル』※ウェブサイト	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に前回授業の資料を読みポイントを把握した上で（計15時間）授業に臨み、日常的に触れる短大図書館の情報資源だけでなく、近隣の公共図書館や大学図書館を利用し、スマホでアクセスする情報との相違点を意識するなど、講義内容の理解を深めておく（計30時間）。また、小テスト、筆記試験の準備を行い（計15時間）、理解の定着に努めること。 ②フィードバックとして、小テスト、筆記試験は返却し解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：前期授業概要と授業計画の説明。図書館情報資源とは何か。	小テスト（図書館情報資源の種類と特徴について）を第3回に実施。
	学習成果	授業の概要を理解、到達目標を説明することができる。	
	予習復習の内容	図書館を見学し、所蔵資料に触れておく。	
2回	授業内容	アナログ資料の種類と特徴。	
	学習成果	主に冊子体などのアナログ資料の特徴を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で「本」以外の資料を探してみる。	
3回	授業内容	デジタル資料の種類と特徴。	
	学習成果	デジタル資料の特徴を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	スマホまたはパソコンで、本学図書館のウェブサイトを見てみる。	
4回	授業内容	図書館情報資源を選ぶ。選書・配架・除籍。	小テスト（図書館情報資源の選書、学術資料について）を第7回に実施。
	学習成果	司書、図書館員の視点で、図書館資料を捉え、説明できる。	
	予習復習の内容	「選書基準　図書館」で検索した結果を見ておく。	
5回	授業内容	図書館情報資源を活用する。利用説明・展示・イベント。	
	学習成果	図書館資料を活用した取り組みについて説明できる。	
	予習復習の内容	本学図書館の資料を使った展示企画を考えてみる。	
6回	授業内容	学術資料とは何か。大学図書館、専門図書館の視点も踏まえて。	
	学習成果	学術資料の定義と種類を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	本学図書館で、学術資料と思われる資料を1冊見つける。	
7回	授業内容	研究と図書館。学術資料を活用する。	
	学習成果	学術資料の活用例などを挙げて説明できる。	
	予習復習の内容	授業で学んだことを踏まえて、本学図書館で、学術資料を1冊見つける。	
8回	授業内容	地域と行政の情報資源。	小テスト（社会の中の図書館について）を第9回に実施。
	学習成果	地域資料と行政資料の定義と種類を挙げ、説明できる。	
	予習復習の内容	本学図書館で、地域資料、行政資料と思われる資料を1冊見つける。	
9回	授業内容	マイノリティサービスのための情報資源。	
	学習成果	障がい者やLGBTといったマイノリティに関する資料を挙げ、説明できる。	
	予習復習の内容	「マイノリティ」の意味を図書館で調べておく。	
10回	授業内容	図書館情報資源の流通。	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回後半に実施。
	学習成果	図書館情報資源を経営的視点で捉え、流通の側面から説明できる。	
	予習復習の内容	本が図書館の棚に並ぶまでの流れを理解する。	
11回	授業内容	図書館情報資源の管理。	
	学習成果	図書館情報資源を経営的視点で捉え、管理の側面から説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の棚が一杯になったらどうするか？を考えておく。	
12回	授業内容	情報資源へのアクセス。選書ツール、検索ツール。	
	学習成果	図書館情報資源にたどり着くための技術やツールを挙げて説明できる。	
	予習復習の内容	最低1回、本学図書館のOPACで蔵書検索をしておく。	
13回	授業内容	インターネットとソーシャルネットワーク。	
	学習成果	図書館情報資源とネットワークの関連を説明できる。	
	予習復習の内容	スマホまたはパソコンで、国立国会図書館のウェブサイトを見ておく。	
14回	授業内容	図書館が抱える課題とその解決方法を議論する。	
	学習成果	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。	
	予習復習の内容	議論した課題について書いてある資料を図書館で探してみる。	
15回	授業内容	社会が抱える課題とその解決方法を議論する。	
	学習成果	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。	
	予習復習の内容	議論した課題について書いてある資料を図書館で探してみる。	

科目名	情報資源組織論				担当者	関根 俊二（セキネ シュンジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中以外の質問や相談は、メール又は講師控室で受付る。											
専門的学習成果	①	図書館情報資源の書誌コントロールについて理解し、その内容を説明できる。										
	②	効率的な情報資源の組織化について理論と知識を修得し、その技法を説明できる。										
	③	分類、目録、件名の作業ツールの構造と特性を理解し、最適な手法を選択できる。										
	④	一般的な情報取得についての知識及び書誌データの活用法を修得し、実践に結びつけることができる。										
	⑤	社会における新しいメディアの普及と、図書館で扱う情報資源の急速な変化とその対処法について説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	大学における他の講義のための課題や予習のために必要な情報検索手法を身につけることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	地域の公共図書館を自由に活用できるスキルを獲得し、幅広い教養を積むのに役立てることができる。（専門的学習成果③④に関連）										
	(3)	公共図書館を始め様々な情報機関を活用し、地域の課題解決に資する活動手段を身につけ、地域社会の発展に貢献できる。（専門的学習成果④⑤に関連）										
授業概要	図書館で扱う様々な情報資源の組織化のために必要な目録、分類作業を中心に、図書館情報資源の組織化の理論と技術について、演習科目「情報資源組織演習」に先立つ科目として、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、書誌データの活用法等の基本知識を身につけ、説明できるようになることを目的とする。また、情報を様々なメディアから自由に入手できる現代にあって、図書館利用者のための最良のアクセス環境とその仕組みについて考察する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	15	第４回授業時に第１～４回分の講義内容に基づき実施し、理解度を評価する。
		小テスト	15	第７回授業時に第５～７回分の講義内容に基づき実施し、理解度を評価する。
		筆記試験	70	第15回授業時後半に実施し、全15回分の講義内容の理解の程度および到達度の評価を行う。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①②③で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③④で評価を行う。 （3）は専門的学習成果④⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	志保田務・高鷲忠美編著、平井尊士共著	『情報資源組織法　第３版』	第一法規

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本図書館協会目録委員会編	『日本目録規則、1987年版改訂３版』	日本図書館協会
	日本図書館協会分類委員会編	『日本十進分類法、新訂10版』	日本図書館協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に次回講義分のテキストを読み込み予習しておくこと（計15時間）。最寄りの公共図書館を、資料整理法や利用者用検索端末の操作法に注目しながら利用してみること（15時間）。レポート、小テスト、筆記試験の準備を行い、理解の定着に努めること（30時間）。 ②課題や筆記試験については、当該授業中、または次回の講義時に解答解説および講評をとおしフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	情報資源組織化の意義と目的	第４回授業時に第１～４回の講義内容についてレポート提出を課す。特に書架分類と書誌分類の違いの理解度を評価する。
	学習成果	司書科目の中における組織化理論の役割を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットを活用し公共図書館の蔵書検索に実際に検索操作をしておく。	
2回	授業内容	配架と目録	
	学習成果	図書館や大型書店における資料の配置戦略について学び説明できる。	
	予習復習の内容	最寄りの公共図書館や大型書店に出向き、資料配置に留意しながら観察する。	
3回	授業内容	主題目録法１　件名目録	
	学習成果	主題検索の方法の一つ、言葉による検索法のしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	ネット上の主要な検索エンジンについてそれぞれ特色を調べておく。	
4回	授業内容	主題目録法２　分類目録　書架分類と書誌分類	
	学習成果	主題検索の方法の一つ、「日本十進分類法」による分類検索について説明できる。	
	予習復習の内容	学問の発達や知識の分類について指示するテキストの該当部分を読んでおく。	
5回	授業内容	『日本十進分類法　新訂10版』の歴史と特色	第７回授業の中で第５～７回の講義内容について小テストを実施する。特に「日本十進分類法」の構造と「分類規程」について理解度を評価する。
	学習成果	『日本十進分類法　新訂10版』の構造と理論について基本概念を説明できる。	
	予習復習の内容	大学図書館所蔵の『日本十進分類法　新訂10版』の内容構成について確認する。	
6回	授業内容	『日本十進分類法　新訂10版』の分類規程	
	学習成果	『日本十進分類法　新訂10版』の分類規程について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「分類規程」について指示するテキストの該当部分を読んでおく。	
7回	授業内容	分類規程の演習	
	学習成果	『日本十進分類法　新訂10版』の分類規程について設問に答え理由を説明できる。	
	予習復習の内容	ミニテストの解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。	
8回	授業内容	『日本十進分類法　新訂10版』の補助表	筆記試験を第15回授業の後半に実施する。全15回分の内容を対象とし、理解度と到達度を評価する。
	学習成果	『日本十進分類法　新訂10版』の補助表について理解し説明できる	
	予習復習の内容	「補助表」について指示するテキストの該当部分を読んでおく。	
9回	授業内容	印刷資料以外の資料の分類	
	学習成果	図書以外のさまざまな情報資源の分類法について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	国立国会図書館の検索サイトにアクセスし、画像や、電子資料の分類を調べてみる。	
10回	授業内容	書誌情報ネットワークと図書館の書誌所蔵データ	
	学習成果	共同で作成する総合目録データベースや市販される書誌データについて説明できる。	
	予習復習の内容	国立情報学研究所や国文学研究資料館の総合目録データベースを利用してみる。	
11回	授業内容	『日本目録規則、1987年版　改訂３版』	
	学習成果	図書館目録の歴史や『日本目録規則』の変化の歴史について説明できる。	
	予習復習の内容	世界史における図書館の蔵書目録の発達史について調べておく。	
12回	授業内容	印刷資料の目録	
	学習成果	図書の書誌データと所在データについて学び説明できる。	
	予習復習の内容	カード目録からコンピュータ可読目録への変化についてテキストを読んでおく。	
13回	授業内容	印刷資料以外の資料の目録	
	学習成果	図書以外のさまざまな情報資源の目録法について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で扱う情報資源の種類と変化について調べておく。	
14回	授業内容	ネットワーク情報資源の組織化と FRBR	
	学習成果	オンライン資料の目録（メタデータ）と目録規則の新たな考え方について説明できる。	
	予習復習の内容	図書館における紙資料と、その他の資料の割合の変化を各自予想してみる。	
15回	授業内容	情報資源組織化の総括と筆記試験	
	学習成果	情報資源の多様化に対応する図書館における組織手法の変化を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について配付資料を含めて整理・確認しておくこと。	

科目名	児童サービス論				担当者	関根 俊二（セキネ シュンジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）											
専門的 学習成果	①	児童サービスの意義と内容について理解し説明できる。										
	②	年齢ごとの児童サービスについて理解し説明できる。										
	③	児童向けの資料について知識をもっており説明できる。										
	④	資料と児童をつなぐ各種の技法を身につけており実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	物事を的確に説明、紹介する能力をもち実践できる。（専門的学習成果④に関連）										
	(2)	地域社会で活用できる絵本の読み聞かせやブックトークなどの技術を実践できる。（専門的学習成果④に関連）										
授業概要	児童サービスの理念・内容・意義について学び、子供を取り巻く環境や子供の発達を理解した上で、絵本、昔話、児童文学、ノンフィクション、知識の本、レファレンス資料など児童向けの資料について知識を広げていく。その知識を活用して絵本の読み聞かせ発表、ストーリーテリング発表、ブックリスト制作を行い、子供と資料を結びつける実践技術を身につける。子供を取り巻く環境や発達について、年齢層ごとのサービスの違いや地域・学校との連携などについても学ぶ。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		発表	50	2回実施し各回25点を配点する。絵本の読み聞かせ及びストーリーテリングを行う。
		課題提出	10	ブックリストを作成し提出する。
		紹介（簡単な発表）	15	3回実施し、各回5点を配点する。絵本の紹介、昔話・児童文学の紹介、知識の本の紹介を行う。
		筆記試験	25	第15回目後半に実施し、全15回分の講義内容の理解を評価する。
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果④の評価で行う。 (2) は専門的学習成果④の評価で行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	堀川照代	『ライブラリー図書館情報学7 児童サービス論』	学芸社
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	高山智津子ほか	『絵本でひろがる子どものえがお』	チャイルド社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①司書になったつもりで、できるだけ多くの絵本・児童書に接して意識的にこの分野での教養を高めておくこと（計30時間程度）。授業を復習し講義内容を理解すること（各回1時間程度）。絵本の読み聞かせやストーリーテリングの発表を行うので、これらの準備に計15時間程度必要である。 ②発表・提出物はつど評価を伝える。筆記試験は前期中に返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館における児童サービスの意義	筆記試験　全15回分の講義内容について第15回授業の後半に行う。
	学習成果	児童サービスの意義について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	児童サービスの意義について整理しておく。	
2回	授業内容	児童サービスの歴史	
	学習成果	児童サービスの歴史について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	児童サービスの歴史について整理しておく。	
3回	授業内容	子供の環境・発達と読書	
	学習成果	読書との関連で子供を取り巻く環境や子供の発達について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	子供の環境・発達について整理しておく。	
4回	授業内容	児童資料の理解①　絵本	絵本の紹介
	学習成果	年齢ごとの代表的絵本を知り説明できる。	
	予習復習の内容	代表的な絵本に触れておく。絵本読み聞かせ発表の準備を行う。	
5回	授業内容	絵本の読み聞かせの実践	絵本読み聞かせの発表
	学習成果	子供と本とを結びつける技法として絵本の読み聞かせを理解し実践できる。	
	予習復習の内容	昔話や児童文学に触れておく。	
6回	授業内容	児童資料の理解②　昔話・児童文学	昔話・児童文学の紹介
	学習成果	代表的な昔話・児童文学を知り説明できる。	
	予習復習の内容	ストーリーテリング発表の準備を行う。	
7回	授業内容	ストーリーテリングの実践	ストーリーテリングの発表
	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてストーリーテリングを理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ストーリーテリング発表の準備を行う。	
8回	授業内容	ストーリーテリングの実践	
	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてストーリーテリングを理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ブックリスト作成着手	
9回	授業内容	ブックリストの作成	ブックリストの提出
	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてブックリストを制作できる。	
	予習復習の内容	ブックリストを完成させる。	
10回	授業内容	児童資料の理解③　知識の本など	知識の本の紹介
	学習成果	知識の本・レファレンス資料などについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	さまざまな知識の本に触れておく。	
11回	授業内容	児童サービスの諸活動	
	学習成果	児童サービス特有の資料提供・情報提供などについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館訪問やホームページ検索で児童サービスの実際を確認しておく。	
12回	授業内容	乳幼児サービス	
	学習成果	乳幼児サービスの現状や展開について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館訪問やホームページ検索で乳幼児サービスやヤングアダルトサービスの実際を確認しておく。	
13回	授業内容	ヤングアダルトサービス	
	学習成果	ヤングアダルトサービスの現状や展開について理解できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備えて準備を行う。	
14回	授業内容	児童サービスの運営	
	学習成果	児童サービス運営の諸要件について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備えて準備を行う。	
15回	授業内容	地域・学校との連携	
	学習成果	児童サービスに係る地域・学校との連携について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験の誤答箇所の見直しを行う。	

科目名	図書館情報資源特論				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択		1	単位	授業回数	7.5	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
					授業時間数	15	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。												
専門的学習成果	①	図書館の情報資源（書籍、電子資料、視聴覚資料など）を評価・選定し、利用者のニーズに応じたコレクション開発ができる。											
	②	書誌情報の整理や分類、目録作成（MARC 形式など）を行い、利用者が効率的に情報を検索・利用する仕組みを提供できる。											
	③	デジタル化された情報資源の保存・提供方法や、電子書籍・データベースの管理・提供に関する専門な知識を実務で活かすことができる。											
	④	読書会やデータベース利用講習会など、図書館資源を活用するイベントやプログラムを企画・実施するスキルを実務で発揮することができる。											
	⑤	図書館情報資源の利用における著作権や知的財産権の法律的理解を深め、適切に運用できる。											
汎用的学習成果	(1)	情報資源の信頼性や価値を批判的に評価し、適切に利用・推薦できる。（専門的学習効果①②③④⑤に関連）											
	(2)	利用者との対話を通じてニーズを的確に把握し、それに応じた情報や資料を提供できる。（専門的学習効果①④に関連）											
	(3)	利用者が抱える情報に関する課題やニーズを分析し、迅速かつ効果的に解決できる。（専門的学習効果①②③④⑤に関連）											
授業概要	この科目では、図書館が提供する情報資源の特性、収集・組織化・提供の方法、および最新のデジタル技術の活用について学びます。特に、現代社会における情報の価値と利用方法に焦点を当て、司書として必要な専門知識と実践力を養います。具体的には次の（1）（2）（3）を目標としています。（1）図書館情報資源の分類や目録作成の基礎を理解し、（2）電子情報資源とデジタルアーカイブの役割と運用方法を学び、（3）情報資源提供における課題と解決方法を検討する能力を身につけること。												

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	40	課題に対するレポートを作成する［２回、各1500文字］
		小レポート	15	毎回小レポートを実施し、理解度を確認する。
		小テスト	30	小テストを実施、理解度を確認する。［３回］
		平常点	15	授業への協力的・協調的・積極的な貢献によって評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 （2）は専門的学習成果①④で評価を行う。 （3）は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	後藤敏行	『図書館員をめざす人へ　増補改訂版』	勉誠出版
	中崎倫子	『大学図書館司書が教える AI 時代の調べ方の教科書』	BOW&PARTNERS
	馬場俊明	『図書館情報資源概論（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）』	日本図書館協会
	今まど子・小山憲司編著	『図書館情報学基礎資料 5 版』	樹村房

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①図書館情報資源概論を補完しつつ現代的・今日的な情報資源について学習します。とくにユビキタス、インターネット、メタバース、AI 時代の電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解することが求められます。できるだけ多くの図書館（公立図書館・私立図書館・大学図書館・専門図書館・国会図書館など）についての情報収集、実際の訪問・見学などを行うことが望ましい。 ②図書館司書になるための学習には「現実世界」の理解が不可欠です。事前学習として参考資料等を読み、日常的なニュースにも関心をもち知識の範囲を広め洞察を深めてください。（予習：週１時間程度）事後学習としては、指定された範囲の課題に取り組むこと。（復習：週３ 時間程度）。提出されたレポートは全体的な講評を行い評価します。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館情報資源の基本概念：図書館情報資源の定義と種類、情報資源管理の意義。	小レポート①
	学習成果	① 図書館情報資源の役割と重要性を理解する。②情報資源の種類（書籍、電子資料、視聴覚資料など）を分類する。	
	予習復習の内容	図書館司書の科目全体像の把握と図書館情報資源の位置づけを確認する。	
2回	授業内容	情報資源の収集と評価：情報資源の収集方針、選定基準、信頼性の評価。	小レポート② 小テスト①
	学習成果	①図書館における情報資源の収集プロセスを理解する。②利用者ニーズに基づく評価基準を考える。	
	予習復習の内容	図書館情報資源論と図書館情報資源論の補完状態について確認する。	
3回	授業内容	図書館目録の作成と利用：目録作成の基礎（MARC 形式、RDA 基準）、OPAC の利用。	小レポート③ レポート①
	学習成果	①基本的な目録作成の仕組みを学ぶ。②目録が情報提供に果たす役割を説明できる。	
	予習復習の内容	目録の概略、意義について確認する。	
4回	授業内容	情報資源の分類と整理：日本十進分類法（NDC）、デューイ十進分類法（DDC）の概要。	小レポート④
	学習成果	①図書館情報資源の分類法を理解する。②実際の資料を分類する練習を行う。	
	予習復習の内容	分類法の概略、意義について確認する。	
5回	授業内容	電子情報資源とデジタルアーカイブ：電子書籍、データベース、デジタルアーカイブの特徴と運用。	小レポート⑤ 小テスト②
	学習成果	①電子情報資源の管理と利用方法を学ぶ。②デジタルアーカイブが文化保存に果たす役割を説明する。	
	予習復習の内容	電子情報資源の現状について調査・確認する。	
6回	授業内容	情報提供サービスと利用者支援：レファレンスサービスの基本、情報提供の実践例。	小レポート⑥
	学習成果	①利用者の情報ニーズを把握し、適切な情報を提供する方法を学ぶ。②レファレンスインタビューの基礎を理解する。	
	予習復習の内容	レファレンスサービスの理想と現状・論点について調査・整理する。	
7回	授業内容	情報資源管理の課題と倫理：著作権やプライバシー、情報格差の問題とその対応策。	小レポート⑦ 小テスト③
	学習成果	①図書館情報資源に関する法的・倫理的課題を理解する。②利用者の権利を尊重した情報提供の方法を考える。	
	予習復習の内容	今日的な著作権の課題・論点について調査・整理する。	
8回	授業内容	ケーススタディと総括：実際の図書館業務を想定した課題解決演習、授業内容の振り返り。	小レポート⑧ レポート②
	学習成果	①授業で学んだ内容を活用し、具体的なケースで対応策を考える。②図書館司書としての基本的な実践力を確認する。	
	予習復習の内容	現実に図書館員として働くことを想定し課題について確認する。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	図書館実習				担当者	関根 俊二（セキネ シュンジ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）実習中は電話・メールにも対応する（直前指導で伝える）。											
専門的学習成果	①	司書の業務全般について概要を理解し説明できる。										
	②	基本的な司書の業務を担当することができる。										
汎用的学習成果	(1)	訪問時のマナー、電話のマナーなどを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。（専門的学習成果②に関連）										
	(2)	社会性をもち、周囲とコミュニケーションをとりながら活動できる。（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	業務の質の改善を意識しながら活動できる。（専門的学習成果①②に関連）										
授業概要	市内の公共図書館で司書業務に係る実習を行って、司書養成課程で学ぶ知識・技術を実践的に確立する。 実習は3日間とし、事前・事後の指導を行い、グループに分かれて実施する。司書業務全般を学び、基本的な業務が確実に担当できるように学ぶ。 事前指導では一般的なビジネスマナーを確認・習得するほか、市内の公共図書館について統計的データ等を把握し理解を図る。事後指導では実習報告書に基づき実習の活動を振り返り、点検・評価を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート										
		実習館の評価	50	実習館記載の「評価報告書」								
		授業中の課題の達成度	50	ビジネスマナー15%　図書館理解15%　実習報告（報告・連絡・相談を含む）20%								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②の評価で行う。 (2) は専門的学習成果①②の評価で行う。 (3) は専門的学習成果②の評価で行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
		印刷物を配布する。										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	気賀沢よし子他	『マナーの基本と就職対策』	専門教育出版									
	宮城県図書館	『みやぎの公共図書館』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	学外での実習を行う授業であるので、とりわけ出席やマナー、各課題への取り組みに注意して取り組むこと。これらの点で適性や改善が認められない場合は、授業開始後であっても実習を許可しないことがあるので注意する。 ①日常的に公共図書館を利用し親しんでおくこと。調査活動や図書館の下見見学など、授業外の学習も適宜求める。 ②提出物については評価を添え返却する。実習については実習終了後の報告会で評価を示す。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション　図書館実習の概要	授業の内容の把握とその説明
	学習成果	授業の内容を把握し説明できる。	
	予習復習の内容		
2回	授業内容	ビジネスマナーの習得①　訪問時のマナー／実習中のマナー	小テスト（課題 - ビジネスマナーの習得）
	学習成果	訪問時のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。	
	予習復習の内容		
3回	授業内容	ビジネスマナーの習得②　電話のマナー	
	学習成果	電話のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。	
	予習復習の内容		
4回	授業内容	ビジネスマナーの習得③　業務活動中のマナー	
	学習成果	業務活動中のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。	
	予習復習の内容	小テストに備えた準備を行う。	
5回	授業内容	実習館の理解①　各館の目標・特徴	レポート（課題 - 市内図書館の現状）第6回に提出
	学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容		
6回	授業内容	実習館の理解②　図書館サービスに係る各種のデータ調査	
	学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容		
7回	授業内容	実習館の理解③　国内図書館との比較調査	
	学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	レポート提出に備えてデータを整理しておく。	
8回	授業内容	短大図書館での業務体験①	基本的な司書業務の遂行
	学習成果	体験を通して司書業務の一端を理解し、行うことができる。	
	予習復習の内容		
9回	授業内容	短大図書館での業務体験②	
	学習成果	体験を通して司書業務の一端を理解し、行うことができる。	
	予習復習の内容		
10回	授業内容	実習館の見学	実習報告（報告・連絡・相談等、実習活動全般について）
	学習成果	実習館の施設・サービスの特徴について理解し説明できる。	
	予習復習の内容		
11回	授業内容	直前指導　実習の流れ　書類の確認　諸注意・連絡	
	学習成果	実習を行うのに必要な事項を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	実習内容、諸注意等を確認し、可能な部分の書類記載を行う。	
12回	授業内容	市内図書館での実習①　実習館が指定する業務を行う	
	学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。	
	予習復習の内容		
13回	授業内容	市内図書館での実習②　実習館が指定する業務を行う	
	学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。	
	予習復習の内容		
14回	授業内容	市内図書館での実習③　実習館が指定する業務を行う	
	学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。	
	予習復習の内容		
15回	授業内容	実習報告会　実習の報告とまとめ	
	学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。	
	予習復習の内容	報告会での発表に備え、グループで準備を行う。	

科目名	新聞を読む				担当者	川辺（カワベ）　博（ヒロシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的学習成果	①	新聞を読んで活用するための技術を身につける。										
	②	時事問題に関心をもち、自分自身に関連づけてとらえ、自分なりの考えが発表できる。										
	③	「ニュース時事能力検定」受検を目指した取り組みができる。										
汎用的学習成果	(1)	現代社会の課題を認識することで、業務においても私生活においても自立した社会人としての役割を果たすことができる。（専門的学習成果の①②③に関連）										
	(2)	現代社会の課題について深く考察し、立場の異なる相手とも議論できる。（専門的学習成果の②に関連）										
	(3)	現代社会の課題に取り組んで地域社会の活動に貢献できる。（専門的学習成果の②に関連）										
授業概要	新聞は世界を知るための良質のメディアだが、読むには慣れとコツが必要である。この授業では各自が毎週スクラップ・ブックを作り、記事で取り上げられているできごとについて全体で討議することを通して、社会のしくみと現状、問題点についての理解を深める。また新聞記事のようないわゆる「硬い文章」を読むのに慣れ、さらには自分でも書けるように練習する。「ニュース時事能力検定」の参考書・問題集に取り組み、受検を促す。「新聞は難しいから読まない」という人ほど、むしろ歓迎する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		提出物	50	授業ごとに指定されたテーマにもとづいてスクラップ・ブックを作り、期末に提出する。
		小テスト	20	ニュース検定や講義内容についての小テストを実施する。
		平常点	30	授業時間中におこなうスクラップの発表の内容を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本ニュース時事能力検定協会（監修）	『2026年度版ニュース検定公式テキスト＆問題集　3・4級対応』	毎日新聞出版
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	池上彰	『池上彰の新聞勉強術』	文春文庫

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各自で新聞を用意し、スクラップ・ブックを作成すること。作る際の詳細な注意点は、初回のガイダンスで指示する。授業日以外でも新聞やテレビのニュース番組、ネットのニュース・サイトに親しむことが必要である（毎日数十分程度、1週間で4時間程度）。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、スクラップ・ブックの作り方と「ニュース時事能力検定」について	「ニュース検定」の例題への取り組みによって評価
	学習成果	新聞というメディアの特性を理解し、スクラップ・ブックを作成する準備ができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。	
2回	授業内容	新聞の種類	スクラップの発表によって評価
	学習成果	流通範囲や扱う内容に応じて新聞に多くの種類があることを説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。ニュース・サイトを閲覧する。	
3回	授業内容	アナログ・メディア（新聞紙）とデジタル・メディア（ニュース・サイト）の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	アナログとデジタルの双方の長所と短所を対比して説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。政治分野の話題についてまとめておく。	
4回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（1）政治	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	政治分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。政治分野の話題を復習する。	
5回	授業内容	一日分の新聞の構成	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞の「面」ごとの特色を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。見出しの特徴を調べておく。	
6回	授業内容	新聞記事の構造、見出しの役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事の構造や見出しの役割を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。経済分野の話題についてまとめておく。	
7回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（2）経済	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	経済分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。経済分野の話題を復習する。	
8回	授業内容	写真、レイアウト、文字の役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	報道写真に込められた意図に留意しながら「読み解く」ことができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。暮らしにかかわる話題についてまとめておく。	
9回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（3）暮らし	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	暮らしにかかわる知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。新聞広告の特徴を調べておく。	
10回	授業内容	新聞広告の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞という物理メディアならではの広告の表現手法の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題についてまとめておく。	
11回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（4）社会・環境	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	社会・環境の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題を復習する。	
12回	授業内容	新聞を読み比べる（1）一般紙どうしの読み比べ	スクラップの発表によって評価
	学習成果	複数紙の読み比べをとおして、報道と世論形成のかかわりを説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。国際分野の話題についてまとめておく。	
13回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（5）国際	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	国際分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。国際分野の話題を復習する。	
14回	授業内容	新聞を読み比べる（2）「日本経済新聞」を読む	スクラップの発表によって評価
	学習成果	「日本経済新聞」の特徴を理解し、活用できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。新聞の文体の特徴を調べておく。	
15回	授業内容	新聞記事の文体をまねて記事を書く	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事風の文章が自分で書ける。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。授業全体を振り返り、まとめる。	

科目名	話し言葉の基礎				担当者	三浦（ミウラ）貴子（タカコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	人が声を発する仕組みを理解し、大きく張りのある声が出せる。										
	②	状況に応じた言葉遣いができ、敬語を正しく使えるようになる。										
	③	言葉遣いに留まらず、表情、所作、態度を含めて、好印象を与えられるようになる。										
汎用的学習成果	(1)	正しい発声発音を学び、堂々と人と関わる力をつけることを通して、社会的・職業的自立につなげることができる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	敬語の使い方や場面に合わせた言葉の選び方を学ぶことを通して、他者を理解し、論理的な思考で問題を解決する能力を有し、協働することができる。（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	美しい日本語を学ぶことを通して、和を尊ぶ日本の心を理解し、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	生活の道具である「日本語」。その中でも「話し言葉」は、人との関わりの第一歩。日々使うものだけに、雑に扱うことなく、心を込めて丁寧に発することの大切さを理解する。発声、発音の基礎的練習をはじめ、実践練習の中で、簡潔にわかりやすく内容を伝える文章の組み立て方、正しい敬語表現、場面にあわせた美しい言葉の選び方を学び、活用できるようになる。さらに、言葉に連動する好印象をもたらす表情、所作、態度を身につけ、積極的に社会とつながることができるようになる。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	筆記小テスト	20	「敬語」の理解について筆記試験を行い評価する。								
		期末テスト	40	声の大きさ・高低等の表現、言葉選び、態度、表情、姿勢、全般にわたり、「スピーチ」「ロールプレイング」の２つの項目を通して評価する。								
		平常点	40	演習や実習への取り組み、意欲、態度により評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	プリント資料配付											
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	NHK 放送文化研究所	『日本語発音アクセント新辞典』	NHK 出版									
	実務技能検定協会	『秘書検定１級集中講義』	早稲田教育出版									
	実務技能検定協会	『ビジネス電話検定受験ガイド』	早稲田教育出版									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①配付する資料、および視聴覚教材をもとに授業を進める。 事前学習として、授業内容理解のため、資料を読み予習してくること。特に、前の授業で告知する次回の課題については、繰り返し声に出し練習し、授業に望めるようにしておくこと。（予習：週２時間程度） 事後学習として、授業での内容を意識し、数多くの人との「会話」を実践して、理解を深めるようにすること。（復習：週２時間程度） ②実技テストでは、その場で良い点、改善を進める点を指摘する。筆記テストは、終了後に正解を伝え解説をおこなう。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	あいさつ・返事・あいづち	取り組み：発声発音
	学習成果	相手に与える印象の重要性を理解し、あいさつ、表情、所作から、好印象を残すことができる。	
	予習復習の内容	一人でも多くの方に話しかけ周囲とコミュニケーションを図り、好印象を残すことを全身で覚えるように実践を重ねる。	
2回	授業内容	発声・響鳴・発音	
	学習成果	声から与える印象を良くするために、発声発音の仕組みを理解し、明瞭な発音ができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で伝えるボイストレーニング法を毎日実践し、大きく張りのある声を出せるようになる。	
3回	授業内容	話し方お悩み別対処法	
	学習成果	自分の話し方のクセを確認し、耳障りになりそうな点を修正する。距離感にあわせた話し方ができる。	
	予習復習の内容	大きな声を出す、言葉に言い淀まないなど、目的を持って、聴きやすい話し方を意識し練習する。	
4回	授業内容	敬語①　～丁寧に話す～	筆記小テスト：敬語
	学習成果	上下に関係なく物事を丁寧に表すことで相手への敬意を伝え、信頼される存在になる。	
	予習復習の内容	学生ならではの話し方は社会でどう見えるか、一方、品格のある話し方はなにかを意識し、会話を実践する。	
5回	授業内容	敬語②　～敬う心を表す～	
	学習成果	尊敬語、謙譲語の正しい理解ができ、立場や場面によって瞬時に使い分けられる。	
	予習復習の内容	敬語の正誤が瞬時にわかるように、多くのビジネス会話（映像資料、接客業等）を意識して聴いて慣れる。	
6回	授業内容	好印象につながる表現　～慣用句・クッション言葉・あとよし言葉・鼻濁音・無声化～	
	学習成果	肯定的な言葉を選ぶことで良好な人間関係が築けることを理解し、品格を身につける。	
	予習復習の内容	好印象につながるための言葉には、具体的にどのようなものがあるのか挙げて語彙を増やし、会話を実践する。	
7回	授業内容	伝える技術　～間・強弱・高低・緩急～	取り組み：表現ワーク
	学習成果	相手にわかりやすく正しく情報を伝えるための４つの技術を理解し、実際に使えるようになる。	
	予習復習の内容	４つの技術を使って話している具体例をテレビラジオ等で見つけること。授業でよむ文章を練習する。	
8回	授業内容	きく技術　～聞く・聴く・訊く～	
	学習成果	会話は相手とのやりとりで成り立つことに気づき「きく」力をつけ、正しい理解判断ができるようになる。	
	予習復習の内容	抑揚や間から意図を汲めるか、話を興味をもった態度で聴いているか、日常の中で意識し、相手が話しやすい雰囲気作りを実践してみる。	
9回	授業内容	文章を組み立てる	
	学習成果	主部述部を意識した簡潔な文、相応しい接続詞句での展開、目的を意識した構成で、話を組み立てられるようになる。	
	予習復習の内容	誰かに何かを説明する場合どうしたらわかりやすいのか等、相手の立場に立った丁寧な会話を実践してみる。	
10回	授業内容	言葉を選ぶ	
	学習成果	感謝、謝罪、苦情、祝福、労い、さまざまな場面での適切な言葉遣いを身につけ表現できるようになる。	
	予習復習の内容	様々な状況をイメージし、その場に相応しい言葉を選べるよう、本や新聞、各メディアから語彙を拾い自分のものにする。	
11回	授業内容	電話①　～うける～	取り組み：電話応対
	学習成果	デモ電話機を用いて、固定電話の使い方を把握する。電話の受け方で社会での対応力をつける。	
	予習復習の内容	授業で伝える電話応対のポイントを意識し、声に出して練習し、ボイスレコーダーに録り確認する。	
12回	授業内容	電話②　～かける～	
	学習成果	電話をかけるときの要点をおさえる。電話で聴き取りやすい声はどのようなものか理解し実践できる。	
	予習復習の内容	授業で伝える電話応対のポイントを意識し、声に出して練習し、ボイスレコーダーに録り確認する。	
13回	授業内容	さまざまな受付で	取り組み：ロールプレイング
	学習成果	接遇用語を理解し、立ち居振る舞いとあわせて正しく使えるようになる。	
	予習復習の内容	来客、婚、葬での受付、言葉と行動、態度が重なるように、各自ロールプレイングを繰り返し行って慣れる。	
14回	授業内容	多様性社会でのコミュニケーション	取り組み：グループワーク
	学習成果	聴覚・視覚障害者、高齢者等、多様性社会での情報伝達、意思疎通のためにできることを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように場面を想定して練習を重ねてみる。	
15回	授業内容	日常の場面で	期末テスト：自己紹介
	学習成果	日頃の生活の中でも話し言葉で印象が左右されることを認識し、その場にあわせた適切な表現ができるようになる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理、確認をすること。	

科目名	話し言葉の応用				担当者	関根 俊二（セキネ シュンジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）											
専門的 学習成果	①	社会人にふさわしく、正確にわかりやすく話し言葉で説明できる。										
	②	言葉についての理解をもち、言葉の使い分けなど、言葉を意識的に活用できる。										
	③	傾聴する能力をもち、コミュニケーションを円滑に行うことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	場面・状況に応じた対応ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	コミュニケーションを通して社会で協働することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	1年次前期に学ぶ「話し言葉の基礎」の応用の授業である。社会やビジネスシーンに通用する開かれた話し言葉の習得をめざして、発表を繰り返し行って実践的に学ぶ。既習事項の整理をしながら、傾聴、自由題スピーチ、情報の正確な説明、魅力的な説明など新たな課題に取り組んでもらう。日本語検定2級程度の敬語やら抜き言葉の知識も身につけてもらう。 言うまでもなく、話し言葉の技術を磨くためには、聞き手の反応に触れながら自覚的に話し言葉を使い続けるしか方法はない。発表には長所を伝えアドバイスを送り続けるので、ぜひ社会人にふさわしい話し言葉の技術を習得してほしい。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		発表	70	計5回。①が20%、②③④が各10%、⑤が20% の評価。発表で課題の達成度をみる。								
		小テスト	30	計2回実施し、各回15% で評価を行う。理解度を問う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②の評価で行う。 (2) は専門的学習成果①②③の評価で行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
		印刷物配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	日本語検定委員会	『日本語検定公式2級過去・練習問題』		東京書籍								
	鴻上尚史	『コミュニケイションのレッスン　聴く・話す・交渉する』		大和書房								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	話し言葉の技術習得の授業であるので、しばしば発表を行う。落ち着いて（あるいは楽しい感じで）話しやすい環境を作ることに配慮するので、グループ内や人前での発表に、目的意識をもって積極的にチャレンジしてもらいたい。 ①発表等の準備のために授業外で計60時間程度の学習が必要である。 ②発表に対しては、口頭で、または書面でつどアドバイスと評価を伝える。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション　傾聴と他者紹介	人の話を傾聴できるか。内容を要約して効果的に説明できるか。
	学習成果	人の話を傾聴でき、それを要約して伝えることができる。	
	予習復習の内容	次回発表の準備	
2回	授業内容	話をデザインする①　自由題3分間スピーチ	発表①（課題－自由題3分間スピーチ）
	学習成果	構成を意識してスピーチを展開することができる。	
	予習復習の内容	発表の振り返り	
3回	授業内容	話をデザインする②　自由題3分間スピーチ	
	学習成果	構成を意識してスピーチを展開することができる。	
	予習復習の内容	発表の振り返り	
4回	授業内容	電話と会社訪問の言葉について	発表②（課題 - 電話かけなどの実践）
	学習成果	電話と会社訪問の方法を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容の復習	
5回	授業内容	電話と会社訪問の言葉を習得する	
	学習成果	電話と会社訪問の方法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	授業内容の復習。次回発表の準備	
6回	授業内容	正確な表現で説明する①　身近な出来事	発表③（課題 - 正確な説明）
	学習成果	シンプルな出来事について、言葉を選び正確に説明できる。	
	予習復習の内容	次回発表の準備	
7回	授業内容	正確な表現で説明する①　社会的な出来事	発表④（課題 - 正確な説明）
	学習成果	より複雑な出来事について、言葉を選び正確に説明できる。	
	予習復習の内容	発表の振り返り	
8回	授業内容	正しい言葉を使う①　敬語など	小テスト①（課題 - 敬語の理解度）
	学習成果	敬語について理解し、活用できる。	
	予習復習の内容	授業内容の復習。	
9回	授業内容	正しい言葉を使う②　ら抜き言葉など	小テスト②（課題 - ら抜き言葉の理解度）
	学習成果	ら抜き言葉に注意して言葉を活用できる。	
	予習復習の内容	授業内容の復習。	
10回	授業内容	円滑で生産的なコミュニケーション　リレートーク	傾聴の実践で人の話を生産的に聴き取ることができるか。人の話に自分の話をなめらかに重ね合わせられるか。
	学習成果	人の話を確実に傾聴でき、的確な言葉を続けることができる。	
	予習復習の内容	授業での実践についての振り返り	
11回	授業内容	グループディスカッション①　身近な出来事	グループ内で円滑なコミュニケーションをとれるか。
	学習成果	協働に向けたグループディスカッションに積極的に取り組める。	
	予習復習の内容	授業内容の振り返り。	
12回	授業内容	グループディスカッション②　社会的な出来事	グループ内で円滑なコミュニケーションをとれるか。
	学習成果	協働に向けたグループディスカッションに円滑に取り組める。	
	予習復習の内容	プレゼンテーション発表に向けた準備	
13回	授業内容	プレゼンテーションの準備	発表⑤（課題 - 物事の効果的な紹介）
	学習成果	プレゼンテーションの目的・方法について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	プレゼンテーション発表に向けた準備	
14回	授業内容	プレゼンテーションの発表	
	学習成果	手法を選択しながら、効果的に基本的なプレゼンテーションを行える。	
	予習復習の内容	プレゼンテーション発表の振り返り	
15回	授業内容	まとめ	話し言葉の活用に必要な態度・知識・方法について理解し説明ができるか。
	学習成果	話し言葉の活用に必要な態度・知識・方法について理解し説明ができる。	
	予習復習の内容	習得した知識・技術の整理	

科目名	公務員試験対策Ⅰ（基礎数学）			担当者	宮城 伸彦（ミヤギ ノブヒコ）							
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。
専門的学習成果 ①	これまで学んできた数学を復習し、様々な問題に取り組むことで理解を深めることができる。
専門的学習成果 ②	公務員試験における一般知能ならびにSPI試験における非言語分野に活用できる知識の習得ができる。
専門的学習成果 ③	社会における様々な場面において、習得した数学の知識を活用することができる。
汎用的学習成果 (1)	具体的な問題演習を通して進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。（専門的学習成果①・②に関連）
汎用的学習成果 (2)	社会人として必要とされる基礎的な一般教養について理解を深めることができる。（専門的学習成果③に関連）
授業概要	公務員試験における一般知能科目や、多くの企業等で実施されるSPI試験の非言語分野等において、算数・数学の内容が出題されており、苦手意識を抱えたまま卒業後の進路選択、就職活動に直面することも少なくない。この授業では各試験の実情に合わせて必要な分野について取り上げ、公式や基本的な解法の説明を行ったのち、問題演習を通して理解を深めていく。さらに社会に出てからも様々な場面において数字と関わってくることが多いことから、そういった場面でも活用できるよう具体的なイメージを加えながら講義を展開していく。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5％程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。
		まとめテスト	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①・②で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	東洋英和女学院大学学習サポートセンター	『文系女子大学生の数学演習』	誠文堂新光社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級＜教養試験＞過去問350』	実務教育出版
	柳本新二	『ドリル式SPI問題集』	永岡書店
	畑中敦子	『畑中敦子の算数・数学キソキソ55』	エクシア出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度を分野を絞らざるを得ないので、キャリアデザインで使用する教材等を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週1時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験ほか就職試験における基礎数学について	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、基礎数学の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	中学・高校での数学の各自の学習状況を確認しておく。	
2回	授業内容	計算問題、割合と比	
	学習成果	計算問題や割合と比の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
3回	授業内容	1次方程式、1次不等式、連立方程式	
	学習成果	1次方程式、1次不等式、連立方程式の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
4回	授業内容	因数分解と2次方程式、関数（1次関数、2次関数）	
	学習成果	因数分解と2次方程式、関数の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
5回	授業内容	料金の割引、代金の清算	
	学習成果	料金の割引、代金の清算の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
6回	授業内容	分割払い、損益算	
	学習成果	分割払い、損益算の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
7回	授業内容	速さ、集合	
	学習成果	速さ、集合の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
8回	授業内容	順列、組み合わせ	
	学習成果	順列、組み合わせの重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
9回	授業内容	確率	
	学習成果	確率の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
10回	授業内容	図形①（平面図形、合同と相似）	
	学習成果	平面図形、合同と相似の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
11回	授業内容	図形②（円の性質、空間図形、三平方の定理）	
	学習成果	円の性質、空間図形、三平方の定理の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
12回	授業内容	推論	
	学習成果	推論の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
13回	授業内容	資料の読み取り、グラフと領域	
	学習成果	資料の読み取り、グラフと領域の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
14回	授業内容	いろいろな問題（1）、（2）	
	学習成果	これまでの学習内容を再確認し、応用問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
15回	授業内容	まとめテスト・解説	まとめテストを実施する。すべて授業内容からの出題とする。
	学習成果	まとめテストを実施し、その解説を通して基礎数学の問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	授業内容を復習しておく。	

科目名	公務員試験対策Ⅱ（一般知能・基礎）			担当者	宮城（ミヤギ） 伸彦（ノブヒコ）							
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。
専門的学習成果 ①	これまで学んできた基礎数学を活用し、様々な問題に取り組むことができる。
専門的学習成果 ②	公務員試験における一般知能に活用できる知識を習得することができる。
専門的学習成果 ③	多くの問題に取り組むことで各自の弱点を理解し、一般教養の向上につなげることができる。
汎用的学習成果 (1)	具体的な問題演習を通して進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。（専門的学習成果①・②・③に関連）
汎用的学習成果 (2)	社会人として必要とされる基礎的な一般教養について理解を深めることができる。（専門的学習成果③に関連）
授業概要	公務員試験で出題される一般知能における数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の科目内容に沿って、公式や基本的な解法を説明したうえで、具体的な問題演習・解答解説を行い、出題内容の理解、解法の習得、そこから見える各自の弱点の把握を通して、効果的な試験対策を進める。公務員志望者に即した内容とはなるが、一般企業などで多く課される SPI 試験等の内容にも対応している。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回５％程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。
		まとめテスト	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	東京アカデミー	『オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級⑤一般知能』	七賢出版

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級＜教養試験＞過去問350』	実務教育出版
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ数的推理』	実務教育出版
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ判断推理』	実務教育出版
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ文章理解・資料解釈』	実務教育出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、ＪＡなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度を分野を絞らざるを得ないので、キャリアデザインで使用する教材等を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週１時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験における一般知能について	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、公務員試験における一般知能の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットなどを通して公務員試験の概要について確認する。	
2回	授業内容	数的推理①方程式、整数、計算パズル、規則性	
	学習成果	方程式、整数、計算パズル、規則性の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	数的推理②割合	
	学習成果	割合の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
4回	授業内容	数的推理③速さ	
	学習成果	速さの重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	数的推理④確率	
	学習成果	確率の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
6回	授業内容	数的推理⑤図形の計量	
	学習成果	図形の計量の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	判断推理①順序関係、手順	
	学習成果	順序関係、手順の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
8回	授業内容	判断推理②対応関係、試合	
	学習成果	対応関係、試合の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	判断推理③位置関係、数量	
	学習成果	位置関係、数量の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
10回	授業内容	判断推理④論理、集合、証言ほか	
	学習成果	論理、集合、証言ほかの重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	空間把握①平面図形、折り紙、軌跡	
	学習成果	平面図形、折り紙、軌跡の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
12回	授業内容	空間把握②立体構成、展開図、投影	
	学習成果	立体構成、展開図、投影の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	空間把握③切断、回転体・移動、経路	
	学習成果	切断、回転体・移動、経路の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
14回	授業内容	資料解釈	
	学習成果	資料解釈の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめテスト・解説	まとめテストを実施する。すべて授業内容からの出題とする。
	学習成果	まとめテストを実施するとともに、その解説講義を通して一般知能全般について解答することができる。	
	予習復習の内容	授業内容を復習しておく。	

科目名	公務員試験対策Ⅳ（文章理解・作文基礎）	担当者	宮城 伸彦（ミヤギ ノブヒコ）

区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）	
専門的学習成果	①	現代文を適切に理解し、設問を解くことができる。
	②	資料解釈の分野の基礎力を養い、設問を解くことができる。
	③	自分の考えを小論文にまとめることができる。
汎用的学習成果	(1)	論理的な思考力や文章表現能力が身につき活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）
授業概要	国家公務員、地方公務員、独立行政法人、JA など、筆記試験において「教養試験（文章読解）」と「小論文」が課される職種への就職を希望する学生を対象にして、過去問等の演習と解説、小論文執筆と添削を行い、公務員試験に対応できる能力を育成する。文章読解は時間の制約のある中での解答で、コツを踏まえた解答が必要であり、これを確認しながら学んでいく。小論文執筆は、まず話題の確認から行うこととする。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	80	授業内の解答を小テストとして扱う。10回実施し、各回８％の評価を行う。
		提出文	20	小論文を２回提出する。各回10% で評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③の評価で行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	資格試験研究会編	『新・初級スーパー過去問ゼミ　文章理解 資料解釈』	実務教育出版

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	鶴田秀樹	『公務員試験　独学で合格する人の勉強法』	実務教育出版
	山下純一	『2025年度版　公務員試験 小論文の秘伝』	TAC 出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①新聞記事やテレビ報道などに日常的に触れ、地域や世界の動きをしっておくこと。また、授業で紹介する資料も読んでおいてほしい（以上、各回あたり２時間）。授業の復習、小論文執筆の予習などで各回１時間の予習・復習が必要となる。 ②授業での正解状況を報告してもらい、小テストとして扱うので、評価は自己管理できる。提出された小論文は添削の上、すみやかに返却する。

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション　公務員試験の概要と準備・対策	
	学習成果	公務員試験の概要と準備・対策について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	概説部分に目を通しておく。	
2回	授業内容	文章理解	小テスト①（文章読解）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
3回	授業内容	文章理解	小テスト②（文章読解）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
4回	授業内容	文章理解　漢字の読み	小テスト③（文章読解と漢字の読み）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
5回	授業内容	文章理解　漢字の読み	小テスト④（文章読解と漢字の読み）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	発表の準備を行う。	
6回	授業内容	文章理解　漢字の読み	小テスト⑤（文章読解と漢字の読み）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
7回	授業内容	文章理解	小テスト⑥（文章読解）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	発表の準備を行う。	
8回	授業内容	文章理解　文学史	小テスト⑦（文章読解と文学史）
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
9回	授業内容	小論文の理解　テーマの探求	提出物①（小論文）第８回
	学習成果	小論文執筆の方法や社会的話題を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	小論文を執筆する。	
10回	授業内容	小論文の執筆	
	学習成果	社会的話題について小論文が執筆できる。	
	予習復習の内容	小論文推敲	
11回	授業内容	小論文の理解　テーマの探求	
	学習成果	小論文執筆の方法や社会的話題を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	小論文を執筆する。	
12回	授業内容	資料解釈	小テスト①
	学習成果	割合や構成比の基礎問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
13回	授業内容	資料解釈	小テスト②
	学習成果	指数の基礎問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
14回	授業内容	資料解釈	小テスト③
	学習成果	複数の資料を用いた問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
15回	授業内容	小論文の執筆	提出物②（小論文）第15回
	学習成果	社会的話題について小論文が執筆できる。	
	予習復習の内容	小論文推敲	

科目名	公務員試験対策Ⅴ（一般知識）				担当者	本吉祥子・宮城伸彦						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付け、もしくはオフィスアワーで対応する。 Classroom（登録必須）での対応も行う。 それ以外はＥメール（hori.ryohei@seiwa.ac.jp）で行う。

専門的学習成果	①	社会科学分野（政治・経済・社会）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。
	②	人文科学分野（日本史・世界史・地理・文学芸術）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。
	③	自然科学分野（物理・化学・生物・地学）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。
汎用的学習成果	(1)	社会科学分野の基礎知識修得を通して、それが生活に直結していることを学び、社会の一員としての自立につなげることができる。
	(2)	人文科学分野の基礎知識修得を通して、それが生き方のヒントになることを学び、豊かな選択肢を持って自ら志向することができる。
	(3)	自然科学分野の基礎知識修得を通して、それが論理的思考や問題解決の礎であることを学び、科学技術社会の一員として惑わず理知的選択ができる。
授業概要	公務員試験で問われる一般知識は、「社会科学（政治・経済・社会）」「人文科学（日本史・世界史・地理・文学芸術）」「自然科学（物理・化学・生物・地学）」の各分野にわたって広く出題されるが、過去の各分野ごとの出題率や高校における科目修得状況を踏まえて分野を絞り、基本事項を学んでいく。また当該分野の基礎知識確認問題や応用問題を通して基礎学力向上に努め、過去問題や類似問題の反復を通して解答のコツをつかんでいく。	

	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
評価方法基準等	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回５％程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。
		筆記試験	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①で評価を行う。 （2）は専門的学習成果②で評価を行う。 （3）は専門的学習成果③で評価を行う。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等	資格試験研究会	『初級公務員　一般知識らくらくマスター』	実務教育出版
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級＜教養試験＞過去問350』	実務教育出版
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ社会科学』	実務教育出版
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ人文科学』	実務教育出版
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ自然科学』	実務教育出版
	鈴木俊士	『鈴木俊士の公務員教養試験 一般知識 一問一答』	株式会社 KADOKAWA

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JA などを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度を分野を絞らざるを得ないので、キャリアデザインで使用する教材等を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週１時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験一般知識科目についてのガイダンス	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、一般知識科目をどのように学習していくかを説明できる。	
	予習復習の内容	一般知識科目の出題内容について整理し、確認しておく。	
2回	授業内容	政治　①民主政治の基本原理、日本国憲法、基本的人権	
	学習成果	日本国憲法の三大原理と、憲法が保障する基本的人権について説明できる。	
	予習復習の内容	日本国憲法や基本的人権について、具体的内容を整理し、確認しておく。	
3回	授業内容	政治　②政治機構、国際政治	
	学習成果	国会・内閣・裁判所の役割と権限について説明できる。	
	予習復習の内容	憲法条文をもとに国会・内閣・裁判所の位置付けや権限を整理し、確認しておく。	
4回	授業内容	経済　①市場経済	
	学習成果	価格機構と独占寡占について、国民経済の流れについて説明できる。	
	予習復習の内容	価格機構、独占寡占、株式会社、国民所得について整理し、確認しておく。	
5回	授業内容	経済　②金融財政、戦後経済	
	学習成果	日銀の金融政策、財政のしくみ、租税について説明できる。	
	予習復習の内容	日銀の金融政策、財政、日本経済の発展について整理し、確認しておく。	
6回	授業内容	社会　①人口問題、社会保障	
	学習成果	少子高齢化社会とその諸問題および日本の社会保障制度について説明できる。	
	予習復習の内容	少子高齢化の進行について統計データに目を通し、社会保障制度について整理し、確認しておく。	
7回	授業内容	社会　②労働問題、消費者問題、環境問題	
	学習成果	日本が抱えている労働問題、消費者問題、環境問題の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	労働関連法とその法改正、主な環境問題や消費者問題とその関連法を整理し、確認しておく。	
8回	授業内容	日本史　①律令国家～中世	
	学習成果	政治システムと主要人物、時代背景と文化の特色や代表的遺産等について説明できる。	
	予習復習の内容	土地制度や対外関係、文化・宗教などについて、時代横断的に整理し、確認しておく。	
9回	授業内容	日本史　②近世～近現代	
	学習成果	江戸時代の三大改革や明治維新～日清日露戦争を背景とする時代の動きを説明できる。	
	予習復習の内容	織豊の政策～第二次大戦後まで、体制や文化について時代の前後を比較しながらその流れを整理し、確認しておく。	
10回	授業内容	世界史　①古代・中世ヨーロッパ～近代ヨーロッパ	
	学習成果	ルネサンス、宗教革命、市民革命など、特に近代ヨーロッパについて具体的に説明できる。	
	予習復習の内容	四大文明～産業革命まで、時代ごとの重要ポイントについて整理し、確認しておく。	
11回	授業内容	世界史　②現代ヨーロッパ、東洋史	
	学習成果	地図上を横断的に同時代の歴史的出来事の順序関係を説明できる。	
	予習復習の内容	列強のアジア進出～第二次大戦後まで、および中国史について重要ポイントを整理し、確認しておく。	
12回	授業内容	地理　①地形、気候・土壌、世界地理	
	学習成果	特徴的な地形・気候・土壌ならびに世界地理について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	地形、気候・土壌、および世界地理について重要ポイントを整理し、確認しておく。	
13回	授業内容	地理　②日本地理、地図図法、人口	
	学習成果	日本の地理、地図図法や人口問題について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	日本地理の特徴や、地図図法、人口の現状を確認しておく。	
14回	授業内容	理科（生物・地学・化学・物理）、文学芸術思想	
	学習成果	理科、文学芸術思想について重要事項を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	理科、文学芸術思想について重要ポイントを整理し、確認しておく。	
15回	授業内容	まとめテスト、解説	筆記試験（全15回の内容を問う）
	学習成果	まとめテストを実施するとともにその解説講義を通して、一般知識全般について解答することができる。	
	予習復習の内容	授業内容を復習しておく。	

科目名	公務員試験演習（基礎編）				担当者	本吉祥子・宮城伸彦						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。
専門的学習成果 ①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。
専門的学習成果 ②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。
汎用的学習成果 (1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②・③に関連）
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率用進めることができることを目的とする。今期においては一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握）ならびに一般知識科目（政治・経済）を中心に講義を行う。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけではなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。 さらに模擬試験も実施することで、自身の実力を図り、その後の学習につなげる要努力することを求める。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	40	講義実施内容についての習熟度を確認するレポートを3回程度行う。
		Eラーニング到達度	40	講義実施内容についての習熟度を確認するE-ラーニングの到達度を確認する。
		模擬試験	20	受験した上で、復習して理解を進められたかを確認する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	資格試験研究会	『公務員試験［高卒程度・社会人］初級スーパー過去問ゼミ　判断推理』	
	資格試験研究会	『公務員試験［高卒程度・社会人］初級スーパー過去問ゼミ　数的推理』	
	資格試験研究会	『公務員試験［高卒程度・社会人］初級スーパー過去問ゼミ　社会科学』	

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	畑中敦子	『高卒程度 公務員試験 畑中敦子の天下無敵の数的処理！ 1 判断推理・空間把握編 第3版（公務員試験 教養試験対策）』	東京リーガルマインド
	畑中敦子	『高卒程度 公務員試験 畑中敦子の天下無敵の数的処理！ 2 数的推理・資料解釈編 第3版（公務員試験 教養試験対策）』	東京リーガルマインド
	TAC出版編集部	『公務員要点整理問題集 ポイントマスター 社会科学 第2版（公務員試験 国家一般職（高卒者）・地方初級）』	TAC出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。 ②模擬試験は実施後適宜解説を行う。

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、公務員試験に向けての学習計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	インターネットなどを通して公務員試験の概要について確認する。	
2回	授業内容	数的推理	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	数的推理	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
4回	授業内容	数的推理	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	数的推理	E-ラーニングの学習を進める。習熟度に関するレポートを提出する。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
6回	授業内容	判断推理	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	判断推理	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
8回	授業内容	判断推理	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	空間把握	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
10回	授業内容	政治・経済	E-ラーニングの学習を進める。習熟度に関するレポートを提出する。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	政治・経済	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
12回	授業内容	政治・経済	E-ラーニングの学習を進める。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	模擬試験	模擬試験を受験する。
	学習成果	これまでの講義内容を復習した結果を踏まえて、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	これまでの講義内容を復習する。	
14回	授業内容	模擬試験・解説講義	解説講義での理解を深める。
	学習成果	模擬試験での地震の回答を踏まえ確認しながら、今後の学習につなげることができる。	
	予習復習の内容	自身の回答を根拠も含め振り返る。	
15回	授業内容	まとめ	E-ラーニングの学習を進める。習熟度に関するレポートを提出する。
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後の学習に繋げることができる。	
	予習復習の内容	この期間内の学習内容を振り返る。	

科目名	公務員試験演習（応用編）			担当者	本吉祥子・宮城伸彦							
区　分	選択	1	単位	授業回数	12	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期集中
				授業時間数	24	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②・③に関連）										
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率用進めることができることを目的とする。今期においては文章理解、一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈）ならびに一般知識科目（政治・経済）を中心に講義を行う。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけではなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	50	講義実施内容についての習熟度を確認するレポートを3回程度行う。
		模擬試験	50	受験した上で、復習して理解を進められたかを確認する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	資格試験研究会	『公務員試験［高卒程度・社会人］初級スーパー過去問ゼミ　判断推理』	
	資格試験研究会	『公務員試験［高卒程度・社会人］初級スーパー過去問ゼミ　数的推理』	
	資格試験研究会	『公務員試験［高卒程度・社会人］初級スーパー過去問ゼミ　社会科学』	

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	畑中敦子	『高卒程度 公務員試験 畑中敦子の天下無敵の数的処理！ 1 判断推理・空間把握編 第3版（公務員試験 教養試験対策）』	東京リーガルマインド
	畑中敦子	『高卒程度 公務員試験 畑中敦子の天下無敵の数的処理！ 2 数的推理・資料解釈編 第3版（公務員試験 教養試験対策）』	東京リーガルマインド
	TAC出版編集部	『公務員要点整理問題集 ポイントマスター 社会科学 第2版（公務員試験 国家一般職（高卒者）・地方初級）』	TAC出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。 ②模擬試験は実施後適宜解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	政治・経済	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
3・4回	授業内容	政治・経済	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5・6回	授業内容	判断推理・空間把握	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7・8回	授業内容	判断推理・空間把握	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9・10回	授業内容	数的推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
11・12回	授業内容	模擬試験、解説・まとめガイダンス	模擬試験を受験した上で、解説講義での理解を深める。 習熟度に関するレポートを提出する。
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13・14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15・16回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
17・18回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
19・20回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
21・22回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
23・24回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
25・26回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
27・28回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
29・30回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	公務員研究Ⅰ（自治体研究）			担当者	宮城 伸彦						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。
専門的学習成果	①	地方自治法などに規定されている目的、役割等を説明、思考できる。
	②	地方自治体が目指すべき指針について説明、思考できる。
	③	議会が果たしている役割について説明、思考できる。
	④	自治体の財政状況等を知り、今後の政策形成を論じることができる。
汎用的学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、公務員として行政を遂行することができる。 （専門的学習成果①②③④）
	(2)	地域社会において人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、市民と協働することができる。（専門的学習成果①②③）
	(3)	法律等修得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展及び安全・安心に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果④）
授業概要		公務員として必要とされる自治の仕組み、市民と自治体行政の運営、地方財政・予算、議会の役割、自治体と国との関係など自治体業務の基本的な仕組みを知り、自治法など各種法律に基づいて議会の承認を経て政策を執行していくことについて考察し、公務員としての知識を高める。また、公務員にどのような役割が求められているのか市役所等の視察等をとおして職員がどのように業務を進めているのか討議研究を進め、公務員として市民の安全・安心のため尽くすことができる。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	60	毎回の講義で授業の感想・次回の予習を期日までにWeb上で提出するとともに、定期的に記述式の800字程度のレポートを提出し、その内容を評価する。
		討　論	20	講義内で行う、討議・グループワークにおける発表・参加態度を評価する。
		視察対応	20	職場見学の際における対応・レポート内容を評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①②③④により行う。 （2）は専門的学習成果①②③により行う。 （3）は専門的学習成果④により行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	今村照	『地方自治のしくみ』第6次改訂版	学陽書房

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	平谷英明	『一番やさしい地方自治の本』第2次改訂版	学陽書房
	吉田勉	『はじめて学ぶ地方自治法』第2次改訂版	学陽書房
	大森彌，大杉覚	『これからの地方自治の教科書』	第一法規
	地方自治法令研究会	『自治六法 令和7年版』	ぎょうせい

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備学習等履修上の留意点 テキスト及び参考文献、授業で配布する参考資料、地方自治体等が提供する広報誌、HP等を活用し授業を進める。 ＜事前学習＞テキスト及び地方自治体の広報資料等を参考にテーマについて考察をするとともに、課題等を抽出し公務員として基本的対処法について授業展開する。（予習：週1時間程度） ＜事後学習＞地方自治法、公務員法などの法規を知り接遇研修、アクティブラーニング、ワールドカフェ等をとおしグループ討議が行われるので、簡潔に課題となった内容を要約、確認、資料等の整理を行うこと。（復習：週1時間程度） ＜自治体等視察研修＞市役所等の視察研修を行うが、視察先により日程が前後するので初回の授業で日程及び視察事項を通知する。事前に質問事項等をまとめ、事後に討論した内容について要約しレポートを提出すること。現地集合、現地解散となる。 ②フィードバックの方法等 提出した各種レポートについては講義時にフィードバックを行う。内容によってはグループワークを通してクラス内での共有を図っていく。 ③その他 公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを目指す学生も対象となる。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	1回目終了後から次回の実施単元を示し、その内容についての概要を予習し、Webを通して提出する。また、講義から得たことや今後に生かしていくべきこと、疑問点についても同様に提出する。 授業内では適宜グループワークを通して、理解の共有を図り、そこでも発言や参加態度なども評価の対象としていく。 さらに定期的にレポートを提出させ、理解状況の確認を行うこととする。
	学習成果	本講座での学習計画について把握する。	
	予習復習の内容	シラバスとテキストの目次を読み、学習内容を確認する。	
2回	授業内容	最新の動き①地域社会の未来	
	学習成果	地方における最新の動きを理解し、今後の展望と対策について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地の将来展望を把握する。	
3回	授業内容	最新の動き②自治体DX、大災害に備える	
	学習成果	地方における最新の動きを理解し、今後の展望と対策について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地のDXの状況や防災の状況を把握する。	
4回	授業内容	最新の動き③地域公共交通の再構築、デジタル田園都市国家構想	
	学習成果	地方における最新の動きを理解し、今後の展望と対策について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地のインフラの状況やデジタル化の状況を把握する。	
5回	授業内容	自治って何だろう	
	学習成果	地方自治の概要を理解し、特徴や役割分担について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体の歴史と現状を理解する。	
6回	授業内容	住民と自治体行政の運営	
	学習成果	住民と自治の関わりについて理解し、今後の展望について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、住民自治の概要と現状を理解する。	
7回	授業内容	自治体の種類と合併	
	学習成果	現状を把握し、今後の自治体運営がどうあるべきか検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体の種類や合併について理解する。	
8回	授業内容	議会と長の緊張関係	
	学習成果	地方議会、首長、委員会の内容を理解し、その関わりについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、地方議会の概要を理解する。	
9回	授業内容	自治体の財政・財務	
	学習成果	自治体の財政・財務状況を理解し、今後の展望について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体財政の仕組みを理解する。	
10回	授業内容	自治体と国の関係、自治体の紛争処理	
	学習成果	自治体と国の関係や自治体の紛争処理について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体と国の関係について理解する。	
11回	授業内容	自治体研究	職場見学を行う自治体について研究し、質問事項を事前に提出する。
	学習成果	職場見学に向けた自治体研究を通して、概要や課題を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
12回	授業内容	職場見学	現地調査等に基づき、レポート提出する。
	学習成果	疑問点について質問することで、その内容や展望を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
13回	授業内容	職場見学	
	学習成果	見学して得たこと等を整理し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
14回	授業内容	地方自治の新しい仕組み	1～10回に同じ
	学習成果	時代に合わせて改正を行う地方自治の特性を理解し、今後の展望について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストや参考文献と通して地方自治法の改正点を理解する。	
15回	授業内容	まとめ、最終レポート作成	学習内容を整理し、レポートとして提出する。
	学習成果	本講座を通して学習したことを整理し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	ここまでの授業内容を復習する。	

科目名	人体の構造・機能・疾病				担当者	丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的学習成果	①	医療関係に従事する者に必要な基礎的な医学の知識として体の仕組みを説明できる。										
	②	他の医療関連科目履修の基礎となる基本的な臨床例を挙げることができる。										
	③	他の医療関連科目履修の基礎となる基本的な体の仕組みを説明することができる。										
	④	体の仕組みについて、食・栄養素の視点から説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	体の仕組みの基本という医療の業界における共通認識を学び職業的自立につなげることができる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(2)	体の仕組みの基礎知識を習得した事務員として活躍することができる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(3)	体の仕組み、物質の流れの学習を通して、論理的思考ができるようになる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
授業概要	生命の仕組み、人体の構造と働き、それらの名称やそこで用いられる専門用語を体の各器官別に学び、理解する。医学の基礎として、体の構造や働きを知ると同時にそこで行われる物質の移動、化学変化も概観していく。更に、疾病について、各器官の代表的な臨床例にも触れ、基礎知識の集積に努めていく。カウンターの向こう側、医療分野の一員として従事する者また介護サービスに関わる者に期待される、必要な医学的知識・用語等の意味を理解し活用できるようになる。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	70	講義内容に関連した課題を用意する。文脈・内容・体裁・文字数・構成の工夫から理解度及び取り組みの姿勢を判断し、評価する。								
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	専門的学習効果①②③④で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	志村二三夫 他編	『解剖生理学 人体の構造と機能 第3版』							羊土社			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	志村二三夫 他編	『解剖生理学ノート 人体の構造と機能 改訂第2版』							羊土社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①医療ベーシックユニット履修者必修。教科書で指示するので、予習復習（週に各 2 時間程度）を行い、確実に自身の知識として定着させること。 ②課題レポートについては実施後、適宜解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（医学一般で学ぶこと）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	この授業で学ぶ概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書の前書き部分をよく読み、全体に目を通しておくこと。	
2回	授業内容	細胞と組織	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命の基本単位である細胞の構造を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
3回	授業内容	消化器系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	消化器系の仕組み働きを説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
4回	授業内容	血液・造血器・リンパ系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	血液の成分や作られ方を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
5回	授業内容	循環器系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	循環器系の仕組みや調節方法を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
6回	授業内容	呼吸器系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	呼吸器系の仕組みや機能を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
7回	授業内容	腎・尿路系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	腎臓～尿路系の機能や調節の仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
8回	授業内容	生殖器系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生殖器の機能や仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
9回	授業内容	骨格系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	骨格の構造、機能、名称を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
10回	授業内容	筋肉系と運動機能	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	筋肉や運動の機能、仕組みについて概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
11回	授業内容	内分泌系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	内分泌系の機能・調節の仕組みについて概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
12回	授業内容	神経系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	神経系について機能を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
13回	授業内容	感覚器系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	感覚器系について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
14回	授業内容	免疫系	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	免疫の働きについて概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
15回	授業内容	皮膚組織、体温調節	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	皮膚組織、体温調節について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	

科目名	疾病論				担当者	渡部成子（ワタナベシゲコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等には、各講義の前後に対応する。											
専門的学習成果	①	主な疾病の発症機序が説明できる。										
	②	主な疾病の症状が説明できる。										
	③	主な疾病の予防や早期発見の方法について説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	医療事務職員として、患者さんからの質問や相談に適切に対応できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	医療の現場で遭遇する機会の多い疾病について、症状や発症機序を解説する。また、疾病の発生要因を学び、その知識に基づいた病気の予防方法や早期発見・早期治療について解説を行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	井上泰	『疾病論』	健帛社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解いてみる（予習：2時間程度）。講義終了後に内容を復習する（復習：2時間程度）。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	鉄欠乏性貧血	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	鉄欠乏性貧血を説明できる。	
	予習復習の内容	鉄欠乏性貧血の定義を理解する。	
2回	授業内容	脳血管系疾患	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	脳卒中を説明できる。	
	予習復習の内容	脳血管系疾患の定義を理解する。	
3回	授業内容	高血圧	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	高血圧を説明できる。	
	予習復習の内容	高血圧の定義を理解する。	
4回	授業内容	心筋梗塞	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	心筋梗塞を説明できる。	
	予習復習の内容	心筋梗塞の定義を理解する。	
5回	授業内容	気管支ぜん息	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	気管支ぜん息を説明できる。	
	予習復習の内容	気管支ぜん息の定義を理解する。	
6回	授業内容	肺炎	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	肺炎を説明できる。	
	予習復習の内容	肺炎の定義を理解する。	
7回	授業内容	消化器系癌	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	主に胃癌、大腸癌について説明できる。	
	予習復習の内容	消化器系癌の定義を理解する。	
8回	授業内容	乳癌	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	乳癌を説明できる。	
	予習復習の内容	乳癌の定義を理解する。	
9回	授業内容	腎・泌尿器疾患	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	腎・泌尿器疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	腎・泌尿器疾患の定義を理解する。	
10回	授業内容	骨粗鬆症	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	骨粗鬆症を説明できる。	
	予習復習の内容	骨粗鬆症の定義を理解する。	
11回	授業内容	糖尿病	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	糖尿病を説明できる。	
	予習復習の内容	糖尿病の定義を理解する。	
12回	授業内容	中枢神経疾患	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	中枢神経疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	中枢神経疾患の定義を理解する。	
13回	授業内容	花粉症・アトピー性皮膚炎	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	花粉症・アトピー性皮膚炎を説明できる。	
	予習復習の内容	花粉症・アトピー性皮膚炎の定義を理解する。	
14回	授業内容	生活習慣病・メタボリックシンドローム	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	生活習慣病特にメタボリックシンドロームを説明できる。	
	予習復習の内容	生活習慣病およびメタボリックシンドロームの定義を理解する。	
15回	授業内容	感染症	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	国内外で発生している話題の感染症について説明できる。	
	予習復習の内容	インフルエンザ・新型コロナウイルス・結核・MRSA などについて理解する。	

科目名	医療と検査				担当者	渡部俊彦（ワタナベ トシヒコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等にはメールで対応する											
専門的学習成果	①	検査を行う目的と重要性が説明できる。										
	②	検査に関わる専門用語を説明できる。										
	③	主な疾患で行われる検査項目を挙げられる。										
	④	主な検査方法の概要を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	医療事務職員として、患者さんの質問に適切に回答できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	臨床検査がどのような目的で行われるのかを学ぶ。また、検査結果の意味を理解できる様になるために、検査方法の概要、疾病と検査との関係、検査に関わる専門用語などについても学ぶ。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	井上　肇	『検査・薬理学』	健帛社									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること（予習：2時間程度）。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること（復習：2時間程度）。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	検査の基礎知識	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	生理機能検査と献体検査の違いが説明できる。	
	予習復習の内容	生理機能検査と献体検査の定義を覚える。	
2回	授業内容	一般検査（尿検査・糞便検査、髄液検査・消化液検査など）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	一般検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	一般検査の検査目的を理解する。	
3回	授業内容	血液検査（ヘモグロビン、白血球、血液凝固）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	血液検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	血液を構成する細胞の働きを理解する。	
4回	授業内容	血液検査（血液型、輸血）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	血液検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	ABO式の血液型分類法を理解する。	
5回	授業内容	生化学的検査（蛋白質）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	抗体の役割を説明することができる。	
	予習復習の内容	赤ちゃんを母乳で育てる利点を理解する。	
6回	授業内容	生化学的検査（糖）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	糖から生命エネルギーを作り出す仕組みを説明することができる。	
	予習復習の内容	糖の生体内での役割を理解する。	
7回	授業内容	生化学的検査（糖尿病）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	糖尿病がどのような病気かを説明することができる。	
	予習復習の内容	糖尿病が起こる原因を理解する。	
8回	授業内容	免疫学的検査で使用する基本的反応	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	免疫学的検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	免疫とは何かを理解する。	
9回	授業内容	アレルギー（Ⅰ，Ⅱ，Ⅴ型）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	アレルギー（Ⅰ，Ⅱ，Ⅴ型）によって引き起こされる病状を説明することができる。	
	予習復習の内容	アレルギー（Ⅰ，Ⅱ，Ⅴ型）の発生メカニズムを理解する。	
10回	授業内容	アレルギー（Ⅲ，Ⅳ型）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	アレルギー（Ⅲ，Ⅳ型）によって引き起こされる病状を説明することができる。	
	予習復習の内容	アレルギー（Ⅲ，Ⅳ型）の発生メカニズムを理解する。	
11回	授業内容	感染症検査（ノロウイルス）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	ノロウイルスによる食中毒の予防方法を説明することができる。	
	予習復習の内容	ノロウイルスの感染経路を理解する。	
12回	授業内容	感染症検査（肝炎ウイルス）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	肝炎ウイルス感染を予防する方法を説明することができる。	
	予習復習の内容	肝炎ウイルスの感染経路を理解する。	
13回	授業内容	感染症検査（結核菌）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	結核菌感染を予防する方法を説明することができる。	
	予習復習の内容	結核菌の感染経路を理解する。	
14回	授業内容	遺伝子検査	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	遺伝子検査による診断理論を説明することができる。	
	予習復習の内容	親子鑑定、臓器移植とは何かを理解する。	
15回	授業内容	生理機能検査	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	生理機能検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	心電図とは何かを理解する。	

科目名	医療の制度				担当者	横尾由香（ヨコオユカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	医療保険制度の全体像を理解し、概要を説明できる。										
	②	各種の健康保険制度を理解し、概要を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	医療保険制度の全体像をつかむことにより、幅広い教養を身につけ社会生活に活かすことができる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	各種の健康保険制度を理解することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。（専門的学習成果②に関連）										
授業概要	憲法で規定された「生存権」を保障するための社会保障制度の中で、医療機関は「医療保障制度」に深くかかわっている。国民が一定水準の適正な医療を安心して受けることができるために医療機関の施設・人的基準等の医療提供体制を定めている「医療法」、国民皆保険制度・現物給付制度・フリーアクセスを原則とする「健康保険法」等の医療保険に関する基本的な法律を学習することにより、専門的知識を持った医療従事者になることを目指す。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	15	小テストを３回実施し、正答率に沿って５％ずつ評価を行う。
		筆記試験	75	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		『医療保障制度』（テキスト１）	ソラスト
		『医療関連法規』	ソラスト

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくること。（予習：週２時間程度）事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。（復習：週２時間程度） ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	医療機関の分類、保険医療機関	小テスト①を第３回に実施する
	学習成果	医療機関の分類、保険医療機関の施設基準等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	医療保険とは	
	学習成果	国民皆保険、保険者と被保険者等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	医療保険の分類、保険料	
	学習成果	社保、国保、保険料納付について、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	保険給付	小テスト②を第７回に実施する
	学習成果	療養の給付、入院時食事療養費、入院時生活療養費について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	保険給付	
	学習成果	保険外併用療養費、訪問看護療養費、療養費等について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	保険給付	
	学習成果	高額療養費の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	保険給付率、負担率	
	学習成果	年齢に応じた一部負担金を正しく計算できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	社保の種類	小テスト③を第10回に実施する
	学習成果	協会けんぽ、組合健保等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	国保の種類	
	学習成果	一般国保、組合国保について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
10回	授業内容	後期高齢者医療制度	
	学習成果	後期高齢者医療制度について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	診療報酬請求	第15回に筆記試験を実施する
	学習成果	診療報酬請求の仕組みを理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
12回	授業内容	療養担当規則	
	学習成果	療養担当規則について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
13回	授業内容	療養担当規則	
	学習成果	療養担当規則について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
14回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	
15回	授業内容	筆記試験	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	

科目名	医事・薬事法規			担当者	横尾由香						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	医療保障制度の全体像を理解し、概要を説明できる。										
	②	各種の公費負担医療等に関連する法規を理解し、概要を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	医療保障制度の全体像をつかむことにより、幅広い教養を身につけ社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	各種の公費負担医療に関連する法規を理解することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	憲法25条「生存権」を保障するための社会保障制度の中で、医療機関は医療保障制度に深く関わっている。前期の「医療の制度」で学習した医療保険制度の他に、医療従事者として知っておくべき様々な法律を学習する。医療機関において基本となる「医療法」や、「医療従事者に関する法規」、各種公費負担医療に関する法規、介護保険や労災保険、医薬品医療機器等法などを幅広く学習することにより、より専門的知識をもった医療従事者になることを目指す。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	20	小テストを4回実施し、正答率に沿って5%ずつ評価を行う。
		筆記試験	70	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		『医療保障制度』	ソラスト
		『医療関連法規』	ソラスト

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医療の制度」（1年前期）を履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくること。(予習：週2時間程度) 事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。(復習：週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	医療法	小テスト①を第3回に実施する
	学習成果	医療機関の施設基準や開設許可等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	医療法	
	学習成果	医療機関の施設基準や開設許可等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	医療従事者に関する法規	
	学習成果	医師法等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	予防衛生に関する法規	小テスト②を第5回に実施する
	学習成果	感染症法等による医療について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	保健衛生に関する法規	
	学習成果	精神保健福祉法等による医療について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	薬事関連法規	小テスト③を第7回に実施する
	学習成果	医薬品医療機器等法等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	薬事関連法規	
	学習成果	医薬品医療機器等法等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	医療保険に関する法規	小テスト④を第10回に実施する
	学習成果	健康保険法等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	社会福祉関連法規	
	学習成果	生活保護法等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
10回	授業内容	介護保険法	
	学習成果	介護保険制度について理解し、概要を理解できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	療養担当規則	小テスト⑤を第13回に実施する
	学習成果	療養担当規則について理解し、概要を理解できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
12回	授業内容	その他の医療関連法規	
	学習成果	労災保険法等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
13回	授業内容	その他の医療関連法規	
	学習成果	難病法等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
14回	授業内容	まとめ	これまでの内容すべての筆記試験を15回目に実施する
	学習成果	これまでの知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	
15回	授業内容	筆記試験	
	学習成果	これまでの知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	

科目名	生命科学				担当者	丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的学習成果	①	生命の基本単位を理解し、説明できる。										
	②	ゲノム・遺伝子・発生と分化について各用語の意味と一連の流れを説明できる。										
	③	最新のバイオ技術と生命倫理について考察し、討議できる。										
	④	生命の大切さを理解し、生物多様性の保全について討議できる。										
汎用的学習成果	(1)	生命現象の基本原理という医療の業界における共通認識を学び職業的自立につなげることができる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(2)	生命科学の基礎知識を習得した事務員として活躍することができる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(3)	生命科学の学習を通して、論理的思考ができるようになる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
授業概要	人間を知るうえで非常に重要な基礎知識として、人間を含む生物の生命現象について概観する。ヒトの基礎としての生命の基本単位の細胞やゲノムについて学び、ヒトの生理として発生と分化、がん、感染と免疫をより深く探求し、ヒトと社会に関して、生命倫理や遺伝子技術・クローン技術等について考察する。また、生命科学分野の進歩は目覚ましく、生命に対する倫理観も急速に変化してきているため、ヒトゲノムやバイオテクノロジーの基礎知識について、最新のトピックスも取り入れながら学ぶ。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	70	講義内容に関連した課題を用意する。文脈・内容・体裁・文字数・構成の工夫から理解度及び取り組みの姿勢を判断し、評価する。
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	専門的学習効果①②③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	南雲　保／編著	『やさしい基礎生物学 第３版』	羊土社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	東京大学生命科学教科書編集委員会／編	『現代生命科学　第３版』	羊土社
	石浦章一	『小説みたいに楽しく読める生命科学講義』	羊土社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①医療ベーシックユニット履修者必修。テレビや新聞等で、生命科学分野の話題に注目すること（週２時間程度）。毎回の講義の当該項目について、予め教科書を読んで概要を把握しておくこと（週１時間程度）。課題レポート作成に期間合計15時間程度。 ②課題レポートについては実施後、適宜解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	生命科学と現代社会のかかわり　生物とは何か、起源と進化	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命科学で扱う範囲と生物の定義を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書の冒頭をよく読み、全体にも目を通し、「生命」について考える。	
2回	授業内容	細胞を構成する分子、生命科学	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命の基本単位である細胞について構造と構成分子を説明できる。	
	予習復習の内容	細胞の構造と構成分子の確認を行う。	
3回	授業内容	生命はどのように設計されているか　細胞、遺伝情報	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	遺伝情報の伝達の仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	遺伝子、DNA、転写、翻訳など、用語や概念、仕組みを確認する。	
4回	授業内容	ゲノム情報はどのように発現するのか　ゲノム、エピゲノム	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	ゲノムという概念や発現を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
5回	授業内容	複雑な体はどのようにしてつくられるか　発生、分化	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	ゲノム情報がどのように利用されるか概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
6回	授業内容	脳はどこまでわかったか	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	思考を司る脳について役割の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
7回	授業内容	がんとはどのような現象か	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	がんの基本的な仕組みや治療方法について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
8回	授業内容	食と健康の関係　消化、酵素、エネルギー	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食と物質移動、エネルギーの関係について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
9回	授業内容	ヒトは病原体にどのように備えるか	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	病原体と免疫について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
10回	授業内容	環境と生物はどのようにかかわるか　適応、生態系、生物多様性	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生物が環境の中で適応・進化してきたことを説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
11回	授業内容	生命科学技術はここまで進んだ	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	最先端の生命科学技術について例を挙げられる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
12回	授業内容	生命倫理はどこに向かいつつあるのか	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命倫理について、概念の成立の過程と概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
13回	授業内容	生命や生物の不思議をどのように理解するか 1（生命の不思議）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命の誕生と進化の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
14回	授業内容	生命や生物の不思議をどのように理解するか 2（生命の理解）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命現象の説明方法について、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
15回	授業内容	私たちが今知っておくべき生命科学（まとめ）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命科学の明らかにしてきたこと、今後の課題について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	

科目名	医療事務				担当者	加藤 淳子（カトウ ジュンコ）						
区　分	選択	4	単位	授業回数	30	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	医療保険制度、公費負担制度、後期高齢者医療制度を学び、医療全体の仕組みを理解でき説明できる。										
	②	診療報酬の基礎を学び、診療報酬請求事務を理解し正しく請求ができる。										
	③	請求書である診療報酬明細書を正確に記入する事ができる。										
汎用的学習成果	(1)	日本国民が関わる医療の保険制度の種類や内容を学ぶことで、医療事務員として職業自立につなげる事ができる。（専門的学習成果：①）										
	(2)	診療費の計算は診療項目毎に規則があるためそれぞれの計算ルールを理解することで、正しく診療費の請求ができるようになる。（専門的学習成果：②③）										
授業概要	日本では国民皆保険が出来た事により、国民の誰もが保険で医療を受ける事が出来る。そこで医療保険制度、公費負担医療制度、後期高齢者医療制度の内容を理解する。医療機関は診療にかかった費用を患者様や保険先に請求する。この請求をするためには診療報酬請求事務をしっかり学び、診療録（カルテ）から請求書である診療報酬明細書の作成が正確にできるように、多くの練習問題を解く。当校で目指す医療事務の資格を取得できるように学習する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	ニチイ学館	『医療事務講座　医科テキスト１～４』	ニチイ学館
	ニチイ学館	『医療事務講座　医科スタディブック』	ニチイ学館
	ニチイ学館	『医科　診療報酬点数表ハンドブック』	ニチイ学館

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①メディカルクラークの資格取得に必修。テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備の上受講すること。多くの計算をするため、各自電卓を準備すること。この科目は専門用語が多く、事前にテキストを読み理解を深めておくこと。（予習：週１時間程度）　事後学習としては、毎時間学習した注意点を確認しながら宿題等の課題をこなし、技術を高めておく。（復習：週３時間程度） ②課題については実施後解答・解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	この授業の概要、医療事務とは、医療事務の仕組みについて	課題提出 投薬・注射・初再診料の項目毎に課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	本授業の目的と内容を理解できる。医療事務の業務内容や仕組みについて理解を深める。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。	
3・4回	授業内容	投薬料の算定方法　内服薬・屯服薬・外用薬の違い	
	学習成果	内服・屯服・外用薬の違いを理解し、薬剤料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、薬剤料の算定ができるように問題を解く。	
5・6回	授業内容	投薬料の算定方法　調剤料・処方料、その他加算など	
	学習成果	投薬料の調剤料、処方料など算定する項目を理解し、投薬料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、投薬料の算定ができるように問題を解く。	
7・8回	授業内容	投薬料　総合問題練習	
	学習成果	薬剤料、調剤料、処方料、その他の加算など理解し、投薬料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、投薬料全般の問題を解く。	
9・10回	授業内容	注射料の算定方法　皮下筋肉内注射・静脈内注射	
	学習成果	注射の種類を知り、それぞれの算定方法を理解し注射料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、皮下筋、静脈内注射料の問題を解く。	
11・12回	授業内容	注射料の算定方法　点滴注射などその他の注射、注射料総合問題	
	学習成果	点滴注射、その他の注射を理解し、注射料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、点滴、その他の注射の問題を解く。	
13・14回	授業内容	初診料・再診料の算定方法	
	学習成果	初診料、再診料の違いを理解し、初診、再診料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、初診、再診料の問題を解く。	
15・16回	授業内容	初診料・再診料の加算について	
	学習成果	時間外、休日、深夜などの加算を理解し、初診、再診料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、加算を含む初診、再診料の問題を解く。	
17・18回	授業内容	投薬・注射・初診再診料含むカルテ内容から請求書を作成する	
	学習成果	ここまでの内容を含んだ診療内容を算定し、請求書を作成する事が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、請求書の作成をする。	
19・20回	授業内容	医学管理料、在宅医療の計算方法	課題提出 これまでの内容と医学管理料、処置料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	医学管理料の種類と在宅医療の算定方法を理解し、それぞれの算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、医学管理料、在宅医療の問題を解く。	
21・22回	授業内容	処置料の計算方法	
	学習成果	一般、救急、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科処置の算定方法を理解しそれぞれの算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
23・24回	授業内容	処置料含むカルテ内容から請求書を作成する。	
	学習成果	耳鼻咽喉科、整形外科的処置、ギプス料の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの診療行為を算定し、請求書の作成をする。	
25・26回	授業内容	検査料の計算方法　検体検査について（1）尿糞便等検査、血液学的検査	課題提出 これまでの内容と検査料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	尿糞便等、血液学的検査料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
27・28回	授業内容	検査料の計算方法　検体検査について（2）生化学的検査Ⅰ・Ⅱ、免疫学的検査など	
	学習成果	生科学的検査Ⅰ・Ⅱ、免疫学的検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
29・30回	授業内容	検査料の算定方法　検体検査について（3）微生物学的検査、練習問題	
	学習成果	微生物学的検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、検体検査全体の問題を解く。	

科目名	医療事務演習				担当者	加藤 淳子						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	診療報酬請求事務の問題を解き自分のレベルを確認できる。										
	②	診療報酬の基礎を学び、診療報酬請求事務を理解し正しく請求ができる。										
	③	入院料の基礎を学び、入院の診療報酬明細書を正確に記入する事ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	診療報酬請求事務に必要な知識と技術を確認し自分の苦手箇所を知り、レベルアップに繋げる。(専門的学習成果：①②)										
	(2)	診療費の計算は診療項目毎に規則があるためそれぞれの計算ルールを理解することで、正しく診療費の請求ができるようになる。(専門的学習成果：②③)										
授業概要	前期の医療事務で学んだ知識と技術で、診療報酬明細書の作成を迅速にかつ正確に作成できるように、診療項目の算定方法などを再度確認しながら、多くカルテ問題を解く。これにより医療事務の知識と診療報酬明細書の作成技術の向上ができる。メディカルクラークの資格を取得するための対策として、学生個々のレベルと苦手箇所を把握しかつ個人に合わせた様々な事例のカルテの問題を解く事で、苦手箇所の減少とレベルアップを目指す。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
		前期の医療事務で使用した教材一式	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①1年前期で学習した「医療事務」の続きの学習となるため、授業に必要な教材、電卓の準備を忘れないこと。事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週1時間程度) ②宿題課題を課し翌週に提出する。採点、添削の上返却する。(復習：週1時間程度)

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	前期医療事務の復習　カルテを読み請求書作成　初再診料、投薬料、注射料含む	課題提出 これまでの内容と検査料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	初再診料、投薬料、注射料の請求が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
3・4回	授業内容	前期医療事務の復習　カルテを読み請求書作成　初再診料、投薬料、注射料、処置料含む	
	学習成果	初再診料、投薬料、注射料、処置料の請求が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
5・6回	授業内容	前期医療事務の復習　カルテを読み請求書作成　初再診、投薬、注射、処置、検体検査含む	
	学習成果	検体検査料を含む請求が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
7・8回	授業内容	検査料の計算方法　生体検査について（1）呼吸循環機能検査、超音波検査など	
	学習成果	呼吸循環機能、超音波検査の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
9・10回	授業内容	検査料の計算方法　生体検査について（2）脳波検査、耳鼻咽喉科学的検査など	
	学習成果	脳波検査、耳鼻咽喉科学的検査の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
11・12回	授業内容	検査料の計算方法　生体検査について（3）内視鏡検査	
	学習成果	内視鏡検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、内視鏡検査を含む問題を解く。	
13・14回	授業内容	手術料の計算方法　手術料について	課題提出 これまでの内容と検査料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	手術料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
15・16回	授業内容	手術料の計算方法　麻酔料、輸血料について	
	学習成果	麻酔料、輸血料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手術料含む問題を解く。	
17・18回	授業内容	手術料を含むカルテ内容から請求書を作成する	
	学習成果	ここまでの内容を含んだ診療内容を算定し、請求書を作成する事が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、請求書の作成をする。	
19・20回	授業内容	画像診断料の計算方法（1）　エックス線診断料について	
	学習成果	単純撮影、造影剤使用撮影、特殊撮影などの算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、画像診断料の問題を解く。	
21・22回	授業内容	画像診断料の計算方法（2）　コンピューター断層撮影料について	
	学習成果	CT撮影、MRI撮影の算定方法を理解し、算定できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コンピューター断層撮影料の問題を解く。	
23・24回	授業内容	入院料の計算方法	課題提出 これまでの内容と検査料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	入院料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院料の問題を解く。	
25・26回	授業内容	入院時食事療養費について	
	学習成果	入院時食事療養費の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院料と食事療養費の問題を解く。	
27・28回	授業内容	総合問題練習（1）　外来カルテ問題	
	学習成果	外来カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、総合問題を解く。	
29・30回	授業内容	総合問題練習（2）　入院カルテ問題	
	学習成果	入院カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、総合問題を解く。	

科目名	医事コンピュータ（レセコン）				担当者	加藤 淳子（カトウ ジュンコ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける											
専門的学習成果	①	医事コンピュータの操作ができる。										
	②	外来診療録の入力ができる。										
	③	入院診療録の入力ができる。										
汎用的学習成果	(1)	医事コンピュータの操作技術の習得により、専門的技能を活用した業務に取り組むことができる（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	外来診療録、入院診療録の入力技術の習得により、専門的技能を活用した業務に取り組むことができる（専門的学習成果②③に関連）										
授業概要	初めに医事コンピュータの役割りを理解する。次に「カルテ例題集」を使用し、診療所、病院、様々な診療科や年齢、傷病名の診療内容を「診療報酬点数早見表」で確認しながら正確に入力できるようにする。様々な傷病名に対する検査内容や治療内容についても、できる限り理解しながら入力できるように指導する。各自入力したレセプトを適時出力させ、正確にチェックすることにより実践に役立つまでの力を身につけることができるようにする。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	10	課題を２回提出させ、５％ずつ内容に沿って評価を行う。
		入力試験	80	第15回目の授業において入力試験を行い、正解率に沿って評価を行う。
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		『カルテ例題集』	ケアアンドコミュニケーション
		『スタディー２』	ニチイ

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①診療報酬の内容をしっかり身に付けておくこと。「カルテ例題集」を活用した入力により授業を進める。事前学習としては、入力内容について不明な点をあらかじめ調べておくこと、事後学習としては授業中に習得した入力上の注意点を各自ノート等にまとめておくこと。（週１時間程度） ②随時、入力レベルのチェックを行い、その都度解説をしていく。 ③飲食物持ち込み厳禁。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	基本操作、外来カルテ：初診料、再診料、投薬	第９回に課題を提出させる。
	学習成果	基本的な操作方法を習得し、簡単な入力ができる。	
	予習復習の内容	基本操作の復習をする。	
2回	授業内容	外来カルテ：医学管理、注射	
	学習成果	医学管理、注射まで入力できる。	
	予習復習の内容	操作方法の復習をする。	
3回	授業内容	外来カルテ：在宅医療、処置	
	学習成果	在宅医療、処置まで入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
4回	授業内容	外来カルテ：手術、麻酔	
	学習成果	手術、麻酔まで入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
5回	授業内容	外来カルテ：検体検査	
	学習成果	検体検査まで入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
6回	授業内容	外来カルテ：病理診断	
	学習成果	病理診断まで入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
7回	授業内容	外来カルテ：生体検査	
	学習成果	生体検査まで入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
8回	授業内容	外来カルテ：画像診断	
	学習成果	画像診断まで入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
9回	授業内容	外来総合演習	
	学習成果	さまざまな外来カルテを入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
10回	授業内容	入院カルテ	第13回に課題を提出させる。
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
11回	授業内容	入院カルテ	
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
12回	授業内容	入院カルテ	
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
13回	授業内容	入院カルテ	
	学習成果	さまざまな入院カルテを入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
14回	授業内容	総合演習	第15回に入力試験を行う。
	学習成果	学習内容を総復習することができる。	
	予習復習の内容	総復習をしておく。	
15回	授業内容	まとめ（入力試験）	
	学習成果	学習内容を総復習することができる。	
	予習復習の内容	総復習をしておく。	

科目名	医療事務特別講座Ⅰ			担当者	加藤 淳子（カトウ ジュンコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	受付窓口での様々な問題を想定し、その対応を適切に実践できる。										
	②	医療保険制度、高齢者医療、公費負担医療等の知識の確認ができる。										
	③	診療報酬請求事務の請求書作成と点検ができる。										
	④	資格取得に向けて、検定試験の出題範囲を理解し、検定試験の対策方法を実践する。										
汎用的学習成果	(1)	医療機関の受付窓口で行われる、様々な事例を通して医療事務の判断力、態度、説明性など身に付く。（専門的学習成果：①）										
	(2)	国民が関わる様々な保険制度を理解できる。（専門的学習成果：②）										
	(3)	カルテ内容から請求書作成と、点検作業ができる。（専門的学習成果：③④）										
	(4)	目標とする資格取得に向けて、傾向を把握し対策を行う。（専門的学習成果：①②③④）										
授業概要	様々な患者様が来院される医療機関での窓口対応では、常に臨機応変の対応が必要とされるため、受付担当者としての判断力、言葉遣い、態度、表現、説得性が求められる。窓口で想定される事例に沿って問題点を的確に把握し、常に相手の立場に立つ技術を身につける。医療保険制度、高齢者医療、公費負担医療等を理解する事で、窓口会計の計算が確実に実践できる。医療事務の資格の取得を目標に多くの過去問題を練習し資格取得に繋げることができる。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③④で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	ニチイ学館	『技能審査問題集　医科　問題編』	ニチイ学館
	ニチイ学館	『技能審査問題集　医科　解答編』	ニチイ学館
		前期科目医療事務で使用した教材一式	

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①資格取得を目標としているため、事前に該当ポイントを把握した上で授業に臨むこと。（予習：週1時間程度必要） ②宿題課題を課し翌週に提出する。採点、添削の上返却する。（復習：週3時間程度）

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	外来カルテ問題（1）　時間外等、幼児加算等を含む診療内容	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	時間外、幼児加算等を含む外来カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。	
2回	授業内容	外来カルテ問題（2）　初再診から検査料を含む診療内容	
	学習成果	初再診から検査を含む外来カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。	
3回	授業内容	外来カルテ問題（3）　初再診から手術、画像診断料を含む診療内容	
	学習成果	初再診から手術、画像診断を含む外来カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。	
4回	授業内容	入院カルテ問題（1）　入院料、手術、麻酔料を含む診療内容	
	学習成果	入院料、手術、麻酔を含む入院カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院カルテの請求書を作成する。	
5回	授業内容	患者対応問題（1）診察券不備の患者様、薬をなくした患者様対応など	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	急な来院で診察券不備の患者様、処方した薬をなくした患者の対応が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例を対応する。	
6回	授業内容	患者対応問題（2）健康診断後に診察する患者様、待たされて苦情を言う患者様対応など	
	学習成果	健康診断後に診察する患者様、待たされて苦情を言う患者様への対応が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例を対応する。	
7回	授業内容	患者対応問題（3）会計で金額不足の患者様、保険証が変更になる患者様対応など	
	学習成果	金額不足の患者様、保険証が変更になる患者様への対応が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例を対応する。	
8回	授業内容	学科問題（1）　医療保険制度、公費負担制度、入院料、投薬、処置などの算定	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	医療保険制度、公費負担制度、入院料、投薬、処置の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
9回	授業内容	学科問題（2）　療養担当規則、初再診料、医学管理、検査などの算定	
	学習成果	療養担当規則、初再診料、医学管理、検査の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
10回	授業内容	学科問題（3）　介護保険制度、窓口徴収額、注射などの算定	
	学習成果	介護保険制度、窓口徴収額、注射の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
11回	授業内容	学科問題（4）　法別番号、健康保険法、手術、麻酔などの算定	
	学習成果	法別番号、健康保険法、手術、麻酔の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
12回	授業内容	実技問題　レセプト点検（1）外来問題２問	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
13回	授業内容	実技問題　レセプト点検（2）外来問題１問、入院問題１問	
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
14回	授業内容	実技問題　レセプト点検（3）外来問題３問	
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	
15回	授業内容	実技問題　レセプト点検（1）外来問題３問、入院問題１問	
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。	

科目名	医事業務				担当者	横尾由香（ヨコオユカ）						
区　分	選択	4	単位	授業回数	30	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	医師事務作業補助者誕生の経緯を理解し、その必要性を説明することができる。										
	②	医療機関における個人情報の取り扱いや電子カルテについての注意事項について、述べることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医師事務作業補助者誕生の経緯、その必要性を理解し、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	医師事務作業補助者に必要な知識を習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	医師事務作業補助者が誕生した背景として、医師不足や医師の過重労働という極めて深刻な現状がある。その現状をしっかり理解し、医師事務作業補助者の技能を習得することにより医師の業務負担軽減につながる医療従事者になることを目指す。また、医師事務作業補助者に必要な個人情報の適切な取り扱い、電子カルテシステムについて、医療機関の安全管理、院内感染予防等について学習し、「医師事務作業補助者技能認定試験」合格レベルを目指す。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート	20	レポートを提出させ、内容に沿って評価を行う。
		小テスト		
		筆記試験	70	第15回目と第30回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
		『医師事務作業補助者養成講座　テキスト１・２』	ソラスト
		『医療関連法規』	ソラスト
		『医学入門』	ソラスト
		『医療保障制度』（テキスト１）	ソラスト
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医師事務補助ユニット」履修者必修。医療の制度、医事薬事法規も履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくること。(予習：週２時間程度) 事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。(復習：週２時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。 レポートに対するフィードバックは、添削を行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	医師事務作業補助者とは	第６回にレポートを提出する
	学習成果	医師事務作業補助者の誕生経緯を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	医師事務作業補助者とは	
	学習成果	医師事務作業補助者の業務範囲を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	医師事務作業補助者とは	
	学習成果	医師事務作業補助者の業務範囲を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	個人情報保護	
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	個人情報保護	
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	学科レポート	
	学習成果	第一・二・三部の知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	レポートの振り返りをする。	
7回	授業内容	電子カルテシステム	第11回にレポートを提出する
	学習成果	電子カルテシステムの概要を理解し、カルテ等の代行入力に活かすことができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	電子カルテシステム	
	学習成果	電子カルテシステムの概要を理解し、カルテ等の代行入力に活かすことができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	医療機関の安全管理	
	学習成果	医療機関の安全管理について理解し、その重要性を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
10回	授業内容	医療機関の安全管理	
	学習成果	医療機関の安全管理について理解し、その重要性を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	学科レポート	
	学習成果	第四・五部の知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	レポートの振り返りをする。	
12回	授業内容	院内感染予防	第19回にレポートを提出する
	学習成果	院内感染について理解し、予防の重要性を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
13回	授業内容	院内感染予防	
	学習成果	院内感染について理解し、予防の重要性を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
14回	授業内容	医療知識（一般的な医療内容）	
	学習成果	診療録の構成を理解し、重要性を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
15回	授業内容	医療知識（医療用語）	
	学習成果	診療録や処方箋に記載される用語について、調べ方等を学習する。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	

	授業計画		学習成果の評価
16回	授業内容	薬の基本知識	
	学習成果	薬の基本知識について理解し、重要性を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
17回	授業内容	薬の基本知識	
	学習成果	薬の基本知識について理解し、重要性を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
18回	授業内容	薬の基本知識	
	学習成果	薬の基本知識について理解し、重要性を説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
19回	授業内容	学科レポート	
	学習成果	第六・七部・薬の基本知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	レポートの振り返りをする。	
20回	授業内容	診療録の記載について	第24回にレポートを提出する
	学習成果	診療録の役割や構成を学び、文書作成に役立てることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
21回	授業内容	診療録の記載について	
	学習成果	診療録の役割や構成を学び、文書作成に役立てることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
22回	授業内容	処方せんの記載について	
	学習成果	処方せんについて学び、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
23回	授業内容	処方せんの記載について	
	学習成果	処方せんについて学び、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
24回	授業内容	学科レポート	
	学習成果	診療録・処方箋の知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	レポートの振り返りをする。	
25回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	第30回に筆記試験を実施する
	学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
26回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
27回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
28回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
29回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」学科問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験へ向けた知識を習得することができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、過去問の振り返り。	
30回	授業内容	筆記試験	
	学習成果	１年間の知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	１年間の総復習をする。	

科目名	医師事務補助特別講座Ⅰ				担当者	横尾由香（ヨコオユカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	様々な医療文書の役割、内容について説明することができる。										
	②	カルテを読み取り、各種の医療文書を代行作成することができる。										
汎用的学習成果	(1)	医療文書の役割を学習することにより、正確に文書の代行作成を行うことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	医師事務作業補助者に必要な医療文書の代行作成技術を習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	医療保険制度や公費負担医療等の概要を学習したうえで各種文書の利用目的を正確に理解することと、病名から必要な検査や治療を確認しながらカルテを丁寧に読み込む力を身に付けることにより、医療現場において迅速かつ正確に診療録の代行入力や医療文書作成などができる医師事務作業補助者になることを目指す。また、各種の医療文書を的確に作成できるようになることにより、「医師事務作業補助者技能認定試験」合格レベルを目指す。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	20	作成した医療文書を随時提出させ、内容に沿って評価を行う。
		筆記試験	70	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		『医師事務作業補助者養成講座　テキスト１・２』	ソラスト
		『医療関連法規』	ソラスト
		『医学入門』	ソラスト
		『医療保障制度』（テキスト１）	ソラスト
		『医師事務作業補助者　検定試験問題集』	ソラスト
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医師事務補助ユニット」履修者必修。 医療の制度、医事薬事法規も履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくること。（予習：週２時間程度）事後学習としては授業中に行う練習問題の復習をしっかりすること。（復習：週２時間程度） ②授業中に行う練習問題に対して、その場でチェック・解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	診療録の記載について	随時、作成した文書を提出させ、内容により評価を行う。また、第15回に筆記試験を行う。
	学習成果	診療録の役割や構成を学び、文書作成に役立てることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	処方せんの記載について	
	学習成果	処方せんについて学び、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	入院診療計画書、一般診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	入院・手術診断書、傷害保険診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	死亡診断書・死体検案書、出生証明書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	おむつ使用証明書、傷病手当金支給申請書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	出産手当金支給申請書、診療情報提供書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	医療要否意見書、自賠責保険診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	休業（補償）給付支給申請書、主治医意見書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
10回	授業内容	退院時要約、健康診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	出産育児一時金支給申請書、臨床調査個人票	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
12回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」実技問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。	
13回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」実技問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。	
14回	授業内容	「医師事務作業補助者検定試験」実技問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。	
15回	授業内容	筆記試験	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	全体の総復習をする。	

科目名	登録販売者資格特別講座Ⅰ				担当者	加藤（カトウ）　淳子（ジュンコ）・渡部（ワタナベ）　成子（シゲコ）・渡部（ワタナベ）　俊彦（トシヒコ）・丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	学内教員の丸山が窓口となって、非常勤講師陣への連絡や質問に対応する。											
専門的学習成果	①	薬を服用する目的と重要性を説明できる。										
	②	薬に関わる専門用語を説明できる。										
	③	主な疾患の治療に使用される薬を挙げられる。										
	④	薬に関する法律・制度の概要を説明できる。										
	⑤	医薬品の使用方法を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	登録販売者として、医薬品を適切に提供することができる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(2)	登録販売者として、患者の質問に適切に回答できる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
授業概要	登録販売者の業務を遂行するために必要とされる知識を学ぶ。また、学んだ知識が登録販売者試験に活用できるように演習問題を使った学習を行う。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	100	講義で説明した知識に関する試験を行い、知識を理解度・定着度の評価を行う。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	藤澤節子	『完全攻略　医薬品　登録販売者試験合格テキスト』	中央法規									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義する内容を教科書で確認すること（予習：1時間程度）。 また、講義内容を理解できているかを練習問題を使って確認すること（復習：1時間程度）。 ②解説を見ても解けない練習問題があれば質問すること。質問についての回答は、講義中またはメールを用いて行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	薬の作用を知るための理論を学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	医薬品の薬理作用を説明できる。	
	予習復習の内容	代表的な医薬品の薬理作用に関する練習問題を解く。	
2回	授業内容	医薬品が人体に与える影響を学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	医薬品の副作用を説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の副作用に関する練習問題を解く。	
3回	授業内容	主な医薬品の効果や作用機序を学ぶ（1）。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	主な医薬品の効果や作用機序を説明することができる。	
	予習復習の内容	主な医薬品の効果や作用機序に関する練習問題を解く。	
4回	授業内容	主な医薬品の効果や作用機序を学ぶ（2）。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	主な医薬品の効果や作用機序を説明することができる。	
	予習復習の内容	主な医薬品の効果や作用機序に関する練習問題を解く。	
5回	授業内容	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等について学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等の効果や作用機序を説明することができる。	
	予習復習の内容	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等に関する練習問題を解く。	
6回	授業内容	薬事関係法規、制度について学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	薬事関係法規や制度について説明することができる。	
	予習復習の内容	薬事関係法規や制度に関する練習問題を解く。	
7回	授業内容	医薬品の適正使用、安全対策について学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	医薬品を正しく、安全に使用する方法を説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品を正しく、安全に使用する方法に関する練習問題を解く。	
8回	授業内容	登録販売者試験の過去問を使い、1～7回目の内容についての復習とまとめを行う。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	登録販売者試験の過去問を解くことができる。	
	予習復習の内容	登録販売者試験の過去問を解く。	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	登録販売者資格特別講座Ⅱ				担当者	丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）・加藤（カトウ）　淳子（ジュンコ）・渡部（ワタナベ）　成子（シゲコ）・渡部（ワタナベ）　俊彦（トシヒコ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法												
専門的学習成果	①	薬を服用する目的と重要性を説明できる。										
	②	薬に関わる専門用語を説明できる。										
	③	主な疾患の治療に使用される薬を挙げられる。										
	④	薬に関する法律・制度の概要を説明できる。										
	⑤	医薬品の使用方法を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	登録販売者として、医薬品を適切に提供することができる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(2)	登録販売者として、患者さんの質問に適切に回答できる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
授業概要	登録販売者として医薬品の販売業務を遂行するためには、使用者が安全かつ適切に医薬品を使用するために必要とされる知識（医薬品に共通する特性と基本的な知識、人体の働きと医薬品、主な医薬品とその作用、薬事関係法規・制度、医薬品の適正使用・安全対策）を身につける必要があります。この授業では、登録販売者に必要な知識を学び、学んだ知識を登録販売者試験に活用できるように、練習問題を使った演習を授業の中で行います。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	藤澤節子	『完全攻略　医薬品　登録販売者試験合格テキスト』	中央法規

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義する内容を教科書で確認してください（予習：2時間程度）。 また、講義内容を理解できているかを練習問題を使って確認してください（復習：2時間程度）。 ②解説を見ても解けない練習問題があれば質問してください。質問についての回答は、講義中またはメールを用いて行います。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	医薬品に共通する特性と基本的な知識を学ぶ	小テストを実施し、理解度を評価します
	学習成果	医薬品に共通する特性と基本的な知識を説明できる	
	予習復習の内容	医薬品に共通する特性と基本的な知識に関する練習問題を解く	
2回	授業内容	人体の働きと医薬品を学ぶ	小テストを実施し、理解度を評価します
	学習成果	人体の働きと医薬品を説明できる	
	予習復習の内容	人体の働きと医薬品に関する練習問題を解く	
3回	授業内容	主な医薬品とその作用を学ぶ	小テストを実施し、理解度を評価します
	学習成果	主な医薬品とその作用を説明できる	
	予習復習の内容	主な医薬品とその作用に関する練習問題を解く	
4回	授業内容	主な医薬品とその作用を学ぶ	小テストを実施し、理解度を評価します
	学習成果	主な医薬品とその作用を説明できる	
	予習復習の内容	主な医薬品とその作用に関する練習問題を解く	
5回	授業内容	主な医薬品とその作用を学ぶ	小テストを実施し、理解度を評価します
	学習成果	主な医薬品とその作用を説明できる	
	予習復習の内容	主な医薬品とその作用に関する練習問題を解く	
6回	授業内容	主な医薬品とその作用を学ぶ	小テストを実施し、理解度を評価します
	学習成果	主な医薬品とその作用を説明できる	
	予習復習の内容	主な医薬品とその作用に関する練習問題を解く	
7回	授業内容	薬事関係法規・制度を学ぶ	小テストを実施し、理解度を評価します
	学習成果	薬事関係法規・制度を説明できる	
	予習復習の内容	薬事関係法規・制度に関する練習問題を解く	
8回	授業内容	医薬品の適正使用・安全対策を学ぶ	小テストを実施し、理解度を評価します
	学習成果	医薬品の適正使用・安全対策を説明できる	
	予習復習の内容	医薬品の適正使用・安全対策に関する練習問題を解く	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	ファッションビジネス				担当者	江戸（エド）純美（アツミ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。
専門的学習成果	①	ファッション業界について客観的に理解でき、その流れを説明できる。
	②	ファッションビジネスの歴史について理解でき、その概要を説明できる。
	③	ファッション業界にかかわる者としての使命と責任について理解でき、概要を説明できる。
	④	ファッション業界の課題を理解し、改善のための指針を提示できる。
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けたファッションビジネスに関する学習を通じて、ファッションに関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を修得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)
	(2)	ファッションマップの作成とプレゼンテーションを通じて、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①③④に関連)
	(3)	ファッションマップの作成とプレゼンテーションを通じて、修得した知識や技能を活用し課題解決に向けた行動ができる。(専門的学習成果①③④に関連)
授業概要		ファッション業界を、消費者側と企業側の両面からとらえ、マーケティング、マーチャンダイジング、ディストリビューション、ロジスティクス、小売り産業、VMD、消費者心理、計数管理等、多方面にわたって基礎知識を学ぶ。また、雑誌から写真の切り貼りを行うことで、マーケティングの分類方法を学び、ファッションを広い角度から理解する。同時に、「ファッションビジネス能力検定・3級」のファッションビジネス知識分野の対策を行い、プリント学習によって検定試験の合格を目指す。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	20	各自でショップリサーチを行い、期日までに提出する。各項目の理解の程度および完成度で評価を行う。
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。2～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。
		課題	50	ファッションマップ作成を通して、様々なファッションイメージの分類を行う。第15回目にプレゼンテーションを行い、理解の程度および完成度で評価を行う。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 （2）は専門的学習成果①③④により評価を行う。 （3）は専門的学習成果①③④により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本ファッション教育振興協会	『ファッションビジネス〔Ⅰ〕改訂版』	
	日本ファッション教育振興協会	『ファッションビジネス用語辞典　改訂第3版』	

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで（計15時間）授業に臨み、ファッションビジネス能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく（計30時間）。また、小テストと課題の作成には十分な準備を行い（計15時間）理解の定着に努めること。課題の作成に必要な雑誌、ハサミ、ノリは各自で準備すること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。また、学習プリントも同様に解説を行う。レポートと課題は、授業の中で講評を行い、返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ファッションビジネスの概要、定義、特性、市場調査の基礎とショップリサーチの実践	小テスト（第1回～第4回までの内容） ・レポート提出
	学習成果	ファッションについて、客観的に考えることができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。リサーチしたい店舗をあらかじめ準備しておくこと。	
2回	授業内容	ファッション消費と消費者行動、ファッション表現	
	学習成果	消費者に関して、客観的に考えることができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
3回	授業内容	アパレル産業の概要	
	学習成果	商品の流れについて理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
4回	授業内容	小売り産業の概要	
	学習成果	店舗の特徴について理解できる。	
	予習復習の内容	普段から様々な店舗を見学しておくこと。	
5回	授業内容	ファッションマーケティングの基礎知識	小テスト（第5回～第8回までの内容）
	学習成果	マーケティングの必要性が理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
6回	授業内容	ファッションマーチャンダイジングの基礎知識	
	学習成果	商品の開発、企画の手順について理解できる。売り場の構成しくみやVMDの役割について理解できる。	
	予習復習の内容	人気商品の特徴など、人気の理由について考えてみること。普段から様々な店舗を見学しておくこと。	
7回	授業内容	ファッション流通、流通業務と小売企業の仕組み	
	学習成果	小売店の業種、業態について理解できる。	
	予習復習の内容	小売店の種類について確認しておくこと。	
8回	授業内容	会社の組織、計数管理の基礎知識	
	学習成果	電卓を使用し、店舗運営で必要な計算ができる。	
	予習復習の内容	会社の役職等について確認しておくこと。	
9回	授業内容	ファッションの歴史	小テスト（第9回～第10回までの内容）
	学習成果	衣服とデザインの歴史について理解し、概要を説明できる。デザイン画とその他の名称についても理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。人体のプロポーションについて、確認しておくこと。	
10回	授業内容	ファッションコーディネーションの基礎知識と企業の商品提案	
	学習成果	企業のスタイリングと個人のコーディネートの違いが理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
11回	授業内容	ファッションイメージ分類①　写真収集とグループ分け	課題の作成。 ファッションイメージ別、オケージョン別のマップ作成。
	学習成果	写真からイメージ分類を判断理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集（80体以上）を予めしておくこと。	
12回	授業内容	ファッションイメージ分類②　グループ分けと貼付	
	学習成果	写真からイメージ分類を判断・理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集（80体以上）を予めしておくこと。	
13回	授業内容	オケージョンとスタイリング分類	
	学習成果	写真からオケージョン分類を判断・理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集（80体以上）を予めしておくこと。	
14回	授業内容	課題作成の仕上げとプレゼンテーション、講評	
	学習成果	課題作品によって自己表現ができる。	
	予習復習の内容	発表内容を予め準備しておくこと。	
15回	授業内容	検定対策授業　過去問と解説	
	学習成果	検定試験に向けての意識付けとスキルアップができる。	
	予習復習の内容	フィードバックされた内容を確認すること。	

科目名	ファッションアドバイザー				担当者	江戸（エド）純美（アツミ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。	
専門的学習成果	①	ファッション販売にかかわる接客技術、販売知識、消費者心理について理解し、実践することができる。
	②	ファッションビジネスに関する基礎知識を理解し、概要を説明できる。
	③	店舗運営に関する基礎知識と、営業中のオペレーションの流れを理解し、概要を説明できる。
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けたファッション販売に関する学習を通して、販売員の社会的地位向上に取り組むことができる。（専門的学習成果①②③に関連）
	(2)	多様化する消費者ニーズを把握し、課題解決の方法を提示できる。（専門的学習成果①③に関連）
	(3)	ファッション業界が社会に与える影響を理解し、消費者への適切な提案ができる。（専門的学習成果①③に関連）
授業概要	ファッションビジネスの基礎知識を学び、プロ販売員としての自覚を養うことを目的とする。接客・販売はもちろんのこと、店舗運営や情報収集、計数管理などの様々な業務の流れについても、事例をあげながら解説を行う。同時に、ファッション販売能力検定３級Ａ分野の対策授業であり、小テストや過去問題によるプリント学習を行い、検定の合格を目指す。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	課題	40	ファッションマップの作成を通して、様々なシルエットやアイテムの分類を行う。理解の程度と完成度で評価する。
		レポート	20	各自でショップでの接客リサーチを行い、レポートにまとめ期日までに提出する。各項目の理解の程度および完成度で評価を行う。
		小テスト	40	４回実施し、各回10%を配点する。２～４回分の授業内容について、理解の程度を評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③で評価を行う。 （2）は専門的学習成果①②で評価を行う。 （3）は専門的学習成果①③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本ファッション教育振興協会	『ファッション販売３』	
	日本ファッション教育振興協会	『ファッションビジネス用語辞典　改訂第３版』	

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで（計15時間）授業に臨み、ファッション販売能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく（計30時間）。また、小テストとプリント学習には十分な準備を行い（計15時間）理解の定着に努めること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。また、学習プリントも同様に解説を行う。課題は第12回に講評を行い授業内で返却を行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ファッションビジネスの概要について	小テスト 第３回に実施。 レポート・接客を受けてリサーチすること。期日までに提出。
	学習成果	ファッション業界を企業側の目線で考えることができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
2回	授業内容	ファッション専門用語解説①基礎用語について	
	学習成果	ファッション業界で使用する専門用語を理解し、使うことができる。	
	予習復習の内容	配布された資料に目を通しておくこと。	
3回	授業内容	接客の基本とコンサルティングセールス	
	学習成果	購買心理を理解し、接客の基本ステップを実践できる。	
	予習復習の内容	日頃から様々なサービスを受けてみること。	
4回	授業内容	販売スタッフの業務①	小テスト（４～６回の内容）第６回に実施。
	学習成果	開店から閉店までの仕事の流れを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
5回	授業内容	販売スタッフの業務②	
	学習成果	営業中の業務について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
6回	授業内容	販売スタッフの業務③　備品、商品管理、店舗計数知識	
	学習成果	業務に関わる備品商品管理について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
7回	授業内容	店舗演出について	小テスト（７～８回の内容）第８回に実施。
	学習成果	店舗レイアウトや商品の見せ方について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
8回	授業内容	検定試験対策　過去問題	
	学習成果	検定試験に向けての意識付けとスキルアップができる。	
	予習復習の内容	フィードバックされた内容を確認すること。	
9回	授業内容	課題作成①　シルエットの分類	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	シルエットについて理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
10回	授業内容	課題作成②	
	学習成果	シルエットについて理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
11回	授業内容	課題作成③　アイテムのマップ作成　ブラウス、シャツ	
	学習成果	服の名称について理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
12回	授業内容	課題プレゼンテーション講評　課題作成④　スカート、パンツ	
	学習成果	服の名称について理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
13回	授業内容	課題作成⑤　ニット、コート	
	学習成果	服の名称について理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
14回	授業内容	検定試験対策②店舗演出に関する過去問題	
	学習成果	検定試験に対する意識を持ち、合格を目指すことができる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通し、過去問題は繰り返しチャレンジすること。	
15回	授業内容	検定試験対策③ファッション販売業務に関する過去問題	
	学習成果	検定試験に対する意識を持ち、合格を目指すことができる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通し、過去問題は繰り返しチャレンジすること。	

科目名	カラーコーディネート			担当者	三塚（ミツヅカ） 由美子（ユミコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	色彩の基礎を理解し、概要を説明することができる。										
	②	用途や目的に合わせた色を選択し、提案をすることができる。										
	③	色彩の知識を習得し、デザインなどの現場で活用することができる。										
	④	配色の基礎を理解し、適切な配色提案をすることができる。										
	⑤	色の心理的な効果を理解し、概要を説明することができる。										
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けた色彩の学習を通じて、色彩に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識・技術を習得し、活用することができる。（専門的学習成果①～⑤に関連）										
	(2)	カード演習を通じて、目的に応じた色彩の選択・提案を行うことができる。（専門的学習成果②③④に関連）										
	(3)	色彩心理を理解し、生活に密着した安全で安心な色の使用方法を提案できる。（専門的学習成果①②⑤に関連）										
授業概要	色彩の基礎知識を学び、色の様々な効果や機能を理解する。安全な生活やデザインに色彩の知識を生かすため、配色カードによる演習を行い、目的に合わせた色の使い方を身に付ける。色彩能力検定３級の検定対策授業であるため、配色演習の他、プリント学習、過去問題による学習を中心に行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	40	試験期間中に期末試験を行う。全15回分の講義内容の理解について評価を行う。
		小テスト	20	４回実施し、各５％の配点とする。
		平常点	10	受講の様子等を考慮する。
		課題	30	テキスト中のカラーサークルと配色演習を完成させることで評価を行う。各３％の配点とする。時間内に終わらない場合、宿題とする。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 （2）は専門的学習成果②③④で評価を行う。 （3）は専門的学習成果①②⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	色彩検定協会	『色彩検定公式テキスト３級編』　中古品の使用不可	色彩検定協会
	日本色研事業㈱	『新配色カード199a』	日本色研事業

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①色彩能力検定３級の受験対策として開講する。テキストと配色カードの他、ハサミとノリを各自で準備すること。配色演習によって評価を行う回があるため、忘れ物がある場合には遅れをとることになるので注意が必要。 事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握したうえで（計15時間）授業に臨み、色彩能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく（計30時間）。また、プリント学習には十分な準備を行い（計15時間）理解の定着に努めること。 ②配色演習については、その都度詳しく説明を行うので、指示に従うこと。学習プリントや過去問題については、広義の中で解説し返却する。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	色の三属性、光と色について	小テスト ２回目に実施
	学習成果	色の三属性と光の特性について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通しておくこと。	
2回	授業内容	PCCSヒュートーンシステムと配色カードの使い方、プリント学習、小テスト	小テスト
	学習成果	ヒュートーンシステムを理解し、配色カードを使うことができる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通しておくこと。配色カードの記号番号を覚えておくこと。	
3回	授業内容	色が見える仕組み、眼球の構造と脳への伝達について、カラーサークル作成	カラーサークル作成
	学習成果	色が見える仕組みについて理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
4回	授業内容	色彩心理効果、色の表示方法、プリント学習、カラーサークル作成	カラーサークル作成
	学習成果	色の心理効果と三属性の関係を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
5回	授業内容	24色相名、等色相面、色立体について、プリント学習、カラーサークル作成	カラーサークル作成
	学習成果	色の配置、色の並び順序を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	カラーサークルは５回目までに完成させること。	
6回	授業内容	色の対比と効果①、明度対比、色相対比、配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	色の対比効果を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
7回	授業内容	色の対比と効果②、彩度対比、補色対比、配色演習、小テスト	小テスト
	学習成果	色の対比効果を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
8回	授業内容	色の同化効果、その他の色彩効果、配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	様々な色彩効果について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
9回	授業内容	配色について、色相配色①同一色相配色、隣接色相配色、類似色相配色、配色演習	配色演習
	学習成果	色相配色の方法について理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
10回	授業内容	色相配色②中差色相配色、対照色相配色、補色色相配色、配色演習	配色演習
	学習成果	色相配色の方法について理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
11回	授業内容	トーン配色①同一トーン配色、類似トーン配色、配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	トーン配色の方法について理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
12回	授業内容	トーン配色②対照トーン配色、イメージ配色、配色演習	配色演習
	学習成果	トーン配色の方法について理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
13回	授業内容	アクセントカラー、セパレーションカラー、グラデーションカラー、配色演習	配色演習
	学習成果	様々な配色効果について理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
14回	授業内容	ファッションとインテリアの色彩、プリント学習	小テスト
	学習成果	ファッションとインテリアの色彩について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
15回	授業内容	過去問題の研究、プリント学習、小テスト	小テスト
	学習成果	色彩能力検定に向けて、試験問題を解答することができる。	
	予習復習の内容	テキスト全般を復習しておくこと	

科目名	ファッションデザイン				担当者	金澤 千晶（カナザワ チアキ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的学習成果	①	ファッションデザインの歴史・過程を知り、各年代のデザイナーを知ることができる。										
	②	洋服のデザイン（シルエット・ディテール）の名称を知ることができる。										
	③	新たなデザインの発想をする力を身に付け、提案することができる。										
	④	フォーマルの場に着用する正しい服装を知ることができる。										
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けたフォーマルの場に着用する服装の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果④に関連）										
	(2)	ファッションのデザインを発想し、デザイン画に表現することを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	ファッションデザインの種類や名称を学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	衣服は人間が直接身につけるものであるため、非常に関心が高く、ファッションの個性化が求められる。基礎となるデザインを統計的に習得し、写真やイラストにより視覚的に理解することを目的とした。ファッションデザインの基礎的な知識や豊かで美的なデザイン発想力が養われるよう、デザインの発想法や美的形式原理などについて学ぶ。 また、フォーマルスペシャリスト検定準２級の合格を目指す。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	10	レポート課題を実施し、講義内容の理解の程度を評価する。								
		小テスト	10	授業内容の理解の程度を評価する。								
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	日本フォーマル協会	『フォーマルウェア・ルールブック』		日本フォーマル協会								
参考書参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	飯塚弘子・万江八重子共著	『服飾デザイン論』		文化出版局								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常的にファッション誌の閲覧やファッションの流行などを意識し（計30時間）、講義内容の理解を深める。また、レポート・筆記試験の準備を行い（計30時間）、理解の定着に努めること。 ②レポートは返却し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	全15回の内容を理解できたか 資格の内容を理解できたか
	学習成果	取得できる資格について理解し、全15回の授業内容を知ることができる。	
	予習復習の内容	ファッションデザインに関心を持ち、ファッション誌など積極的に読むようにすること。	
2回	授業内容	デザインの意義	レポート（デザイン画制作）
	学習成果	デザインの語彙や歴史、創造性などについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	デザインについて理解し、発想ができるようにすること。	
3回	授業内容	デザインの分野	質問を通してデザインの分野を理解できたか
	学習成果	ファッションおよび他業界におけるデザインの分野を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	デザインを利用する業界を理解しておくこと。	
4回	授業内容	デザインの過程	質問を通してデザインの過程が理解できたか
	学習成果	デザインが生み出され、生産され、製品になっていく工程を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	一般的なデザインの過程とファッションの工場生産の流れを理解しておくこと。	
5回	授業内容	服装の意味	質問を通して服装の意味が理解できたか
	学習成果	服装の類語および服の役割について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	専門的な言葉の使い分けができ、服の役割を理解し、説明できるようにしておくこと。	
6回	授業内容	服装の美	質問を通して服装の美が理解できたか
	学習成果	デザイナーおよび服装の美しさについて、その条件を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	服装の美しさとは何か、内容美と形式美の違いについて理解しておくこと。	
7回	授業内容	美的形式原理	質問を通して美的形式原理が理解できたか
	学習成果	服装が美しく見えるテクニックについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	原理の５つのパターンについて、理解し、コーディネートできるようにすること。	
8回	授業内容	点と線のデザイン	質問を通して点と線のデザインを理解できたか
	学習成果	ファッションデザインにおける点と線を利用したデザインの種類と見え方の違いについて理解する。	
	予習復習の内容	点と線のデザインについて理解し、コーディネートの問題解決ができるようにすること。	
9回	授業内容	シルエットとディテール	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	服装全体のシルエットの種類と細かなディテール部分のデザインの種類を知り、説明できる。	
	予習復習の内容	シルエットとディテールの違いとデザインの種類を理解し、説明できるようにしておくこと。	
10回	授業内容	服種と用途	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	フォーマルとカジュアルのデザインおよびTPOに合わせたデザインを知ることができる。	
	予習復習の内容	TPOに合わせた服装を理解し、説明できるようにしておくこと。	
11回	授業内容	アクセサリー	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	ネックレス、帽子、靴や宝石など、デザインの種類を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	アクセサリーのデザインの種類を理解し、コーディネートできるようにすること。	
12回	授業内容	素材の効果性	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目に実施
	学習成果	柄やテキスタイルによる見え方の違いについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキスタイルについて理解し、説明できるようにしておくこと。	
13回	授業内容	色彩の役割	
	学習成果	色の基礎、感情、配色、流行色について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	色彩の原理について理解し、配色を利用してコーディネートできるようにすること。	
14回	授業内容	体型とタイプ	
	学習成果	人間の体型の種類、人格のタイプ、コーディネートのタイプについて理解し、コーディネートできる。	
	予習復習の内容	人と服の着装、スタイルについて理解し、コーディネートできるようにすること。	
15回	授業内容	服飾デザインにおける演習・まとめ	
	学習成果	全15回のまとめと筆記試験を行い、ファッションデザインの知識を習得しコーディネートできる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	洋裁テクニック				担当者	金澤（カナザワ）千晶（チアキ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	洋裁の使用道具の使い方を覚え、体型に合う原型を製作することができる。										
	②	布地の特性を知り、基本的なデザインの作図および縫製することができる。										
	③	デザインに合わせたダーツやギャザーの入れ方が分かるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	服の製作の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	自由な発想による襟や袖のデザインおよび縫製を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(3)	縫製テクニックを学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ブラウスの製作実習を通して、被服造形のための理論と技術を学ぶ。原型の基礎から縫製の技術を習得し、部分的（衿・袖・カフス・裾など）に学生の自由なデザイン発想を取り入れ、応用・発展への能力を養う。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート	20	第15回目に製作した作品に関するレポートについて評価を行う。
		作品提出	60	第15回目に製作した作品について評価を行う。
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①及び②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	文化服装学院	『文化ファッション大系　服飾造形講座①　服飾造形の基礎　文化服装学院編』	文化出版局

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続の授業。布地等の材料は各自準備する。洋裁用備品については一部貸出可能。事前に資料を配布するので、作業内容について、授業前に資料をよく読んでおくこと（計30時間）。 ②製作した作品が評価の対象となるため、毎時間ごとに製作した修正点などを見直し、手直し作業を行うこと。製作した部分について、毎時間、授業の時に点検し、講評する。

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	洋裁用具説明・採寸・原型作製（身頃の基礎線）	洋裁用具が分かり、原型の基礎線の作製
	学習成果	洋裁用具を知り、採寸および原型の作製に取りかかることができる。	
	予習復習の内容	洋裁用具が分かり、原型の基礎線を完成させる。	
3・4回	授業内容	原型作製（身頃の輪郭線）・原型作製（袖）	原型の身頃と袖の作製
	学習成果	原型の輪郭線と袖を完成させることができる。	
	予習復習の内容	原型の見頃の輪郭線を描き、袖の原型を完成する。	
5・6回	授業内容	ブラウスの型紙作製（身頃）	ブラウスの型紙（身頃）の作製
	学習成果	展開図であるブラウスの型紙の身頃を作製することができる。	
	予習復習の内容	ブラウスの型紙（身頃）を完成する。	
7・8回	授業内容	ブラウスの型紙作製（衿）	ブラウスの型紙（衿）の作製
	学習成果	ブラウスの型紙の衿を作製することができる。	
	予習復習の内容	ブラウスの型紙（衿）を完成する。	
9・10回	授業内容	ブラウスの型紙作製（袖）	ブラウスの型紙（袖）の作製
	学習成果	ブラウスの型紙の袖を作製することができる。	
	予習復習の内容	ブラウスの型紙（袖）を完成する。	
11・12回	授業内容	布地の裁断	裁断への取り組み
	学習成果	型紙に合わせ、布地の裁断をすることができる。	
	予習復習の内容	型紙に合わせ、布地の裁断を終える。	
13・14回	授業内容	印付け	印付けへの取り組み
	学習成果	チャコペーパーとルーレットで布地に本縫いの印を付けることができる。	
	予習復習の内容	布地に本縫いの印をつける。	
15・16回	授業内容	接着芯付け・ミシンの使用方法について	接着芯付けへの取り組み
	学習成果	布地に接着芯を付け、ミシンの使用方法を知ることができる。	
	予習復習の内容	布地に接着芯を付け、ミシンの使用方法を理解する。	
17・18回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（身頃のダーツ）	身頃のダーツの縫製
	学習成果	身頃にダーツを入れることができる。	
	予習復習の内容	身頃にダーツの入れ方が分かり、実際に縫製する。	
19・20回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（身頃の肩・脇）	身頃の肩・脇の縫製
	学習成果	身頃の肩・脇を縫製することができる。	
	予習復習の内容	身頃の肩・脇を縫製をする。	
21・22回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（衿作り）	衿の作製
	学習成果	身頃の衿を作ることができる。	
	予習復習の内容	身頃の衿の作製をする。	
23・24回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（衿つけ）	衿の縫製（身頃に付ける）
	学習成果	身頃の衿を縫製することができる。	
	予習復習の内容	身頃の衿を縫製をする。	
25・26回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（袖作り）	袖の作製
	学習成果	身頃の袖を作ることができる。	
	予習復習の内容	身頃の袖の作製をする。	
27・28回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（袖つけ）	袖の縫製（身頃に付ける）
	学習成果	身頃の袖を縫製することができる。	
	予習復習の内容	身頃の袖を縫製をする。	
29・30回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（ボタン付け・仕上げ）・レポート・作品提出	レポート及び作品提出により評価を行う
	学習成果	ブラウスにボタンを取り付け、全体の仕上げを行う。また、レポートの記入をして作品を提出することができる。	
	予習復習の内容	ブラウスを完成させ、レポート記入と作品の提出をする。	

科目名	和裁テクニック				担当者	佐藤（サトウ）なおみ・金澤（カナザワ）千晶（チアキ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容の質問等については、毎回授業の前後に受け付ける。											
専門的学習成果	①	和服の基礎が理解できる。										
	②	和裁の基礎技術・知識を身につける。										
	③	反物、布の扱いに慣れる。										
	④	自分自身で和服が着られようになる。										
	⑤	独自のアレンジを加える等、現代のファッションとしての着物を考える。										
汎用的学習成果	(1)	民族衣装である和服が自ら着られようになる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	異文化に接した際にも、自分たちの文化を和服を通して説明できるようになる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(3)	課題である浴衣を最後まで自らの手で仕上げることによって、手作り、物を作る喜びを知り、消費社会における自分の立ち位置を再考確認する。（専門的学習成果①～⑤に関連）										
授業概要	日本の民族衣装でありながら日常生活において触れる事も着る機会も少なくなった「きもの」だが、浴衣（ゆかた）を実際に自分の手で縫うことによって和服、和裁にふれてみる。その過程で日本の気候風土に根ざした衣服の意匠（形・柄）を知るとともに、そこに施された知恵と工夫を学ぶこととする。又、現代のファッションにおいて着物の構造や色彩、柄等が見直される事もあり、洋服・洋裁だけではなく和服の知識を習得し、服飾において幅広くいかす事が出来る。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート										
		作品製作過程	40	授業内容を理解し、スムーズかつ丁寧に作業が出来ているか評価する。								
		作品提出	40	期日内に完成し提出する。又は、未完成でも進度により評価する。								
		平常点	20	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
	汎用的学習成果	(1)は、①により評価する。 (2)は、①～④により評価する。 (3)は、①～⑤により評価する。										
テキスト等	著者・編集者名	書名		出版社名								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	土井幸代	『和裁』		同文書院								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①布地（浴衣用反物、又は木綿地）その他裁縫道具（針、縫い糸等）は各自用意する。布地、裁縫道具、プリント等を忘れずに持ってくる。プリントと説明を聞きのがす事なくスムーズに実技に入れるようにする。②提出された作品の採点後、成果について説明する事により結果のフィードバックを行う。（15時間）											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス、和服の基礎的な成り立ちを知る。	浴衣の成り立ちを知り手縫いで部分縫いを始める。
	学習成果	授業内容の理解。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を理解し、次回まで必要な材料を準備する。	
3・4回	授業内容	採寸、寸法の割り出し・柄合わせ、裁断①	第２回から第14回まで作品製作への取り組み
	学習成果	製作課題の浴衣製作の準備の完了	
	予習復習の内容	製作内容を理解し次回までの準備	
5・6回	授業内容	柄合わせ、裁断②、背縫い①	
	学習成果	和服の柄の置き方、反物の扱い方を習得する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
7・8回	授業内容	背縫い②、身頃の標付け①	
	学習成果	基本的な縫い方、標付けの技術の習得。	
	予習復習の内容	製作する作品の全体像（独自のアレンジ等）を考える。	
9・10回	授業内容	身頃の標付け②、肩当て、居敷当てつけ	
	学習成果	肩当て等、和服独特の仕立てを理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
11・12回	授業内容	脇縫い、脇縫い代始末①	
	学習成果	数種類の縫い方の習得。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
13・14回	授業内容	脇縫い、脇縫い代始末①脇縫い代始末②	
	学習成果	数種類の縫い方を習得する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
15・16回	授業内容	衽付け、衽縫い代始末①	
	学習成果	和服の独特の衽について理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
17・18回	授業内容	衽付け、衽縫い代始末②	
	学習成果	和服独特の衽について理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
19・20回	授業内容	衿下、裾始末、衿付け①	
	学習成果	新しい縫い方を習得する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
21・22回	授業内容	衿付け②、衿付け始末	
	学習成果	新しい縫い方を習得する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
23・24回	授業内容	袖縫い	
	学習成果	洋服と和服の袖の違いを理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
25・26回	授業内容	袖縫い、袖付け、袖付け始末①	
	学習成果	洋服と和服の袖の違いを理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
27・28回	授業内容	袖付け始末②、全体の仕上げおよびたたみ方	
	学習成果	和服のたたみ方、扱い方を習得する。	
	予習復習の内容	次回までに完成させる。	
29・30回	授業内容	まとめ、着付け、作品提出	作品の完成、着付けの技術の取得
	学習成果	自分で着られようになる、帯等の小物類のコーディネートの工夫ができる。	
	予習復習の内容	着方、帯結びを忘れないよう練習する。	

科目名	衣装デザイン				担当者	金澤（カナザワ）　千晶（チアキ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的学習成果	①	スタイリストとしての基本を習得することができる。										
	②	トータルスタイリングについて知ることができる。										
	③	ファッション商品について理解を深めることができる。										
	④	ファッションショーのコーディネートの提案ができる。										
汎用的学習成果	(1)	トータルスタイリングの学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	ファッションのコーディネートを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	スタイリストの基本やファッションコーディネートを提案することの学習を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	ファッションコーディネートとはあらゆるモノの組合せに伴う調整、調和などの技術の提案である。ファッションに関する基本的な商品知識やファッションコーディネートに必要な基本的な知識や技術などを具体的に取り上げ、実践してゆく。さらに、次年度のファッションショーに向けて、ショーに関わる仕事内容を理解し、ショーの構成、テーマやコンセプト、衣装のデザイン、モデルの選定など、実施に向けて企画を行い、２年次の４月から衣装製作に取り組めるようにする。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	70	レポート課題を実施し、講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名		出版社名								
参考書参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	文化服装学院	『コーディネートテクニック　演出編』		文化出版局								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①提出課題に必要な準備物（色鉛筆など）については、その都度説明するので、各自が用意すること。授業前に資料・テキストをよく読んでおくこと（計30時間）。 また、授業終了後、毎時間ごとに課題に取り組み（計30時間）、理解の定着に努めること。 ②レポート課題については、添削し返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	コーディネートのスペシャリスト／スタイリストとコーディネーター　（教員：三塚）	ファッション業界の職業の違いについて理解できたか
	学習成果	コーディネーター、アドバイザー、スタイリストの共通点・相違点を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ファッションに関する様々な職業について調べておくこと。	
2回	授業内容	ファッションコーディネートの必要性／スタイリストとは　（教員：三塚）	スタイリストについて理解できたか
	学習成果	スタイリストの仕事内容について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	スタイリストの仕事内容について、調べてみること。	
3回	授業内容	スペシャリストに必要な知識／20世紀ファッションの歴史とデザインの４要素　（教員：三塚）	４つの要素について説明できるか
	学習成果	ファッションやデザインの歴史について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ファッションデザインのリバイバルについて、理解を深めること。	
4回	授業内容	ファッションと流行／ファッショントレンドサイクル、最新コレクション情報 DVD　（教員：三塚）	コレクション情報とトレンド予測について理解できたか
	学習成果	トレンド予測について理解し、コレクション情報を活用できる。	
	予習復習の内容	トレンド予測とインスピレーションについて、理解を深めること。	
5回	授業内容	ファッションコーディネートの基本的な知識と技術　（教員：三塚）	オケージョン別の提案ができるか
	学習成果	コーディネートの目的について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	マーケティング分類方法について、復習しておくこと。	
6回	授業内容	ファッションコーディネートとは／様々な要素に視点を置いたコーディネート　（教員：三塚）	視点別にコーディネート提案ができるか
	学習成果	カラー、シルエット、素材、ライフスタイルなどに視点を置いたコーディネートができる。	
	予習復習の内容	デザインの４要素とライフスタイルについて復習しておくこと。	
7回	授業内容	課題作成と提出　（教員：三塚）	課題作成。配布するシートに条件通りの提案を行い、理解の程度と完成度で評価を行う。
	学習成果	与えられた条件の下で適切なコーディネート提案を行い、時間内に提出できる。	
	予習復習の内容	課題内容は事前に説明するので、準備物等忘れ物のないようにすること。	
8回	授業内容	ファッションショーの説明・スタイリストについて　（教員：金澤）	ファッションショーのスタイリストについて理解できたか
	学習成果	ファッションショーのスタイリストに求められる資質と役割について理解する。	
	予習復習の内容	ファッションショーの制作過程やショーに関わる職種の内容について理解し、説明できるようにすること。	
9回	授業内容	ファッションショーの演出・衣装のコーディネート・シーン（場面）説明　（教員：金澤）	レポート（各シーンのタイトル・コンセプトについて）
	学習成果	映像で複数のショーを視聴し、ショーの演出方法、衣装、シーン構成について学ぶことができる。	
	予習復習の内容	インターネット等で各種のファッションショーを見て、演出・衣装等を見て理解を深めること。	
10回	授業内容	ファッションショーのテーマ決定　（教員：金澤）	レポート（衣装のデザイン画について）
	学習成果	次年度、自分たちが開催するショーのテーマを決定することができる。	
	予習復習の内容	各種のファッションショーを見て、実施するショーに取り入れたいことをピックアップしておくこと。	
11回	授業内容	シーン（場面）コンセプト決定・メンバー決定及び役割分担　（教員：金澤）	レポート（衣装のデザイン画について）
	学習成果	ショーのシーン（場面）それぞれのコンセプトとメンバー、役割分担を決めることができる。	
	予習復習の内容	ショーのコンセプトに合った衣装のイメージを考えておくこと。	
12回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの提案）　（教員：金澤）	シーンのメンバーと話し合いなど取り組み姿勢
	学習成果	各シーンごとに衣装のデザインの話し合いや型紙を調べることができる。	
	予習復習の内容	衣装の型紙等を次回の授業に持参したり、自分の考えを説明できるようにすること。	
13回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの打合せ）　（教員：金澤）	
	学習成果	コンセプトに合わせた各シーンのデザイン画を描き、型紙を決定することができる。	
	予習復習の内容	インターネット等で複数のショーの衣装を見たり、衣装の情報収集や型紙等を探しておくこと。	
14回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの決定）　（教員：金澤）	
	学習成果	シーンのメンバーと話し合いを通してデザイン画を描き直し、各シーンごとに最終的な衣装のデザインを決定することができる。	
	予習復習の内容	衣装の素材などについて、布地の店舗で見たり、インターネット等で情報収集すること。	
15回	授業内容	デザイン画作成（材料について検討）・まとめ　（教員：金澤）	
	学習成果	各シーンごとに衣装に必要な材料をまとめ、費用等の計算、型紙の整理など行い、来年度の製作方法を知ることができる。	
	予習復習の内容	布地など必要な材料を店舗で調べておくこと。	

科目名	ヘアメイク				担当者	金澤 千晶（カナザワ チアキ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的学習成果	①	髪のケア、スタイリング方法、髪に優しいヘアアイロンの使用方法やテクニックを実践できる。										
	②	ヘアスタイルのアレンジの種類について、ダウンスタイル・ハーフアップスタイル、アップスタイルのテクニックをマスターすることができる。										
	③	服装に合わせたヘアスタイル（アレンジ）やメイクを提案することができ、ステージショー向けのヘアメイクをモデルさんにすることができる。										
汎用的学習成果	(1)	身だしなみを整えるヘアセットやメイクの方法に関する学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	ヘアアレンジやメイクのテクニックに関する学習を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	日常のヘアメイクだけでなく、TPOに合わせたアレンジを実践していく学習を通して、修得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ヘアケアを含めながら日常用のヘアセットを基本に学び、舞台やダンス、各種のショーなどで使用する衣装に合わせたアーティスティックなヘアメイクのデザインなど、創造性の高いヘアメイクまで実践できるように、テクニックを身につける。カットマネキンを使用し練習を重ね、最終的には人頭にヘアメイクし、ファッションショーなどステージに立つモデルにセットできるように、ヘアメイクの技術を養う。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		作品提出	40	映像やヘアメイクなど製作した作品について評価を行う。								
		平常点	60	授業の態度・関心・意欲・ファッションショーへの取り組み姿勢を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名		出版社名								
参考書参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続の授業。ヘアセット用品については実習費（10,000円）の自己負担がある。授業ごとに取り組んだ内容を振り返り、練習をすること（計30時間）。 ②練習した成果が次回の授業内容に反映されるので、その際に上達具合をチェックし、講評する。											

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ヘアメイクの授業概要の説明、材料について	ヘアメイクの授業内容の理解
	学習成果	TPOに合わせたヘアメイクを知ることができる。全15回の講義の流れ、材料について理解することができる。	
	予習復習の内容	ヘアメイクの授業内容、材料、ヘアメイクの目的や概要について理解する。	
2回	授業内容	マネキンを使用して、コームの使用方法、ブロッキング方法、ピン留めの基本	コームの使用方法、ブロッキングの取り組み
	学習成果	コームの使い方を学び、ブロッキングの仕方や、ピン留めの方法を学ぶことができる。	
	予習復習の内容	コームの使用方法、ブロッキングやピン留めの練習をする。	
3回	授業内容	ピン留めをキレイに留められるようにマスターする。	ピン留めの取り組み
	学習成果	基本のピン留めから応用のピン留めまでキレイに留められるようになる。	
	予習復習の内容	マネキンを使用して、ピン留めの練習をする。	
4回	授業内容	三つ編み、編み込み（表編み、裏編み、片編み、ツイスト編み等）	三つ編み、編み込みの取り組み
	学習成果	三つ編み、編み込み（表編み、裏編み、片編み、ツイスト編み等）をすることができる。	
	予習復習の内容	マネキンを三つ編み、編み込みの練習をする。	
5回	授業内容	ハードスプレーの使用方法、逆毛のテクニック、ポンパドールについて	逆毛やポンパドールの取り組み
	学習成果	ハードスプレーの使用方法、逆毛のテクニック、ポンパドールをすることができる。	
	予習復習の内容	マネキンを使用して、ハードスプレーを使用して逆毛やポンパドールをする。	
6回	授業内容	ストレートアイロンやカールアイロンのテクニック（ストレート、内巻き、外巻き、ミックス巻き等）	ヘアアイロンの使い方の取り組み
	学習成果	ストレートアイロンやカールアイロンのテクニックをマスターすることができる。	
	予習復習の内容	ストレートアイロンやカールアイロンで、ストレート・内巻き・外巻き・ミックス巻きの練習をする。	
7回	授業内容	ダウンスタイルのセット	ダウンスタイルへの取り組み
	学習成果	前髪の作り方やストレートや巻き髪など、ダウンスタイルを完成することができる。	
	予習復習の内容	マネキンを使用して、ダウンスタイルの練習をする。	
8回	授業内容	基本的なハーフアップスタイルのセット	基本のハーフアップスタイルへの取り組み
	学習成果	ハーフアップの盛り方など、基本的なハーフアップスタイルをセットをすることができる。	
	予習復習の内容	マネキンを使用して、盛り方などハーフアップスタイルの練習をする。	
9回	授業内容	片流しなどハーフアップスタイルのセット	片流しのハーフアップスタイルへの取り組み
	学習成果	片流しのハーフアップスタイルのセットすることができる。	
	予習復習の内容	マネキンを使用して、片流しのハーフアップスタイルの練習をする。	
10回	授業内容	基本のアップスタイルからパーティー用のスタイル	洋風のアップスタイルへの取り組み
	学習成果	アップスタイルの方法について、基本からパーティー用のスタイルをセットすることができる。	
	予習復習の内容	マネキンを使用して、アップスタイルの練習をする。	
11回	授業内容	和髪用のアップスタイル	和風のアップスタイルへの取り組み
	学習成果	和髪のアップスタイルをセットすることができる。	
	予習復習の内容	マネキンを使用して、和髪のアップスタイルの練習をする。	
12回	授業内容	ステージ用のヘアアレンジ	ステージ上のヘアスタイルへの取り組み
	学習成果	ステージ用のヘアスタイル、アレンジ、リボンヘアなど応用的なスタイルを提案し、セットすることができる。	
	予習復習の内容	ステージ上で魅力的なヘアスタイルの練習をする。	
13回	授業内容	小物を使用したステージ用のヘアアレンジ	クリエイティブなヘアスタイルへの取り組み
	学習成果	花、わた、紐など小物を使用したアート的なスタイルを提案し、セットすることができる。	
	予習復習の内容	ステージで映えるアート的なヘアスタイルの練習をする。	
14回	授業内容	ファッションショーなどステージ用のヘアメイク検討、提案、実践	ステージ用のヘアメイク検討の取り組み
	学習成果	ステージ用のヘアメイクのアイディアを出し、実際に練習することができる。	
	予習復習の内容	ステージ用のヘアメイクを検討し練習する。	
15回	授業内容	課題に合わせたステージ用のヘアメイク（タイムチェック）	ステージ用のヘアメイクの時間計測、ヘアセットの取り組み
	学習成果	ショー用の課題のヘアメイクを実際に行い、タイムを計測する。	
	予習復習の内容	ステージ用のヘアメイクが規定の時間内に終わるように練習し、マスターする。	

科目名	ネイリスト検定講座				担当者	千葉照実（チバテルミ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	爪の構造を理解し説明できる。										
	②	衛生管理について理解し説明できる。										
	③	ネイル材料について理解し説明できる。										
	④	JNEC ネイリスト技能検定試験３級取得のための知識と技術を実践することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	ネイリストに必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(2)	ネイリストとして人との関わりに必要な自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。（専門的学習成果④に関連）										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
授業概要	身体の一部である爪の構造を理解し、ネイリスト技能検定試験受験に必要な内容の理解を深め知識と技術及びネイルアートを学ぶ。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		提出物	40	授業中に制作した作品を評価
		実習	40	実技や模擬試験時の手順や課題達成を評価
		平常点	20	授業への関心・意欲・態度を評価
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	NPO 法人日本ネイリスト協会・教育委員会	『JNA テクニカルシステム・ベーシック』	NPO 法人日本ネイリスト協会
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①クラス内で２人１組の相モデルでの実技練習になるため、やむをえない理由以外での欠席をしないように心がける。 材料の不備があると実習不可の為、忘れず毎回持参する。 実習費23,100円（税込）がかかるので注意する事。 準備学習として検定試験の筆記に対して対策プリントを渡し自宅にて週１時間程度の学習後翌週に提出する。 ②実技・筆記ともに模擬テストを行い、フィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ネイルケアー概論	授業への関心・意欲・態度を評価 授業中に制作した作品を評価 実技の手順や課題達成を評価
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを熟読する。	
2回	授業内容	爪の構造と材料の理解	
	学習成果	爪の各部位の名称を述べることができる。	
	予習復習の内容	次回までに爪の各部位の名称を覚えてくる。	
3回	授業内容	ネイルケアー実技（削り方）	
	学習成果	爪の削り方について実施できる。	
	予習復習の内容	削り方を反復練習してくる。	
4回	授業内容	ネイルケアー実技（キューティクルカット）	
	学習成果	キューティクルカットが実施できる。	
	予習復習の内容	ニッパーの取り扱いの練習	
5回	授業内容	ネイルケアー実技（キューティクルカット）	
	学習成果	キューティクルカットが実施できる。	
	予習復習の内容	ニッパーの取り扱いの練習	
6回	授業内容	ネイルケアー実技（カラーリング）	
	学習成果	カラーリング技法が実施できる。	
	予習復習の内容	チップにカラーリングしてくる。	
7回	授業内容	ネイルケアー実技（課題アート）	
	学習成果	３級試験の課題アート実技を実践できる。	
	予習復習の内容	５種類のアートを描いてくる。	
8回	授業内容	ネイルケアー実技（課題アート）	
	学習成果	３級試験の課題アート実技を実践できる。	
	予習復習の内容	モデルを決定する。	
9回	授業内容	検定試験受験の心得	授業への関心・意欲・態度を評価
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。	
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。	
10回	授業内容	通し練習	
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。	
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。	
11回	授業内容	通し練習	
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。	
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。	
12回	授業内容	模擬試験①	模擬試験時の手順や課題達成を評価 授業への関心・意欲・態度を評価
	学習成果	検定試験の採点基準に合わせた実技ができる。	
	予習復習の内容	試験内容について復習する。	
13回	授業内容	模擬試験②	
	学習成果	検定試験の採点基準に合わせた実技ができる。	
	予習復習の内容	試験内容について復習する。	
14回	授業内容	タイムトライアル	
	学習成果	検定試験の手順通り実施し、制限時間内に終了することができる。	
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる予習をする。	
15回	授業内容	受験準備	
	学習成果	受験に備え適切な準備を整えることができる。	
	予習復習の内容	受験に必要な準備を整える。	

科目名	ジェルネイル検定講座				担当者	千葉照実（チバテルミ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	爪の構造を理解し説明できる。										
	②	衛生管理について理解し説明できる。										
	③	ネイル材料について理解し説明できる。										
	④	JNA ジェルネイル技能検定試験初級取得のための知識と技術を実践することができる。										
	⑤	ジェルネイルアートの作品を制作できる。										
汎用的学習成果	(1)	ネイリストに必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(2)	ネイリストとして人との関わりに必要な自己表現、他者理解の能力を有し、協働することができる。（専門的学習成果④に関連）										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①～⑤に関連）										
授業概要	身体の一部である爪の構造を理解し、ジェルネイル技能検定試験初級受験に必要な内容の理解を深め知識と技術及びネイルアートを学ぶ。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		提出物	40	授業中に制作した作品を評価
		実習	40	実技や模擬試験時の手順や課題達成を評価
		平常点	20	授業への関心・意欲・態度を評価
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		不要（講師プリント準備）	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①クラス内で２人１組の相モデルでの実技練習になるため、やむをえない理由以外での欠席をしないように心がける。 材料の不備があると実習不可の為、忘れず毎回持参する。 実習費28,600円税込がかかるので注意する事。 準備学習として検定試験の筆記に対して対策プリントを配付し自宅にて週１時間程度学習後翌週までに提出する。 ②実技・筆記ともに模擬テストを受験し、その結果をフィードバックする。その後校内にて検定筆記・実技試験を実施する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ジェルネイルケアー概論	授業への関心・意欲・態度を評価
	学習成果	ジェルネイル技能検定試験の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを熟読する。	
2回	授業内容	爪の構造と材料の理解	
	学習成果	爪の各部位と材料の名称を述べることができる。	
	予習復習の内容	次回までに爪の各部位の名称を覚えてくる。	
3回	授業内容	ジェルネイル基本実技（プリパーレーション）	実技の手順や課題達成を評価
	学習成果	プリパーレーションについて実施できる。	
	予習復習の内容	プリパーレーションの反復練習	
4回	授業内容	ジェルネイル基本実技（塗布）	
	学習成果	赤ジェルの塗布が実施できる。	
	予習復習の内容	塗布の反復練習	
5回	授業内容	ジェルネイル基本実技（塗布）	
	学習成果	赤ジェルの塗布が実施できる。	
	予習復習の内容	塗布の反復練習	
6回	授業内容	受験用通し練習	実技の手順や課題達成を評価
	学習成果	時間内に規定の技術が達成できる。	
	予習復習の内容	時間制限を設けた練習	
7回	授業内容	受験用通し練習	
	学習成果	時間内に規定の技術が達成できる。	
	予習復習の内容	時間制限を設けた練習	
8回	授業内容	筆記試験（初級試験筆記試験校内実施）	課題達成を評価
	学習成果	初級試験筆記試の採点基準をクリアできる。	
	予習復習の内容	筆記試験対策用のプリント学習	
9回	授業内容	実技試験（初級試験実技校内実施）	課題達成を評価
	学習成果	初級試験実技の採点基準をクリアできる。	
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。	
10回	授業内容	ジェルアート作品制作（授業中にテーマを発表）	授業への関心・意欲・態度を評価 制作した作品を評価
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	作品制作のためのモチーフ集めをする。	
11回	授業内容	ジェルアート作品制作（授業中にテーマを発表）	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
12回	授業内容	ジェルアート作品制作（授業中にテーマを発表）	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
13回	授業内容	ジェルアート作品制作（授業中にテーマを発表）	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
14回	授業内容	ジェルアート作品制作（授業中にテーマを発表）	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
15回	授業内容	ジェルアート作品制作（授業中にテーマを発表）	
	学習成果	今まで習得した技術をもとにした作品を提出することができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	

科目名	ベーシックメイク				担当者	芳賀 正明						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	皮膚に関する知識を理解し、その内容を説明できる。										
	②	化粧品の使用目的を理解し、ケアを実践できる。										
	③	色彩とメイクアップの関係性を理解し、メイクアップテクニックを実践できる。										
	④	正しいメイクアップテクニックや情報を理解し、セルフメイクアップを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	皮膚と化粧品の関係から、必要なケア商品を選択できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	ポイントメイクアップのテクニックを自己表現できる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	メイクアップテクニックをマスターし、ファッションバランスを養う。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	フェイスプロポーション分析と、化粧品概論から皮膚とスキンケア（洗顔、化粧水、乳液、美容液、その他のスキンケア商品）の関係と、メイクアップの知識とテクニック（スキンケア、ベースメイク、アイシャドー、アイライン、ビューラー、マスカラ、チーク、リップ、ローライト、ハイライト）を専門的に習得し、カラーとメイクアップの関連性・トレンド情報を提供し個々の内面的美・外面的美の総合的自己表現バランスの実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	メイクアップ表現を評価する。								
		テクニック	40	実習時のテクニックを評価する。								
		平常点	30	実習の取り組み・意欲・態度により評価する。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②により評価を行う。 （2）は専門的学習成果③④により評価を行う。 （3）は専門的学習成果③④により評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名									
		随時資料を配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週約1時間程度行うこと。事前学習としてファッション誌や情報を深めておくこと（予習約1時間程度）。メイクアップパレット教材（10,000円＋税）を徴収する。評価【優】以上の者はベーシックメイクアップ修了時ディプロマ授与。ただし欠席3回以上の者は評価が良くてもディプロマ無。 ②レポート提出により自己まとめ及び情報吸収ができる為、授業内で課題に対するフィードバックを行う。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、自己フェイスバランス分析	自己フェイスバランス分析シート提出
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	スキンケア化粧品の目的を理解する。	
2回	授業内容	スキンケア・ベースメイクアップの肌別分析	レポート作成し提出
	学習成果	目的に応じて商品が選択できる。	
	予習復習の内容	皮膚とスキンケア商品の関係を理解する。	
3回	授業内容	皮膚知識とスキンケアの関係	レポート作成し提出
	学習成果	スキンケアが皮膚に対する効果を説明できる。	
	予習復習の内容	ベースメイクアップの種類を理解する。	
4回	授業内容	スキンケアとベースメイクアップ	レポート作成し提出
	学習成果	スキンケア効果とベースメイクアップの仕上げ方を説明できる。	
	予習復習の内容	アイシャドーと色彩の関係を理解する。	
5回	授業内容	色彩知識とアイシャドー	色相環レポート作成し提出
	学習成果	アイシャドーと色のバランスの説明ができる。	
	予習復習の内容	トレンドカラーを理解する。	
6回	授業内容	アイシャドーとアイラインテクニック	レポート作成し提出
	学習成果	アイシャドーカラーバランスとアイライン目的が説明できる	
	予習復習の内容	ビューラー・マスカラ・アイブロウを理解する。	
7回	授業内容	アイメイクアップ（アイシャドー・アイライン・ビューラー・マスカラ）	レポート作成し提出
	学習成果	アイメイクアップの仕上げバランスが説明できる。	
	予習復習の内容	アイブロウの形、仕上げ方を理解する。	
8回	授業内容	アイメイクアップ・アイブロウ	レポート作成し提出
	学習成果	アイブロウの大切さと形の完成度が説明できる。	
	予習復習の内容	チーク・リップの仕上げ方を理解する。	
9回	授業内容	ナチュラルメイクアップのフルメイクアップ	デザイン画作成し提出
	学習成果	フルメイクアップしたマイフェイスバランスを説明できる。	
	予習復習の内容	色彩とアイシャドーバリエーションを理解する。	
10回	授業内容	アイシャドーバリエーション	アイシャドーバリエーション作成と提出
	学習成果	定番アイシャドーから多色使用のアイシャドーを説明できる。	
	予習復習の内容	各ジャンルメイクアップバリエーションを理解する。	
11回	授業内容	ジャンル別メイクアップ	デザイン画作成し提出
	学習成果	各ジャンルのメイクアップ仕上げを説明できる。	
	予習復習の内容	テーマ別（提案）メイクアップを理解できる。	
12回	授業内容	テーマ別（提案）メイクアップ仕上げ	デザイン画作成し提出
	学習成果	提案したメイクアップテーマを説明できる。	
	予習復習の内容	トレンドメイクアップを理解できる。	
13回	授業内容	トレンドメイクアップ（化粧品メーカー）	デザイン画作成し提出
	学習成果	メーカー別メイクアップを説明できる。	
	予習復習の内容	トレンドメイクアップ（ファッション編）を理解できる。	
14回	授業内容	トレンドメイクアップ（ファッション編）	デザイン画作成し提出
	学習成果	トレンドファッションとメイクアップ関係が説明できる。	
	予習復習の内容	トータルメイクアップとフォトを理解できる。	
15回	授業内容	トータルメイクアップと撮影	デザイン画作成し提出
	学習成果	メイクアップ効果のある表情を説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容全体について確認しておくこと。	

科目名	アーティストメイク				担当者	芳賀 正明						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	メイクアップアドバイスの知識を説明できる。										
	②	相モデルでコミュニケーションを計るテクニックを説明できる。										
	③	メイクアッププランを提案しイベントに実践できる。										
	④	クリエイティヴな発想やメイクアップテクニックを実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	メイクアップをして上げる時の相手とのコミュニケーションを養う。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	相手のフェイスバランスを把握し、ポイントメイクアップのアドバイスができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	ファッション・スチール・ステージ・イベントメイクの実践ができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	相手のフェイスプロポーション分析をしながら、アイシャドーカラーアドバイス、アイライン提案、アイブロウデザインアドバイス、チークカラーアドバイス、リップカラー提案等を行いトータルメイクアップアップを仕上げる。生かすメイクアップの提案と各ジャンルのメイクアップテクニック（ファッション・スチール・ステージ・年代別・キャラクター・イベント等）をマスターし、撮影効果の効果的に仕上げ映えるメイクアップを完成させる。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	30	仕上げたメイクアップのデザイン画を評価する。								
		テクニック	40	仕上げるプロセスと完成度を評価する。								
		平常点	30	実技の取り組み・意欲・態度・相手とのコミュニケーションにより評価する。								
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②により評価を行う。 （2）は専門的学習成果①②③により評価を行う。 （3）は専門的学習成果③④により評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
		随時資料配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週約1時間行うこと。事前学習としてファッション誌や情報を深めておくこと（予習約1時間程度）。メイクアップブラシセット（ケース付）教材10,000円＋税を徴収する。評価【優】以上の者は日本メイクアップ協会ディプロマ授与。ただし欠席3回以上の者はディプロマ授与無。 ②レポート提出により自己まとめ及び情報吸収ができる為、授業内で課題に対するフィードバックを行う。											

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス・相モデルでフェイスプロポーション分析	相手のフェイスプロポーション分析
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	相モデルへのアドバイスメッセージを理解する。	
2回	授業内容	相モデルにてスキンケア	スキンケア施術
	学習成果	モデルに対し、肌に合う施術ができる。	
	予習復習の内容	ベースメイクアップの施術法を理解する。	
3回	授業内容	相モデルにてベースメイクアップ	ベースメイクアップ施術
	学習成果	ベースメイクアップの仕上げ方を説明できる。	
	予習復習の内容	相モデルに対し、アイシャドーのアドバイスを理解する。	
4回	授業内容	イベントメイクアップ	セルフでイベントメイクを完成させレポート提出
	学習成果	メイクアップデザインと仕上げ方を説明できる。	
	予習復習の内容	メイクアップデザイン案を理解する。	
5回	授業内容	メイクアップデザイン画作成しメイクアップ仕上げ	レポート作成し提出
	学習成果	デザイン画をモデルに提案し説明できる。	
	予習復習の内容	ファッション誌のメイクアップを理解する。	
6回	授業内容	雑誌ファッションメイクアップ	レポート作成し提出
	学習成果	模写メイクアップの説明ができる。	
	予習復習の内容	提案するメイクアップデザインを理解する。	
7回	授業内容	ステージメイクアップ	レポート作成し提出
	学習成果	ステージ（舞台等）の効果的な説明ができる。	
	予習復習の内容	ファッションショーのメイクアップを理解する。	
8回	授業内容	イベントにおけるファッションショー(フロア）メイクアップ	レポート作成し提出
	学習成果	会場によってメイクアップの表現が違うので、その説明ができる。	
	予習復習の内容	撮影用メイクアップを理解する。	
9回	授業内容	撮影用メイクアップ	撮影を行い、レポート作成し提出
	学習成果	カメラを通してのメイクアップ仕上げと照明（ライト）の説明ができる。	
	予習復習の内容	ファッション（モード）メイクアップを理解する。	
10回	授業内容	モードメイクアップ①	レポート作成し提出
	学習成果	斬新なメイクアップの説明ができる。	
	予習復習の内容	提案メイクアップを理解する。	
11回	授業内容	モードメイクアップ②	レポート作成し提出
	学習成果	創造と感性を育む。	
	予習復習の内容	メイクアップデザイン案と完成までのプロセスを理解する。	
12回	授業内容	テーマ別メイクアップ（提案）	レポート作成し提出
	学習成果	提案したメイクアップテーマを説明できる。	
	予習復習の内容	トレンドメイクアップを理解できる。	
13回	授業内容	トレンドメイクアップ	レポート作成し提出
	学習成果	ファッションや各化粧品メーカーのトレンドを説明できる。	
	予習復習の内容	トータルメイクアップ（ヘアメイクアップ等）を理解する。	
14回	授業内容	ヘアメイクアップ	デザイン画作成し提出
	学習成果	ヘアセッティング含めメイクアップの説明ができる。	
	予習復習の内容	修了作品案を理解する。	
15回	授業内容	修了作品（撮影）	レポート作成し提出
	学習成果	ナチュラルメイクからファッションメイクのジャンルを説明できる。	
	予習復習の内容	メイクアップ各ジャンルの再確認と情報を確認する。	

科目名	食品学Ⅰ（製菓）			担当者	丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。	
専門的学習成果	①	製菓技術者として、個々の食材についてあらためて意識する。
	②	食品に要求される機能・条件を理解する。
	③	個々の食材の特徴を理解する。
	④	製菓衛生師試験の食品学の分野に十分な知識を習得する。
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習効果①②③④に関連）
	(2)	食品の成分や機能を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。（専門的学習効果②③に関連）
	(3)	食品に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。（専門的学習効果①②③④に関連）
授業概要	私達は一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みの根本にかかわりあう重要なものである。本講義では、製菓技術者として、また、製菓衛生師資格取得に必要とされる幅広い知識や技能のうち、『食品学』の分野に関する基本的な知識を幅広く学ぶ。更に、15回の講義を通して、サイエンスとしての基本的発想方法・論理的な思考についても触れていく。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	90	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。
		レポート		
		平常点	10	授業の態度、関心、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習効果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書　和洋菓子・パンのすべて』	日本菓子教育センター
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	新栄養士課程講座	『食品学総論』	建帛社
	新栄養士課程講座	『食品学各論』	建帛社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義中に次回の内容の予告をするので、教科書の該当項目に目を通しておくこと（週1時間程度）。また、普段の生活の中で、食材やそのラベル表示、加工方法など意識していること（週3時間程度）。 ②試験については実施後、適宜解説を行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（製菓衛生師資格、学び方、食品に対する姿勢）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	製菓技術者として食品に対する姿勢を表明できる。	
	予習復習の内容	教科書全体に目を通しておくこと。	
2回	授業内容	食品学とは	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	製菓衛生師として、食品学の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常での食について理解を深める。	
3回	授業内容	食品の機能と条件	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の機能と必要な条件を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
4回	授業内容	食品の分類と特性（種類、分類）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
5回	授業内容	食品の分類と特性（食品の特性）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
6回	授業内容	食品の分類と特性（食品微生物応用食品）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
7回	授業内容	食品の成分と性質（水分、たんぱく質・アミノ酸）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
8回	授業内容	食品の成分と性質（炭水化物）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
9回	授業内容	食品の成分と性質（脂質）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
10回	授業内容	食品の成分と性質（ビタミン類、無機質）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
11回	授業内容	食品の成分と性質（嗜好成分とその他）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
12回	授業内容	食品成分表について	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品成分表の意味、役割を理解して活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13回	授業内容	食品の生産と消費（消費構造の変化）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の消費構造の変化の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
14回	授業内容	食品の生産と消費（食品生産）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品生産について生産の動向や有機農産物、遺伝子組み換え食品など概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
15回	授業内容	まとめ（総合的にまとめ）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品学の総論的内容を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	

科目名	栄養学Ｂ			担当者	菊地（キクチ） 香保里（カオリ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	１年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。

専門的学習成果	①	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。
	②	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。
	③	人体での水の働きについて学び、水分補給の重要性を説明できる。
	④	健康を維持増進するために、６つの基礎食品をバランスよく摂取することを学び、６つの基礎食品を説明することができる。
	⑤	体内でのホルモンの働きについて学び、ホルモンの名前と働きを挙げることができる。
	⑥	排泄の仕組みについて学び、腸内細菌の働き、食物繊維（水溶性・不溶性）の重要性を説明することができる。
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。
汎用的学習成果	(1)	栄養学で習得した知識を活用して健康を維持増進する食生活の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③④に関連）
	(2)	栄養学の学習を通して、健康な食生活、アレルギー対応の商品開発などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④に関連）
	(3)	栄養学の学習を通して社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、疾病予防などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①③④に関連）
	(4)	栄養学の学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、製菓衛生師国家試験などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）

授業概要	栄養学の基礎として五大栄養素の働きと消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学ぶ。また、エネルギーにはならないが、第六の栄養素として生活習慣病の予防に効果があると近年注目されている食物繊維の働きや、栄養素に含まれないが身体のエネルギー代謝に必要な水の働きについても学ぶ。自分の食生活と健康について理解し、水分や栄養の摂取を意識して生活できるようにする。身体の消化器官についても理解を深め、消化、吸収、代謝、排泄が日々スムーズに行われるよう意識し、自分の健康についても考察する。

	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
評価方法基準等	専門的学習成果	定期試験	50	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート	20	８回実施し、各回2.5％を配点する。体裁、文脈、内容で評価を行う。
		小テスト	30	６回実施し、各回５％を配点する。２～３回分の講義内容について理解の程度を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等	全国製菓衛生師養成施設協会編	『新訂製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター
	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書参考文献	中村丁次監修	『栄養の基本がわかる図解事典』	成美堂出版
	新食品成分表編集委員会編	『新食品成分表 FOOD　2026』	東京法令出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくること。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週２時間程度）。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。（復習：週２時間程度）。 ②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、栄養の意義	○レポート提出 課題①「６つの基礎食品について」をまとめる。 課題②「炭水化物、糖質について」をまとめる。４回目までに提出。 ○小テスト１回～３回までの内容を４回目に実施（30分間）。栄養素の分類、炭水化物、糖質について復習しておくこと。
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素に関する問題を解く。	
2回	授業内容	栄養素の分類、６つの基礎食品	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。健康を維持増進するために、６つの基礎食品をバランスよく摂取することを学び、６つの基礎食品を説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素の分類、６つの基礎食品に関する問題を解く。	
3回	授業内容	炭水化物、糖質	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の炭水化物、糖質に関する問題を解く。	
4回	授業内容	脂質	○レポート提出 課題③「脂質について」をまとめる。５回目までに提出。 ○小テスト４回の内容を５回目に実施（30分間）。脂質について復習。
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の脂質に関する問題を解く。	
5回	授業内容	たんぱく質	○レポート提出 課題④「たんぱく質について」をまとめる。６回目までに提出。 ○小テスト５回の内容を６回目に実施（30分間）。タンパク質について復習。
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集のたんぱく質に関する問題を解く。	
6回	授業内容	無機質①	○レポート提出 課題⑤「無機質について」をまとめる。７・８回目までに提出。 ○小テスト６・７回の内容を８回目に実施（30分間）。無機質について復習。
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の無機質（カルシウム、リン、マグネシウム、カリウム、ナトリウム）に関する問題を解く。	
7回	授業内容	無機質②	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の無機質（鉄、銅、亜鉛、マンガン、ヨウ素他）に関する問題を解く。	
8回	授業内容	脂溶性ビタミン	○レポート提出 課題⑥「脂溶性ビタミンについて」 課題⑦「水溶性ビタミンについて」をまとめる。９・10回目までに提出。 ○小テスト８・９回の内容を10回目に実施（30分間）。ビタミンについて復習。
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の脂溶性ビタミンに関する問題を解く。	
9回	授業内容	水溶性ビタミン	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の水溶性ビタミンに関する問題を解く。	
10回	授業内容	食欲と身体機能の調節、ホルモンとその機能	○レポート提出 課題⑧「消化酵素と各器官での働き」をまとめる。14回目までに提出。 ○小テスト10～13回の内容を14回目に実施（30分間）。摂食行動、ホルモン、消化酵素について復習。
	学習成果	摂食行動の仕組み、体内でのホルモンの働きについて学び、ホルモンの名前と働きを挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集のホルモンに関する問題を解く。	
11回	授業内容	消化と吸収　消化器の構造と機能	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化酵素に関する問題を解く。	
12回	授業内容	消化管内での消化吸収　消化酵素と各器官での働き	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化酵素と各器官での働きに関する問題を解く。	
13回	授業内容	栄養素の代謝	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素の代謝に関する問題を解く。	
14回	授業内容	排泄の仕組み、食物繊維（水溶性、不溶性）、水の働き	
	学習成果	排泄の仕組みについて学び、腸内細菌の働き、食物繊維（水溶性・不溶性）の重要性を説明することができる。人体での水の働きについて学び、水分補給の重要性を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の食物繊維、水に関する問題を解く。	
15回	授業内容	栄養素の吸収、消化吸収率	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化吸収率に関する問題を解く。	

科目名	食品衛生学Ⅰ（製菓）				担当者	渡部俊彦（ワタナベトシヒコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等にはメールで対応する　メールアドレス：　twatanab@tohoku-mpu.ac.jp											
専門的学習成果	①	食品衛生の意義が説明できる。										
	②	食品添加物の役割について説明できる。										
	③	食品添加物の人体への影響を説明できる。										
	④	食品添加物の使用上の規則が説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	食に関わる仕事で、食品添加物を適切に使用することができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	食品衛生の意味を解説し、食品衛生が人の食生活や健康に深く関わっていることを学ぶ。また、食品添加物には食品を作る上で便利な働きと、人の健康を害する働きがあることを理解し、食品添加物を安全に適切に使用するための知識を身につける。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師　試験問題集』	全国製菓衛生師養成施設協会
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上』	全国製菓衛生師養成施設協会

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること（予習：1時間程度）。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること（復習：1時間程度）。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	食品衛生学の概要	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品衛生学を学ぶ目的を説明できる。	
	予習復習の内容	食品衛生の定義を理解する。	
2回	授業内容	食品添加物の概要	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品添加物の食品衛生法上の分類を説明できる。	
	予習復習の内容	食品添加物の定義を理解する。	
3回	授業内容	保存料、防ばい剤、殺菌料	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	保存料、防ばい剤、殺菌料の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	保存料、防ばい剤、殺菌料の定義を理解する。	
4回	授業内容	甘味料、発色料	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	甘味料、発色料の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	甘味料発色料の定義を理解する。	
5回	授業内容	調味料、酸味料	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	調味料、酸味料の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	調味料、酸味料の定義を理解する。	
6回	授業内容	栄養強化剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	栄養強化剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	栄養強化剤の定義を理解する。	
7回	授業内容	香料、乳化剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	香料、乳化剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	香料、乳化剤の定義を理解する。	
8回	授業内容	結着剤、膨張剤、防虫剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	結着剤、膨張剤、防虫剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	結着剤、膨張剤、防虫剤の定義を理解する。	
9回	授業内容	酸化防止剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	酸化防止剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	酸化防止剤の定義を理解する。	
10回	授業内容	チューインガム基剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	チューインガム基剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	チューインガム基剤の定義を理解する。	
11回	授業内容	消泡剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	消泡剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	消泡剤の定義を理解する。	
12回	授業内容	食品取扱者の衛生管理	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
13回	授業内容	食品の表示、食品の保存、菓子製造業の営業施設基準準則	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品表示法に基づいた食品表示、アレルギー表示、その他の表示を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
14回	授業内容	食品の表示、アレルギー物質を含む食品の表示について、食品表示法	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品表示法に基づいた食品表示、アレルギー表示、その他の表示を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
15回	授業内容	総まとめ	演習問題を使い、評価します
	学習成果	食品衛生学Ⅰに関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	食品学Ⅱ				担当者	丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。	
専門的学習成果	①	製菓技術者として、個々の食材についてあらためて意識する。
	②	食品に要求される機能・条件を理解する。
	③	個々の食材の特徴を理解する。
	④	製菓衛生師試験の食品学の分野に十分な知識を習得する。
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習効果①②③④に関連）
	(2)	食品の成分や機能を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。（専門的学習効果②③に関連）
	(3)	食品に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。（専門的学習効果①②③④に関連）
授業概要	私達は一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みの根本にかかわりあう重要なものである。本講義では、食品学Ⅰに続いて、製菓技術者として、また、製菓衛生師資格取得に必要とされる幅広い知識や技能のうち、『食品学』の分野に関する基本的な知識を幅広く学ぶ。更に、15回の講義を通して、サイエンスとしての基本的発想方法・論理的な思考についても触れていく。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	90	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。
		レポート		
		平常点	10	授業の態度、関心、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習効果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書　和洋菓子・パンのすべて』	日本菓子教育センター
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	新栄養士課程講座	『食品学総論』	建帛社
	新栄養士課程講座	『食品学各論』	建帛社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義中に次回の内容の予告をするので、教科書の該当項目に目を通しておくこと（週1時間程度）。また、普段の生活の中で、食材やそのラベル表示、加工方法など意識していること（週3時間程度）。 ②試験については実施後、適宜解説を行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（食品学Ⅰの振り返りとⅡの概要について）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品学Ⅰの範囲の定着、Ⅱの概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書の当該する章を確認する。	
2回	授業内容	食品の特性　穀類（米）及び、でんぷん	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	米及びでんぷんについて特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
3回	授業内容	食品の特性　穀類（麦・とうもろこし、他）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	麦・とうもろこし他について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
4回	授業内容	食品の特性　いも類・でんぷん類、砂糖・甘味類	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	いも類・でんぷん類、砂糖・甘味類について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
5回	授業内容	食品の特性　豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
6回	授業内容	食品の特性　肉・魚	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	肉・魚について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
7回	授業内容	食品の特性　卵・乳製品、油脂、嗜好品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	卵・乳製品、油脂、嗜好品について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
8回	授業内容	食品の特性　調味料・香辛料、調理加工食品類	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	調味料・香辛料、調理加工食品類について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
9回	授業内容	日本の醸造食品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	日本の特徴的な醸造食品について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
10回	授業内容	微生物利用食品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	微生物利用食品について特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
11回	授業内容	食品の変質と機構	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の変質について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
12回	授業内容	食品の変質の防止と保存法（変質の防止）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	変質防止方法について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13回	授業内容	食品の変質の防止と保存法（保存方法）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	変質を防止した保存方法について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
14回	授業内容	食品に関する最近の話題	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品に関係した話題に関心を持てる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
15回	授業内容	まとめ（総合的振り返り）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品に関係した話題に関心を持てる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	

科目名	栄養学各論				担当者	菊地（キクチ） 香保里（カオリ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	三大栄養素のエネルギーが理解でき、基礎代謝、活動代謝を説明できる。										
	②	日本人の食事摂取基準について三大栄養素の一日に必要なエネルギー摂取量の目標量を挙げることができる。										
	③	国民の健康・栄養状態の現状を説明できる。										
	④	健康を維持増進するために、食事バランスガイドを説明することができる。										
	⑤	人生の諸段階（ライフステージ）で必要な栄養摂取の仕方を説明できる。										
	⑥	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。										
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。										
汎用的学習成果	(1)	栄養学各論で習得した知識を活用して健康を維持増進する食生活の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(2)	栄養学各論の学習を通して、健康な食生活につながる商品開発などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(3)	栄養学各論の学習を通して社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、疾病予防などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(4)	栄養学各論の学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、製菓衛生師国家試験などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）										
授業概要	栄養素のエネルギー、基礎代謝、活動代謝、推定エネルギー必要量について学び、食事によるエネルギー摂取の重要性を理解する。日本人の食事摂取基準、国民健康・栄養調査から、国民の健康・栄養状態の現状を知り、食事バランスガイドについても学ぶ。 人生の諸段階（ライフステージ）において必要な栄養のとり方を学び、健康増進について理解し、「栄養」「運動」「休養」を意識して生活し、一生涯を通して病気を予防する知識を得る。健康増進における今後の課題についても考察する。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	50	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	4回実施し、各回５％を配点する。体裁、文脈、内容で評価を行う。								
		小テスト	30	3回実施し、各回10％を配点する。５回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『新訂製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会									
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	中村丁次監修	『栄養の基本がわかる図解事典』	成美堂出版									
	新食品成分表編集委員会編	『新食品成分表FOOD　2026』	東京法令出版									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくること。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週２時間程度）。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。（復習：週２時間程度）。 ②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	栄養素のエネルギー、エネルギー代謝、消費エネルギー、基礎代謝	○レポート課題①「エネルギー代謝」「日本人の食事摂取基準」についてまとめる。３回目までに提出。
	学習成果	三大栄養素のエネルギーが理解でき、基礎代謝、活動代謝を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集のエネルギー代謝に関する問題を解く。	
2回	授業内容	日本人の食事摂取基準	
	学習成果	日本人の食事摂取基準について三大栄養素の一日に必要なエネルギー摂取量の目標量を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の日本人の食事摂取基準に関する問題を解く。	
3回	授業内容	国民の健康・栄養状態の現状と施策	○レポート課題②「国民の健康・栄養調査」「食事バランスガイド」についてまとめる。５回目までに提出。○小テスト５回目に実施（30分間）。エネルギー代謝、基礎代謝、日本人の食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食事バランスガイドについて復習しておくこと。
	学習成果	国民の健康・栄養状態の現状を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の国民健康・栄養調査に関する問題を解く。	
4回	授業内容	食事バランスガイド	
	学習成果	健康を維持増進するために、食事バランスガイドを説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の食事バランスガイドに関する問題を解く。	
5回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（妊娠期）	○レポート課題③「妊娠期、乳児期、幼児期、更年期、高齢期」についてまとめる。○小テスト10回目に実施（30分間）。妊娠期、乳児期、幼児期、更年期、高齢期について復習しておくこと。
	学習成果	妊娠期で必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の妊娠期に関する問題を解く。	
6回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（授乳期）	
	学習成果	授乳期で必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の授乳期に関する問題を解く。	
7回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（乳児期）	
	学習成果	乳児期で必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の乳児期に関する問題を解く。	
8回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（幼児期）	
	学習成果	幼児期で必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の幼児期に関する問題を解く。	
9回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（学童期・思春期・青年期）	
	学習成果	学童期・思春期・青年期で必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の学童期・思春期・青年期に関する問題を解く。	
10回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（成人期・更年期・高齢期）	
	学習成果	成人期・更年期・高齢期で必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の成人期、更年期、高齢期に関する問題を解く。	
11回	授業内容	病態と栄養、栄養素の過不足と病気、糖尿病	○レポート課題④「糖尿病、循環器、消化管、痛風その他の病気」についてまとめる。○小テスト15回目に実施（30分間）。糖尿病、循環器、消化管、痛風その他の病気について復習しておくこと。
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の糖尿病に関する問題を解く。	
12回	授業内容	循環器の病気と栄養	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化管の病気に関する問題を解く。	
13回	授業内容	消化管の病気と栄養	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の循環器の病気に関する問題を解く。	
14回	授業内容	痛風、貧血、骨粗鬆症、食物アレルギーと栄養	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の痛風、貧血、食物アレルギーに関する問題を解く。	
15回	授業内容	栄養機能食品、特定保健用食品	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養機能食品、特定保健用食品に関する問題を解く。	

科目名	公衆衛生学Ⅰ				担当者	渡部俊彦（ワタナベトシヒコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等にはメールで対応する　メールアドレス：　twatanab@tohoku-mpu.ac.jp											
専門的学習成果	①	公衆衛生を学ぶ意義を説明できる。										
	②	公衆衛生の現状を説明できる。										
	③	衛生統計の内容を理解できる。										
	④	衛生統計に関する用語を理解できる。										
汎用的学習成果	(1)	食に関わる仕事で発生する産業廃棄物の廃棄を適切に行うことができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	製菓の現場で公衆衛生学で習得した内容に基づき製菓を安全かつ衛生的に実施できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	公衆衛生を維持するために、国や行政がどのような制度に基づき活動しているかを学ぶ。また、国民生活の現状や未来を考える上で重要な指標となる統計データに関する用語や統計解析方法について学ぶ。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師　試験問題集』	全国製菓衛生師養成施設協会									
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上』	全国製菓衛生師養成施設協会									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること（予習：2時間程度）。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること（復習：2時間程度）。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生の概要	定期試験を実施し、評価する
	学習成果	公衆衛生を学ぶ意義を説明することができる。	
	予習復習の内容	公衆衛生の定義を理解する。	
2回	授業内容	予防医学の概要	
	学習成果	一次予防、二次予防、三次予防を説明することができる。	
	予習復習の内容	一次予防、二次予防、三次予防の定義を理解する。	
3回	授業内容	世界の公衆衛生に関わる組織の概要	
	学習成果	世界の公衆衛生に関わる組織とその業績について説明することができる。	
	予習復習の内容	WHO という組織の概要と業績を理解する。	
4回	授業内容	日本の公衆衛生に関わる組織の概要	
	学習成果	日本の公衆衛生に関わる組織とその業績について説明することができる。	
	予習復習の内容	公衆衛生に関わる省庁について理解する。	
5回	授業内容	労働者の健康に関わる法律	
	学習成果	労働環境を衛生条件を守るための制度について説明することができる。	
	予習復習の内容	労働衛生法の概要について理解する。	
6回	授業内容	衛生統計概要	
	学習成果	衛生統計の解析結果から、その地域の文化や習慣を理解することができる。	
	予習復習の内容	人口動態統計、人工静態統計の定義を理解する。	
7回	授業内容	衛生統計各論（老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率）	
	学習成果	老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率の活用方法を説明できる。	
	予習復習の内容	老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率の定義を理解する。	
8回	授業内容	衛生統計各論（出生率）	
	学習成果	出生率の活用方法を説明できる。	
	予習復習の内容	出生率の定義を理解する。	
9回	授業内容	衛生統計各論（粗死亡率、年齢調整死亡率）	
	学習成果	粗死亡率、年齢調整死亡率の活用方法を説明できる。	
	予習復習の内容	粗死亡率、年齢調整死亡率の定義を理解する。	
10回	授業内容	寿命（平均寿命、平均余命）	
	学習成果	生命表を用いて、平均寿命、平均余命を算出することができる。	
	予習復習の内容	平均寿命、平均余命の定義を理解する。	
11回	授業内容	食中毒統計（細菌）	
	学習成果	発生頻度の高い細菌性食中毒の予防方法を説明できる。	
	予習復習の内容	食中毒を引き起こす細菌について理解する。	
12回	授業内容	食中毒統計（ウイルス）	
	学習成果	発生頻度の高いウイルス性食中毒の予防方法を説明できる。	
	予習復習の内容	食中毒を引き起こすウイルスについて理解する。	
13回	授業内容	感染症発生動向調査	
	学習成果	国内外に蔓延している感染症について説明することができる。	
	予習復習の内容	結核、麻疹、風疹、ポリオ、狂犬病について理解する。	
14回	授業内容	国民健康・栄養調査	
	学習成果	国民の健康と食事との関係性を説明することができる。	
	予習復習の内容	食事をとらないことによる健康への影響について理解する。	
15回	授業内容	総まとめ	
	学習成果	公衆衛生学Ⅰに関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	公衆衛生学Ⅱ				担当者	渡部成子（わたなべしげこ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等には、各講義の前後に対応する											
専門的学習成果	①	人が生活している環境について説明できる。										
	②	公衆衛生を維持するための仕組みを説明できる。										
	③	環境保健と人の健康の関係について説明できる。										
	④	環境改善の方法を具体的に例示できる。										
汎用的学習成果	(1)	人が安全で快適に働ける理想的な労働環境を提案することができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	公衆衛生とは何かを身の回りの環境（空気、水、土、生き物など）と関連させて学ぶ。環境と人の生活との関わりを理解した上で、人が健康的に生活するための環境条件や人の健康を害する環境汚染について学ぶ。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師　試験問題集』	全国製菓衛生師養成施設協会
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上』	全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全集』	日本菓子教育センター

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解いてみること（予習：2時間程度）。講義終了後に内容を復習すること（2時間程度） ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生	定期試験を実施し、評価する
	学習成果	生活環境の衛生を説明できる。	
	予習復習の内容	公衆衛生の定義を理解する。	
2回	授業内容	環境因子・大気の組成・住居	
	学習成果	現代の生活環境、環境因子・大気の組成・住居の生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	生活環境、環境因子の定義、大気を構成する成分・住居の定義を理解する。	
3回	授業内容	気候・上下水道・衣服	
	学習成果	気候・上下水道・衣服と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	気候・上下水道・衣服の定義を理解する。	
4回	授業内容	ごみ、そ属・衛生害虫、電離放射線	
	学習成果	ごみ、そ属・衛生害虫、電離放射線と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	ごみ、そ属・衛生害虫、電離放射線の定義を理解する。	
5回	授業内容	空気汚染・水質汚染	
	学習成果	空気汚染・水質汚染と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	空気汚染・水質汚染の定義を理解する。	
6回	授業内容	騒音、振動、悪臭、環境ホルモン、地球温暖化	
	学習成果	騒音、振動、悪臭、環境ホルモン、地球温暖化と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	騒音、振動、悪臭、環境ホルモン、地球温暖化の定義を理解する。	
7回	授業内容	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成	
	学習成果	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成の定義を理解する。	
8回	授業内容	生活習慣病・メタボリックシンドロームについて解説する。	
	学習成果	メタボリックシンドロームについて説明できる。	
	予習復習の内容	メタボリックシンドロームを未然に防ぐための実生活上の注意点を考察する。	
9回	授業内容	生活習慣病、特に、糖尿病について解説する。	
	学習成果	糖尿病について説明できる。	
	予習復習の内容	糖尿病を未然に防ぐための実生活上の注意点を考察する。	
10回	授業内容	生活習慣病、特循環器系疾患、がんについて解説する。	
	学習成果	循環器系疾患・がんについて、具体的に説明できる。	
	予習復習の内容	循環器系疾患を未然に防ぐための生活上の注意点、実生活においてがんにならないための注意点について考察する。	
11回	授業内容	健康増進法について具体的に解説する。	
	学習成果	健康増進法について内容を説明できる。	
	予習復習の内容	健康増進法の実生活での応用について考察する。	
12回	授業内容	新しい健康作りについて解説する。	
	学習成果	実生活上での健康作りについて説明できる。	
	予習復習の内容	実生活上で新しい健康作りをするに当たっての注意点を考察する。	
13回	授業内容	労働者の健康に関わる法律	
	学習成果	労働環境を衛生条件を守るための制度について説明できる。	
	予習復習の内容	労働衛生法の概要について理解する。	
14回	授業内容	労働衛生管理について解説する。	
	学習成果	製菓の現場での労働衛生管理の実施方法を説明できる。	
	予習復習の内容	労働衛生管理の実施上の注意点を考察する。	
15回	授業内容	総まとめ	
	学習成果	公衆衛生学Ⅱに関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	衛生法規				担当者	相原 健二（アイハラ ケンジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に質問等を受け付ける。											
専門的学習成果	①	衛生法規の意義が説明できる。										
	②	食品衛生法を菓子製造業務に関連付けることができる。										
	③	製菓衛生師法の目的を論じることができる。										
	④	製菓衛生師として菓子等の食品を安全に提供するにあたり、関係法規を関連付けることができる。										
	⑤	製菓衛生師として公衆衛生に寄与できる基本知識を身につけ、実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	食関連の仕事に従事した際、法的な視点に基づいた能力を高めて社会的自立や専門的自立を進めることができる。（専門的学習成果①～⑤に関連）										
	(2)	食の安全を理解することで日頃から健康保持や健康増進を実践できる。（専門的学習成果①～⑤に関連）										
	(3)	製菓衛生師として食の安全を法的に理解し実践できる。（専門的学習成果①～⑤に関連）										
授業概要	一般に衛生とは人の健康の保持及び増進を図ることである。この授業では主として製菓衛生師として、「菓子製造業に従事する者の資質を向上させ、もって公衆衛生の向上および増進に寄与する」という法の目的を達成すべく衛生に関する法規・法令について学ぶ。製菓衛生師養成課程の必修授業である。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	70	講義内容に基づいた試験問題を出題し、評価する。
		レポート	10	不定期に小テストを実施し、評価する。
		平常点	20	授業に取り組む姿勢、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習評価①～⑤で行う。 (2) は専門的学習評価①～⑤で行う。 (3) は専門的学習評価①～⑤で行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本食品衛生協会	新訂『早わかり食品衛生法』（食品衛生法逐条解説）第8版	公益社団法人日本食品衛生協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師養成課程必修。 日常の飲食物の購入の際、当品がどのような法に規制され、製造されているのか意識する。 また、食品表示が妥当であるかを法律に照らし併せて自主学習し、ノートにまとめておく。（時間外学習週4時間必要） ②試験・レポートに対するフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、法学に関する基礎的事項	○各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 ○不定期に講義内容に基づいた小テストを実施し、評価する。
	学習成果	法学に関する基礎的事項について理解する。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り法学の基礎について考察する。	
2回	授業内容	衛生行政概説①	
	学習成果	衛生行政に関する基礎的事項について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り衛生行政について考察する。	
3回	授業内容	衛生行政概説②	
	学習成果	わが国の衛生行政機構について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り衛生行政機構について考察する。	
4回	授業内容	製菓衛生師法①	
	学習成果	製菓衛生師法の沿革について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り製菓衛生師法について考察する。	
5回	授業内容	製菓衛生師法②	
	学習成果	製菓衛生師法の概要について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り製菓衛生師法について考察する。	
6回	授業内容	関係法令　食品衛生法①	
	学習成果	概要、食品及び添加物、食品規格基準、器具及び容器包装の規格基準について理解できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食品衛生法について考察する。	
7回	授業内容	関係法令　食品衛生法②	
	学習成果	表示の規制、臨検収去、食品衛生監視員による監視指導計画について理解できる	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食品衛生法について考察する。	
8回	授業内容	関係法令　食品衛生法③	
	学習成果	公衆衛生上必要な措置の基準、施設基準、営業許可、行政処分、食中毒調査について理解できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食品衛生法について考察する。	
9回	授業内容	関係法令　食品衛生法④	
	学習成果	準用、罰則、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理について理解できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食品衛生法とHACCP及び大量調理衛生管理マニュアルについて考察する。	
10回	授業内容	関係法令　食品表示法等食品表示関連法規	
	学習成果	食品表示関連法規について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食品表示について考察する。	
11回	授業内容	一般衛生法規①	
	学習成果	地域保健法、健康増進法等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り公衆衛生関係法令について考察する。	
12回	授業内容	一般衛生法規②	
	学習成果	感染症予防法等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り公衆衛生関係法令について考察する。	
13回	授業内容	関係法令　その他の関係法令①	
	学習成果	食品安全基本法、食育基本法等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り食の関係法令について考察する。	
14回	授業内容	関係法令　その他の関係法令②	
	学習成果	環境保全法規、消費者政策関連法規について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り衛生関連法規について考察する。	
15回	授業内容	衛生法規についてのまとめ	
	学習成果	衛生法規全般を理解し、説明できる。製菓衛生師国家試験問題に解答できる能力を高める。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り衛生法規全般について考察する。	

科目名	食品衛生学Ⅱ				担当者	相原 健二（アイハラ ケンジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に質問等を受け付ける											
専門的学習成果	①	食中毒の発生状況を説明できる。										
	②	食中毒の病因物質の知識と予防対策が説明できる。										
	③	菓子と食中毒の関連を説明できる。										
	④	食の安全を提供する製菓衛生師としての基本的な衛生知識を習得し実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	食関連の仕事に従事した際、食品衛生の視点に基づいた能力を高めて、社会的自立や専門的自立を進めることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(2)	食中毒について理解することで、健康保持や健康増進を実践できる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(3)	製菓衛生師として食の安全を保持し提供できる。（専門的学習成果①～④に関連）										
授業概要	食品衛生学Ⅱでは、主に食中毒と衛生管理について学ぶ。食中毒とは食中毒菌が付着した飲食物あるいは器具、容器包装を介して摂取することにより起きる健康障害である。食品衛生の目的は飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止することにあるが、ここでは主として食中毒についての概要、病因物質と予防対策について学ぶ。製菓衛生師養成課程の必修授業である。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	70	講義内容に基づいた試験問題を出題し、評価する。
		レポート	10	不定期に小テストを実施し、評価する。
		平常点	20	授業に取り組む姿勢、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習評価①～④で行う。 （2）は専門的学習評価①～④で行う。 （3）は専門的学習評価①～④で行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』	
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	内閣府食品安全委員会HP	https://www.fsc.go.jp/	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布資料、視聴覚教材を活用し、授業を進める。事前学習として、新聞・テレビ・インターネット等で報道される飲食物による食中毒事件、食の安全に関わる記事等を日々探求し、自己研鑽すること。探求した内容はノートにまとめておく。（時間外学習週４時間程度必要） ②試験・レポートに対するフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、食中毒の概要	○各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 ○不定期に講義内容に基づいた小テストを実施し、評価する。
	学習成果	食中毒の概要について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
2回	授業内容	食中毒の分類、発生状況	
	学習成果	食中毒の分類と発生状況を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
3回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策　細菌性食中毒　(1) 感染型食中毒	
	学習成果	サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、ウエルシュ菌、カンピロバクター、リステリア菌等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
4回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策　細菌性食中毒　(2) 毒素型食中毒	
	学習成果	黄色ブドウ球菌、ボツリヌス、セレウス菌等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
5回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策　ウィルス性食中毒	
	学習成果	ノロウィルス等について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
6回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策　化学性食中毒、アレルギー物質	
	学習成果	化学物質、アレルギー物質について、理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
7回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策　自然毒食中毒	
	学習成果	自然毒について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
8回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策　寄生虫食中毒	
	学習成果	寄生虫（アニサキス等）について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
9回	授業内容	菓子と食中毒、異物混入対策	
	学習成果	和菓子、洋菓子、パンによる食中毒や異物混入の事例と予防対策を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
10回	授業内容	食中毒の予防①	
	学習成果	微生物（細菌、ウイルス、かび）による食中毒の予防について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
11回	授業内容	食中毒の予防②	
	学習成果	化学物質、自然毒、寄生虫等による食中毒の予防について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。	
12回	授業内容	消毒の方法（物理的消毒方法、科学的消毒方法）	
	学習成果	消毒の方法についての知識を学び、科学的な根拠を基にした消毒の実践方法を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
13回	授業内容	食品衛生法及び食品表示法に基づく食品の取扱い	
	学習成果	食品衛生法及び食品表示法に基づく食品の規格基準、製造基準、保存基準、表示基準を説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
14回	授業内容	HACCP による衛生管理（概論）	
	学習成果	HACCP についての知識を学び、科学的な根拠を基にした HACCP による衛生管理の実践方法を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
15回	授業内容	食品衛生についてのまとめ	
	学習成果	食中毒、衛生管理全般を理解し、説明できる。製菓衛生師国家試験問題に解答できる能力を高める。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓衛生師教本　製菓衛生師試験問題集を読み予習・復習しておく。	

科目名	食品衛生学Ⅲ				担当者	渡部成子（ワタナベシゲユ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等には、各講義の前後に対応する。											
専門的 学習成果	①	食物連鎖について説明できる。										
	②	重金属、化学物質、農薬などの人体への影響を説明できる。										
	③	農薬や異物が食品に混入する原因を説明できる。										
	④	農薬や放射線の適切な利用方法を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食材に混入する可能性がある有害成分を考慮して、食材を選ぶことができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	野菜などを栽培する際に、農薬を適切に選択し、使用することができる。（専門的学習成果③④に関連）										
授業概要	食品に混入する危険性がある有害物質（重金属、化学物質、農薬など）の性質や人体への影響について学ぶ。また、こうした有害物質の安全で有効的な活用方法や食品への混入を防ぐ方法などについても学ぶ。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的 学習成果	（1）は専門的学習成果①～④で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③～④で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師　試験問題集』	全国製菓衛生師養成施設協会
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上』	全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全集』	日本菓子教育センター

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解くこと（予習：週1時間程度）。講義終了後に内容を復習すること（復習：週3時間程度）。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	食物連鎖	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	食物連鎖と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	食物連鎖の定義を理解する。	
2回	授業内容	生物濃縮	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	生物濃縮と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	生物濃縮の定義を理解する。	
3回	授業内容	重金属	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	重金属と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	重金属の定義を理解する。	
4回	授業内容	放射性物質	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	放射性物質と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	放射性物質の定義を理解する。	
5回	授業内容	放射線、滅菌	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	放射線、滅菌の活用方法を説明できる。	
	予習復習の内容	放射線、滅菌の定義を理解する。	
6回	授業内容	有機塩素系農薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	有機塩素系農薬と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	有機塩素系農薬の定義を理解する。	
7回	授業内容	PCB	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	PCB と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	PCB の定義を理解する。	
8回	授業内容	ダイオキシン	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	ダイオキシンと健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	ダイオキシンの定義を理解する。	
9回	授業内容	残留農薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	残留農薬と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	残留農薬の定義を理解する。	
10回	授業内容	残留動物用医薬品	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	残留動物用医薬品と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	残留動物用医薬品の定義を理解する。	
11回	授業内容	残留飼料添加物	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	残留飼料添加物と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	残留飼料添加物の定義を理解する。	
12回	授業内容	動物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	動物性の異物と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	動物性の異物の定義を理解する。	
13回	授業内容	植物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	植物性の異物と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	植物性の異物の定義を理解する。	
14回	授業内容	鉱物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	鉱物性の異物と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	鉱物性の異物の定義を理解する。	
15回	授業内容	総まとめ	演習問題を使い、評価する。
	学習成果	食品衛生学Ⅲに関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	食品衛生学Ⅳ（衛生管理）			担当者	菊地（キクチ） 香保里（カオリ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける											
専門的学習成果	①	衛生管理を実習を通して学び、清潔な身だしなみができる。										
	②	衛生管理についての知識を学び、日常生活の健康管理の重要性を科学的な根拠をもとに説明できる。										
	③	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。										
	④	衛生管理について実習を通して学び、洗剤の使用方法や消毒剤の使用方法を説明することができる。										
	⑤	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。										
	⑥	製菓業務における HACCP システムについて学び、危害リストの作成ができ、説明できる。										
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。										
汎用的学習成果	(1)	衛生管理で習得した知識を活用して、衛生管理の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(2)	衛生管理で習得した知識や技能を活用して菓子製造現場の課題に取り組み、問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(3)	衛生管理で習得した知識を活用して菓子製造現場の衛生管理に取り組み、実践することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(4)	衛生管理で習得した知識を活用して、製菓衛生師国家試験等の資格取得に活用することができる。（専門的学習成果①～⑦に関連）										
授業概要	食に携わるものの義務として、人々に製造した食品を販売する社会的責任について十分に理解し、食品衛生法を遵守する重要性を学ぶ。そのために食品衛生法で定められている衛生管理全般についての知識が必要である。食品衛生法では、洋生菓子の衛生規範、営業施設基準準則、食品の表示、アレルギー物質を含む食品の表示等が示されている。食品衛生法について理解を深め、行動しながら考える習慣を身につけ、衛生管理の現状と今後の課題について考察する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	40	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート	40	8回レポート、学習プリントを提出し、各回5％を配点する。内容により評価する。
		衛生点検表	20	10回実施し、各回2％を配点する。特につめが長い、ネイル、濃い化粧、マスカラ等は評価が低くなる。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 （2）は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 （3）は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 （4）は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	高谷　幸	『食品衛生責任者 / 実践マニュアル　食品取扱者・調理従事者必携衛生管理ガイドブック』	社団法人　日本食品衛生協会
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『新訂製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	仙台市健康福祉局保健衛生部生活衛生課監修	『食品衛生責任者養成講習会テキスト・知っておきたい食品衛生』	社団法人　仙台市食品衛生協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくること。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週2時間程度）。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。（復習：週2時間程度）。授業計画の1回目と2回目と3回目は講義とし、4回目以降は演習を行う。 ②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、衛生管理の意義、健康管理の重要性、食品取扱いの三原則	○レポート課題①「衛生管理の意義」「食品取扱の三原則」を2回目までに提出する。「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を実習を通して学び、個人の健康管理、清潔な身だしなみを学ぶ。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
2回	授業内容	施設、設備の要件と管理、営業者の責務	○レポート課題②「菓子製造業者として人々に食品を販売する社会的責任について」のまとめを3回目までに提出。「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
3回	授業内容	総合衛生管理製造過程、食品の保存と表示	○レポート課題③「食品の保存と表示」のまとめを4回目までに提出する。「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
4回	授業内容	滅菌、殺菌、消毒、牛乳の殺菌方法、細菌性食中毒、ウイルス性食中毒の特徴と予防対策	○レポート課題④「ノロウイルスの予防対策」をまとめて提出。 ○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	菓子製造者として、食品衛生管理についての知識を学び、洗剤や消毒剤を科学的な根拠をもとに説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
5回	授業内容	服装、身だしなみ、入室マニュアル（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、清潔な身だしなみができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
6回	授業内容	手洗い、手洗いチェック（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
7回	授業内容	食材および加工済み食品の受け入れと保管時の衛生管理（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
8回	授業内容	食材の適切な下処理、解凍と保存（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
9回	授業内容	食材の加熱処理（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
10回	授業内容	加工工程のない食材の取扱い（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
11回	授業内容	調理終了から喫食までの衛生管理　器具、容器、設備の洗浄、消毒、保管（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理、洗剤や消毒剤の使用方法を正しく実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
12回	授業内容	給水・汚物処理、菓子製造業の施設基準と施設設備の構造（実習室）	○「衛生管理点検表」の記入提出。
	学習成果	食品衛生法に基づいた管理運営基準、洋生菓子の衛生規範を学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
13回	授業内容	食品事業者の危機管理、事故など発生時の対応方法、異物混入の防止対策	○レポート課題⑤「製品説明書」レポート課題⑥「製造工程一覧図」を記入し、13回目まで提出。 ○学習プリントの練習問題1～10記入。
	学習成果	食品衛生法に基づいた管理運営基準、洋生菓子の衛生規範を学び、食品の衛生管理を実践することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
14回	授業内容	製菓業務における HACCP システムの検討	○レポート課題⑦「HACCP の計画書」に記入し、13回目まで提出。 ○学習プリントの練習問題11～20記入。
	学習成果	製菓業務における HACCP システムについて学び、危害リストの作成ができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	
15回	授業内容	製菓業務における HACCP システムの検討	レポート課題⑧「標準作業手順書」に記入し作成試験まで提出。 ○学習プリントの練習問題21～30記入。学習プリントファイルを点検し、点検し、記入状況で評価する。
	学習成果	製菓業務における HACCP システムについて学び、衛生標準作業手順書の作成ができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。	

科目名	製菓社会論				担当者	相良奈津（さがら なつ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sagara.natsu@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											

専門的学習成果	①	菓子店を開業する為の必要最低限の事を説明できる。
	②	菓子店経営の為に何が必要か説明できる。
	③	菓子店経営の為にするべき事を体系的に論じることができる。
	④	繁盛店になる為には何をすべきか説明できる。
	⑤	菓子の歴史・文化について理解する。
	⑥	菓子・製菓業界の現状と課題について理解し考察しプレゼンテーションができる。
	⑦	自らの製菓観、菓子製造者・経営観を構築できる。
汎用的学習成果	(1)	製菓衛生師養成課程必須科目である、菓子店経営・菓子文化論に関する学習を通じて、菓子に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を修得し活用できる。（専門的学習成果①②③⑤⑦に関連）
	(2)	経営に関連した専門知識を活用して、地域社会の発展に貢献できる。（専門的学業成果②③④に関連）
	(3)	菓子・製菓業界の現状の調査や、プレゼンテーションを通じて、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果④に関連）
	(4)	菓子・製菓業界の現状の調査を通じて、修得した知識を活用し課題の設定や解決法について考察ができる。（専門的学習成果⑦に関連）
授業概要	製菓衛生師必須科目である。　テキストに沿って、菓子店開業の為に必要な届け出や準備すべき備品・什器、資金等、様々な角度から見つけ出す。さらに菓子店を経営していく上で売るための仕組みと、売り上げ向上に繋がる為に必要不可欠な事や留意点を実体験に基づき具体例を交えて講義するしていく。受講学生自らオーナーの立場となって繁盛店となるポイントを探る授業とする。菓子の歴史や現代生活との結びつきをテキストや文献に基づき深く見つめなおす。具体的には菓子の始まりから、日本における和・洋菓子文化に重点を置き知識を修得する。フランス等、欧州の古典菓子の名前と由来などについては講義の中で解説をする。また、調査を通じ現在の日本の菓子店・菓子の動向を調べ、自らの製菓観、菓子製造者・経営者感を構築しプレゼンテーションを行い、自己表現を養う。		

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	30	筆記試験形式で行い全15回分の講義の内容の理解について評価を行う。
		レポート		
		プレゼンテーション	30	テーマに基づいたプレゼンテーションの内容・発表により評価する。
		平常点	10	調査やプレゼンテーションへの取り組み・意欲・態度により評価する。
		提出物	10	パワーポイントについてその内容・形式により評価する。
		小テスト	20	第8回、第15回に実施。各回10%を配点する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）（4）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習評価①③⑤⑦により評価を行う （2）は専門的学習評価②③④により評価を行う （3）は専門的学習評価④⑥により評価を行う （4）は専門的評価⑦により評価を行う		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会
		『製菓衛生師全書　和洋菓子・パンのすべて』	日本菓子教育センター
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	猫井　登	『お菓子の由来物語』	幻冬舎ルネッサンス
	大森由紀子	『フランス菓子図鑑　お菓子の名前と由来』	世界文化社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師養成課程必須科目である。 テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週4時間程度行うこと。また、日常的に菓子店・製パン店・和菓子店・デパート食品売り場等に出向き菓子店の動向などを視察し考察を深めること。 ②小テスト・筆記試験は答案を返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより、結果のフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、菓子店経営論概要、菓子と食生活	○小テスト　8回目に実施
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンス内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	ビジネスプランの企画開発の手順・企業戦略の確立	
	学習成果	ビジネスプランの企画開発の手順と企業戦略の確立を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
3回	授業内容	企業戦略の確立・店舗オペレーションの原理原則	
	学習成果	企業戦略の確立方法と店舗オペレーションの原理原則を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
4回	授業内容	商品計画・商品の価値・味	
	学習成果	商品計画の方法・商品の価値・味を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
5回	授業内容	店舗計画・店舗設計について	
	学習成果	店舗計画の方法・店舗設計について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
6回	授業内容	経営計画の立て方・マニュアルの作成方法	
	学習成果	経営計画の立て方・マニュアルの作成方法を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
7回	授業内容	人事に関する法規・サービスからホスピタリティに	
	学習成果	人事に関する法規・サービスからホスピタリティを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
8回	授業内容	接客サービスの基本・販売促進計画・開店計画・菓子店経営についてのまとめ	
	学習成果	接客サービスの基本・販売促進計画・開店計画・菓子店経営全般についてのまとめを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
9回	授業内容	菓子の役割（1）歴史的背景（2）現代社会の場合	○小テスト　15回目に実施 15回分の授業内容の理解について筆記試験で評価。
	学習成果	菓子の歴史的背景・現代社会での役割を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の歴史的背景・現代社会での役割について理解を深める。	
10回	授業内容	日本の工芸菓子文化・都市部の菓子店の現状の調査	
	学習成果	ジャパンケーキショーを調査し、工芸菓子について説明ができる。都市部の菓子店を調査し、店のポイントや味、地方との違いについて説明ができる。	
	予習復習の内容	調査を振り返り、日本の工芸菓子文化、都市部の菓子店の現状について理解を深める。	
11回	授業内容	調査研究の発表	
	学習成果	パワーポイントを製作し、他者の前で発表できる。	
	予習復習の内容	パワーポイント製作及び発表に向けて必要な準備を行う。	
12回	授業内容	菓子の歴史（1）縄文時代から鎌倉時代まで（2）江戸時代から現代まで	
	学習成果	菓子の歴史の縄文時代から現代まで、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の歴史の縄文時代から現代までについて理解を深める。	
13回	授業内容	パンの歴史（1）世界編（1）日本編	
	学習成果	パンの歴史の世界編・日本編について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パンの歴史の世界編・日本編について理解を深める。	
14回	授業内容	菓子製造の要件（1）美と味覚（2）衛生と栄養	
	学習成果	菓子製造の要件の美と味覚・衛生と栄養について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子製造要件の美と味覚・衛生と栄養について理解を深める。	
15回	授業内容	菓子の生産と消費・菓子の包装	
	学習成果	菓子の生産と消費・菓子の包装について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の生産と消費・菓子の包装について理解を深める。	

科目名	製菓理論Ⅰ				担当者	岩松秀夫（イワマツヒデオ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に質問等を受け付ける。											
専門的学習成果	①	製菓原材料の種類を理解しその内容を説明できる。										
	②	菓子の分類を理解し、その内容を説明できる。										
	③	製菓材料の加工適性を理解し、その内容を説明できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要となる製菓理論分野に関する知識を習得し、実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	製菓分野に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	製菓理論で習得した知識を活用した菓子製造現場での課題解決と問題解決の行動ができる。（専門的学習製菓①②③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。（専門的学習成果①②③④）										
授業概要	菓子製造をするにあたり、小麦粉、砂糖、卵など主に製菓で使用する食材の持つ特徴や働きを理解でき実践の際に活用することができる。また、国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、製菓材料（和菓子・洋菓子・製パン）を分類・種類・等級がどの様な基準・規格によるものかを理解し、どの様な使用例があるか理解する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。70%以上の得点を合格とする。
		レポート	20	各授業でレポート課題を課し、次授業で提出する。
		平常点	20	授業態度、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価する。 (2) は専門的学習評価①②③にて評価する。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価する。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本菓子教育センター編	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	河田昌子	『お菓子「こつ」の科学』	柴田書店

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。 製菓原材料の種類及び加工適性を理解する。製菓理論を理解し、実習で確認する。 授業前によくテキストを読み充分に理解して授業に臨むこと。（予習として週2時間程度） 単元ごとに授業にレポートを課し、その内容を評価の対象とする。（復習として週2時間程度） ②レポート課題は次回授業内にて解説を実施する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、製菓材料の総論	授業態度、意欲を評価する。 授業終了後に課題として、レポートを課す。レポート内容は評価の対象とする。 次回の授業にてレポートを提出する。適宜解説を行う。 全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。
	学習成果	菓子に使用される原料の概要が説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み授業内容を理解する。	
2回	授業内容	甘味料（種類・特徴）	
	学習成果	菓子に使用される甘味料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「甘味料」分野を予習・復習しておく。	
3回	授業内容	甘味料（でん粉糖・その他の糖類）	
	学習成果	菓子に使用される甘味料であるでん粉糖と他糖類の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「甘味料」分野を予習・復習しておく。	
4回	授業内容	小麦粉（種類・特徴）	
	学習成果	菓子に使用される小麦粉の種類とその特徴を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「小麦粉」分野を予習・復習しておく。	
5回	授業内容	小麦粉（加工適性）	
	学習成果	菓子に使用される小麦粉の加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「小麦粉」分野を予習・復習しておく。	
6回	授業内容	でん粉（種類・加工適性）	
	学習成果	菓子に使用されるでん粉の種類と加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「でん粉」分野を予習・復習しておく。	
7回	授業内容	米　粉（種類と加工適性）	
	学習成果	菓子に使用される米粉の種類と加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「米粉」分野を予習・復習しておく。	
8回	授業内容	鶏　卵（加工適性）	
	学習成果	菓子に使用される鶏卵の加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「鶏卵」分野を予習・復習しておく。	
9回	授業内容	油　脂（種類・特徴）	
	学習成果	菓子に使用される油脂の種類と特徴を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「油脂」分野を予習・復習しておく。	
10回	授業内容	油　脂（加工適性）	
	学習成果	菓子に使用される油脂の加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「油脂」分野を予習・復習しておく。	
11回	授業内容	牛乳及び乳製品（種類）	
	学習成果	菓子に使用される牛乳と乳製品を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「牛乳及び乳製品」分野を予習・復習しておく。	
12回	授業内容	牛乳及び乳製品（加工適性）	
	学習成果	菓子に使用される牛乳と乳製品の加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「牛乳及び乳製品」分野を予習・復習しておく。	
13回	授業内容	原料チョコレート（種類）	
	学習成果	菓子に使用されるチョコレートの種類を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「チョコレート」分野を予習・復習しておく。	
14回	授業内容	原料チョコレート（加工適性）	
	学習成果	菓子に使用されるチョコレートケーキの加工適性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「チョコレート」分野を予習・復習しておく。	
15回	授業内容	菓子の原材料についてのまとめ	
	学習成果	菓子に使用される原料全般の特性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓理論「菓子の原材料」分野を予習・復習しておく。	

科目名	製菓理論Ⅱ				担当者	岩松秀夫（イワマツヒデオ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に質問等を受け付ける。	
専門的学習成果	①	製菓原材料の種類を理解しその内容を説明できる。
	②	菓子の分類を理解し、その内容を説明できる。
	③	製菓材料の加工適性を理解し、その内容を説明できる。
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要となる製菓理論分野に関する知識を習得し、実践できる。
汎用的学習成果	(1)	製菓分野に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）
	(2)	製菓理論で習得した知識を活用した菓子製造現場での課題解決と問題解決の行動ができる。（専門的学習製菓①②③）
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。（専門的学習成果①②③④）
授業概要	菓子製造をするにあたり、果実、凝固剤、食品添加物等、主に製菓で使用する食材の持つ特徴や働きを理解でき実践の際に活用することができる。また、国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、製菓材料（和菓子・洋菓子・製パン）を分類・種類・等級がどの様な基準・規格によるものかを理解し、どの様な使用例があるか理解する。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。70%以上の得点を合格とする。
		レポート	20	各授業でレポート課題を課し、次授業で提出する。
		平常点	20	授業態度、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価する。 (2) は専門的学習評価①②③にて評価する。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価する。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本菓子教育センター編	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	河田昌子	『お菓子「こつ」の科学』	柴田書店

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。 製菓原材料の種類及び加工適性を理解する。製菓理論を理解し、実習で確認する。 授業前によくテキストを読み充分に理解して授業に臨むこと。（予習として週2時間程度） 単元ごとに授業にレポートを課し、その内容を評価の対象とする。（復習として週2時間程度） ②レポート課題は次回授業内にて解説を実施し返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、製菓分類の総論	授業態度、意欲を評価する。 授業終了後に課題として、レポートを課す。レポート内容は評価の対象とする。 次回の授業にてレポートを提出する。適宜解説を行う。 全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。
	学習成果	菓子分類の概要が説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み授業内容を理解する。	
2回	授業内容	果実及び果実加工品（種類）	
	学習成果	菓子に使用される果実及び果実加工品の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「果実及び果実加工品」分野を予習・復習しておく。	
3回	授業内容	果実及び果実加工品（加工適性）	
	学習成果	菓子に使用されるの果実及び果実加工品の加工適性を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「果実及び果実加工品」分野を予習・復習しておく。	
4回	授業内容	凝固材（種類）	
	学習成果	菓子に使用される凝固剤の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「凝固剤」分野を予習・復習しておく。	
5回	授業内容	凝固材（加工適性）	
	学習成果	菓子に使用される凝固剤の加工適性を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「凝固剤」分野を予習・復習しておく。	
6回	授業内容	風味・調味料（酒・香料）	
	学習成果	菓子に使用される風味・調味料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「風味・調味料」分野を予習・復習しておく。	
7回	授業内容	風味・調味料（香辛料・乳化性香料）	
	学習成果	菓子に使用される風味・調味料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「風味・調味料」分野を予習・復習しておく。	
8回	授業内容	補助材料（イースト・食塩・水）	
	学習成果	菓子に使用される補助材料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「補助材料」分野を予習・復習しておく。	
9回	授業内容	製パン改良剤（イーストフード）	
	学習成果	菓子に使用される製パン改良剤の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン改良剤」分野を予習・復習しておく。	
10回	授業内容	製パン改良剤（膨張剤・乳化剤）	
	学習成果	菓子に使用される製パン改良剤の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン改良剤」分野を予習・復習しておく。	
11回	授業内容	着色料（種類）	
	学習成果	菓子に使用される着色料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「着色料」分野を予習・復習しておく。	
12回	授業内容	その他の補助材料	
	学習成果	菓子に使用される補助材料の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「補助材料」分野を予習・復習しておく。	
13回	授業内容	食品添加物（分類）	
	学習成果	菓子に使用される食品添加物の種類と特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「食品添加物」分野を予習・復習しておく。	
14回	授業内容	食品アレルギー	
	学習成果	菓子原料での食品アレルギーについて説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「食品添加物」分野を予習・復習しておく。	
15回	授業内容	菓子の原材料についてのまとめ	
	学習成果	菓子に使用される原料全般の特性を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書　製菓理論「菓子の原材料」「補助材料」を予習・復習しておく。	

科目名	製菓理論Ⅲ				担当者	吉田（ヨシダ）　正（タダシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はＥメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的学習成果	①	洋菓子の種類、材料について基本的理論を理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子の基本製造を理解し、古典菓子から流行菓子まで説明、表現できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓理論に関する知識を習得し、理解できる。										
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。（専門的学習成果①②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、主に洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 小麦粉、バター、卵などの、洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解し、なおかつ、ルセット（配合）に置き換えた際の性質を理解して実習授業で活用していく方法を習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性について理解する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	70	全15回分の講義内容を基に記述式の問題を課す。70%以上の得点を合格とする。
		レポート		
		小テスト	30	隔週にて実施し、授業内容理解度を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』	日本菓子教育センター
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上・下』	全国製菓衛生師養成施設協会

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。授業計画に沿って教科書の内容を事前に確認しておく。（事前学習として週１時間程度） 授業後は配布したプリントにまとめ、次回の小テストに向けた自主学習をする。（復習２時間程度） ※国家試験の資格取得の為に学習時間が定められている。欠席者に対しては補講を課す。 ②小テストは実施後に適宜総評、解説を行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、製菓衛生師とは	ワークシートの取り組み。 授業終了後、提出する。
	学習成果	授業の内容を理解し製菓衛生師について説明できる。	
	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
2回	授業内容	洋菓子の分類　洋菓子製造に用いる用具、機器・パータジェノワーズ	
	学習成果	洋菓子の分類　洋菓子製造に用いる用具。機器を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓実習室にある機器で実際に操作してみる。	
3回	授業内容	原材料の基礎知識　1）小麦粉・澱粉・米粉・糖類・パータビスキュイ	小テスト（原材料基礎知識について）４回目に実施
	学習成果	上記食材の洋菓子材料としての役割と物性変化を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
4回	授業内容	原材料の基礎知識　2）油脂・鶏卵・乳製品・チョコレート・果実	
	学習成果	上記食材の洋菓子材料としての役割と物性変化を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
5回	授業内容	基本生地とその応用　1）パータフォンセ・パータシュクレ・フィユタージュ	小テスト（基本生地とその応用１・２について）６回目に実施
	学習成果	生地の違いと使用用途を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
6回	授業内容	基本生地とその応用　2）パータシュー・パートブリゼ	
	学習成果	生地の違いと使用用途を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
7回	授業内容	基本生地とその応用　3）カトルカール・ムラング・マカロン	小テスト（基本生地とその応用３・４について）８回目に実施
	学習成果	生地の仕込み方法と焼成温度を理解して実習授業で実践できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
8回	授業内容	基本生地とその応用　4）パートルヴェ・プディング・ババロア・ムース・ジュレ	
	学習成果	発酵菓子の温度管理の理解と冷菓に使用するゲル化剤を正しく分類・使用できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
9回	授業内容	基本生地とその応用　5）クレーム・ソース・スフレ	小テスト（基本生地とその応用５・６について）10回目に実施
	学習成果	クリーム類を安全に正しく管理・製造できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
10回	授業内容	基本生地とその応用　6）プティフール・細工物	
	学習成果	プティフールを分類して説明できる。細工物を分類して説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
11回	授業内容	副材料　1）ジャム・フルーツなどの砂糖漬け	小テスト（副材料について）12回目に実施
	学習成果	ジャム類の規格を理解と製造原理を理解する。糖液と糖度を説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
12回	授業内容	副材料　2）プラリネ・ヌガー・自家製リキュール・マジパン・フォンダン	
	学習成果	上記材料についての原理を理解して製法を説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
13回	授業内容	チョコレート　1）チョコレートの基本知識	小テスト（チョコレートについて）14回目に実施
	学習成果	歴史、カカオ豆、製造工程、成分、分類について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
14回	授業内容	チョコレート　2）チョコレートの理論と応用	
	学習成果	温度管理、カカオバターの結晶化、ガナッシュについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	配布するプリントに授業内容を詳しくまとめる。	
15回	授業内容	古典菓子から現代菓子への変化　製菓衛生師試験への取り組み	小テスト（製菓衛生師試験洋菓子分野）15回目に実施
	学習成果	食材や技術の発展により洋菓子が変化していった過程を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの授業内容を理解深め、国家試験過去問題に取り組む。	

科目名	洋菓子入門				担当者	吉田（ヨシダ）　正（タダシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はＥメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子の基本製造を理解し製作できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる。（専門的学習成果②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する基礎知識と基本技能について学習する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して洋菓子実習にて活用していく技法を習得する。実習では主にフランス菓子の基本パートの製法と、そのパートを使用したケーキ、菓子を製作する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。 デコレーションの技術を習得する為に、授業時間以外での練習が必要とされる。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な技法（デコレーション）の実技試験を実施する								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
	汎用的学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習評価②③④にて評価を行う											
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター									
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』	日本菓子教育センター									
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上・下』	全国製菓衛生師養成施設協会									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。２コマ連続で授業を行う。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週１時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる（復習として週２時間程度） ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス　実習室の使用方法　用具・機器の理解	ワークシートへの取り組み
	学習成果	授業内容を充分に理解し、実習室と機器類を的確に操作できる。	
	予習復習の内容	ガイダンス内容を踏まえ、次回授業に必要とされる事を準備する。	
3・4回	授業内容	基本生地とその製法　1）パータジェノワーズ	毎授業で制作したケーキ・菓子について評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。 12・13回目については、授業内で一定の水準に到達しない場合、技術習得の練習を課す。
	学習成果	ジェノワーズ生地の基本配合と共立て製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
5・6回	授業内容	基本生地とその製法　2）パータビスキュイ	
	学習成果	パータビスキュイの基本配合と別立て製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	基本生地とその応用 3）パータシュクレ	
	学習成果	パータシュクレの基本配合と仕込み製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
9・10回	授業内容	基本生地とその応用　4）パータブリゼ	
	学習成果	パータブリゼの基本配合と仕込み製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
11・12回	授業内容	基本生地とその応用　5）パータシュー	
	学習成果	基本配合と製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	基本生地とその応用　6）パータフィユタージュ	
	学習成果	基本配合と製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
15・16回	授業内容	クリーム類と副材料　1）クレームフロマージュ	
	学習成果	基本配合と製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
17・18回	授業内容	クリーム類と副材料　　2）ババロア　プディング	
	学習成果	基本配合と製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
19・20回	授業内容	クリーム類と副材料　　3）クレーム　ソース	
	学習成果	基本配合と製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
21・22回	授業内容	基本生地とその応用　　4）ショコラ　ガナッシュ	
	学習成果	基本配合と製法を習得する。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
23・24回	授業内容	基本の動作とデコレーション　1）ナッペ	
	学習成果	パレットナイフを使い適切な動作を実践できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	基本の動作とデコレーション　2）絞り	
	学習成果	絞り袋を使い適切な動作を実践できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
27・28回	授業内容	アントルメ制作　1）パータビスキュイを使用	
	学習成果	基本の生地・クリームを使用したアントルメを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
29・30回	授業内容	アントルメ制作　2）パータシュクレを使用	
	学習成果	基本の生地・クリームを使用したアントルメを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	

科目名	和菓子入門				担当者	岩松秀夫（イワマツヒデオ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に質問等を受け付ける。											
専門的学習成果	①	和菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	和菓子を創りだす為の製法や配合を正しく述べることができる。										
	③	和菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	④	製菓衛生師養成課程「製菓実習実技試験ガイドライン」の内容で60点以上の成績を修める。										
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	和菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現ができる。（専門的学習成果①②③④）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、和菓子に関する基礎知識と基本技能について学習する。 和菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して実習にて活用していく技法を習得する。実習では主に基本生地と餡の製法や和菓子の原材料を使用した伝統と気候風土をまじえた菓子を製作する。また、食を提供する観点から、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	80	和菓製造に必要な技法の実技試験を実施する。								
		レポート	10	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
		平常点	10	授業態度と意欲、理解力の総合評価とする。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
		毎回、実習課題プリント配布										
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	日本菓子教育センター編	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター									
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』	全国製菓衛生師養成施設協会									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。２コマ連続で授業を行う。 授業計画に沿って制作する菓子の内容はテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週１時間程度） 授業後は実習で作製した菓子のレシピと製法をまとめる（復習として週２時間程度） ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	蒸し物　小麦粉饅頭、流し物　栗羊羹	授業態度と意欲、理解力の総合評価を行う。 授業毎に示されるレシピと製法についてまとめたレポートを提出し評価する。 授業・試験にて製作した和菓子を個別に点検し評価する。
	学習成果	器具の使用方法と原材料を理解して上記の菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
3・4回	授業内容	製餡　小豆漉餡、小豆粒餡、蒸し物　イチゴ大福	
	学習成果	製餡方法を理解し上記の菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
5・6回	授業内容	蒸し物　柏餅、串団子	
	学習成果	蒸し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
7・8回	授業内容	蒸し物　蒸しかすてら、おはぎ	
	学習成果	蒸し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
9・10回	授業内容	蒸し物　みそ松風、流し物　カスタード羹	
	学習成果	蒸し物製法と流し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
11・12回	授業内容	蒸し物　ウイロウ、揚物　揚饅頭	
	学習成果	蒸し物製法と揚げ物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
13・14回	授業内容	うどん、かき揚げ　蒸し物　抹茶プリン	
	学習成果	小麦粉と卵の加工を理解して上記の菓子と食品が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
15・16回	授業内容	蒸し物　こなし　流し物　グレープフルーツゼリー	
	学習成果	凝固剤を使用して菓子を製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
17・18回	授業内容	蒸し物　浮島　練り物　求肥、練切	
	学習成果	和菓子の技法で造形菓子を製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
19・20回	授業内容	蒸し物　栗蒸羊羹　焼物　焼皮桜餅	
	学習成果	焼き物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
21・22回	授業内容	焼物　どら焼、岡物　最中、抹茶アイス	
	学習成果	焼き物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
23・24回	授業内容	焼物　栗饅頭　流し物　フルーツあんみつ	
	学習成果	焼き物製法と流し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
25・26回	授業内容	干菓子　寒氷、豆飴、雲平、打ち物	
	学習成果	干菓子製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
27・28回	授業内容	蒸し物　葛桜、薯蕷饅頭	
	学習成果	蒸し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
29・30回	授業内容	流し物　づんだ羹　蒸し物　道明寺桜餅	
	学習成果	流し物製法と蒸し物製法を理解して上記菓子が製作できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	

科目名	製パン入門				担当者	小島　進・江刺俊紀						
区　分	選択	3	単位	授業回数	45	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	90	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に実習室で受けつける。											
専門的学習成果	①	製パンに必要な器具 / 道具の名称を述べることができる。										
	②	パン製造に使用される原材料の特性と機能を説明できる。										
	③	手仕込みによるパン生地の仕込み方法を実施できる。										
	④	仕込み・成形・焼成までの製パン製造の一連の流れを実行できる。										
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	製パンの文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現ができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(3)	製パン分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、製パンに関する基礎知識と基本技能について学習する。 パン製造に欠かせない原料の特性を理解して実習にて活用していく技法を習得する。実習では主に基本となる食パンやロールパン等を手仕込みと機械仕込みの製法を習得する。また、食を提供する観点から、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	80	パン製造に必要な技法の実技試験を実施する。								
		レポート										
		平常点	20	授業態度と意欲、理解力の総合評価とする。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	竹谷　光司	『新しい製パン基礎知識・再改訂版』	パンニュース社									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	大阪あべの辻製パン技術専門カレッジ	『パンの基本大図鑑』	講談社									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師養成課程必修科目である．3コマ連続授業で行う。 授業計画に沿って制作する菓子の内容はテキストを利用して事前に確認しておく。(事前学習として週1時間程度) 1回目～21回目の授業担当：小島 22回目～45回目の授業担当：江刺 授業の順番は変更する為、初回授業時に説明する。 授業後は実習で作製した菓子のレシピと製法をまとめる（復習として週2時間程度） ②実技試験実施後に適宜実技指導を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1・2・3回	授業内容	器具の説明、製パンの流れ、バターロールの仕込み	授業・試験にて製作したパンを個別に点検し評価する。
	学習成果	器具の説明、製パンの流れ、バターロールの仕込みを理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
4・5・6回	授業内容	レーズンブレッド、グラハムブレッド、動物パン	
	学習成果	レーズンブレッド、グラハムブレッド、動物パンの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
7・8・9回	授業内容	ブリオッシュ、パン・オレ、イギリスパン	
	学習成果	ブリオッシュ、パン・オレ、イギリスパンの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
10・11・12回	授業内容	パン・オ・ゴルゴンゾーラ、フォカッチャ、ベーグル	
	学習成果	パン・オ・ゴルゴンゾーラ、フォカッチャ、ベーグルの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
13・14・15回	授業内容	30%中種バケット、セモリナブレット	
	学習成果	30%中種バケット、セモリナブレットの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
16・17・18回	授業内容	カルトフェルブロート、ミッシュブロート、ラウゲンブレツェル	
	学習成果	カルトフェルブロート、ミッシュブロート、ラウゲンブレツェルの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
19・20・21回	授業内容	ピザ、ピタ、グリッシーニ	
	学習成果	ピザ、ピタ、グリッシーニの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
22・23・24回	授業内容	酒種あんパン、菓子パン（メロンパン）	
	学習成果	酒種あんパン、菓子パン（メロンパン）の製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
25・26・27回	授業内容	食パン（プルマン型）、ピザ	
	学習成果	食パン（プルマン型）、ピザの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
28・29・30回	授業内容	くるみパン（甘め）、くるみカマンベール赤ワイン仕込	
	学習成果	くるみパン（甘め）、くるみカマンベール赤ワイン仕込の製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
31・32・33回	授業内容	レーズン練り込み、豆パン巻き込み	
	学習成果	レーズン練り込み、豆パン巻き込みの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
34・35・36回	授業内容	トレコン、パン・オ・セーブル（ドイツ）	
	学習成果	トレコン、パン・オ・セーブル（ドイツ）の製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
37・38・39回	授業内容	フランスパン、パンドカンパーニュ	
	学習成果	フランスパン、パンドカンパーニュの製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
40・41・42回	授業内容	イギリスパン、ホットチーズ三昧	
	学習成果	イギリスパン、ホットチーズ三昧の製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
43・44・45回	授業内容	タイヨール、編みパン（スイス）	
	学習成果	タイヨール、編みパン（スイス）の製法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	

科目名	洋菓子専門				担当者	吉田（ヨシダ）　正（タダシ）　・　加藤（カトウ）　信樹（シンキ）　・　相良（サガラ）　奈津（ナツ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はＥメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子の基本製造を基に専門的な菓子製作できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する専門的知識と高度な技能について習得する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解することにより、専門的な洋菓子実習で活用していく技法を習得する。主に現代フランス菓子を中心にケーキ・焼き菓子を製作する。更に、個人でアントルメを作製できる技術を身につける。 パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ）の実技試験を実施する								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習評価①②③④にて評価を行う （2）は専門的学習評価①③にて評価を行う （3）は専門的学習評価①②③④にて評価を行う （4）は専門的学習評価②③④にて評価を行う										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター									
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』	日本菓子教育センター									
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上・下』	全国製菓衛生師養成施設協会									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。２コマ連続で授業を行う。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週１時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる（復習として週２時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	基本生地　ビスキュイジョコンドを使用した菓子製作	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	フランス菓子　オペラを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
3・4回	授業内容	基本生地　パートサブレを使用した菓子製作	
	学習成果	フランス菓子　フロランタンを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
5・6回	授業内容	基本生地　バターケーキを使用した菓子製作　1）	
	学習成果	フランス菓子　ウィークエンドオランジュを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	基本生地　バターケーキを使用した菓子製作　2）	
	学習成果	フランス菓子　ケークキャラメルバナーヌを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
9・10回	授業内容	基本生地　メレンゲを使用した菓子製作　1）	
	学習成果	抹茶のシフォンケーキを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
11・12回	授業内容	フィナンシェ生地を使用した菓子製作	
	学習成果	ショコラロートンヌを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	アパレイユプリンを使用した菓子製作	
	学習成果	かぼちゃのプリンを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
15・16回	授業内容	クッキー生地を使用した菓子製作	
	学習成果	スノーボールを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
17・18回	授業内容	基本生地　メレンゲを使用した菓子製作　2）	
	学習成果	マカロン４種を正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
19・20回	授業内容	基本生地　メレンゲを使用した菓子製作　3）	
	学習成果	ズコットチーズケーキを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
21・22回	授業内容	基本生地　メレンゲを使用した菓子製作　4）	
	学習成果	モンブランを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
23・24回	授業内容	チョコレートのテンパリング	
	学習成果	テンパリングの理解と実践　モールド仕上げを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	飴細工	
	学習成果	砂糖の温度変化の理解と実践　シュクレクーレ・シュクレティレを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
27・28回	授業内容	アントルメ制作　1）パータビスキュイを使用	
	学習成果	プリンセスを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
29・30回	授業内容	アントルメ制作　2）パートブリゼを使用	
	学習成果	タルトシブストベイザンヌを正しい手順で作ることができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	

科目名	製パン・和菓子専門			担当者	小島　進（コジマ　ススム）・江剌　俊紀（エサシ　トシノリ）・岩松　秀夫（イワマツ　ヒデオ）							
区　分	選択	4	単位	授業回数	60	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	120	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に実習室で受けつける。											
専門的 学習成果	①	高度な製パンと和菓子製造を理解して実践できる。										
	②	原材料特性を理解して最適な製造方法を実施できる。										
	③	仕込み・成形・焼成までの製パンの製作を実施できる。										
	④	仕込み・成形・完成までの和菓子の製作を実施できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	和菓子と製パンの文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現ができる。（専門的学習成果①②③④）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、和菓子と製パンの入門編より発展した専門的知識と高度な技能について学習する。和菓子製造と製パン技能に欠かせない食材の特性を理解して実習にて活用していく専門技法を習得する。実習では主に季節や行事を取り入れた菓子やパンを製作する。また、食を提供する観点から、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解し実践していく。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験	80	パン・和菓子製造に必要な高度な技法の実技試験を実施する。
		レポート	10	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。
		平常点	10	授業態度と意欲、理解力の総合評価とする。
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	竹谷　光司	『新しい製パン基礎知識・再改訂版』	パンニュース社
	日本菓子教育センター編	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	大阪あべの辻製パン技術専門カレッジ	『パンの基本大図鑑』	講談社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。4コマ連続で授業を行う。 授業計画に沿って製作する和菓子・パンの内容はテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週2時間程度）日常の生活において、パンや和菓子を購入し食べ比べ自分なりに、評価が出来る様にしておく。 1回目～20回目　担当：小島 21回目～40回目　担当：江剌 41回目～60回目　担当：岩松 ②授業の終わりに製作した製品の評価を行う。 授業後は実習で作製した菓子のレシピと製法をまとめる（復習として週2時間程度）

授業計画			学習成果の評価
1・2・3・4回	授業内容	おさつロール、シナモンロール、セサミロール	授業・試験にて製作したパンを個別に点検し評価する。
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
5・6・7・8回	授業内容	ブランチブレッド、バナナブレッド、バケット	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
9・10・11・12回	授業内容	クロワッサン、デニッシュ、三色食パン	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
13・14・15・16回	授業内容	シュトーレン、パネトーネ	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
17・18・19・20回	授業内容	30%中種生クリーム食パン、カレーパン、モーンクーヘン	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
21・22・23・24回	授業内容	メープルクーヘン、ほうしパン	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
25・26・27・28回	授業内容	にんじん焼カレーパン、コーヒーロール	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
29・30・31・32回	授業内容	カボチャパン、くり、さつまいも、カトフェル（ドイツ）	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
33・34・35・36回	授業内容	シュトーレン、サンタパン	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
37・38・39・40回	授業内容	クロワッサン、デニッシュペストリー	
	学習成果	上記のパン製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「製パン実習」を読み予習、復習する。	
41・42・43・44回	授業内容	栗渋皮煮、薯蕷饅頭、村雨、よもぎ羊羹	授業・試験にて製作した和菓子を個別に点検し評価する。
	学習成果	上記の和菓子を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
45・46・47・48回	授業内容	軽羹（カルカン）、白羊羹、こなし（山路）	
	学習成果	上記の和菓子製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
49・50・51・52回	授業内容	白羊羹（姫椿）、どら焼、花びら餅	
	学習成果	上記の和菓子製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
53・54・55・56回	授業内容	練切、ウイロウ（甘柿）、そば薯蕷饅頭	
	学習成果	上記の和菓子製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	
57・58・59・60回	授業内容	わらび餅、焼芋、亥の子餅	
	学習成果	上記の和菓子製法を理解して完成させることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書「和菓子実習」を読み予習、復習する。	

科目名	洋菓子応用Ⅰ			担当者	吉田（ヨシダ） 正（タダシ）・加藤（カトウ） 信樹（シンキ）・渡辺（ワタナベ） 靖美（ヤスミ）・相良（サガラ） 奈津（ナツ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はＥメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp

専門的学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。
	③	洋菓子の基本製造を基に専門的な菓子製作ができる。
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する。
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④）
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④）

授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。 更に造形菓子（マジパン細工）の技法を習得し、色彩やバランスの感性を磨くことで、菓子の芸術性を表現できる。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ）の実技試験を実施する
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う (3) は専門的学習評価①②③④⑤にて評価を行う (4) は専門的学習評価②③④にて評価を行う		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』	日本菓子教育センター
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上・下』	全国製菓衛生師養成施設協会

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。２コマ連続で授業を行う。洋菓子応用Ⅱへと続く。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週１時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる（復習として週２時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジパン細工の基本　　1）	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	マジパンの扱いと加工　マジパン造形　花・果物の作製ができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
3・4回	授業内容	マジパン細工の基本　　2）	
	学習成果	マジパン造形　人形・動物の作製・テーマ課題の制作ができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
5・6回	授業内容	ケーキ店の菓子　1）　基本生地からの応用	
	学習成果	クレームブリュレ・ガトーマロンを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	ケーキ店の菓子　2）　基本生地からの応用	
	学習成果	フレッシュロール・クッキーを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
9・10回	授業内容	ケーキ店の菓子　3）　基本生地からの応用	
	学習成果	かぼちゃのプリンを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
11・12回	授業内容	ケーキ店の菓子　4）　焼き菓子の応用	
	学習成果	パンプキンマドレーヌ・スノーボールクッキーを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子　5）　卵白を使用した焼き菓子の応用	
	学習成果	オリジナルフィナンシェ４種類を正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
15・16回	授業内容	ケーキ店の菓子　5）　トルテケーキ	
	学習成果	ブルーベリートルテ・エンゼルトルテを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
17・18回	授業内容	ケーキ店の菓子　6）　フールセックとドゥミセック	
	学習成果	アーモンドチュイル・スフレ・フィナンシェショコラを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
19・20回	授業内容	フランス菓子の応用　1）ビスキュイを使用したロールケーキ	
	学習成果	ルレ・オ・ショコラ／ルレ・オ・フリュイを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
21・22回	授業内容	フランス菓子の応用　2）チーズとチョコレートのフランス菓子	
	学習成果	ガトーフロマージュ／ガトーショコラ・アラ・マロンを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
23・24回	授業内容	フランス菓子の応用　3）フランス古典菓子	
	学習成果	シブストキャラメルポンムを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	フランス菓子の応用　4）イベントケーキ	
	学習成果	ルーローマロン・デリスショコラピスターシュを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
27・28回	授業内容	フランス菓子の応用　5）フールセックとドゥミセック	
	学習成果	ガレットブルトンヌ・ブラウニーを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
29・30回	授業内容	チョコレートの応用	
	学習成果	オランジェット・チェリーボンボン・キャラメルシトロンベールを正しい手順で作ることができる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	

科目名	洋菓子応用Ⅱ			担当者	吉田（ヨシダ）　正（タダシ）・加藤（カトウ）　信樹（シンキ）・渡辺（ワタナベ）　靖美（ヤスミ）・相良（サガラ）　奈津（ナツ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はＥメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp

専門的学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。
	③	洋菓子の基本製造を基に専門的な菓子製作できる。
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する。
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④）
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる。（専門的学習成果②③④）

授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。 更に造形菓子（マジパン細工）の技法を習得し、色彩やバランスの感性を磨くことで、菓子の芸術性を表現できる。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ）の実技試験を実施する
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習評価①③にて評価を行う。 (3) は専門的学習評価①②③④⑤にて評価を行う。 (4) は専門的学習評価②③④にて評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	日本菓子教育センター
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』	日本菓子教育センター
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本　上・下』	全国製菓衛生師養成施設協会

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師必修科目である。２コマ連続で授業を行う。洋菓子応用Ⅰからの続きである。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週１時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる。（復習として週２時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジパン細工の基本　　1）	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	マジパンの扱いと加工　マジパン造形　花・果物の作製	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
3・4回	授業内容	マジパン細工の基本　　2）	
	学習成果	マジパン造形　人形・動物の作製　テーマ課題の制作	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
5・6回	授業内容	ケーキ店の菓子　1）　基本生地からの応用	
	学習成果	クレームブリュレ　ガトーマロン	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	ケーキ店の菓子　2）　基本生地からの応用	
	学習成果	フレッシュロール　クッキー	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
9・10回	授業内容	ケーキ店の菓子　3）　基本生地からの応用	
	学習成果	かぼちゃのプリン	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
11・12回	授業内容	ケーキ店の菓子　4）　焼き菓子の応用	
	学習成果	パンプキンマドレーヌ　スノーボールクッキー	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子　5）　卵白を使用した焼き菓子の応用	
	学習成果	オリジナルフィナンシェ４種類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
15・16回	授業内容	ケーキ店の菓子　5）　トルテケーキ	
	学習成果	ブルーベリートルテ　エンゼルトルテ	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
17・18回	授業内容	ケーキ店の菓子　6）　フールセックとドゥミセック	
	学習成果	アーモンドチュイル　スフレ　フィナンシェショコラ	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
19・20回	授業内容	フランス菓子の応用　1）ビスキュイを使用したロールケーキ	
	学習成果	ルレ・オ・ショコラ　　ルレ・オ・フリュイ	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
21・22回	授業内容	フランス菓子の応用　2）チーズとチョコレートのフランス菓子	
	学習成果	ガトーフロマージュ　　ガトーショコラ・アラ・マロン	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
23・24回	授業内容	フランス菓子の応用　3）フランス古典菓子	
	学習成果	シブストキャラメルポンム	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	フランス菓子の応用　4）イベントケーキ	
	学習成果	ルーローマロン　デリスショコラピスターシュ	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
27・28回	授業内容	フランス菓子の応用　5）フールセックとドゥミセック	
	学習成果	ガレットブルトンヌ　ブラウニー	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
29・30回	授業内容	チョコレートの応用	
	学習成果	オランジェット　チェリーボンボン　キャラメルシトロンベール	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	

科目名	校外実習				担当者	吉田（ヨシダ）　正（タダシ）・相良（サガラ）奈津（ナツ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期集中
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はＥメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的学習成果	①	製菓店での業務活動の実際について理解する。										
	②	ビジネスマナーの理解と実践ができる。										
	③	製菓店で基本的な業務が行えるようになる。										
	④	将来の職業について考え、志望業界の仕組み、仕事内容を理解する。										
汎用的学習成果	(1)	社会人としての職業自立につなげることができる。（専門学習①②③④）										
	(2)	製菓店研修を行うことで、自己表現と他者理解ができる。（専門学習①②③④）										
	(3)	製菓店研修を行うことで、問題解決に向けて行動できる。（専門学習①②③④）										
授業概要	製菓衛生師の業務を実地経験し、製菓衛生師としての職業意識及び態度を学ぶことを通じて、製菓衛生師として具備すべき専門的知識及び技能を習得することを目的とする。業界研究及び企業研究を行い研修先を自ら選定し、５日間以上の実務研修を実施する。実務研修を通して働く意義と目的を見出す。実務研修に先立ち、学内授業においてビジネスマナーと社会人としての心得を理解し実践できる能力を身に付けた後、研修にあたる。製菓店の業務内容を体験することから、職業選択の際に活用できる。 ※原則として研修時期については１年次の春休み期間を利用して行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	10	製菓衛生師の業務内容の理解度により評価する。
		実習報告書	40	研修先での業務日報報告書を研修終了後担当教員に提出する。内容により評価する。
		企業評価	40	研修製菓店から後日、評価が示される。
		平常点	10	取り組みの態度、授業内容の理解度により評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う (3) は専門的学習評価①②③④にて評価を行う		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①出席及び課題の達成度が不十分である場合は、企業・施設での研修を認めないので注意すること。事前学習として研修先の企業調査と訪問（15時間程度）を必要とする。 ②業務日報報告書は担当教員が点検後、返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス　研修企業・業界調査	製菓衛生師の業務内容についてレポートを提出
	学習成果	授業内容を理解し、実習施設での研修の意義と目的を理解する	
	予習復習の内容	学習内容の振り返り	
2回	授業内容	ビジネスマナーと実践　エチケットとマナー／話し方・聞き方／ビジネス文書／電話・メール／企業訪問	
	学習成果	ビジネスマナーの基本を理解し実践できる	
	予習復習の内容	学習内容の振り返り	
3回	授業内容	菓子店における製造業務の心得　菓子製造の技術と衛生管理／実習施設での業務	
	学習成果	菓子製造の技術と衛生管理、実習施設での業務についてを理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容の振り返り	
4回	授業内容	研修前事前指導	
	学習成果	企業研修にむけたビジネスマナー全般を理解して実践できる。	
	予習復習の内容	研修内容の確認と目標を設定する	
5回	授業内容	企業研修（インターンシップ）１日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
6回	授業内容	企業研修（インターンシップ）１日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
7回	授業内容	企業研修（インターンシップ）２日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
8回	授業内容	企業研修（インターンシップ）２日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
9回	授業内容	企業研修（インターンシップ）３日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
10回	授業内容	企業研修（インターンシップ）３日目	研修先での業務日報報告書および研修製菓店から報告書により評価
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
11回	授業内容	企業研修（インターンシップ）４日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
12回	授業内容	企業研修（インターンシップ）４日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
13回	授業内容	企業研修（インターンシップ）５日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
14回	授業内容	企業研修（インターンシップ）５日目	
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成	
15回	授業内容	研修報告とまとめ	
	学習成果	報告書の研修レポートを作成し提出する	
	予習復習の内容	担当教員への報告	

科目名	製菓衛生師試験対策講座Ⅰ			担当者	岩松（イワマツ） 秀夫（ヒデオ） ・ 吉田（ヨシダ） 正（タダシ） ・ 相良（サガラ） 奈津（ナツ）							
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に対応する。											
専門的学習成果	①	製菓衛生師として必要とされる食品衛生を理解し、その内容を説明できる										
	②	製菓衛生師として必要とされる公衆衛生を理解し、その内容を説明できる										
	③	製菓衛生師として必要とされる食品や栄養、法令に関することを理解し、その内容を説明できる										
	④	製菓衛生師として必要とされる製菓理論を理解し、その内容を説明できる										
	⑤	製菓衛生師として必要とされる職務知識・技能を理解し実践できる										
汎用的学習成果	(1)	製菓衛生師養成課程を学ぶことを通して、製菓衛生師としての職業自立につなげることができる（専門的学習成果①②③④⑤）										
	(2)	製菓衛生師として必要とされる実務能力を習得することによって、社会人としてその技能を活用することができる（専門的学習成果①②③④⑤）										
	(3)	製菓衛生しとしてふさわしい態度・人柄を理解し、身につけることによって他者理解ができコミュニケーション能力を養うことができる（専門的学習成果⑤に関連）										
授業概要	菓子製造業に従事する者の資質向上をもって製菓衛生師試験合格のために必要な基礎知識と技能の習得を目的とする。具体的には製菓衛生師として必要とされる、食品衛生、公衆衛生、食品学、栄養学、衛生法規、衛生管理、製菓理論を製菓衛生師ユニットで学び、試験対策講座として、各都道府県の過去問題や、宮城県での製菓衛生師試験の傾向などをふまえて講座を行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	30	過去問題をもとにした課題を課し、評価する
		模擬試験	10	検定直前に模擬試験を行い、得点を評価する
		平常点	60	授業への取り組み・態度・意欲を評価する
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (2) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『これで合格　製菓衛生師試験問題集』	

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『新訂製菓衛生師教本』	
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習として配布される課題のレポートに取り組み授業に臨むこと（予習、復習共に週2時間程度） ②レポートに対しては授業内で回収し解説を行う。講義内の解答を持ってフィードバックとする。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス　製菓衛生師試験について	過去問題を基にレポートを課し、評価する
	学習成果	製菓衛生師試験の概要を説明できる	
	予習復習の内容	製菓衛生師試験の概要を把握しておく	
2回	授業内容	過去問題　衛生法規	
	学習成果	衛生法規試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
3回	授業内容	過去問題　公衆衛生学	
	学習成果	公衆衛生学試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
4回	授業内容	過去問題　食品学	
	学習成果	食品学試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
5回	授業内容	過去問題　食品衛生学	
	学習成果	食品衛生学試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
6回	授業内容	過去問題　衛生管理	
	学習成果	衛生管理試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
7回	授業内容	過去問題　栄養学	
	学習成果	栄養学試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
8回	授業内容	過去問題　社会学	
	学習成果	社会学試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
9回	授業内容	過去問題　製菓理論	
	学習成果	製菓理論試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
10回	授業内容	過去問題　製菓実習（洋菓子）	
	学習成果	製菓実習試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
11回	授業内容	過去問題　製菓実習（和菓子）	
	学習成果	製菓実習試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
12回	授業内容	過去問題　製菓実習（製パン）	
	学習成果	製菓実習試験の傾向と対策を講じることができる	
	予習復習の内容	事前に配布されるレポートに取り組むこと。	
13回	授業内容	模擬試験①　製菓衛生師試験（宮城県）	模擬試験の得点を評価する
	学習成果	合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
14回	授業内容	模擬試験②　製菓衛生師試験（宮城県外）	
	学習成果	合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
15回	授業内容	受験準備	
	学習成果	受験に備え適切な準備を整えることができる	
	予習復習の内容	受験に必要な準備を整える	

科目名	食品学Ⅰ（フード）				担当者	丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的学習成果	①	個々の食材について、日常生活に於いてあらためて意識していくようになる。										
	②	食品に必要な機能・条件を理解する。										
	③	個々の食材の特徴を理解する。										
	④	得た知識を実際の食生活に応用できるようになる。										
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(2)	食品の成分や機能を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。（専門的学習効果②③に関連）										
	(3)	食品に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
授業概要	フードコーディネーター３級の資格取得に必修である。私たちは一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みにかかわりあう重要なものである。フードコーディネーターに期待される幅広い知識のうち、本講義では『食品学』の分野の基本的な知識を学ぶ。また、15回の講義を通してサイエンスとしての基本的発想方法についても触れる。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	70	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。								
		レポート										
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習効果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	日本フードコーディネーター協会編	『新フードコーディネーター教本2025』	柴田書店									
	新食品成分表編集委員会	『新食品成分表 FOODS 2025』	東京法令出版									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	新栄養士課程講座	『食品学総論』	建帛社									
	新栄養士課程講座	『食品学各論』	建帛社									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネートユニット学生向け。講義中に次回の予告をするので、該当項目について教科書に目を通しておくこと（週 1 時間程度）。また、普段の生活の中で、食品・食材やそのラベル表示、調理方法など意識していること（週 3 時間程度）。 ②試験については実施後、適宜講評と解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（フードコーディネーター資格について・食品学とは）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	本講義の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書全体を概観し、授業の内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	食品の機能と条件	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の機能と必要な条件を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常での食について理解を深める。	
3回	授業内容	食品の種類	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
4回	授業内容	食品の成分	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
5回	授業内容	食品成分表	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品成分表の意味、役割を理解して活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材に於いて成分表示など確認し理解を深める。	
6回	授業内容	穀物（米）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	米の種類やでんぷんの性質、利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食している米や店頭に並ぶ米を観察し理解を深める。	
7回	授業内容	穀物（麦・とうもろこし他）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	麦・とうもろこし他の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
8回	授業内容	肉・魚	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	肉・魚の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
9回	授業内容	豆・大豆・大豆製品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	豆・大豆・大豆製品の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
10回	授業内容	野菜・キノコ・海藻	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	野菜・キノコ・海藻の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
11回	授業内容	乳・乳製品・卵	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	乳・乳製品・卵の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
12回	授業内容	醸造食品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	醸造食品の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13回	授業内容	酒・ドリンク類	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	酒・ドリンク類の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
14回	授業内容	調味料・香辛料・油脂・加工食品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	調味料・香辛料・油脂・加工食品の特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
15回	授業内容	食品保蔵	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の保存・保管方法について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実際の食材に於ける状況を確認し理解を深める。	

科目名	食品衛生学Ⅰ（フード）			担当者	丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）							
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的学習成果	①	生命を維持するのに絶対不可欠である食の安全について意識できるようになる。										
	②	食中毒の原因と予防方法を理解する。										
	③	食品において、健康に害があるということがどういうことか理解する。										
	④	食の安全について常に心がけた生活ができるようになる。										
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(2)	食品の安全を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(3)	食品衛生に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
授業概要	フードコーディネーター3級の資格取得に必修である。食物は生命の維持、成長、そして活動のために欠くことのできないものである。それは身体にとって安全なものという大前提がある。フードコーディネーターに期待される幅広い知識のうち、本講義では『食品衛生学』の分野の基本的な知識を学ぶ。微生物や添加物、毒物の混入など食の危険について考察し、食の安全を確保・維持していくことを学ぶ。また、講義を通して、サイエンスの基本的発想法にも触れていく。食品衛生責任者の資格取得支援も行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。
		レポート	40	授業の態度、関心、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1)～(3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本フードコーディネーター協会編	『新フードコーディネーター教本2025』	柴田書店

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	新栄養士課程講座	『食品学総論』	建帛社
	新栄養士課程講座	『食品学各論』	建帛社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネートユニット学生向け。講義中に次回の予告をするので、該当項目について教科書に目を通しておくこと（週 1 時間程度）。授業後、各用語等、確認すること（週 1 時間程度）。また、普段の生活の中で、テレビや新聞等で、食の安心・安全に関係した話題に注目していること（週 2 時間程度）。 ②試験については実施後、適宜解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（食の安全について。扱う分野・範囲の確認。）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食の安全について概要を説明できる。医療分野との境界を把握できる。	
	予習復習の内容	教科書の当該する章全体を把握する。	
2回	授業内容	衛生微生物	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	衛生微生物について生育の条件を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
3回	授業内容	経口伝染病とその他の病気	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品を通してもたらされる病気を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
4回	授業内容	食中毒と予防、食品衛生対策	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食中毒の原因、予防について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
5回	授業内容	食中毒の原因微生物（感染型）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食中毒の原因微生物について、特徴と予防方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
6回	授業内容	食中毒の原因微生物（毒素型）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食中毒の原因微生物について、特徴と予防方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
7回	授業内容	食中毒の原因微生物（その他）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食中毒の原因微生物について、特徴と予防方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
8回	授業内容	寄生虫	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	寄生虫について特徴と予防方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
9回	授業内容	食品異物	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品異物について、種類や原因、その予防方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
10回	授業内容	食品添加物の概要	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品添加物の定義、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
11回	授業内容	食品添加物の働き	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品添加物の機能を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
12回	授業内容	食品の腐敗・変質	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の腐敗・変質について、概要と防止方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13回	授業内容	食品の品質表示制度	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の品質表示制度を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
14回	授業内容	食物アレルギー	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食物アレルギーの原理や危険な食材について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
15回	授業内容	食の安全についてまとめ	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	安全な食について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	授業全体について整理し確認しておくこと。	

科目名	カフェプランニング				担当者	吉田（ヨシダ）　正（タダシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はＥメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的学習成果	①	カフェビジネス全般を体系的に分類することができる。										
	②	カフェ業界の職業人としての社会貢献について自身の考えを論じることができる。										
	③	カフェ文化の現状と課題について論じることができる。										
	④	多様化するカフェショップのビジネススタイルの違いを理解し、その概要を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	カフェの文化と歴史を学ぶことで飲食業界に従事の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	飲食業界において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。（専門的学習成果①②③④）										
授業概要	カフェ業界には様々な料理・ドリンクのメニュー開発から、マーケティングに至るまでの幅広い専門知識を持ち、カフェ出店から始まり、経営管理、販売促進までのすべてに精通した人材が求められている。この授業では「カフェをつくる」ためのプロセスを段階的に学習して「自分スタイルのカフェ」を構築できるようにする。併せてカフェについての歴史や文化などを探り、現代のカフェビジネスの現状を理解する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
		レポート	20	２回実施し各回10%に配点する。カフェ開業のプランニングができているか評価する。
		市場調査	20	市場調査した内容をプレゼンテーションする。
		平常点	10	授業に取り組む姿勢、意欲、理解度を総合評価する。
	汎用的学習成果			

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	有限会社バウンド	『人気カフェが開ける本』	インフォレスト
	日本フードライセンス国際協会	『カフェプロデュース検定教本』	書肆侃侃房

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①普段の生活でも街・地域にある飲食店、特にカフェスタイルで経営している店舗に興味をもち、積極的に利用をしてみる。（予習として時間外学習30時間程度）その後、利用したカフェについて立地条件、メニュー内容（商品、金額）客層等を自分なりにレポート形式でまとめておく（復習として時間外学習30時間程度） ②レポート内容、試験については実施後に適宜解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス　実習室・器材の使用方法	ワークシートへの取り組み
	学習成果	授業内容を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。次回以降の学習計画を立てる。	
2回	授業内容	カフェビジネスとは	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	ビジネスとしてカフェを経営する為の概要を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
3回	授業内容	日本のカフェ市場と歴史	
	学習成果	日本のカフェ市場と歴史を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返りカフェの市場と歴史について理解を深める。	
4回	授業内容	バリスタの仕事　①カフェスキル	
	学習成果	バリスタの仕事、特に技術について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
5回	授業内容	バリスタの仕事　②サービス	
	学習成果	バリスタの仕事、特に接客サービル、ホスピタリティについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
6回	授業内容	マーケティングと出店戦略	
	学習成果	マーケティングと出店戦略の方法を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
7回	授業内容	コンセプトとカフェスタイル	
	学習成果	コンセプトとカフェスタイルを構築できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
8回	授業内容	カフェリサーチ・フィールドワーク	調査内容をまとめて発表する。 発表内容について評価する。
	学習成果	調査方法を理解してカフェに出向いて調査を実践できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
9回	授業内容	メニュープランニング①ドリンクメニュー	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	ドリンクメニューのプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
10回	授業内容	メニュープランニング②フードメニュー	
	学習成果	フードメニューのプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
11回	授業内容	空間プロデュース①食空間のありかた	
	学習成果	カフェにおける食空間のありかたを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
12回	授業内容	空間プロデュース②テーブルコーディネートとカラーコーディネート	
	学習成果	テーブルコーディネートとカラーコーディネートの概要を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
13回	授業内容	カフェ開業計画①手続きと届け出	
	学習成果	カフェを開業するにあたり必要な手続きと届け出を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
14回	授業内容	カフェ開業計画②事業計画と経営計画	
	学習成果	カフェ開業に必要とする事業計画と経営計画を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
15回	授業内容	カフェプランニングまとめ	
	学習成果	カフェを開業する為のプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	

科目名	カフェランチテクニック				担当者	前澤 正人・阿部 加奈子						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	食産業、外食産業の基本的な教養調理技術を身につけ、その内容を説明できる。										
	②	調理理論の知識基礎技術を習得し実践できる。										
	③	旬の調理基礎から食育的栄養学の応用まで食の大切さを習得し実践できる。										
	④	実習で習得した知識と技能を活用し習得し実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	外食産業全般、職業自立に必要な知識と基礎技術を習得し実践活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連する)										
	(2)	季節の基本調理法の習得により、栄養のバランス、食の大切さを習得と活用できる。(専門的学習成果③に関連する)										
	(3)	習得した専門知識や技能を活用して作品発表し、新たな発想や課題の解決に向け、行動ができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	外食産業、カフェビジネスが大きな産業として発展して行くなか、今後大いに活躍が期待できる。将来、第一線で活躍する上で基本技術を身に付ける事は非常に重要である。基本技術を理解し外食産業、カフェビジネスの展開について考え今後の新たな食文化について実戦力を養う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	10	筆記試験を行い、講義内容の理解について評価する。
		レポート		
		平常点	20	授業態度、関心、意欲を評価する。
		実習作品提出	70	毎回の実習作品を試験評価する。
	汎用的学習成果	(1)は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果④により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①調理実習が中心の授業なので、重要な事は実習内容を忘れない内に実習調理を自宅で作成し復習、調理準備から手順、盛り付けデッサン、仕上げ味覚表現まで調理の理解を深め能力を身につける事を求める。自宅で再現調理(1時間程度)を行うこと。 ②前回の課題の調理実習の正確な分量をレポート提出フィードバック、実習調理の理解を深め自らの考察をしっかり記述する事を求める。予習として料理のデザイン、色調、立体感などに興味を持ち専門誌を絶えず観る様にする事を求める。

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	スモークサーモンと海老、アボカドのチャバタ　ジャガイモのポタージュ　前澤	立体感、仕上げのデザイン
	学習成果	イタリア風サンドウィッチの表現、季節感の表現、栄養のバランスの習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
3・4回	授業内容	パリジャンの3種ハムとチーズのサンドウィッチ、野菜のブイヨンスープ　前澤	立体感、仕上げのデザイン
	学習成果	パリ風サンドウィッチの表現、季節感の表現、栄養のバランスの習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
5・6回	授業内容	アメリカンクラブハウスサンド、アサリのチャウダースープ　前澤	立体感、仕上げのデザイン
	学習成果	アメリカ風のサンドウィッチ、栄養のバランスの習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
7・8回	授業内容	オムライスと温製サラダ　前澤	立体感、仕上げのデザイン　味覚
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
9・10回	授業内容	ミネストローネ、3種のブルスケッタ　阿部	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、季節感の表現、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
11・12回	授業内容	トマトソーススパゲッティ、タコとセロリのサラダ　阿部	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、季節感の表現、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
13・14回	授業内容	ジャガイモのニョッキ、サルティンボッカ　阿部	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
15・16回	授業内容	ボローニャ風タリアテッレ、洋梨のサラダ　阿部	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
17・18回	授業内容	オレキエッテ、バブリカマリネ　阿部	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
19・20回	授業内容	マスカルポーネチーズのリゾット、カツレツケッカソース　阿部	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
21・22回	授業内容	ラザニア、レンズ豆のサラダ　阿部	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。	
23・24回	授業内容	ドライカレー　海老のクリームソース　ジャガイモのサラダ　阿部	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
25・26回	授業内容	白身魚のパン粉焼き　シチリア風　キャベツとソーセージのスープ　前澤	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
27・28回	授業内容	鶏肉のクリーム煮　キノコのサラダ　前澤	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	
29・30回	授業内容	鶏肉のソティー　ベーコンと野菜のソティー添え、さつま芋のポタージュ　前澤	味覚,仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。	
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。	

科目名	観光概論				担当者	大森 信治郎（オオモリ シンジロウ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室にて受け付ける。	
専門的学習成果	①	観光の概念や歴史、現在の制度について理解し、説明することができる。
	②	観光と社会のかかわり（経済、地域社会、開発と保護、情報、環境）について理解し、説明することができる。
	③	観光を成立させる機制（余暇社会、観光の心理、観光の対象）について理解し、説明することができる。
	④	観光を支える社会システムについて理解し、説明することができる。
汎用的学習成果	(1)	需要者、供給者両面において、社会一般の常識としての観光の基礎知識を習得し、豊かな社会生活に役立てることができる。（専門的学習成果①に関連）
	(2)	観光領域の職業人としての基本を理解して、観光のビジネスの領域で活躍できる。（専門的学習成果②～④に関連）
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。（専門的学習成果①～④に関連）
授業概要	本講義では、観光全般にわたる基礎的な知識を身に付けることを目的とする。第一ステップとして、観光を理解するための基礎的な知識である、概念、歴史、構成要素、影響について学習する。教養として観光を学ぶ上でも重要な部分である。次に第二ステップとして、観光という行動や現象の社会との関わりについて学ぶ。21世紀において観光は、産業としても個々の人々の生活においても極めて重要な意義を持っており、社会的な影響と効果も非常に大きい。経済、情報、環境、地域社会、開発と保護、などについて論考する。第三ステップは観光を支えている社会的なシステムについて。旅行業、交通、宿泊、飲食、小売業、その他の関連サービスなどの諸事業とそれを支える労働と人材について考える。三つのステップを通して、広いすそ野を持つ現代の観光を多層的に学ぶ。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式の問題を課し、評価を行う。
		レポート	20	各ステップごとに3回程度、レポートを課し、評価を行う。
		小テスト		
		平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①で評価を行う。 （2）は専門的学習成果②～④で評価を行う。 （3）は専門的学習成果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	前田勇	『新現代観光総論』	学文社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	高橋一夫	『1からの観光』	硯学社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及びレポートに備える。事前・事後学習として各回4時間を要する。 ②レポートは、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	「観光」の概念、観光の構造と構成要素について。	1～5回のレポート課題の評価によって実施。
	学習成果	観光の基礎的知識を身に付け、現代観光の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
2回	授業内容	観光の歴史　世界史の視点	
	学習成果	古代ギリシャ以降の観光の歴史について、概観を把握し、説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
3回	授業内容	観光の歴史　日本史の視点	
	学習成果	我が国の旅行に見られる特徴を、歴史的経緯をふまえて、概説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
4回	授業内容	観光行政・観光政策	
	学習成果	国際的、国内的な観光政策や国際的協力について学び、その概要を説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
5回	授業内容	観光の効果・影響（第5回講義までのレポート課題）	
	学習成果	観光が社会全般に与える効果を総合的に学び、自身の身近な地域に当てはめて説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
6回	授業内容	（前回レポート課題の総括）観光と情報	6～10回のレポート課題の評価によって実施。
	学習成果	観光における情報の重要性、情報通信技術の活用について、自分の身近な事例で説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
7回	授業内容	観光と環境問題	
	学習成果	環境問題に関する観光の役割、環境に調和した観光のあり方について、説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
8回	授業内容	観光と地域社会	
	学習成果	観光が地域社会に与える正負の影響などについて、実際の事例を取り上げて説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
9回	授業内容	観光における開発と保護	
	学習成果	開発と保護というグローバルな課題に沿って、持続可能な観光について概説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
10回	授業内容	（第6回から10回講義までのレポート課題）　余暇活動としての観光	
	学習成果	余暇の概念、余暇の増大の歴史的経緯、などについてデータにもとづいて説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
11回	授業内容	（前回レポート課題の総括）観光の心理学	11～14回のレポート課題の評価によって実施。
	学習成果	観光行動が成立する仕組み、観光者の心理について学び、説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
12回	授業内容	観光対象　自然と文化	
	学習成果	観光の対象となる自然観光資源、人文観光資源、複合型観光資源について概説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
13回	授業内容	観光対象　暮らしと交流	
	学習成果	観光対象の今日的対象である地域の生活文化について学び、説明できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
14回	授業内容	（第1回から14回講義までのレポート課題）　観光と教育・福祉	
	学習成果	観光の教育的意味や福祉との関連について学び、概説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	
15回	授業内容	（前回レポートの総括）　観光を支える社会システム	期末試験によって15回全般の評価を行う。
	学習成果	交通、宿泊、旅行業、他の関連事業などの諸事業について学び、解説できる。	
	予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。	

科目名	観光ビジネス実務総論				担当者	大森（オオモリ） 信治郎（シンジロウ） ・ 今野（コンノ） 則幸（ノリユキ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp

専門的学習成果	①	観光関連産業の概要と結びつきを関連づけることができる。
	②	国内及び海外地理を理解し、地域の観光を述べることができる。
	③	観光産業に必要なホスピタリティを論じることができる。
	④	観光産業と密接な関係にあるホテルについて説明できる。
汎用的学習成果	(1)	観光関連産業を学ぶことを通じて、観光ビジネスに関わる職業自立につなげることができる。（専門的学習成果①②③④）
	(2)	ホスピタリティを理解することにより、観光実務を実践できる。（専門的学習成果③）
	(3)	ホテルを学ぶことを通じて、接客に関わる職業自立につなげることができる。（専門的学習成果④）

授業概要	今後の日本社会では、観光ビジネスはますます重要になっていく。旅行代理店・交通輸送・ホテル等の施設・観光スポット等、観光関連産業の裾野は広く、それら各産業の結びつきを学習し実務に繋げることにより、各仕事の魅力を探っていく。日本人の国内旅行やアウトバウンド、海外からのインバウンドに適切な対処ができるようにする。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		筆記試験	80	第7回目及び第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、講義内容の理解について評価を行う。
		平常点	20	講義への取り組み・意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④により評価する。 (2) は専門的学習成果③により評価する。 (3) は専門的学習成果④により評価する。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	JTB能力開発編	『観光概論』	JTB能力開発
	（財）日本ホテル教育センター編	『新ホテル総論』	（財）日本ホテル教育センター
	JTB総合研究所	『旅行業入門2023』	JTB総合研究所
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①常に新聞等で世界の最新社会情勢や旅行事情を入手し理解しておく（20時間）。テキスト及び配布された資料を通読しておくこと（30時間）。また、仙台市内等のホテルを利用し、社員や利用しているお客様の様子を観察し、レポートを作成すること。なお、レポートについては、講義内フィードバックを基に専門的理解を深めていくこと（10時間）。 ②試験は2年次開講直後返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	旅行業の概要（定義、歴史、現状）（大森）	前半部分の小テストを7回目に行う。
	学習成果	旅行業とはどのような仕事か、歴史や現状をふまえて説明できる。	
	予習復習の内容	図書館などで旅行業関係の文献を探し、目を通しておく。	
2回	授業内容	旅行業の特性（他の産業との比較）（大森）	
	学習成果	財務特性の側面から旅行業の特性を説明することができる。	
	予習復習の内容	経営学上の概念（財務諸表の内容）を復習する。	
3回	授業内容	旅行業務の種別Ⅰ（募集型企画旅行）（大森）	
	学習成果	いわゆるパッケージツアーの特徴、その登場の背景について説明することができる。	
	予習復習の内容	市中の旅行業者のオフィスでパンフレットを入手し、募集型企画旅行の実際の形態を把握する。	
4回	授業内容	旅行業の種別Ⅱ（受注型企画旅行）（大森）	
	学習成果	修学旅行などの旅行契約の内容を説明することができる。	
	予習復習の内容	自身の経験に照らして受注型企画旅行の実際の形態を把握する。	
5回	授業内容	旅行業の種別Ⅲ（手配旅行業務）（大森）	
	学習成果	伝統的旅行業の業務形態である手配業務について説明することができる。	
	予習復習の内容	インターネット上での、交通、宿泊の手配を疑似体験してみる。	
6回	授業内容	旅行業の営業（旅行業の具体的実務内容）（大森）	
	学習成果	外務員としての業務、カウンター業務、添乗業務などについて概要を説明することができる。	
	予習復習の内容	実際の旅行業者のオフィスを訪れるなどして、実務の現状を観察する。	
7回	授業内容	旅行業の課題と展望（現代観光の中での新しい役割と課題）（大森）	
	学習成果	インターネットの普及などの旅行業の置かれている現状をふまえて、旅行業の展望を説明することができる。	
	予習復習の内容	新聞報道などのメディア報道によく注意し、学習した内容と照らし合わせる。	
8回	授業内容	ホスピタリティの起源、西洋と日本のホスピタリティ文化の違い（今野）	筆記試験（8回分の内容を問う）後半実施
	学習成果	ホスピタリティの起源を知り、ホスピタリティ文化の違いを説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。	
9回	授業内容	ホテルの歴史（今野）	
	学習成果	西洋、東洋、日本のホテルの歴史を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。	
10回	授業内容	ホテルの宿泊部門概要（今野）	
	学習成果	ホテルの宿泊部門概要を述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。	
11回	授業内容	ホテルの料飲部門概要（今野）	
	学習成果	ホテルの料飲部門概要を述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。	
12回	授業内容	ホテルの宴会部門概要（今野）	
	学習成果	ホテルの宴会部門概要を述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。	
13回	授業内容	ホテルの調理部門概要（今野）	
	学習成果	ホテルの調理部門概要を述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。	
14回	授業内容	旅行業の中のホテル（今野）	
	学習成果	旅行業の中のホテルを論じることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントによる講義を整理しておく。	
15回	授業内容	観光ビジネスの中のホテル（今野）	
	学習成果	広く観光ビジネスの観点からホテルを論じることができる。	
	予習復習の内容	全体を通した内容を整理しておく。	

科目名	地域観光論				担当者	大森（オオモリ） 信治郎（シンジロウ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受け方法	授業の前後に講師室にて受け付ける。											

専門的学習成果	①	日本の地理に関する知識を高め、説明することができる。
	②	地域ごとの、自然や文化に関する観光資源について理解し、説明することができる。
	③	観光対象（テーマ別）ごとの、観光資源について理解し、説明することができる。
	④	旅行業務取扱管理者の国家資格の取得を目指す基礎を作る。
汎用的学習成果	(1)	観光領域の職業人としての基本的な知識である観光地理の内容を理解して、観光のビジネスの領域で活躍できる。（専門的学習成果の①～③に関連）
	(2)	観光ビジネスの場面で、顧客や取引先の円滑な関係性を構築できる。（専門的学習成果の③～④に関連）
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。（専門的学習成果の④に関連）

授業概要	本講義では、観光ビジネスの領域で求められる日本国内各地域における観光資源の知識を身に付けることを目的とする。日本は国土が狭いわりに、地理的、文化的に実に多様性をもっており、従って観光資源も多種多様である。こうした観光資源をまず地域（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州）ごとに学習し、次にテーマ別（世界遺産、国立公園、温泉、海岸・岬・半島、山岳、湖沼、祭、年中行事、寺社仏閣、歴史的町並み、食、伝統工芸、等々）に整理し理解を深める。授業では毎時間前回の講義内容についての小テストを行い、知識の確認を行う。こうした学習を通して、観光ビジネスの場面での、あるいは実社会での常識的知識を身に付ける一助とすると同時に、国家資格である旅行業務取扱管理者試験の実務科目に対応できる力を養成する。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		小テスト	20	毎時間過去の学習内容についての小テストを行う。
		平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～③で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③～④で評価を行う。 （3）は専門的学習成果④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	JTB総合研究所	『旅行業務シリーズ3　国内地理　2023』	JTB総合研究所
		『なるほど知図帳日本　2023』	昭文社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	高橋一夫	『1からの観光事業論』	硯学社
	前田勇	『新現代観光総論』	学文社
	JTB総合研究所	『旅行業務入門　2023』	JTB総合研究所

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及び小テストに備える。小テストの結果を踏まえ、その結果にもとづいて再度復習する。事前、事後学習に各回4時間を要する。 ②課題を課す場合は、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	地域の観光資源　北海道	・毎回小テストを行い、評価する。 ・15回の内容に関して定期試験を行い、評価する。
	学習成果	北海道の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
2回	授業内容	小テストの実施。地域の観光資源　東北	
	学習成果	東北の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
3回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源　関東	
	学習成果	関東の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
4回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源　中部	
	学習成果	中部の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
5回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源　近畿	
	学習成果	近畿の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
6回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源　中国	
	学習成果	中国の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
7回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源　四国	
	学習成果	四国の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
8回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。地域の観光資源　九州・沖縄	
	学習成果	九州・沖縄の観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
9回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。世界遺産と国立公園	
	学習成果	世界遺産と国立公園について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
10回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。自然観光資源①　海洋性観光資源	
	学習成果	海洋性観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
11回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。自然観光資源②　山岳系観光資源	
	学習成果	山岳系観光資源について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
12回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。自然観光資源③　温泉	
	学習成果	各地の温泉について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
13回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。人文観光資源①　寺社仏閣等	
	学習成果	寺社仏閣等について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
14回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。人文観光資源②　祭・年中行事等	
	学習成果	祭・年中行事等について理解し、その概要（地図上の分布、連関）を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。自然・人文観光資源の分布を白地図上に描く。	
15回	授業内容	特別演習。1～14回までの学習内容についての質問形式の演習。	
	学習成果	日本の観光資源について理解し、解説することができる。	
	予習復習の内容	テキスト、ノート、小テストの内容を整理し、反復学習。資格試験に備える。	

科目名	観光ビジネス実務実習				担当者	山川奈美（ヤマカワナミ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Classroom、Eメールで行う。yamakawa.na@seiwa.ac.jp											
専門的学習成果	①	社会人として働くことの意義を説明できる。										
	②	観光ビジネス各現場業務の実体験を通し、業界の状況を把握することができる。										
	③	実習を通して、社会人としての基礎の向上を図り、自己の進路決定の指針とすることができる。										
汎用的学習成果	(1)	企業研究を通して、社会の中での企業の存在意義を説明することができる。（専門的学習成果①②）										
	(2)	仕事の実体験を通し、働くことの意義を述べることができる。（専門的学習成果①③）										
	(3)	社会人としてのマナーを実施することができる。（専門的学習成果①②③）										
授業概要	現代社会では急速にIT化が進展している。人と機械が接することが益々増えていくであろう。しかしそれに反し、観光ビジネス業界においては人と人の結びつきはより強くなっていくものと思われる。この授業では、本学が指定する仙台市内観光施設において、7日間以上の実務実習を行う。但し、実習の事前指導と実習後の報告書の提出を要件とし、実習企業からの評価表を参考に単位認定を行う。尚、事前指導及び普段の観光系授業の履修態度等から、実習学生として不適格と判断される学生に対しては、実習を取りやめることもある。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	20	実習後のレポート提出により、実習に対する取組みを評価する。
		グループワーク		
		平常点	10	授業に対する意欲・取り組みを評価する。
		企業評価	70	実習中の態度・意欲・取組みを、企業担当者が評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②により評価する。 (2) は専門的学習評価①③により評価する。 (3) は専門的学習評価①②③により評価する。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①自身の実習先企業研究（15時間）。また、常に新聞等で観光に関する最新の情報を入手し、理解を深めておくこと（10時間）。 ②レポートは2年次開講直後フィードバックの上返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	実習先企業の研究レポート提出による評価
	学習成果	実習の意義を指摘できる。	
	予習復習の内容	実習先を調査・研究する。	
2回	授業内容	社会人になるということ	
	学習成果	社会人として必要なスキルを論じることができる。	
	予習復習の内容	業界・職種を研究する。	
3回	授業内容	第一印象・挨拶	
	学習成果	より良い職場環境について述べることができる。	
	予習復習の内容	あいさつの重要性をまとめる。	
4回	授業内容	自己プロフィール作成	
	学習成果	企業に提出する自己プロフィールを作成し、アピールできる。	
	予習復習の内容	自己分析をする。	
5回	授業内容	実習先を調査・研究する。	
	学習成果	決定した実習先企業情報を説明できる。	
	予習復習の内容	実習先を調査・研究する。	
6回	授業内容	実習先を調査・研究する。	
	学習成果	決定した実習先企業情報を発表できる。	
	予習復習の内容	実習先を調査・研究する。	
7回	授業内容	事前研修	
	学習成果	研究内容を確認し、実習に参加する準備ができる。	
	予習復習の内容	仕事内容の確認	
8回	授業内容	実習先での役割の確認①	実習先企業からの評価
	学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。	
	予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。	
9回	授業内容	実習先での役割の確認②	
	学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。	
	予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。	
10回	授業内容	実習先での役割の確認③	
	学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。	
	予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。	
11回	授業内容	実習先での役割の確認④	
	学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。	
	予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。	
12回	授業内容	実習先での役割の確認⑤	
	学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。	
	予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。	
13回	授業内容	実習先での役割の確認⑥	
	学習成果	企業から与えられた役割を果たすことができる。	
	予習復習の内容	実際の現場で経験したことをレポートにまとめる。	
14回	授業内容	役割の検証	
	学習成果	実習で行った経験を検証し、次回からの仕事に活用できる。	
	予習復習の内容	検証結果をレポートにまとめる。	
15回	授業内容	企業研究と現場の比較	レポート提出
	学習成果	自身が行った研究と現場体験を比較・検討できる。	
	予習復習の内容	実習全体をレポートにまとめる。	

科目名	旅行業法				担当者	佐藤芳郎（サトウヨシロウ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	各授業の前後教室で受けつける。											
専門的学習成果	①	旅行業法は各国家試験では必須の科目であるので、それを学ぶことにより、旅行業務取扱管理資格（総合・国内）を取得する。										
	②	旅行業法は各国家試験では必須の科目であるので、それを学ぶことにより、旅行サービス手配業務取扱管理者資格を取得する。										
	③	旅行業法は各国家試験では必須の科目であるので、それを学ぶことにより、旅程管理資格（総合・国内）を取得する。										
汎用的学習成果	(1)	旅行業法を学ぶことを通して、法律のあり方を学び、社会生活に活かすことができる。（専門的学習成果①～③に関連）										
	(2)	旅行業法のあり方を学ぶことを通して、消費者保護のありようについて社会生活に活かすことができる。（専門的学習成果①～③に関連）										
	(3)	旅行業法を学ぶことにより、地域の活性化がいかにあるべきを学び活かすことができる。（専門的学習成果①～③に関連）										
	(4)	旅行業法を学ぶことにより、地域のコミュニケーションのあるべき姿を創生し、地域の活性化ができる。（専門的学習成果①～③に関連）										
授業概要	法律のあり方と旅行業法の関係について学ぶ。旅行業法の目的とその達成手段を学ぶ。旅行業の定義・旅行サービス業の定義をとおしてその構成を学ぶ。その他関連する表示法・景表法・消費者契約法を学ぶ。それらの法律を学ぶことを通して知識を習得・社会生活に実践する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	試験期間中に実施する。
		レポート	15	旅行業法各章／節ごとのまとめを行い、何を趣旨としているかを目的把握する。
		小テスト	15	理解度チェックを通してどこまで理解しているか評価する。
		平常点	10	積極的に授業に参加する意思を持つ学生を評価する。
	汎用的学習成果	事前にテキストを予習してもらいポイント（覚えるポイント）を理解してもらう 授業を通して、その事項を説明する 復習はその覚えるポイントを自分なりにレポートでまとめてもらう (1)～(4) は専門的学習成果①～③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	JTB 総合研究所	旅行業実務シリーズ『2023　旅行業法及びこれに基づく命令』	JTB 総合研究所
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
		『旅行業法関係法令集』	一般社団法人日本旅行業協会
		『旅行業法解説　約款例集解説』	一般社団法人日本旅行業協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストを読み学習してもらう。予習・復習は各２時間程度。 ②各授業毎に理解度レポートを作成してもらい、その理解度をみる。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	①法律とは　法律の基本的なあり方と条文の読み方　用語について学ぶ	レポートを通して理解度の確認を行う（旅行業法とは）
	学習成果	法律の基本を学ぶことにより、社会の在り方について説明できる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
2回	授業内容	②旅行業法とは（Ⅰ）　旅行業法と約款の関係・旅行業法の構成・法令の専門用語・旅行業法史・施行規則について学ぶ	
	学習成果	旅行業法の構成を学ぶことにより、社会生活での法のありようについて説明できる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出　／予習は教科書の事前学習	
3回	授業内容	②旅行業法とは（Ⅱ）改正旅行業法について・旅行業法の目的・定義について学ぶ	
	学習成果	改正旅行業法の目的を学び、また、法の本来の目的・定義を学ぶことを通して、社会において旅行業法が貢献している役割を説明できる	
	予習復習の内容	学んだことへのレポートの提出と知識の整理	
4回	授業内容	登録制度について学ぶ（登録・登録拒否事由・有効期限・等）	各項目の理解度をとうため問題を通して理解度チェックを行う
	学習成果	何故登録が必要かを説明できる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
5回	授業内容	営業保証金制度について学ぶ（改正旅行業法）	
	学習成果	営業保証金制度について趣旨・目的が説明できる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
6回	授業内容	旅行業務取扱管理者制度について学ぶ	
	学習成果	管理者制度について説明ができる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
7回	授業内容	料金掲示・旅行業約款について学ぶ	
	学習成果	料金掲示の必要性と約款について説明ができる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
8回	授業内容	取引条件書面について学ぶ	
	学習成果	契約のあり方について説明できる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
9回	授業内容	外務員の証明書携帯・広告標識の表示について学ぶ	
	学習成果	外務員のあり方や、パンフレットについて説明ができる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
10回	授業内容	旅程管理について学ぶ	旅程管理についての理解度確認（レポートを通して行う）
	学習成果	旅程管理者制度について説明ができる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
11回	授業内容	旅行業法における禁止行為・受委託契約について学ぶ	旅行業法の禁止行為について理解度確認（レポートを通して）
	学習成果	旅行業者としてやってはいけないこと、やらなければいけないことの説明ができる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
12回	授業内容	事業の廃止・業務改善命令・登録の取消等について学ぶ	旅行業法の事業廃止・業務改善命令・登録取消について理解度確認（レポートを通して）
	学習成果	事業の廃止・業務改善命令・登録の取消等はなにゆえ必要か説明できる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
13回	授業内容	旅行サービス手配業（改正旅行業法）／取扱い管理者資格について学ぶ	旅行サービス手配業 理解度確認（レポートを通して行う）
	学習成果	そのできた趣旨と内容を理解して、説明ができる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
14回	授業内容	旅行業協会・弁済業務保証金・雑則について学ぶ	
	学習成果	その設立の趣旨を理解して、説明できる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	
15回	授業内容	不当景品防止法・消費者契約法・個人情報保護法について学ぶ	レポートを通して理解度の確認を行う
	学習成果	旅行業法との関連法律を理解して説明できる	
	予習復習の内容	復習は学んだことのレポートの提出	

科目名	観光関連約款				担当者	大森（オオモリ） 信治郎（シンジロウ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室にて受け付ける。											
専門的 学習成果	①	「約款」の概念を理解し、その社会的必要性、観光の領域における役割について説明することが出来る。										
	②	観光の領域における主要な約款について、その約款が確立した経緯、社会的背景を理解し、各々の約款についてその特徴を論じることが出来る。										
	③	各約款について、具体的な条項の内容を理解し、その意図について説明することが出来る。										
	④	資格試験等の関連で特に重要な「旅行業約款」について、十分な理解に基づいた論考と説明が出来る。										
	⑤	この教科の学習を通して、旅行業実務取扱管理者の国家資格の取得を目指す基礎をつくることが出来る。										
汎用的 学習成果	(1)	観光の領域での職業人としての実践的なスキルである約款の理解を通して、実社会で活躍できる。（専門的学習成果の①～③に関連）										
	(2)	観光におけるビジネスの場面で、顧客や取引先のとの適正な関係性を構築できる。（専門的学習成果の③～④に関連）										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。（専門的学習成果の④～⑤に関連）										
授業概要	観光のビジネス（商取引）の場面で重要な役割を果たす「約款」について、その概念をまずよく理解する。その上で、各種約款の内容についてそれぞれ学習していく。観光は構造的に観光主体（観光者）、観光対象、そしてこの両者をつなぐ観光媒介の三者によって構成されている。観光者は観光行動の過程で様々なサービスを利用するがそのほとんどが有料の商取引であり、それが公正に行われるためには何らかの契約が必要である。その契約の内容を示すものが約款である。具体的には「標準旅行業約款」「航空運送約款」「一般貸切旅客自動車運送事業運送約款」「フェリー標準運送約款」「モデル宿泊約款」「JR 旅客営業規則」である。このうち国家資格（旅行業務取扱管理者試験）に関連して最も重要な「標準旅行業約款」について中心的に（９時間）学習する。他の約款の学習と合わせて、旅行業務取扱管理者試験に臨む基本的な知識を習得する。同時に観光のビジネス場面での円滑な業務運営のための基礎を身に付ける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	20	２時間に１度、計７回程度の割合で過去の学習内容についての小テストを行う。								
		平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④～⑤で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	JTB 総合研究所	『旅行業務シリーズ２　旅行業約款、運送・宿泊約款2023』		JTB 総合研究所								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	高橋一夫	『１からの観光事業論』		硯学社								
	前田勇	『新現代観光総論』		学文社								
	JTB 総合研究所	『旅行業務入門　2023』		JTB 総合研究所								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及び小テストに備える。小テストの結果を踏まえ、その結果にもとづいて再度復習する。事前、事後学習時間は各４時間を要する。 ②課題を課す場合は、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	約款の概念と学習する約款の種類・領域。	・適宜小テストを行い、評価する。 ・15回の内容に関して定期試験を行い、評価する。
	学習成果	「約款」という用語の意味を理解し、学習する約款の種類領域を知る。	
	予習復習の内容	観光の分野でのビジネスの大まかな区分を考え、関連するメディアの報道に注意する。	
2回	授業内容	標準旅行業約款の成り立ちと構成。	
	学習成果	標準旅行業約款の構成を理解し、その適用範囲や用語の定義を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの目次に目を通す。	
3回	授業内容	１回２回の内容の小テスト。募集型企画旅行の部 ①契約の締結、契約の変更。	
	学習成果	旅行業務の種類を理解し、その中の募集型企画旅行の部について説明できる。	
	予習復習の内容	条文の意図を読み取る。	
4回	授業内容	前回小テストの解説。募集型企画旅行の部　②契約の解除、旅程管理、責任。	
	学習成果	契約という概念を理解し、締結、変更、解除、責任などについて説明できる。	
	予習復習の内容	小テスト結果を踏まえた復習。	
5回	授業内容	３回４回の内容の小テスト。受注型企画旅行の部　①契約の締結、変更。	
	学習成果	募集型企画旅行と受注型企画旅行の違いを理解し、受注型の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	受注型に特徴的な条文をよく復習する。	
6回	授業内容	前回小テストの解説。受注型企画旅行の部　②契約の解除、責任。	
	学習成果	募集型企画旅行と受注型企画旅行の違いを理解し、受注型の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	受注型に特徴的な条文をよく復習する。小テストを踏まえた復習。	
7回	授業内容	５回６回の内容の小テスト。特別補償規定。	
	学習成果	企画旅行に適用される補償制度について説明できる。	
	予習復習の内容	企画旅行全体の構成をよく復習する。	
8回	授業内容	前回テストの解説。手配旅行の部。契約の成立、変更、解除、責任。	
	学習成果	企画旅行と手配旅行の違いを理解しそれを説明できる。	
	予習復習の内容	小テストを踏まえた復習。	
9回	授業内容	７回８回の内容の小テスト。旅行相談契約。渡航手続代行契約。	
	学習成果	企画旅行、手配旅行の他にも旅行業務があることを理解し、その特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	標準旅行業約款全体の構成を改めて見直し、各部の重要項目を比較学習する。	
10回	授業内容	小テストの解説。特別演習　標準旅行業約款全体についての質問形式の演習。	
	学習成果	標準旅行業約款全体を理解し、この約款の意義を説明できる。	
	予習復習の内容	標準旅行業約款全体の構成を改めて見直し、各部の重要項目を比較学習する。	
11回	授業内容	９回10回の内容の小テスト。国内航空運送約款。	
	学習成果	国内の航空運送約款の内容を実際の搭乗のプロセスに従って説明できる。	
	予習復習の内容	出来れば実際に空港に見学に行くとよい。現実味をもって約款の内容を学習する。	
12回	授業内容	小テストの解説。一般貸切自動車運送事業標準運送約款。	
	学習成果	いわゆるバス約款について、近年の重要性の認識の高まりを理解し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
13回	授業内容	11回12回の内容の小テスト。フェリー標準運送約款。	
	学習成果	フェリー約款に特徴的な条項を指摘し、説明できる。	
	予習復習の内容	実際の乗船のイメージを持ちながら復習する。	
14回	授業内容	小テストの解説。モデル宿泊約款。	
	学習成果	各種運送約款にはない宿泊約款に特徴的な条項を指摘し、説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。最終回の演習に備えた全体の復習をする。	
15回	授業内容	特別演習。約款全体についての質問形式の演習。	
	学習成果	観光関連の約款全体を通して、その重要性を認識し、詳細に解説できる。	
	予習復習の内容	各約款の特徴を整理して確認しておく。	

科目名	旅行業実務Ⅰ			担当者	大森（オオモリ） 信治郎（シンジロウ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室にて受け付ける。											
専門的学習成果	①	JRを中心とした運賃・料金の体系を理解し、旅行業をはじめ多くの観光の領域での運賃、料金、価格を算出することができる。										
	②	公共性を持った交通機関等の運賃・料金の設定の根拠、法則を理解し、説明することができる。										
	③	具体的な旅程を組み立て、その旅程に要する運賃について計算、説明することができる。										
	④	旅行業務取扱管理者の国家資格の取得を目指す基礎を作る。										
汎用的学習成果	(1)	観光の領域での職業人としての実践的かつ基礎的な知識である運賃・料金の体系を理解して、実社会で活躍できる。（専門的学習成果の①～③に関連）										
	(2)	観光におけるビジネスの場面で、正確な知識に基づいた計算能力を身に着け顧客や取引先との適正な関係性を構築できる。（専門的学習成果の③～④に関連）										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。（専門的学習成果の④に関連）										
授業概要	本講義は、観光ビジネスとりわけ旅行業において不可欠となる運賃・料金の体系や規則の理解と具体的な計算の能力を身に付けることを目的としている。具体的には、JR各社の運賃・料金、団体の取扱、航空運賃・料金、貸切バスの運賃・料金、フェリーの運賃料金である。こうしたきわめて実務的な知識、技能の習得に必要なのは、第一に基本となるその運賃・料金の体系と法則や規則の理解であり、第二にその知識に基づいた反復的な計算の演習である。授業では毎時間前回の講義内容についての小テストを行い、知識の確認を行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式および計算の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		小テスト	20	毎時間過去の学習内容についての小テストを行う。
		平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～③で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③～④で評価を行う。 （3）は専門的学習成果④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	JTB総合研究所	『旅行業務シリーズ3　国内運賃・料金2023』	JTB総合研究所

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	高橋一夫	『1からの観光事業論』	硯学社
	前田勇	『新現代観光総論』	学文社
	JTB総合研究所	『旅行業務入門　2023』	JTB総合研究所

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及び小テストに備える。小テストの結果を踏まえ、その結果にもとづいて再度復習する。事前、事後学習として各回4時間を要する。 ②課題を課す場合は、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	JRの概要　旅客鉄道6社　旅客営業規則の用語の定義を学ぶ。	・毎回小テストを行い、評価する。 ・15回の内容に関して定期試験を行い、評価する。
	学習成果	JRで用いられる用語を理解し、その意味を説明できる。	
	予習復習の内容	基本用語の意味を十分に理解し、反復学習する。	
2回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの運賃。（運賃計算）	
	学習成果	幹線と地方交通線、距離に関する用語と法則、それに応じた運賃計算を説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
3回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの運賃。（運賃の特例）	
	学習成果	運賃の特例　特定都区市内、乗車券の効力、割引の種類、について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
4回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの料金。（料金の体系）	
	学習成果	料金の体系、シーズン区分、新幹線の特急料金、グリーン等料金について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
5回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの料金。（乗継割引）	
	学習成果	乗継割引について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
6回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの料金。（変更、取り消し）	
	学習成果	変更、取り消し、払い戻しについて説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
7回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの団体の取扱。	
	学習成果	団体の種別やそれに応じた割引、割引率の異なる期間の設定、について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
8回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの特別企画乗車券。	
	学習成果	特別な割引とその適用条件について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
9回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。JRの時刻表の読み方。	
	学習成果	各種記号の意味を理解し、時刻や所要時間、サービス内容を読み取ることが出来る。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
10回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。総合演習。	
	学習成果	JRの運賃・料金全般にわたる計算能力を高め、正確な算出ができるようになる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
11回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。国内航空運賃。	
	学習成果	運賃・料金のクラス、割引運賃、変更、取り消し、払い戻し、について説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
12回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。貸切バス。	
	学習成果	近年の厳密な運賃計算を求められるバスの運賃・料金の内容を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
13回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。フェリーの運賃料金。	
	学習成果	人、自動車、荷物などに応じたフェリーの運賃・料金を理解し、計算・説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。	
14回	授業内容	前回内容の小テストの実施と解説。宿泊料金。	
	学習成果	宿泊施設の種別に応じた料金の考え方を理解し、計算、説明できる。	
	予習復習の内容	小テストの内容を復習する。最終回の演習に備えた全体の復習をする。	
15回	授業内容	特別演習。各種運賃・料金全体についての質問形式の演習。	
	学習成果	各種運賃・料金についてその体系を理解し、詳細に計算および解説ができる。	
	予習復習の内容	運送、宿泊機関の運賃・料金の特徴を整理して確認しておく。	

科目名	旅行業実務Ⅱ				担当者	尾形和悦（オガタワエツ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に受け付ける

専門的学習成果	①	旅行業に必要な業務知識（海外旅行）の内容を説明できる。
	②	国際航空運賃の内容、仕組みを説明できる。
	③	旅券、査証（ビザ）電子渡航認証システム、及びワクチン接種証明書（海外検疫）所得方法について説明できる。
	④	出入国手続きの流れを述べることができる。
	⑤	総合旅行業務取扱管理者試験の「海外旅行実務」の科目の内、出入国関連法令、海外旅行実務を説明できる。
汎用的学習成果	(1)	資格所得に向けた海外旅行実務に関する学習を通し、社会的、職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）
	(2)	海外の地理、文化の違いを学習し、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①③に関連）
	(3)	旅券の所得方法、出入国に必要な手続きについて習得した知識や技能を活用して、課題解決に向けて行動できる。（専門的学習成果①③④に関連）

授業概要	旅行会社の海外旅行に必要な実務知識の内、航空会社の時刻表、国際列車の時刻表の見方をインターネットを利用して情報収集する方法、併せて海外渡航に必要な旅券、査証、及びワクチン接種証明書の所得方法を学ぶ。観光地理、主な観光施設、空港の Three Letter Code、航空会社の Two Letter Code 等の専門用語についても学習し、総合旅行業務取扱管理者試験の海外旅行実務分野の実践的学力を養成する。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		平常点	20	授業に取り組む姿勢
		小テスト	30	３回実施し、各回10点を配点する。2-3回分の講義内容について理解の程度を評価する。
		筆記試験	50	前回実施の小テストを元にした問題を回答して全体の理解度を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	成美堂出版編集部	『旅行業務取扱管理者』	株式会社翔泳社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
		授業で必要に応じて紹介する	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料及びインターネットに接続可能な PC/Tablet 経由得た情報を資料として授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストなどを読み予習してくること。（予習：２時間程度）事後学習として、単元毎に小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。（復習：週２時間程度） ②フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、回答・解説を行う。

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンスと国家試験における海外旅行実務	小テスト（海外旅行実務について）第４回に実施
	学習成果	海外旅行実務の内容を理解し、概要を説明することができる。	
	予習復習の内容	時差表に表示される国及び地域を確認する。	
2回	授業内容	海外旅行実務－観光英語	
	学習成果	旅行業界で使用される業界英語（用語）を説明することができる。	
	予習復習の内容	英語本来の意味との違いを確認する。	
3回	授業内容	海外旅行実務－日本航空、全日空、仙台発国際線の時刻表	
	学習成果	時刻表を読み取ることができる。	
	予習復習の内容	JR・国内線航空機の時刻表との違いを理解する。	
4回	授業内容	演習（1）－国際線時刻表の読み方	
	学習成果	時刻表から時差のある海外旅行地との飛行時間を説明できる。	
	予習復習の内容	時刻表と時差表から時差のある国間の所要時間を理解する。	
5回	授業内容	出入国関連法令・実務－旅券法	小テスト（出入国関係法令実務について）第８回に実施
	学習成果	旅券所得に必要な書類を説明することができる。	
	予習復習の内容	旅券申請用紙に記載されている内容を理解する。	
6回	授業内容	出入国関連法令－日本人の出入国手続き	
	学習成果	日本人の免税範囲を説明することができる。	
	予習復習の内容	検疫・免税範囲を理解する。	
7回	授業内容	出入国関係法令－海外での入出国手続き及び電子渡航認証システム	
	学習成果	CIQ の流れを説明することができる。	
	予習復習の内容	渡航先国別の査証、旅券の残存期間の説明ができる。	
8回	授業内容	演習（2）－出入国関連手続き	
	学習成果	CIQ 全般について説明することができる。	
	予習復習の内容	主要国の検疫・通関手続きを理解する。	
9回	授業内容	国際航空券－基礎　普通運賃	小テスト（国際航空運賃について）第11回に実施
	学習成果	国際航空券のルールを説明することができる。	
	予習復習の内容	運賃に付属する各種税金およびサーチャージを理解する。	
10回	授業内容	国際航空運賃－特別運賃	
	学習成果	特別運賃の種類及びシーズナリティについて説明することができる。	
	予習復習の内容	特別運賃にどういったものがあるか確認する。	
11回	授業内容	旅行パンフレット（Web 版）の読み解き方	
	学習成果	各社パンフレットの違いを知る。	
	予習復習の内容	仙台発・東京発商品の違いを理解する。	
12回	授業内容	海外旅行の出発前に準備すること	
	学習成果	両替、旅行傷害保険等の説明ができる。	
	予習復習の内容	新聞等で主要通貨の交換レートを理解する。	
13回	授業内容	海外の観光資源－仙台空港発着便を利用しての渡航先	
	学習成果	韓国、台湾、タイ	
	予習復習の内容	アジア各国の魅力とリスクを理解する。	
14回	授業内容	海外の観光資源－ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア編	
	学習成果	日本人が多く訪れる観光地を説明することができる。	
	予習復習の内容	地図帳で主要国及び主要観光資源を理解する。	
15回	授業内容	海外旅行実務まとめ	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回後半に実施
	学習成果	海外旅行実務に関して多方面から案内することができる。	
	予習復習の内容	旅行業界に必要な基本的業務知識を理解する。	

科目名	ホスピタリティ概論				担当者	山川（ヤマカワ）奈美（ナミ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワーかClassroom、Eメールにて。（yamakawa.na@seiwa.ac.jp）											
専門的学習成果	①	ホスピタリティの必要性を理解することができる										
	②	ホスピタリティの歴史を理解し、起源や語源について概要を説明することができる										
	③	個人のホスピタリティとは何かを考えることができる										
	④	企業におけるホスピタリティとは何かを考えることができる										
	⑤	サービスとホスピタリティの違いについて説明することができる										
汎用的学習成果	(1)	「ホスピタリティ」≒「おもてなし」であることを説明できる（専門的学習成果①②）										
	(2)	ホスピタリティの5つの領域を理解し、社会におけるホスピタリティの必要性を説明することができる（専門的学習成果①③④⑤）										
	(3)	ホスピタリティマインドを持ち、社会で生かすにはどのようにしたらよいかを考え、実行する。（専門的学習成果①③④⑤）										
授業概要	「ホスピタリティ」という言葉を日本人は「おもてなし」と表現するが、単なる「おもてなし」だけでないことを学び、今後の社会における重要性を学んでいく。 機械にはできない「人と人」の部分を大切にするため、益々需要の高まるこの分野を、歴史からきちんと学ぶことで内容をしっかり理解し、ホテル、サービス業だけでなく他業種にも役立つ知識を深める。 就職活動に役立つ言葉遣いやマナーにも触れる。 授業の単位を取得できた学生は、希望すれば「アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ」の資格も取得できる（別途費用が必要、詳細は初回授業にて案内）											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	60	講義の内容を振返り、実生活でどのように実践されているか、またどのようにしたらよいか、などをレポートにまとめ、理解度を評価する。								
		グループワーク	30	グループワークを通じてホスピタリティを実践し、それを評価する。								
		平常点	10	グループワークや授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
	汎用的学習成果											
テキスト等	著者・編集者名	書名		出版社名								
参考書参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	斎藤敏一、服部勝人他	『ホスピタリティ・コーディネータ教本』		NPO法人日本ホスピタリティ推進協会								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義内容を整理する。（30時間）講義内容を踏まえ、常にホスピタリティとは何かを考えながら過ごし、グループワークやレポートに反映できるような事例をまとめておく。（30時間）アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ取得希望者はテキスト購入は必須だが、取得希望しない学生は購入なくとも履修可能。 ②講義の都度、理解度を確認したら、翌講義の冒頭にて結果を伝えながらフィードバックする。（出欠確認と一緒にGoogleフォーム等を使って確認予定）											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	初回ガイダンス（ホスピタリティとは、おもてなし規格認証など）	classroom等を使用 レポート提出
	学習成果	アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ資格についての有効性を知る	
	予習復習の内容	自分なりの「ホスピタリティ」を考える	
2回	授業内容	日本のサービス産業について	
	学習成果	サービス産業とは？　日本と海外のサービス業の考え方、国際規格について知ることができる。	
	予習復習の内容	サービスエクセレンスと国際規格ISO23592についてまとめる	
3回	授業内容	ホスピタリティの歴史と文化①	
	学習成果	歴史や文化的背景からホスピタリティというものの考え方を学ぶことができる	
	予習復習の内容	ホスピタリティの始まりについて歴史的観点からまとめる	
4回	授業内容	ホスピタリティの歴史と文化②	
	学習成果	ホスピタリティの始まりと発展を知ることができる	
	予習復習の内容	歴史の流れからホスピタリティの発生をまとめる	
5回	授業内容	サービスとホスピタリティの語源	
	学習成果	似たような意味や使われ方をする2つの言葉の違いを説明できる	
	予習復習の内容	2つの言葉の語源から他に派生する語句も含めて、関連語句をまとめる	
6回	授業内容	ホスピタリティの定義	
	学習成果	ホスピタリティという言葉はどのように定義され、使用されるのかを知ることができる	
	予習復習の内容	今後の授業においてホスピタリティという語句をどのように扱うのかを自分なりに考える	
7回	授業内容	ホスピタリティの5領域　①個人と個人のホスピタリティ	
	学習成果	「ありがとう」から始まる基本的なホスピタリティを知ることができる	
	予習復習の内容	個人対個人のホスピタリティについて考える	
8回	授業内容	ホスピタリティの5領域　②個人と地域社会のホスピタリティ	
	学習成果	地域社会において個人が行うホスピタリティ	
	予習復習の内容	共同体感覚を考える	
9回	授業内容	ホスピタリティの5領域　③組織と顧客のホスピタリティ	
	学習成果	市場の変化からホスピタリティとサービスの関係をまとめることができる	
	予習復習の内容	「サービスなくしてホスピタリティなし」の意味を考える	
10回	授業内容	ホスピタリティの5領域　④組織と社員（従業員）のホスピタリティ	
	学習成果	従業員満足、リーダーシップなどについて考えることができる	
	予習復習の内容	「真実の瞬間」について考える	
11回	授業内容	ホスピタリティの5領域　⑤組織と地域社会のホスピタリティ	
	学習成果	企業が何故地域社会に対して貢献しなくはならないのかを知ることができる	
	予習復習の内容	企業の発展のために何をしたらよいのかを考える	
12回	授業内容	ホスピタリティの実践①（グループワーク）	グループワークにて協調性や意見を出しまとめることができるかをみる
	学習成果	ホスピタリティを実践するにあたり、必要なことは何かを学ぶことができる	
	予習復習の内容	基本的な身だしなみ、立ち居振る舞いなどを鏡をみて研究する	
13回	授業内容	ホスピタリティの実践②（グループワーク）	
	学習成果	ホスピタリティを実践するにあたり、正しい言葉遣いをマスターする	
	予習復習の内容	接客された時のおかしな表現を思い出し、正しい言葉遣いに直してみる	
14回	授業内容	ホスピタリティの実践③（復習）	グループワークで学んだことを活かした発言ができるかどうかをみる
	学習成果	学んできたことについてディスカッションできる	
	予習復習の内容	ディスカッションで出た意見をまとめ、自分の立場で考え、どのように行動すべきか考える	
15回	授業内容	学習したことを踏まえた自分とホスピタリティについてを述べる	レポート提出
	学習成果	授業内容を実生活に投影し、今後の生活について考えることができる	
	予習復習の内容	将来仕事をしていく上で、何が必要になるのかを自分なりにまとめる	

科目名	ホテル総論				担当者	今野 則幸（コンノ ノリユキ）（実務家教員）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp											
専門的学習成果	①	ホテル産業の歴史過程を踏まえ、社会的有用性を説明できる。										
	②	ホテルの組織を理解し、概要を説明できる。										
	③	ホテル内の各セクションを理解し、実践できる。										
	④	ホテルビジネス実務検定2級資格所得を目指すことにより、ホテル全般を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けたホテルに関する学習を通し、社会の中でのホテルの役割を学び活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	ホテル内の各セクションの業務内容を学ぶことにより、他者に対してマナー実践ができる。（専門的学習成果②③）										
授業概要	現在、日本国内及び海外から観光やビジネス目的で、多くのお客様がホテルを訪れる。ホスピタリティ産業の中心的な役割を果たしているホテルの歴史・組織や具体的な業務内容を学び、地域社会に貢献できるようにする。講師がシティ・ホテル、リゾート・ホテルで勤務した宿泊・宴会・料飲部門の実務経験を基に、ホテル内全般に通じる知識はもとより、各セクションの特徴などを講義に取り入れる。また、国際的に通用する社会人としての幅広いマナーを身につける。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	30	各部門レポート3回提出。各10%配点し、評価する。
		筆記試験	60	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、講義内容の理解について評価を行う。
		平常点	10	講義への取組み・意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～④で評価を行う。 （2）は専門的学習成果②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本ホテル教育センター編	『ホテルビジネス基礎編』	日本ホテル教育センター
	日本ホテル教育センター編	『ホテルビジネス基礎　練習問題700選』	日本ホテル教育センター

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に配布資料を読み、内容を把握する（30時間）。また、仙台市内や旅行先でホテルを利用し、お客様の動向やホテルマン・ホテルウーマンの行動を観察し実践に活用できるようにする（30時間）。 ②筆記試験は後に返却し、解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、検定試験内容	レポート提出（自身が利用したホテルの感想）
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンス内容を踏まえ、学習計画を立てる。	
2回	授業内容	ホテルの定義	
	学習成果	観光関連、ホテルに関する法律を学び、社会の中でのホテルの位置を説明できる。	
	予習復習の内容	関連法律を確認しておく。	
3回	授業内容	ホテルの分類	
	学習成果	シティホテル、ビジネスホテル、リゾートホテル等比較・分類できる。	
	予習復習の内容	様々なホテルの形態を整理しておく。	
4回	授業内容	ホテルの歴史（国外）	
	学習成果	ヨーロッパ、アメリカ、アジアのホテルの歴史を述べることができる。	
	予習復習の内容	国外のホテルの歴史的背景を整理しておく。	
5回	授業内容	ホテルの歴史（国内）	
	学習成果	日本国内のホテルの歴史を述べることができる。	
	予習復習の内容	国内のホテルの歴史的背景を整理しておく。	
6回	授業内容	宿泊部門（ホテル内での役割）	レポート提出（ホテルにおけるフロント業務の重要性）
	学習成果	ホテル内での宿泊部門の役割、位置づけを説明できる。	
	予習復習の内容	関連セクションとの繋がりを調べる。	
7回	授業内容	宿泊部門（フロントオフィス）	
	学習成果	予約、レセプション、インフォメーション等、説明できる。	
	予習復習の内容	仕事内容の理解を深める。	
8回	授業内容	宿泊部門（フロントサービス、ハウスキーパー）	
	学習成果	ドアマン、ベルマン、ハウスキーパーの業務内容を説明できる。	
	予習復習の内容	仕事内容の理解を深める。	
9回	授業内容	料飲部門（洋食・和食・中華レストラン）	レポート提出（ホテルにおける料飲業務の重要性）
	学習成果	各レストランの業務内容を説明できる。	
	予習復習の内容	各レストランの料理内容の整理、お客様対応を整理しておく。	
10回	授業内容	料飲部門（コーヒーショップ、バー）	
	学習成果	コーヒーショップの業務内容、飲料の説明ができる。	
	予習復習の内容	アルコール飲料を整理しておく。	
11回	授業内容	宴会部門（一般宴会）	レポート提出（ホテルにおける宴会業務の重要性）
	学習成果	MICE等、一般宴会の内容が説明できる。	
	予習復習の内容	一般宴会を比較し、内容を調べる。	
12回	授業内容	宴会部門（婚礼）	
	学習成果	婚礼の歴史や挙式・披露宴を説明できる。	
	予習復習の内容	挙式形態、披露宴形態を調べる。	
13回	授業内容	調理部門（食材）	
	学習成果	フランス料理、中華料理、和食の食材を説明できる。	
	予習復習の内容	肉、魚、野菜等を整理しておく。	
14回	授業内容	調理部門（調理方法）	
	学習成果	フランス料理、中華料理、和食の調理方法を説明できる。	
	予習復習の内容	各料理を比較し、整理しておく。	
15回	授業内容	社会の中のホテルの役割	筆記試験（全15回分の内容を問う）後半に実施
	学習成果	社会の中でホテルが果たす役割を挙げることができる。	
	予習復習の内容	現在の社会情勢を調べておく。	

科目名	テーブルマナー演習				担当者	狩野（カノ）　猛（タケシ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー。											
専門的 学習成果	①	フランス料理・日本料理・中国料理の歴史を理解する。										
	②	フランス料理のマナー及びセッティングを習得し実践できる。										
	③	日本料理・中国料理のマナーを習得する。										
	④	社会人の基本的常識としての各種パーティーマナーを身につけ実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	夫々の料理の歴史に関する学習を通じて、社会人としての幅広い知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	社会人の基本的常識としてのテーブルマナーを身につけ実践できる。（専門的学習成果②～④に関連）										
授業概要	シティホテル内の料飲サービスの基本である西洋料理の歴史とテーブルマナー、併せて日本料理、中国料理の歴史及び実務の基礎やマナーを学ぶと同時に、社会人の基本的常識としての各種パーティーのマナーの実務やマナーについても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	筆記試験形式で行い、講義内容の理解度の評価を行う。								
		レポート										
		平常点	20	実技及び授業態度により評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～④により評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	岩下宣子・吉村景美	『これが美しい食べ方のマナーです』		亜紀書房								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備の上受講のこと。又事前にテキストを読み授業内容を把握しておくこと。事前、事後学習に4時間を要する。 ②カトラリーの用途や名称、セッティングについては改めて翌週の授業の最初に行いフィードバックする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、何故テーブルマナーは必要か	マナーの必要性の説明を評価
	学習成果	テーブルマナーの必要性について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスの内容を理解し、ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	フランス料理の歴史	歴史の説明の評価
	学習成果	イタリアの食文化が、現在のフランス料理のスタイルをもたらしたことを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容とプリントにより、理解を深める。	
3回	授業内容	主な国のブレックファストとセッティング	セッティングの評価
	学習成果	ブレックファストの種類とセッティングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ブレックファストについて理解を深める。	
4回	授業内容	カトラリーの名称と用途について	カトラリーの用途説明の評価
	学習成果	料理に応じたカトラリーの名称と用途を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、名称と用途について理解を深める。	
5回	授業内容	ディナー（コース料理）のマナーについて	マナーのポイント説明の評価
	学習成果	一般的なディナーの食べ方について、習得し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食べ方について理解を深める。	
6回	授業内容	市内シティホテルでのフランス料理テーブルマナー	マナー実践の評価
	学習成果	市内ホテルを利用しての実践を通してマナーを実践できる。	
	予習復習の内容	テーブルマナーの実践を通し、完全にマナーを身につける。	
7回	授業内容	和室での立ち居振る舞いと玄関での振舞い	立ち居振る舞い説明の評価
	学習成果	日本人として和室での基本所作を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	
8回	授業内容	伝統的な形式の日本料理とマナーの基本	マナーの基本の説明を評価
	学習成果	日本料理をスマートに食べるポイントを解説できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	
9回	授業内容	フォーマルな日本料理のマナーと、会席料理の食べ方	器の扱い方の説明を評価
	学習成果	会席料理の食べ方、器の扱い方や箸の持ち方を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	
10回	授業内容	中国料理の食卓作法	料理の特徴の説明を評価
	学習成果	中国料理の主な種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
11回	授業内容	中国料理をスマートに食べるポイント	食べ方のポイント説明を評価
	学習成果	招待された席でのスマートな食べ方が実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	
12回	授業内容	ターンテーブルと中国料理のフルコース	コース料理の説明を評価
	学習成果	回し方とフルコースの料理の取り方と食べ方を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
13回	授業内容	立食パーティーの基本マナー	基本マナー説明を評価
	学習成果	美しいマナーを身につけてパーティで実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
14回	授業内容	ビュッフェの食べ方のマナー	取り方と食べ方説明の評価
	学習成果	ビュッフェをより楽しめるマナーを実践することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
15回	授業内容	お酒の席の基本マナーと飲み物の種類	基本マナーの説明を評価
	学習成果	基本マナーと飲み物の種類を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、自宅やレストランなどでも意識して、身につける。	

科目名	ブライダル概論				担当者	山川 奈美（ヤマカワ ナミ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワーかClassroom、Eメールにて。（yamakawa.na@seiwa.ac.jp）											
専門的学習成果	①	国内外のブライダルの歴史を理解し、概要を説明できる。										
	②	挙式の種類や内容についての知識を習得し、概要を説明できる。										
	③	披露宴についての知識を習得し、概要を説明できる。										
	④	現在のブライダル市場を理解し、オリジナル・ウエディングを提案できる。										
	⑤	国家検定：ブライダルコーディネート３級資格取得を目指し、ブライダル全般を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	ブライダル産業を通じて、マナーを身に付けられる。（専門的学習成果①～⑤）										
	(2)	ブライダルの幅広い知識を習得し、創意・工夫をすることができる。（専門的学習成果①～⑤）										
	(3)	グループ・ワークを通し、協調性を養い、他者に配慮できる。プレゼンテーションができる。（専門的学習成果②～④）										
授業概要	ブライダル業界は日々変化していくものなので、専門的な知識を習得した上で、流行を取り入れた提案ができるように、ブライダルを基礎から学ぶ。 また、国内のみならず、宗教や慣習の違う海外の婚礼も学び、国際化社会にも対応できるように学んでいく。 多様な結婚式、披露宴のスタイルだけでなく、ブライダルを取り巻くマーケットや現在のニーズなども学び、ブライダルプランナーやホテルスタッフとして働くための基礎を固める。 国家検定でもある「ブライダルコーディネート検定３級」の取得も目指す。 ２年前期の「ブライダル実務」においてオリジナル・ウエディングを実演するので、続けて受講することが望ましい。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	50	個人で考えたオリジナル・ウエディングを紙面で表現し、創意・工夫をアピールする。								
		グループワーク	40	少人数のグループでオリジナル・ウエディングを考え、プレゼン形式で発表する。 発表態度、内容の創意・工夫、取り組み方をみる。								
		平常点	10	講義受講態度、グループ・ワークへの取り組み、意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑤により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②～④により評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	（一財）日本ホテル教育センター編	『ブライダル総論』	（一財）日本ホテル教育センター									
	BIA（公社）日本ブライダル文化振興協会	『ブライダルコーディネーターテキスト　スタンダード』	BIA（公社）日本ブライダル文化振興協会									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	石井洋子　他	『決定版　冠婚葬祭マナー大事典』	㈱学研マーケティング									
	BIA（公社）日本ブライダル文化振興協会	『ブライダル用語辞典』	BIA（公社）日本ブライダル文化振興協会									
		『ゼクシィ』	㈱リクルート									
		『ヴァンサンカンウエディング』	㈱ハースト婦人画報社									
		『ホテルウエディング』	㈱主婦と生活社									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前によくテキストを読み、授業内容を把握しておくこと（30時間）。 ホテルや結婚式場のブライダルについて情報を集め、できれば見学する（ブライダルフェアに参加することが一番望ましい）。また参考文献にあるような結婚情報誌（雑誌）にて流行のスタイルなどを研究する（30時間）。 ②レポートは２年前期の「ブライダル実務」にて返却し、フィードバックする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、ブライダルの定義	小テストなど
	学習成果	授業の内容を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	ブライダルの定義を理解する	
2回	授業内容	ブライダル産業（ブライダルマーケット）とは	
	学習成果	ブライダルを取り巻く市場を理解し、様々な業種への理解を深める	
	予習復習の内容	関連情報誌などで関連業務を調べ、整理する	
3回	授業内容	日本における結婚の歴史	
	学習成果	日本のブライダルの歴史を説明できる	
	予習復習の内容	日本独自のブライダルの理解を深める	
4回	授業内容	西洋における結婚の歴史、各宗教と世界の結婚事情	
	学習成果	海外のブライダルの歴史を宗教的背景と共に説明できる	
	予習復習の内容	各国のブライダルを、宗教の違いに注意しながら、比較・整理する	
5回	授業内容	婚礼衣装と礼装について	
	学習成果	婚礼時のマナー（列席者含む）と共に、正しい衣装の知識を理解する	
	予習復習の内容	和装・洋装、髪型に至るまでファッションの部分を調べる	
6回	授業内容	日本の慣習、衣装	
	学習成果	日本の結婚式にまつわるマナーや決まり事を理解し、説明することができる	
	予習復習の内容	神道や仏教の儀式等を調べ、整理する　結納に使われる縁起物についてまとめる	
7回	授業内容	西洋の慣習、衣装	
	学習成果	西洋の結婚式にまつわる慣習、言い伝えなどを理解し、説明することができる	
	予習復習の内容	宗教上の儀式など、日本に受け入れられているものと本来の西洋スタイルとを比較し整理する	
8回	授業内容	婚礼の種類	
	学習成果	婚礼とは何か、から始まり「婚礼」に関わる部分を分類し、整理し、内容を理解する	
	予習復習の内容	これまでの学習のまとめにもなるため、全体の復習をしながら整理する	
9回	授業内容	挙式のスタイル	
	学習成果	神前式、キリスト教式、など「式」の特徴、違いなどを説明できる	
	予習復習の内容	挙式を比較、整理すること	
10回	授業内容	披露宴のスタイル	
	学習成果	披露宴の進行、料理などを理解し、提案することができる	
	予習復習の内容	披露宴で行われる様々な演出について、調べ、まとめる	
11回	授業内容	婚礼部門の組織と役割	
	学習成果	ホテルにおける婚礼部門の位置づけを理解する	
	予習復習の内容	ホテル内のブライダルはどのように行われるべきかを考える	
12回	授業内容	オリジナル・ウエディングを提案するグループ・ワーク①	グループ・ワークへの取り組み（Googleスライド共有し、適宜進捗確認）
	学習成果	少人数グループで意見を交わし、まとめることができる	
	予習復習の内容	テーマや場所など、基本を決めたら役割分担し、下調べなど行う	
13回	授業内容	オリジナル・ウエディングを提案するグループ・ワーク②	
	学習成果	少人数グループで意見を交わし、Googleスライドを用い、まとめることができる	
	予習復習の内容	発表するに相応しい内容にまとめる	
14回	授業内容	オリジナル・ウエディングを提案するグループ・ワーク③発表	発表態度や内容の理解度
	学習成果	Googleスライドでプレゼンテーションができる	
	予習復習の内容	他のグループの発表を見た感想をまとめる	
15回	授業内容	レポート作成＜個人のオリジナル・ウエディングを提案する＞	レポート提出
	学習成果	挙式、披露宴など、自分のこだわりポイントをアピールする	
	予習復習の内容	紙面でのプレゼンテーションができるよう準備しておく	

科目名	ブライダルフラワービジネスⅠ				担当者	山川（ヤマカワ）奈美（ナミ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業毎に配布する小テストにて質問等を受付ける。もしくは授業中や授業後に直接。（内容によるので必要に応じて個別にメール可、アドレスは yamakawa.na@seiwa.ac.jp）

専門的学習成果	①	フラワーデザインの歴史を知り、時代背景と共に説明することができる
	②	植物に関する知識を理解し、実技に応用することができる
	③	フラワーデザインの基礎的な技術を学び、実践することができる
	④	ブライダルに関する装花の用途や意義などについて理解し、説明することができる
	⑤	商業ラッピングにおける基礎知識を学び、実践することができる
	⑥	ブライダルフラワービジネス３級の受検レベルの知識を持ち、応用することができる
汎用的学習成果	(1)	植物に関する知識、アレンジメント技術を身につけ、職業的自立につなげることができる。（専門的学習成果②、③、⑥に関連）
	(2)	フラワーデザイン知識、ブライダルにおける装花技術を職業的自立につなげることができる。（専門的学習成果①～④、⑥に関連）
	(3)	ラッピングの基礎知識を持ち、基本の簡単な包み方ができることによって、社会的・職業的自立に活用することができる。（専門的学習成果⑤に関連）

授業概要	フラワーデザインとは何か…歴史から順にひもとき、植物の生態や分類を通して論理的に説明していき、それを実践（実技学習）していく。植物に関する知識を活かした上で、フラワーデザインの技術を取得し、更にブライダルの現場での装花全般について学んでいく。ブライダルフラワービジネス検定３級を取得できるレベルの学習を行う。また、商業ラッピングの技術を身につけ、一般的なサービス業で必要とされることの多いラッピングを学ぶ。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		筆記試験	40	講義内容全般、各講義内容に基づいた小テストから出題する筆記試験を第14回目の講義内で行う。（60分）
		作品評価	40	講義内で２回練習したラウンドのアレンジメントを、３回目で実技試験を行う。（60分、予定では第10回目の講義）
		平常点	20	講義中の態度、取り組む姿勢（準備物・服装含む）、小テストの理解度・提出状況、などにより総合的に評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果②、③、⑥により評価を行う。 （2）は専門的学習成果①～④、⑥により評価を行う。 （3）は専門的学習成果⑤により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	商業ラッピング協会テキスト委員会	『ラッピングテキスト３級』	（社）商業ラッピング協会

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	栗林　登	『全国フラワーデザイン検定テキスト』	NPO法人フラワーデザイン普及協会
		ブライダル関連雑誌（ゼクシィ、ヴァンサンカンウェディングなど）	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備として、花の名称、植生状態を知っておくとよい。刃物を扱う授業なので注意が必要。花代、資材、テキスト類の費用別途あり。（そのまま２年生履修時にも使用）　授業計画に従って、予習復習を計４時間程行うこと。予習は基本的にテキストを読むこと、講義内容はしっかり聴き、その都度行う小テストにて理解を確認する。小テストは返却するので必ず事後学習（復習）に努めること。小テストは事後学習用に配布する（次回講義にて回収）。 ②フィードバックとして全体評価をみながら小テストの解説を行う。小テストには質疑応答の場を設けるので積極的に活用し、疑問や不明なことをそのままにしないようにする。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	テキスト配布、講義における注意点などの説明、フラワーデザインの歴史	小テスト（各回共に、講義内容に関して）
	学習成果	講義前の準備、心構えなどから、技術よりも前に大切なことを説明できる	
	予習復習の内容	花（植物）について調べておく（花の名前を調べる、ブライダルの装花を調べてくる、など）	
2回	授業内容	第１回の内容の続き（歴史）からフラワーデザインとは何かを学ぶ	小テスト
	学習成果	フラワーデザインの歴史と合わせてフラワーデザインはどのようなものかを説明できる	
	予習復習の内容	テキストを復習　花束の作り方を予習する	
3回	授業内容	〈実技〉花束を作る（ラッピングまで）	小テスト
	学習成果	フラワーデザインの基本をもとに一つの商品となるまでの過程を説明できる	
	予習復習の内容	花束を花瓶に活け、水を替える、ということを実際にしてみる　テキストの復習	
4回	授業内容	フラワーデザインの基礎、用具や資材、植物の分類	小テスト
	学習成果	実際にどんな道具を使ってどんなものができるのかを関連づけることができる	
	予習復習の内容	植物の分類を、植物の名前と共に覚える	
5回	授業内容	植物の分類から、形態、水揚げ方法	小テスト
	学習成果	分類や形態に関する知識が必要な理由を知り、フラワーデザインの基本的な組立へ応用できる	
	予習復習の内容	植物の分類、形態、水揚げを名前と共に覚える	
6回	授業内容	〈実技〉三角形のアレンジメントを作る	小テスト
	学習成果	植物の分類を考慮しながら、実際に基本的な形のアレンジメントを作ることができる	
	予習復習の内容	分類や形態、水揚げを考えながら、余った花材も無駄なく使用する	
7回	授業内容	チャペルにおける装花や基本的な仕組み、用語の説明	小テスト
	学習成果	日本のブライダルにおける現状やチャペルでの決まり事などを比較検討できる	
	予習復習の内容	チャペルについての知識を確認する　ラウンドのアレンジメントの予習	
8回	授業内容	〈実技〉ラウンドのアレンジメント（１回目）	小テスト
	学習成果	最もポピュラーなアレンジメントを作成することができる	
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する	
9回	授業内容	〈実技〉ラウンドのアレンジメント（２回目）	小テスト
	学習成果	実技試験のために復習、再確認、質問などより完成度をあげることができる	
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する	
10回	授業内容	〈実技〉ラウンドのアレンジメント（３回目）実技試験	小テスト
	学習成果	時間内に作品を仕上げることができる	
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する　これまでの復習（分類など）	
11回	授業内容	〈実技〉季節を感じるアレンジメントとしてクリスマスのアレンジメントを作成	小テスト
	学習成果	フラワーデザインにおいても重要なクリスマスをテーマに商業的な視点で議論できる	
	予習復習の内容	クリスマスだけでなく、季節を取り入れた場合を考えてみる　ラッピングの予習（テキストを読む）	
12回	授業内容	ラッピングの基礎知識、合わせ包み	小テスト　休み中に復習レポート（必須ではない）
	学習成果	包装紙をきれいに切ることができ、用途に合わせた包み方を区別し実行することができる	
	予習復習の内容	異なる箱の包み方を予習しながら、基本の包み方も復習する	
13回	授業内容	箱の厚みが異なる場合の合わせ包み　斜め包み	小テスト
	学習成果	様々な箱の合わせ包みができる　斜め包みと合わせ包みを比較できる	
	予習復習の内容	全ての包み方を復習する　用語なども確認する	
14回	授業内容	学科試験（60分）	学科試験（小テストの内容と講義内容全般から）
	学習成果	今までの学習内容を総括し、フラワーデザインの基礎を説明することができる	
	予習復習の内容	小テストを中心に全てを復習する	
15回	授業内容	検定試験（希望者のみ）、学科試験・実技試験　再試験	２つの試験の成績次第でレポート提出あり（内容は必要に応じて対応するため未定）
	学習成果	ブライダルフラワービジネス３級の資格を取得できる　１回目の試験で不合格者のみ学科・実技共に再試験を受けることができる	
	予習復習の内容	学科試験の結果を発表するので全員出席　不合格の場合に備え、復習しておく	

科目名	スポーツ心理学				担当者	高間（タカマ）　章（アキラ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	スポーツ心理学の基礎知識・諸問題について説明できる。										
	②	自分自身の競技活動や日常生活、また指導の現場における応用方法を説明できる。										
	③	運動技能の効果的な習得につながる心理学的要因を説明できる。										
	④	身体運動と心身の健康の関わりを説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	スポーツ心理学の学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	スポーツ心理学を学ぶことで適切なスポーツ活動を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②に関連）。										
	(3)	スポーツ心理学の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果③④に関連）。										
授業概要	スポーツにおける「こころ」の重要性について学ぶ。競技スポーツや健康スポーツ、そして指導者という立場になった場合での心理的諸問題の予防法・対処法について学習する。また、運動・スポーツの心理学的な効果、運動・スポーツと動機づけ、心身の発達と運動・スポーツ指導、スポーツメンタルトレーニングの理論と技術等を学ぶ。生活習慣病予防に関しての行動変容の心理的方策を学び、ヘルスプロモーションとカウンセリングの基礎を学ぶ。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果			
		平常点	10	取組・意欲・態度により評価する
		レポート	20	課題を理解できているかを観点に評価を行う
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験を行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～④で評価を行う。 （2）は専門的学習成果①～②で評価を行う。 （3）は専門的学習成果③～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』	日本フィットネス協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として授業資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②提出されたレポートにはコメントをつけて返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	行動としてのスポーツ、スポーツにおける動機づけ	レポート課題 「個人差に応じてやる気を高めるコーチング方法について」6回目に配布、8回目に回収「理想的な心理状態とコンディション方法について」11回目に配布、13回目に回収
	学習成果	スポーツと心の関係について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	メンタルマネジメント	
	学習成果	メンタルマネジメントの理論と各種方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
3回	授業内容	他者観察と個人差を考慮したコーチング	
	学習成果	他者観察と個人差を考慮したコーチングについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
4回	授業内容	運動感覚と運動学習	
	学習成果	運動感覚と運動学習について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
5回	授業内容	メンタルトレーニングの実際　リラクゼーション　イメージトレーニング	
	学習成果	リラクゼーションやイメージトレーニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
6回	授業内容	メンタルトレーニングの実際　集中力のトレーニング	
	学習成果	集中力のトレーニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
7回	授業内容	コーチングとは　コーチングの定義とグッドコーチ　プレイヤーズセンタードなコーチング	
	学習成果	コーチングの定義とグッドコーチ、プレイヤーズセンタードなコーチングについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
8回	授業内容	コーチングに求められる知識とスキル	
	学習成果	コーチングに求められる知識とスキルについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
9回	授業内容	対他者力を磨こう（1）コミュニケーションスキル　リーダーシップスキル	
	学習成果	コミュニケーションスキル　リーダーシップスキルについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
10回	授業内容	対他者力を磨こう（2）プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル	
	学習成果	プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキルについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
11回	授業内容	対自己力を磨こう（1）コーチの学び	
	学習成果	コーチに必要な学びについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
12回	授業内容	対自己力を磨こう（2）コーチのセルフマネジメント　様々な思考法や伝達法	
	学習成果	セルフマネジメントの方法、思考法や伝達法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
13回	授業内容	運動の実践に関わる社会・心理・環境的要因と運動実践の効果	
	学習成果	運動実践を妨げる要因と運動実践のメンタルヘルスに及ぼす効果について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
14回	授業内容	トランスセオレティカル・モデルとソーシャルマーケティング	
	学習成果	運動を採択・継続、停止する行動理論や多くの参加者を得るための留意点について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
15回	授業内容	指導と受講のミスマッチと解決方法、個別指導における動機づけとカウンセリング方法	
	学習成果	ミスマッチの解決方法と動機づけ、カウンセリングについて説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	ピアヘルパー養成講座				担当者	佐藤（サトウ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	開講時に、担当教員よりコンタクト方法が案内される。											
専門的 学習成果	①	カウンセリングの歴史の概略と理論について説明できる。										
	②	カウンセリングの基本的スキルを身に付け、実践することができる。										
	③	青年期の課題とピアヘルパーの留意点について解説できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ピアヘルパーについて学ぶことを通じて社会的・職業的自立に必要な知識を習得し実践に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	ピアヘルパーのメカニズムを包括的に学び、理論に基づいたコミュニケーションを行い、受容、共感、自己一致につなげることができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	習得した専門的知見や技術を活用して地域の課題解決に役立つピアヘルピングを実施し地域社会の発展に寄与することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	「カウンセリング」とは何かなどの基礎的理論について学ぶ。理論を踏まえ、カウンセリングの諸技法を身に付けていく。青年期の課題やピアヘルパーの留意点についても学び、実務上、効果的なピアヘルパーになれることを目指す。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート	30	2回実施し、各回50%を配点する。
		実技	30	3回実施し、各回33%を配点する。
		平常点	40	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。
	汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本教育カウンセラー協会	『ピアヘルパーハンドブック』	図書文化
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本教育カウンセラー協会	『ピアヘルパーワークブック』	図書文化

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①専門的学習成果ならびに汎用的学習成果を意識し、その修学に最大限の努力を払うこと。学習課程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと。（予習：週2時間程度、復習：週2時間程度）良好な対人関係の構築を志向し、その継続がなされるよう配慮することが望まれている。 ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ピアヘルピングの意義と学び方	2回目に実施：　実技1回目。ピアヘルピングの意義を理解を踏まえ、協働的にエンカウンターグループメンバーとして適切なエクササイズへの参加姿勢を示すことができているかを把握する。
	学習成果	資格取得における本授業の位置づけと、目的、内容について適切に理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	教員より紹介のある著作物の中から読みやすいものを選び、ピアヘルピングの基礎的理解を行う。	
2回	授業内容	カウンセリング概論①　導入・構成的グループエンカウンター	
	学習成果	エンカウンターの狙いを把握し、基礎的なエクササイズをすることができる。	
	予習復習の内容	エンカウンターについて、自主的な練習を行う。	
3回	授業内容	カウンセリング概論②　カウンセリングの定義と歴史と必要性	4回目に実施：　レポート1回目。カウンセリング概論②③を踏まえ、自分なりの表現で理解がなされているかを把握する。5回目に提出し、6回目以降にフィードバックを行う。
	学習成果	カウンセリングの定義ができ、その略史を説明ができ、更に、必要性について語ることができる。	
	予習復習の内容	カウンセリングの略史、定義、意義について適切な説明ができるよう記憶の定着と理解を深める。	
4回	授業内容	カウンセリング概論③　カウンセリングの種類	
	学習成果	カウンセリングを、目的別、対象別、方法別、トピック別、領域別、理論別に区別することができる。	
	予習復習の内容	カウンセリングの種類について記憶を定着させ、理解を深める。	
5回	授業内容	カウンセリング概論④　ピアヘルピングの関係領域	
	学習成果	カウンセリング、教育、心理療法、人事・労務管理、キャンパスポリスについて区別ができる。	
	予習復習の内容	カウンセリングの関係領域についての記憶の定着と、理解を深める。	
6回	授業内容	カウンセリング概論⑤　ピアヘルピングのプロセス	6回目の実施：　レポート2回目。カウンセリング概論④⑤を踏まえ、自分なりの表現で理解がなされているかを把握する。7回目に提出し、8回目以降にフィードバックを行う。
	学習成果	リレーションづくり、問題の把握、問題の解決における基礎的理解ができる。	
	予習復習の内容	ピアヘルピングのプロセスにおける諸概念について理解ができる。	
7回	授業内容	カウンセリング概論⑥　ピアヘルパーのパーソナリティー	
	学習成果	人好き、共感性、自己開示そして、自分の人生をもつことについて理解ができる。	
	予習復習の内容	共感性、自己開示などについて自らを洞察する。	
8回	授業内容	カウンセリングスキル①　言語的技法	10回目の実施：　実技2回目。カウンセリングスキル⑧⑨⑩での学びを踏まえ、⑩の授業の後半に実施し、その場でフィードバックを行い、11回目の授業で補足的な助言を与える。
	学習成果	受容、繰り返し、明確化、指示、質問を理解し、統合できる。	
	予習復習の内容	カウンセリングスキルの言語的技法について、繰り返し練習する。	
9回	授業内容	カウンセリングスキル②　非言語的技法	
	学習成果	視線、表情、ジェスチャー、身体接触、声の質量、服装、座り方、時間厳守、歩き方、言葉遣い、挨拶のカウンセリング上の意義について理解できる。	
	予習復習の内容	カウンセリングスキルの非言語的技法について、繰り返し練習する。	
10回	授業内容	カウンセリングスキル③　対話上の諸問題への対処法	
	学習成果	面接の切り上げ方、私的感情、話が進展しないとき、抵抗、沈黙について理解できる。	
	予習復習の内容	対話上の諸問題への対処法について、繰り返しイメージトレーニングを行う。	
11回	授業内容	カウンセリングスキル④　ピアヘルパーの心構えと上達への道	
	学習成果	わかるということ、感情をつかむということ、ビリーフをつかむこと、について理解できる。	
	予習復習の内容	ピアヘルパーの心構えの実践に向け、自らを洞察する。	
12回	授業内容	青年期の課題①　ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点	14回目の実施：　実技3回目。カウンセリングスキル⑪⑫⑬⑭での学びを踏まえ、⑭の授業の後半に実施する。フィードバックを15回目に行う。
	学習成果	ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点について、授業についていけない状況について、理解できる。	
	予習復習の内容	新聞記事などで、ピアヘルパーに関連する青年期の課題について抽出し、探求する。	
13回	授業内容	青年期の課題②　進路選択	
	学習成果	進路の意味と、自己実現および、自己肯定感について学び理解できる。	
	予習復習の内容	自らの進路選択について、エクササイズを行い、自らの自己実現の方向性について洞察する。	
14回	授業内容	青年期の課題③　友人領域、グループ領域、関係修復	
	学習成果	心理的離乳、ギブアンドテイク、自己開示、グループ、リーダーの資質、関係の修復について理解できる。	
	予習復習の内容	自らの友人関係、グループのなかの位置づけ、関係修復の在り方について洞察し、実践に活かせるヒントを見つける。	
15回	授業内容	ピアヘルピング総括	これまでの学びが適切になされているか確認をする。平常点の評価の一部に算入する。
	学習成果	カウンセリング概論、カウンセリングスキル、青年期の課題とピアヘルパーの留意点について統合的観点から復習し、記憶へ定着させ、適切な理解がなされていることを示すことができる。	
	予習復習の内容	ピアヘルパー試験への合格を意識し、ワークブックによる復習を行う。	

科目名	コーチング実習Ⅱ（メディカルフィットネス）			担当者	渋谷（シブタニ）祐子（ユウコ）・高間（タカマ）章（アキラ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについは授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。

専門的学習成果	①	発達、成熟の過程での身体活動・運動の重要性を説明できる。
	②	メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームといった健康問題に対して身体活動・運動の有効性を説明できる。
	③	アイスブレイクやコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。
	④	見学を通して健康づくりの現場の理解を深め、施設の概要や運動の内容を説明できる。
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けた健康づくりの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。
	(2)	健康づくりに関わる団体、企業の理解を深めて、自身の進路活動の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果④に関連）。
	(3)	健康づくりの指導法を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。

授業概要	人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者の健康について講義を行う。また健康支援・介護予防の指導に必要な知識と指導技術、特にアイスブレイクやコミュニケーションスキルについて、講義、実技、実習の学習形態を通して教授する。学内の健康づくり教室やフィットネスクラブ、デイサービスセンターの見学体験を通じて健康づくりの現場の理解を深めて、現代社会の健康問題の考察や自身の将来の職業選択に役立てる。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。
		実習評価	40	実習先の指導者からの評価シートをもとに評価を行う。
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』	日本フィットネス協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	成人期・老年期の発達と成熟	レポート課題「アイスブレイク、コミュニケーションゲームの指導案」第5回で配布、第7回で回収
	学習成果	成人期・老年期の定義、発達課題や老人福祉法と老人保健法について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。	
2回	授業内容	身体機能、精神機能の変化と日常生活への影響	
	学習成果	発達、成熟による心身の機能の変化について理解し説明する。	
	予習復習の内容	成人期・老年期の心身の特徴について理解を深める。	
3回	授業内容	メタボリックシンドロームと健康運動	
	学習成果	メタボリックシンドロームを予防・改善するための運動を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	メタボリックシンドロームと運動の内容や注意点について理解を深める。	
4回	授業内容	ロコモティブシンドロームと健康運動	
	学習成果	ロコモティブシンドロームを予防・改善するための運動を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	ロコモティブシンドロームと運動の内容や注意点について理解を深める。	
5回	授業内容	アイスブレイクを目的としたコミュニケーション演習	
	学習成果	アイスブレイクの概念と方法を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	アイスブレイク技法の理解を深める。	
6回	授業内容	グループの関係づくりを目的としたコミュニケーション演習	
	学習成果	グループを円滑にできるコミュニケーションゲームの方法を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	コミュニケーション技法の理解を深める。	
7回	授業内容	楽しい運動指導のためのコミュニケーション　ロールプレイング	レポート「実習報告書」第6回で配布、第9回で提出
	学習成果	アイスブレイクやコミュニケーションゲームの指導法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	各自が指導した内容を振り返り感想をまとめる。	
8回	授業内容	実習（1）学内スポーツクラブにおける体験	
	学習成果	学内スポーツクラブでの健康づくり教室を体験し内容を理解する。	
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
9回	授業内容	実習の振り返り	
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、次回の実習の準備を行う。	
10回	授業内容	実習（2）フィットネスクラブの見学実習　①	レポート「実習報告書」第9回で配布、第12回で提出
	学習成果	フィットネスクラブを見学し、施設の概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
11回	授業内容	実習（2）フィットネスクラブの見学実習　②	
	学習成果	フィットネスクラブを見学し、運動プログラムやレッスン内容を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
12回	授業内容	実習の振り返り	
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、次回の実習の準備を行う。	
13回	授業内容	実習（3）デイサービスセンター等での見学実習	レポート「実習報告書」第12回で配布、第15回で提出
	学習成果	デイサービスを見学し、施設の概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	練習メニューを作成し、指導後に反省点をまとめ実習レポートを作成する。	
14回	授業内容	実習（3）デイサービスセンター等での見学実習	
	学習成果	デイサービスを見学し、運動プログラムやレッスン内容を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
15回	授業内容	実習報告会　プレゼンテーションスキル	
	学習成果	実習を振り返り、実習レポートを発表できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジュニアスポーツについて理解を深める。	

科目名	健康管理と栄養				担当者	高間（タカマ）　章（アキラ）・岩田（イワタ）教子（キョウコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについは授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	健康と健康増進の概念について説明し、生活習慣変容の重要性を理解し、説明できる。										
	②	わが国の現状と健康づくり施策（第一次健康づくり対策からの歴史的変遷、運動指針）について理解し、説明できる。										
	③	生活習慣病、メタボリックシンドロームの概念を説明し、運動や栄養・食生活による予防効果について理解し、説明できる。										
	④	わが国の高齢社会の現状を説明し、介護予防について理解し、説明できる。										
	⑤	運動を始める前のメディカルチェックの重要性や、健診項目の内容と基準値について理解し、説明できる。										
	⑥	五大栄養素の種類と主な働きなどの栄養に関する基礎的知識を理解し、説明できる。										
	⑦	体重調整と運動および栄養や女性と栄養障害について理解し、説明できる。										
	⑧	食生活全般について改善する方法や対策を考える力を習得する。										
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けた健康管理概論に関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。										
	(2)	身体の仕組みを学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果③④⑤⑦関連）。										
	(3)	健康管理に関する専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果③④⑤⑦⑧に関連）。										
授業概要	健康管理に関わる基本的事項を解説する。また近年、罹患者が増加している生活習慣病に焦点をあて、危険因子や運動を中心とした予防対策について講義する。さらに食事・栄養の基本的知識を学び、食事や栄養素、運動や身体活動が肥満や生活習慣病などの健康と関わっていることについて理解を深め、食生活や運動習慣について改善する方法や対策を考察する。また、運動と食事・栄養の関わりについて、特に栄養障害や水分補給、サプリメントについて学ぶ。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	80	4回実施し、内容を理解できているかを観点に評価を行う。								
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③～⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③～⑤で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂									
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』	日本フィットネス協会									
	日本スポーツ協会	『Reference Book』	日本スポーツ協会									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	健康と栄養、近年の食・健康状態の現状	レポート課題「食事のバランスのとり方と5大栄養素との関連」について　第4回で配布、第5回で回収
	学習成果	健康と栄養、日本人の最新の食・健康状態について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	国民健康栄養調査について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	5大栄養素の特徴や役割について	
	学習成果	各栄養素の特徴や役割について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	各栄養素について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
3回	授業内容	食生活指針と食事バランスガイドの活用方法	
	学習成果	食生活指針と食事バランスガイドの活用方法について理解し活用できる。	
	予習復習の内容	食事バランスガイドについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
4回	授業内容	日本人の食事摂取基準と食事・栄養のバランスについて	
	学習成果	日本人の食事摂取基準について理解し、食事の改善方法を考える力がつく。	
	予習復習の内容	日本人の食事摂取基準について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
5回	授業内容	健康づくりのための身体活動・運動ガイドの活用について	レポート課題「授業を通して学んだことを振り返り、生活習慣病の予防改善及び学童期もしくは女性に対する食生活改善方法の検討」について　第6回で配布、第7回で回収
	学習成果	健康づくりのための身体活動・運動ガイドについて理解し、活用できる。	
	予習復習の内容	健康づくりのための身体活動・運動ガイドについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
6回	授業内容	生活習慣病の予防改善、学童期や女性に対する食生活について	
	学習成果	生活習慣病の予防改善、学童期や女性に対する食生活について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	生活習慣病と食生活の関係について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
7回	授業内容	運動時の水分補給とサプリメントの活用について	
	学習成果	運動時の水分補給方法やサプリメントの活用について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	運動時の水分補給について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
8回	授業内容	健康と健康増進の概念	レポート「メタボリックシンドロームと生活習慣病について」12回目で配布、13回目で提出
	学習成果	世界的な健康の概念の理解を深め、健康増進の概念を説明できる。	
	予習復習の内容	健康の多面的な捉え方の理解を深める。学習内容を振り返り、理解を深める。	
9回	授業内容	ライフステージからみた健康管理①　幼児期、児童期、学童期の健康管理	
	学習成果	幼児期、児童期、学童期の健康管理について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	幼児期、児童期、学童期の健康管理について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
10回	授業内容	ライフステージからみた健康管理②　青年期、成人期、壮年期の健康管理	
	学習成果	青年期、成人期、壮年期の健康管理について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	青年期、成人期、壮年期の健康管理について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
11回	授業内容	わが国の現状と健康づくり施策①　第1次国民健康づくり対策から健康日本21まで	
	学習成果	国民健康づくり対策と社会背景について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	国民健康づくり対策について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
12回	授業内容	わが国の現状と健康づくり施策②　第二次健康日本21	
	学習成果	第二次健康日本21の取り組みと社会背景について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	第二次健康日本21について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
13回	授業内容	ライフステージからみた健康管理③　老年期の健康管理	
	学習成果	老年期の健康管理について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	老年期の健康管理について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
14回	授業内容	運動と安全管理について	レポート「介護予防　リーフレットを読んで」14回目で配布、15回目で提出」
	学習成果	運動と安全管理について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	運動と安全管理について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
15回	授業内容	健康づくりのための運動と各種効果について	
	学習成果	健康づくりのための運動とその効果について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	健康づくりのための運動について調べておく、学習内容を振り返り理解を深める。	

科目名	スポーツ生理学				担当者	高間（タカマ） 章（アキラ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについは授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	身体運動に関係する主な骨と筋と関節と機能を説明できる。										
	②	バイオメカニクスの観点から各種の身体運動を説明できる。										
	③	身体活動実施時の生体反応や、継続的なトレーニングによる身体機能の適応を説明できる。										
	④	体力と発育発達と老化の関係について説明できる。										
	⑤	ウォームアップとクールダウンの目的と効果を説明できる。										
	⑥	有酸素運動とレジスタンス運動の種類と方法、効果について説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けたスポーツ生理学に関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）。										
	(2)	身体の仕組みを学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）。										
	(3)	主に身体的な発育発達を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果④に関連）。										
授業概要	運動器の骨、筋、靭帯、関節の名称と機能や、それらを関連づけて力学的視点から運動の仕組みを解説する。さらに身体活動・運動・スポーツ実施時の一過性の生体反応や、継続的なトレーニングによって身体機能がどのように適応するか解説していく。授業後半では発育発達と老化の概観や、スポーツ活動に必要な科学的なウォームアップとクールダウン、有酸素運動とレジスタンス運動の種類と方法、効果について解説する。科学的根拠に基づいたスポーツ指導、トレーニング指導の基礎を理解することが目的である。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	80	2回実施し、内容を理解できているかを観点に評価を行う。
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 （2）は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 （3）は専門的学習成果⑥で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』	日本フィットネス協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に返却し、解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	身体運動に関する筋と骨	小テストを毎回の授業で実施し評価を行う。 6回目に「幼児・児童期に必要な運動経験について」の題名でレポートを出題し8回目に回収し、9回目に解説する
	学習成果	筋と骨の構造について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	筋と骨の構造について理解を深める。	
2回	授業内容	単関節・多関節運動	
	学習成果	単関節・多関節運動について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各関節部位の単関節・多関節運動について理解を深める。	
3回	授業内容	筋腱複合体の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式、着地衝撃とその緩和法	
	学習成果	筋腱複合体の弾性要素と弾性エネルギーと運動様式を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	筋腱複合体の弾性要素と弾性エネルギーと運動様式の理解を深める。	
4回	授業内容	投動作と打動作の共通点、運動と流体力	
	学習成果	筋線維タイプの特徴や、筋力を決定する要因や力の調節の仕組みを理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	筋線維タイプの名称、特徴について理解を深める。	
5回	授業内容	スキルトレーニング	
	学習成果	スキルトレーニングについて理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	スキルトレーニングの理解を深める。	
6回	授業内容	スポーツバイオメカニクス	
	学習成果	スポーツバイオメカニクスについて理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	スポーツバイオメカニクスの理解を深める。	
7回	授業内容	運動の発現、骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構	13回目に「青年期に必要な運動経験について」レポートを出題して14回目に回収して15回目に返却する
	学習成果	骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構、筋線維タイプと収縮特性を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構、筋線維タイプと収縮特性の理解を深める。	
8回	授業内容	筋線維タイプと収縮特性、運動と筋線維タイプ、筋収縮の様式と筋力	
	学習成果	運動と筋線維タイプ、筋収縮の様式と筋力を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	運動と筋線維タイプ、筋収縮の様式と筋力の理解を深める。	
9回	授業内容	運動の持続と呼吸循環系、呼吸循環系の機能の指標と調節機構	
	学習成果	運動に伴う呼吸循環系の機能の指標と調節機構の変化を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	運動に伴う呼吸循環系の機能の指標と調節機構の変化について理解を深める。	
10回	授業内容	運動に伴う呼吸循環系機能の変化、運動時の酸素利用	
	学習成果	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液について理解を深める。	
11回	授業内容	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液	
	学習成果	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	トレーニングによる呼吸循環系の適応、運動と血液・体液について理解を深める。	
12回	授業内容	発育期の体格・体力、動きの発達	
	学習成果	発育期の体格・体力、動きの発達を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	発育期の体格・体力、動きの発達について理解を深める。	
13回	授業内容	成長期、成人以降の体力の変化・基本的動作スキルの発達、体力に及ぼす先天的要因と後天的要因	
	学習成果	成長期、成人以降の体力の変化・基本的動作スキルの発達を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	成長期、成人以降の体力の変化・基本的動作スキルの発達について理解を深める。	
14回	授業内容	レジスタンストレーニングと骨格筋	
	学習成果	レジスタンストレーニングの効果を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	レジスタンストレーニングの効果について理解を深める。	
15回	授業内容	持久的トレーニングと呼吸循環系の適応	
	学習成果	持久的トレーニングの効果を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	持久的トレーニングの効果について理解を深める。	

科目名	スポーツ実技Ⅰ（健康スポーツ）				担当者	渋谷 祐子（シブヤ ユウコ）						
区　分	選択		1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1年	開講期	前期
					授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。												
専門的学習成果	①	安全で効果的な運動プログラムを作成する。											
	②	健康スポーツの理論、指導者の心構えを習得する。											
	③	健康づくりの運動であるジョギング・ウォーキングエアロビックダンスの特性について理解する。											
	④	姿勢を改善し、体の適切な使い方を習得する。											
	⑤	仲間とスポーツを楽しみコミュニケーション能力が向上する。											
汎用的学習成果	(1)	健康スポーツに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。											
	(2)	グループで協力して健康スポーツを楽しむ経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果⑤に関連）。											
	(3)	健康スポーツ指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④⑤に関連）。											
授業概要	高齢社会を迎え、健康な生活の基盤となる体力が重要視されている。この授業では将来、健康のために自分で体力トレーニングを処方・実践できるような知識と方法を修得する。 ジョギング・ウォーキングとエアロビックダンスは健康・体力づくりを目的として幅広い年代に楽しまれている。ジョギング・ウォーキング、エアロビックダンスの特性・効果などについて理解し、適切な動作を身につけて生活で実践できる能力を習得する。授業を通して仲間とスポーツを楽しみ、心身共に健康になれる健康スポーツの魅力を実感する。												
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準									
	専門的学習成果	定期試験											
		平常点	50	取組・意欲・態度により評価する									
		実技試験	25	課題のステップの習熟度について評価する									
		レポート	25	授業の感想カードの内容により評価する									
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名										
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名										
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会										
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会										
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂										
	日本フィットネス協会	『GFI のためのフィットネス基礎理論』	日本フィットネス協会										
	日本フィットネス協会	『ADBI・ADI のためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会										
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEI のためのストレッチングエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会										
	日本フィットネス協会	『REBI・REI のためのレジスタンスエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会										
	宮下充正	『ウォーキング ブック』	フックハウスエイチディ										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に 2 時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、健康スポーツの特性について	授業内容から学んだことや気づいたことを感想シートに記入し、提出する。
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	ジョギング・ウォーキングの特性と基本的なフォーム、障害とその予防法	
	学習成果	ジョギング・ウォーキングの基本的なフォームと障害について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジョギング・ウォーキングの特性の理解を深める。	
3回	授業内容	ウォーミングアップとクールダウン	
	学習成果	ウォーミングアップ、クールダウンについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
4回	授業内容	ジョギング・ウォーミングの強度設定方法とプログラミングについて	
	学習成果	適切なプログラミングとの強度の設定方法について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジョギング・ウォーキングのプログラミングの理解を深める。	
5回	授業内容	ジョギング・ウォーミングのエネルギー消費量の算出	
	学習成果	ジョギング・ウォーキングの効果とエネルギー消費量の算出方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、効果とエネルギー消費量の算出方法の理解を深める。	
6回	授業内容	ジョギング・ウォーミングのレジスタンストレーニング、ストレッチング	
	学習成果	レジスタンストレーニング、ストレッチングの基本的な方法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
7回	授業内容	ジョギング・ウォーミングの指導実践	
	学習成果	ジョギング・ウォーキングの指導を実践し、基本的な指導法や注意点を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
8回	授業内容	エアロビックダンスの体験	
	学習成果	リズムにのってエアロビックダンスを楽しむ	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エアロビックダンスの特性の理解を深める。	
9回	授業内容	フィットネス概論、エアロビックダンスの効果について	
	学習成果	リズムにのってエアロビックダンスを楽しみ、健康効果について学ぶ。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、フィットネス運動の種類や効果の理解を深める。	
10回	授業内容	エアロビックダンスの音楽の使い方について	
	学習成果	リズムにのってエアロビックダンスを楽しみ、リズムや BPM の使い方を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、リズム、BPM の使い方の理解を深める。	
11回	授業内容	正しい姿勢の理解	
	学習成果	リズムにのってエアロビックダンスを楽しみ、基本姿勢を身につける。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本姿勢を習得する。	
12回	授業内容	基本動作の習得	
	学習成果	リズムにのってエアロビックダンスを楽しみ、基本動作を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ステップの習得を深める。	
13回	授業内容	ローインパクトステップの理解	
	学習成果	リズムにのってエアロビックダンスを楽しみ、ローインパクトのステップを習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ステップの習得を深める。	
14回	授業内容	ハイインパクトステップの理解	
	学習成果	リズムにのってエアロビックダンスを楽しみ、ハイインパクトのステップを習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ステップの習得を深める。	
15回	授業内容	運動強度のコントロール方法	
	学習成果	メインエクササイズにおけるステップや重心移動といった強度の調節方法を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ステップの習得を深める。	

科目名	スポーツ実技Ⅲ（球技系スポーツ）			担当者	高間（タカマ）　章（アキラ）							
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。	
専門的 学習成果	①	バレーボール競技のルールについて理解している。
	②	バレーボールの基本技術を習得している。
	③	バレーボールの簡単な技術を教えることができる。
	④	積極的に周囲と関わり、コミュニケーション技術を向上させる。
汎用的 学習成果	(1)	学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。
	(2)	グループで協力してプレイし、お互いに指導し合う経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果③④関連）。
	(3)	各競技の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果③④に関連）。
授業概要	生涯にわたり楽しむことができて人気のスポーツ種目である球技系スポーツを安全に楽しむための基本的な技術・知識を身につける。各競技の基本技術を磨き、正しいルール、競技の発祥や世界的なスポーツとなる発展、ルールの変遷について学ぶ。各競技に必要な体力要素についても学習し、可能な限り授業を通して高めようとする。さらに、安全で楽しいゲーム管理方法を理解し、実践する。	

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		平常点	55	取組・意欲・態度により評価する
		実技試験	40	各競技の基本技術の習得により評価する
		レポート	5	レポートの状況により評価する
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習として授業資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。運動ができる服装、体育館用のシューズを準備すること。 ②授業ノートを提出し、担当教員の確認後に返却する。

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明	授業の記録カードを担当教員に提出する。 「バレーボールの歴史と発展、ルールの変遷」を7回目に配布し、9回目に提出する。
	学習成果	バレーボールの発祥、発展、ルールの変遷について説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	アンダーハンドパスの基本技術	
	学習成果	アンダーハンドパスの基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
3回	授業内容	オーバーハンドパスの基本技術	
	学習成果	オーバーハンドパスの基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
4回	授業内容	スパイクの基本技術	
	学習成果	スパイクの基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
5回	授業内容	サーブの基本技術	
	学習成果	サーブの基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
6回	授業内容	ブロックの基本技術	
	学習成果	ブロックの基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
7回	授業内容	フォーメーションの基本	
	学習成果	バレーボールのフォーメーションについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
8回	授業内容	バレーボールの基礎的ゲーム管理法	
	学習成果	ルール、用具、環境設定について学びバレーボールのゲームが運営できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
9回	授業内容	バレーボールゲームの運営	
	学習成果	チーム毎に試合を行い、リーグ戦が運営できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
10回	授業内容	バスケットボールの基本技術　ドリブルの基本	「バスケットボールの歴史と発展、ルールの変遷」を10回目に配布し、12回目に提出する。 バレーボール、バスケットボールの基本技術の習得について15回目に実技試験を実施する。
	学習成果	ドリブルを中心とした基礎練習について基本技術と指導法について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
11回	授業内容	バスケットボールの基本技術　パスの基本	
	学習成果	パスを中心とした基礎練習について基本技術と指導法について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
12回	授業内容	フォーメーションの基本	
	学習成果	バスケットボールのフォーメーションについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
13回	授業内容	バスケットボールの基礎的ゲーム管理法	
	学習成果	ルール、用具、環境設定について学びバスケットボールのゲームが運営できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
14回	授業内容	バスケットボールゲームの運営	
	学習成果	チーム毎に試合を行い、リーグ戦が運営できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
15回	授業内容	バレーボール、バスケットボールの基本技術	
	学習成果	基本技術について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	

科目名	スポーツ実技Ⅴ（ゴルフ）			担当者	高間（タカマ）　章（アキラ）							
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等は毎回授業の前後で受け付ける。											
専門的学習成果	①	基礎的なスイングを身に付け、実践できる。										
	②	基礎的なパッティング技術を身に付け、実践できる。										
	③	ルールとマナーを学び、それを実践できる。										
	④	ゴルフの歴史を学び、文化としてのスポーツ活動の意義や機能を考え理解できる。										
	⑤	積極的に周囲と関わり、コミュニケーション取ることができる。										
汎用的学習成果	(1)	ゴルフの学習を通して、社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤に関連）。										
	(2)	グループで協力して練習を行い、お互いに指導し合う経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果②③④⑤に関連）。										
	(3)	ゴルフの専門的知識、技術を習得し、生涯にわたってのスポーツ活動に活かすことができる（専門的な学習成果①②③⑤に関連）										
授業概要	ゴルフは生涯スポーツであると共に、社会人の社交の場となっている。本講義の到達目標はゴルフの基本技術を身につけ、ゴルフの競技特性を理解し、ルールとマナーを学び、それを実践することである。授業ではルール、マナー、コントロールスイング、パッティングなどゴルフの理論と技術を総合的に学ぶ。スウィング技術の基本を習得する等、ゴルフコースをラウンドするにあたっての、準備や基礎を構築することを目標とする。グラウンドで練習用ボールを打撃し、スイングの基本を習得する。また、グラウンドに仮設コースをつくり、実践的なラウンドプレーの方法を学習する。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	実技試験	40	スイング・パッティングの基本技術の習得により評価する								
		筆記試験	40	ゴルフのルール・マナーを理解できているかを観点に評価を行う								
		平常点	20	取組・意欲・態度により評価する								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果１～５で評価を行う。 (2) は専門的学習成果４・５で評価を行う。 (3) は専門的学習成果３～５で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に１時間程度行うこと。事前学習として授業資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学修内容の理解を深めること。運動ができる服装、シューズを準備すること。 グランドでの実技練習は天候に左右されるため、雨天時には講義やゴルフに必要なトレーニング体験に変更する場合があります。 ②スイング、パッティングのパフォーマンスに対して口頭でフィードバックする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、ゴルフの基本技術の紹介	
	学習成果	授業概要とゴルフの基本技術を正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
2回	授業内容	スイングの基本①　グリップとフォーム	
	学習成果	スイングの基本のグリップとフォームについて正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
3回	授業内容	スイングの基本①　フォームと足の使い方	
	学習成果	スイングの基本フォームと足の使い方について正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
4回	授業内容	スイングの基本②　フォームと体幹の使い方	
	学習成果	スイングの基本フォームと体幹の使い方について正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
5回	授業内容	スイングの基本③　フォームと腕の使い方	
	学習成果	スイングの基本フォームと腕の使い方について正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
6回	授業内容	ターゲットバードゴルフの練習	
	学習成果	ターゲットバードゴルフを通じてレクリエーション運動への理解を深める。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
7回	授業内容	ターゲットバードゴルフの基本ルールと実践	
	学習成果	ターゲットバードゴルフを通じてレクリエーション運動への理解を深める。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
8回	授業内容	グラウンドゴルフの練習	
	学習成果	グラウンドゴルフを通じてレクリエーション運動への理解を深める。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
9回	授業内容	グラウンドゴルフの基本ルールと実践	
	学習成果	グラウンドゴルフを通じてレクリエーション運動への理解を深める。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
10回	授業内容	ゴルフ練習場でのショートアイアンでのハーフショット・フルショット	
	学習成果	ショートアイアンでのショットの技術について正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
11回	授業内容	ゴルフ練習場でのショートアイアンでのアプローチショット	
	学習成果	ショートアイアンでのアプローチショットの技術について正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
12回	授業内容	ゴルフ練習場でのミドルアイアンでのハーフショット	
	学習成果	ミドルアイアンでのハーフショットの技術について正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
13回	授業内容	ゴルフ練習場でのミドルアイアンでのフルショット	
	学習成果	ミドルアイアンでのフルショットの技術について正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
14回	授業内容	ゴルフ練習場でのドライバーでのボールへのコンタクトの方法	
	学習成果	ドライバーを使用したショットの技術について正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	
15回	授業内容	これまで練習したゴルフに関する知識、技術の確認	
	学習成果	これまで練習した知識・技術について改めて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本技術を理解し習得する。	

科目名	スポーツ実技Ⅱ（ジュニアスポーツ）				担当者	高間（タカマ）　章（アキラ）・渡辺（ワタナベ）篤史（アツシ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。

専門的学習成果	①	スポーツ種目に興味を持ち、種目の特性やルールを説明できる。
	②	各年代の発達課題を理解し、必要な運動経験を説明できる。
	③	ジュニアスポーツの指導法を習得する。
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けたスポーツ実技の学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③に関連）。
	(2)	集団でスポーツ実技に取組む経験から、自身の生活の問題解決に活用できる（専門的学習成果②に関連）。
	(3)	ジュニア期の子ども達との適切な関わり方を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活用できる（専門的な学習成果③に関連）。

授業概要	様々なスポーツ種目を経験し、種目の特性や練習方法、ルールを学ぶ。また、ジュニア期の発育発達、運動技能を解説し、ジュニアスポーツの指導法を紹介する。また、授業内で日本サッカー協会公認キッズリーダー（U-6,U-8,U-10）の講習を実施し、ボール運動を始めとしたジュニア期に必要な運動経験を理解し、安全や発育発達段階に応じた指導法を習得し、資格を取得することができる。身につけた指導技術を学内サッカー教室で指導実践を行う。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	40	経験したスポーツ種目についてのレポート、キッズリーダー講習についてのレポートを実施し、評価を行う。
		平常点	60	授業や指導実践への取組み・意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～③で評価を行う。 （2）は専門的学習成果②で評価を行う。 （3）は専門的学習成果③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会
	日本サッカー協会技術委員会テクニカルハウス	『JFA キッズ（U-6）ハンドブック』	日本サッカー協会
	日本サッカー協会技術委員会テクニカルハウス	『JFA キッズ（U-8/U-10）ハンドブック』	日本サッカー協会
	日本サッカー協会技術委員会テクニカルハウス	『グラスルーツフェスティバル ガイドライン』	日本サッカー協会
	日本サッカー協会技術委員会テクニカルハウス	『めざせベストサポーター』	日本サッカー協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各スポーツ種目について、基本的なルールを学習しておくこと。週２時間程度の学習が必要。 ②レポートはコメントをつけて返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	各スポーツ種目の特性について	レポート「各スポーツ種目のルール、特性について」５回目で配布、６回目で提出
	学習成果	スポーツ種目を分類し、各スポーツ種目の特性を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	各スポーツ種目の特性を理解する。	
2回	授業内容	バドミントン	
	学習成果	バドミントン競技のルール技術を説明できる。	
	予習復習の内容	バドミントンのルール、技術について理解を深める。	
3回	授業内容	卓球	
	学習成果	卓球競技のルール技術を説明できる。	
	予習復習の内容	卓球のルール、技術について理解を深める。	
4回	授業内容	バレーボール	
	学習成果	バレーボールのルール技術を説明できる。	
	予習復習の内容	バレーボールのルール、技術について理解を深める。	
5回	授業内容	バスケットボール	
	学習成果	バスケットボールのルール技術を説明できる。	
	予習復習の内容	バスケットボールのルール、技術について理解を深める。	
6回	授業内容	コーディネーション運動	
	学習成果	コーディネーション運動の種類や特性を説明できる。	
	予習復習の内容	コーディネーション運動について理解を深める。	
7回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-6）理論	レポート「各年代の理論、実技内容について」７回目で配布、13回目で提出
	学習成果	U-6年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-6年代の理解を深める。	
8回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-6）実技	
	学習成果	U-6年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-6年代の理解を深める。	
9回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-8）理論	
	学習成果	U-8年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-8年代の理解を深める。	
10回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-8）実技	
	学習成果	U-8年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-8年代の理解を深める。	
11回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-10）理論	
	学習成果	U-10年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-10年代の理解を深める。	
12回	授業内容	ジュニアスポーツ実技（U-10）実技	
	学習成果	U-10年代の特性を理解し、適切な指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、U-10年代の理解を深める。	
13回	授業内容	ジュニアスポーツ実技　指導実践　準備	レポート「スポーツ教室指導案と反省」13回目で配布、14・15回目で提出
	学習成果	サッカー教室参加者に対して授業で学んだ指導法を計画できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り指導案を作成するために理解を深める。	
14回	授業内容	ジュニアスポーツ実技　指導実践　実施	
	学習成果	サッカー教室参加者に対して授業で学んだ指導法を実践できる。	
	予習復習の内容	作成した指導案から具体的な指導内容への理解を深める。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	スポーツ種目の特性やジュニアスポーツの指導法を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返りジュニアスポーツへの理解を深める。	

科目名	スポーツ実技Ⅳ（ダンス）				担当者	及川 佳澄（オイカワ カスミ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実技	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	エアロビックダンス、ストリートダンスの特性を理解する。										
	②	ダンス運動の強度を変化させる方法について理解する。										
	③	仲間とダンスを楽しみ、ダンス発表を行うことでコミュニケーション能力が向上する。										
汎用的学習成果	(1)	ダンスに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③に関連）。										
	(2)	グループで協力してダンスを楽しむ経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果③に関連）。										
	(3)	ダンス指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③に関連）。										
授業概要	多様な表現を仲間と共に「踊る・創る・見る・評価する」活動を通して、エアロビックダンス、ストリートダンスの創作方法や基礎知識を身につけます。また、中学校においてダンスが必修化された経緯や現代における身体表現活動の意義について、理論と実践を通して理解を深めていきます。学校現場やフィットネス、ジュニアスポーツの指導経験をもとに、今日的なダンス指導の課題や身体の動かし方についてのレクチャーも行います。 ダンス経験の有無にとらわれることなく、全身を使って表現する楽しさを見出し、心身の解放と身体表現の可能性を発見できるようになることを目的とします。また、多様な他者との活動を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、自己の役割を発見し、能動的に活動できるようになることを目的とします。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		平常点	50	取組・意欲・態度により評価する
		実技試験	25	動作のパフォーマンスについて評価する
		レポート	25	授業の感想カードの内容により評価する
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂
	日本フィットネス協会	『GFI のためのフィットネス基礎理論』	日本フィットネス協会
	日本フィットネス協会	『ADBI・ADI のためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEI のためのストレッチングエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会
	日本フィットネス協会	『REBI・REI のためのレジスタンスエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に２時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、ヒップホップダンスの基礎的な概要説明	授業内容から学んだことや気づいたことを感想シートに記入し、提出する。 15回目の授業でエアロビックダンスやフィットネスに関する筆記試験・実技試験を実施する。
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	ダンスの基礎練習　リズムの特徴をとらえた動き	
	学習成果	縦のりがとれるように、４ビート、８ビートのリズム、裏打ちのアクセントを体感する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ダンスの体力向上効果の理解を深める。	
3回	授業内容	主要なステップ練習	
	学習成果	ボックス、ランニングマン、キックの基礎と応用を経験し、動作を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各ステップを練習し、動作の習得を深める。	
4回	授業内容	フレーズ１・２・３の練習　ユニゾン、対立、ずらし	
	学習成果	振付を習得しながら、対立やずらしを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、振付の習得を深める。	
5回	授業内容	フレーズ４・５・６の練習　隊形移動のバリエーション	
	学習成果	振付を習得しながら、隊形移動のバリエーションを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、振付の習得を深める。	
6回	授業内容	ダンスステップの確認	
	学習成果	これまで体験してきた基本的なステップを習得し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、振付の習得を深める。	
7回	授業内容	ダンス指導練習　キューイングと指導の循環	
	学習成果	ダンス指導の基本として、キューイングの方法、指導の循環を理解し、習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法の習得を深める。	
8回	授業内容	ダンス指導の実践	
	学習成果	グループの学生を対象にダンス指導を実践し、ダンスに必要な指導法を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法の習得を深める。	
9回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、エアロビックダンスプログラムの理解	
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
10回	授業内容	エアロビックダンスのプログラム　ウォーミングアップ	
	学習成果	ウォーミングアップの基礎知識とプログラムについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ウォーミングアップの種類の理解を深める。	
11回	授業内容	エアロビックダンスのプログラム　メインエクササイズ	
	学習成果	メインエクササイズの基礎知識とプログラムについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エアロビックダンスの理解を深める。	
12回	授業内容	エアロビックダンスのプログラム　クールダウン	
	学習成果	クールダウンの基礎知識と特にストレッチングについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ストレッチングの理解を深める。	
13回	授業内容	エアロビックダンスの動作の習得	
	学習成果	良い姿勢で明確に動くための方法について理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
14回	授業内容	エアロビックダンスの指導　キューイング	
	学習成果	キューイングを使った指導を体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法の習得を深める。	
15回	授業内容	エアロビックダンスの実演と指導	
	学習成果	良い姿勢で明確に動き、タイミングの良いキューイングを使った指導について体験する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法の習得を深める。	

科目名	コーチング実習Ⅰ（ジュニアスポーツ）			担当者	高間（タカマ）　章（アキラ）・渡辺（ワタナベ）篤史（アツシ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについは授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。

専門的学習成果	①	現代の子どもを取り巻く生活・社会環境の変化から運動・スポーツ活動の重要性を説明できる。
	②	生涯にわたるスポーツライフスタイルの基礎を培うジュニア期のスポーツ指導のあり方について説明できる。
	③	幼児、児童の発育発達段階を理解し、それに応じた適切な指導法を理解し、実践できる。
汎用的学習成果	(1)	資格取得に向けたジュニアスポーツの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③に関連）。
	(2)	ジュニアスポーツに関わる団体、企業の理解を深めて、自身の進路活動の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②③に関連）。
	(3)	ジュニアスポーツの指導法を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①③に関連）。

授業概要	スポーツとの出会いの時期となるジュニア期は特に大切な時期といえる。子ども達の指導に関わるジュニアスポーツの指導者は、その子ども達が将来築いていくスポーツライフスタイルに大きな影響を与える。そのために講義では幼児、児童の体力、動き、心理等の発育発達や、コーチングのあり方について理解を深め、適切な指導ができる力を養成する。また実習は、スポーツコーチングについて一定の理論的理解を踏まえて、ジュニアスポーツに関連するスポーツ教室やイベントにおける企画・運営及び実技指導に関する体験によって、より実践的な指導力についての理解と基本的能力獲得を目指すものである。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。
		実習評価	40	実習先の指導者からの評価シートをもとに評価を行う。
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～③で評価を行う。 （2）は専門的学習成果①～③で評価を行う。 （3）は専門的学習成果①、③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』	日本フィットネス協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子どもの体力・運動能力、スポーツ活動の現状と課題	レポート課題「ジュニア期のスポーツ指導のあり方について」第5回で配布、第7回で回収
	学習成果	子どもの体力・運動能力、スポーツ活動の現状を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。	
2回	授業内容	ジュニア期のコーチング	
	学習成果	ジュニア期のコーチングを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	ジュニア期のコーチングについて理解を深める。	
3回	授業内容	ジュニア期の体力と動きの発達	
	学習成果	ジュニア期の体力と動きの発達を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	ジュニア期の体力と動きの発達について理解を深める。	
4回	授業内容	ジュニア期の心理、遊びとしての運動	
	学習成果	ジュニア期の心理、遊びとしての運動を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	ジュニア期の心理、遊びについて理解を深める。	
5回	授業内容	ジュニア期の運動遊び・スポーツ	
	学習成果	適切なジュニア期の運動遊び・スポーツを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	ジュニア期の運動遊び・スポーツについて理解を深める。	
6回	授業内容	ジュニア期のコーチングの留意点	
	学習成果	ジュニア期のコーチングの留意点を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	ジュニア期のコーチングの留意点について理解を深める。	
7回	授業内容	実習（1）学内スポーツクラブにおける体験	レポート「実習報告書」第6回で配布、第9回で提出
	学習成果	学内スポーツクラブを体験し内容を理解する。	
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。	
8回	授業内容	体験の振り返りと次回実習の準備　運動遊び・スポーツの理解	
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成し、次回の指導プログラムを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、時間毎の役割、行動をまとめておく。	
9回	授業内容	指導プログラムの作成とリーダーシップスキルの養成	
	学習成果	実習体験での学習内容を振り返り、実習レポートを作成し、次回の指導プログラムを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、時間毎の役割、行動をまとめておく。	
10回	授業内容	実習（2）学内スポーツスクールでの実習　全体指導の実践	レポート「実習報告書」第9回で配布、第12回で提出
	学習成果	児童へのサッカー指導において全体指導を実践できる。	
	予習復習の内容	練習メニューを作成し、指導後に反省点をまとめ実習レポートを作成する。	
11回	授業内容	実習の振り返りと学内実習の準備　指導メニュー作成に向けて	
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成し、次回の指導プログラムを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、時間毎の役割、行動をまとめておく。	
12回	授業内容	実習（3）学内スポーツスクールでの実習　指導メニューの実践	
	学習成果	児童へのスポーツ指導においてメニューを作成し、実践できる。	
	予習復習の内容	練習メニューを作成し、指導後に反省点をまとめ実習レポートを作成する。	
13回	授業内容	実習の振り返りと学内実習の準備　プレゼンテーションスキル	レポート「実習報告書」第12回で配布、第15回で提出
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成し、次回の指導プログラムを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、時間毎の役割、行動をまとめておく。	
14回	授業内容	実習（3）学内スポーツスクールでの実習　指導メニューの実践	
	学習成果	児童へのスポーツ指導においてメニューを作成し、実践できる。	
	予習復習の内容	練習メニューを作成し、指導後に反省点をまとめ実習レポートを作成する。	
15回	授業内容	実習報告会　プレゼンテーションスキル	
	学習成果	実習を振り返り、実習レポートを発表できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジュニアスポーツについて理解を深める。	

科目名	コンディショニング実習				担当者	佐々木（ササキ） 秀（ヒデ） 将（ユキ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	コンディショニングという言葉の意味とその内容について理解する。										
	②	コンディショニングに関わる手技・手法を実践できる。										
	③	傷害予防を目的としたコンディショニング方法の１つであるテーピングについて目的・効果及び種類を理解し、テーピングを実施することができる。										
	④	スポーツ活動中に生じる基本的な障害とその処置について理解する。										
汎用的学習成果	(1)	コンディショニングに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	グループで協力してコンディショニングを学ぶ経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果②、③に関連）。										
	(3)	コンディショニングの専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。										
授業概要	スポーツは体力の保持・増進、健康管理、競技、レクリエーション等多様な目的で行われ、心理的効果も大きく、現代社会において重要な役割を担っている。特に競技スポーツでは日常や試合での体調管理を中心としたコンディショニングが重要となる。スポーツのパフォーマンスを高めるためのコンディショニング法として身体的、防衛的、精神的、栄養、休養の５本の柱を全て充実させるための基礎的な理論や方法を理解し、手技・手法の実践を行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		平常点	20	取組・意欲・態度により評価する
		実技試験	40	課題のステップの習熟度について評価する
		筆記試験	40	授業の感想カードの内容により評価する
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	メディカル・フィットネス協会	『コンディショニング』	嵯峨野書院
	メディカル・フィットネス協会	『やさしいスポーツ医科学の基礎知識』	嵯峨野書院
	メディカル・フィットネス協会	『テーピング』	嵯峨野書院

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に２時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストを毎回実施し、回答について解説する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、コンディショニングについて	毎回の授業で小テストを実施し、14、15回目ではコンディショニングの基本理解を確認するテストとして筆記・実技試験を実施する
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、コンディショニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	ストレッチングの実際	
	学習成果	セルフストレッチング、パートナーズストレッチングについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ストレッチングの理解を深める。	
3回	授業内容	PNF の実際　PNF の理論と基本テクニック	
	学習成果	PNF について理解し、基本テクニックを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
4回	授業内容	PNF の実際　PNF のパターンと各部位のテクニック	
	学習成果	PNF のパターンについて理解し、各部位のテクニックを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
5回	授業内容	関節モビリゼーションの実際	
	学習成果	関節モビリゼーションの基礎知識、基本原則について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
6回	授業内容	関節モビリゼーションのテクニック	
	学習成果	関節モビリゼーションの注意事項、四肢へのテクニックについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
7回	授業内容	スポーツマッサージの実際	
	学習成果	スポーツマッサージの基礎知識、基本原則について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
8回	授業内容	スポーツマッサージの基本手技	
	学習成果	スポーツマッサージの基本手技について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
9回	授業内容	アイシングの実際	
	学習成果	コンディショニングのためのアイシングについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
10回	授業内容	テーピングの実際	
	学習成果	テーピングの目的や効果を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、リズム、BPM の使い方の理解を深める。	
11回	授業内容	テーピングの基本テクニック　足部	
	学習成果	足部のテーピングの基本テクニックを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本姿勢を習得する。	
12回	授業内容	テーピングの基本テクニック　足首	
	学習成果	足首のテーピングの基本テクニックを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
13回	授業内容	テーピングの基本テクニック　上肢	
	学習成果	上肢のテーピングの基本テクニックを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	
14回	授業内容	コンディショニングの理論の確認	
	学習成果	コンディショニングについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本姿勢を習得する。	
15回	授業内容	テーピングの基本テクニックの確認	
	学習成果	テーピングの基本テクニックの課題を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、学習内容の理解を深める。	

科目名	トレーニング演習				担当者	佐々木（ささき） 秀（ひで） 将（ゆき）						
区　分	選択	3	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	トレーニングの方法や種類を理解し、説明できる。										
	②	ストレッチングの方法や種類を理解し、説明できる。										
	③	トレーニングの原理、原則について理解し、説明できる。										
	④	基礎的な筋力トレーニングを実践できる。										
	⑤	基礎的なストレッチングを実践できる。										
	⑥	基礎的な筋力トレーニングの方法を教えることができる。										
	⑦	基礎的なストレッチングの方法を教えることができる。										
汎用的学習成果	(1)	トレーニング実習の学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）。										
	(2)	グループで協力してトレーニングを行い、お互いに指導し合う経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果⑥⑦関連）。										
	(3)	トレーニングの専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果⑥⑦に関連）。										
授業概要	スポーツ・健康体力づくりの現場で、適切に体力トレーニングを指導できる技能とプログラム作成能力を習得し、自己のトレーニングに実践できるようにする。自分自身の体にある関節や筋肉について理解し、筋力トレーニングによる体力づくり、健康増進のために、正しいアライメントや可動域などを理解し、目的に応じたトレーニング方法を習得する。またストレッチングを中心としたウォーミングアップ、クールダウンの方法と注意点を学ぶ。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		平常点	20	取組・意欲・態度により評価する
		実技試験	50	トレーニングの基本技術、指導技術の習得により評価する
		レポート	30	トレーニング理論を理解できているかを観点に評価を行う
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③④⑤で評価を行う。 （3）は専門的学習成果③④⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』	日本スポーツ協会
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』	日本スポーツ協会
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』	南江堂
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』	日本フィットネス協会
	日本フィットネス協会	『ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会
	日本フィットネス協会	『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』	日本フィットネス協会
	NPO法人トレーニング指導者協会	『トレーニング指導者テキスト理論編　改訂版』	大修館書店
	NPO法人トレーニング指導者協会	『トレーニング指導者テキスト実践編　改訂版』	大修館書店
	NPO法人トレーニング指導者協会	『トレーニング指導者テキスト実技編　改訂版』	大修館書店

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に1時間程度行うこと。事前学習として授業資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。運動ができる服装、体育館用のシューズを準備すること。 ②授業ノートを提出し、担当教員の確認後に返却する。

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	スポーツトレーニングサイクル　スポーツパフォーマンス構造論	授業の記録カードを担当教員に提出する。 レポート課題 「目的に応じたトレーニングプログラムの立案と指導実践」 「フリーウエイトトレーニングとマシントレーニングの特徴について」 「自体重トレーニングとチューブトレーニングの特徴について」 最終授業では筆記試験と実技試験（トレーニング指導実践）を行う。
	学習成果	スポーツトレーニングサイクル　スポーツパフォーマンス構造論について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
3・4回	授業内容	トレーニング目標・方法・計画論	
	学習成果	トレーニング目標・方法・計画論についての理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
5・6回	授業内容	ストレッチングの目的・効果と実際	
	学習成果	ストレッチングの目的と効果を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
7・8回	授業内容	ウォーミングアップ、クールダウンの効果と実際	
	学習成果	ウォーミングアップ、クールダウンの効果と方法を理解し正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
9・10回	授業内容	レジスタンス運動の分類	
	学習成果	筋の活動様式や運動様式のトレーニングを理解し正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
11・12回	授業内容	アイソトニックトレーニングの実際（1）適切なプログラムの立案、基礎体力の養成	
	学習成果	基礎体力の養成に必要な適切なプログラムを作成し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
13・14回	授業内容	アイソトニックトレーニングの実際（2）目的別トレーニング、マックスの測定法	
	学習成果	目的別のトレーニング強度を理解し、正しくマックス測定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
15・16回	授業内容	アイソトニックトレーニングの実際（3）部位別トレーニング　上肢	
	学習成果	上肢や体幹の基本的なトレーニングを正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
17・18回	授業内容	アイソトニックトレーニングの実際（4）部位別トレーニング　下肢	
	学習成果	下肢や体幹の基本的なトレーニングを正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
19・20回	授業内容	アイソトニックトレーニングの実際（5）自重や用具を使ったトレーニング	
	学習成果	チューブやセラバンドを使用した基本的なトレーニングを正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
21・22回	授業内容	アイソメトリックトレーニングの実際	
	学習成果	アイソメトリックトレーニングの理論や注意点を理解し、正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
23・24回	授業内容	サーキットトレーニングの実際	
	学習成果	サーキットトレーニングの理論を理解し、正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
25・26回	授業内容	トレーニングアセスメント　トレーニングプログラムの立案	
	学習成果	トレーニングアセスメントを理解しプログラム立案を正しく実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
27・28回	授業内容	トレーニングと休養のバランス　環境の整備	
	学習成果	トレーニングと休養のバランスについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、技術や指導法を習得する。	
29・30回	授業内容	トレーニング理論、実技の確認	
	学習成果	授業内でこれまでの指導を振り返り、反省点や改善点を説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	世代間交流の理論と実践Ⅰ				担当者	齋藤（サイトウ）美香（ミカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問または、メールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）											
専門的学習成果	①	世代間交流の概要（意義・歴史的背景・課題等）について説明できる。										
	②	世代間交流活動の対象地域の特徴について調査することができる。										
	③	対象者と交流する際の留意点を抑えて、世代間交流活動を企画・運営できる。										
汎用的学習成果	(1)	世代間交流活動における能力（知識・コミュニケーション）を身につけ、実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	活動計画立案・運営を通して、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	交流が深まる工夫を実践して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(4)	世代間交流活動に必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、チームで協働し、活動を最後までやり遂げることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	世代間交流は『生きがい』を基本としたSDGsです。次世代へのバトンが持続可能な社会を形成します。 この授業では「地域」（特に短大の立地する仙台市・泉区）の歴史的背景や文化等の現状を踏まえた上で、地域の課題や問題についてどのようにアプローチしていくかを焦点にし、具体的な事例演習等を通して学びを深めます。 主に、館地区の老人クラブ「カトレアクラブ」との交流にあたって企画・運営を行いますが、機会があれば学齢期（小中学生）との交流なども行います。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果			
		平常点	50	交流実践およびグループワークでの態度
		課題	50	活動報告書の作成および考察
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う (3) は専門的学習成果②③で評価を行う (4) は専門的学習成果①②③で評価を行う		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
		『新訂　アクティビティ・サービス』	中央法規

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業に関連する資料を事前に調べるとともに、学習した内容を復習する。 課題発見や理解を深めるために新聞記事、ネット記事等を用いる。演習としてグループワークを行うので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となる。 社会や地域情勢によって授業実施形態・内容・予定が変更になる場合がある。 活動によって、春季・夏季・冬季休み中や土・日・祝、補講日に活動する場合がある。 受講を検討している場合には、必ず第1回のオリエンテーションを受講すること。 地域のニーズに合わせた時間調整ができるようにし、自分自身およびグループにも不利益にならないようにすること。 ②授業の前後およびGoogleクラスルーム等のツールを使用してフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション・（世代間交流実践の事例紹介）	授業終了後にミニッツペーパー等の課題を課す
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。	
2回	授業内容	世代間交流実践の事例紹介	
	学習成果	事例紹介から活動の展開方法を知る。	
	予習復習の内容	事例から実践の方法を学ぶ。	
3回	授業内容	理論①・世代間交流の考え方と取り組みについて	
	学習成果	世代間交流の考え方と取り組みについて説明できる。	
	予習復習の内容	世代間交流の考え方と取り組みについて調べる。	
4回	授業内容	理論②・社会教育と生涯学習	
	学習成果	社会教育の観点から生涯学習の意義を論じることできる。	
	予習復習の内容	社会的なつながりと健康について調べる。	
5回	授業内容	理論③・地域連携と社会教育	
	学習成果	地域で実践されている学びのしくみについて説明ができる。	
	予習復習の内容	コミュニティスクールについて調べる。	
6回	授業内容	理論④・様々な学びのしくみ	
	学習成果	学び直しの場（夜間中学を基に）の意義について論じることができる。	
	予習復習の内容	『義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律』を調べる	
7回	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備①	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なリハーサル行う。必要であれば修正をする。	
8回	授業内容	世代間交流活動の実践①	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なリハーサル行う。必要であれば修正をする。	
9回	授業内容	世代間交流実践の振り返り①	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	
	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	
10回	授業内容	地域連携と学齢層との交流	授業終了後にミニッツペーパー等の課題を課す
	学習成果	児童との地域交流によるサスティナブル（持続可能）な未来形成について説明できる。	
	予習復習の内容	自身が経験した「良質な大人」との交流ついて調べる。	
11回	授業内容	多様性の理解と合意形成	授業終了後にミニッツペーパー等の課題を課す
	学習成果	他者の考えを受け止め、自身の意見を述べることができる。	
	予習復習の内容	合意形成のプロセスについて振り返りを行う。	
12回	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備②	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なリハーサル行う。必要であれば修正をする。	
13回	授業内容	世代間交流活動の実践②	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なリハーサル行う。必要であれば修正をする。	
14回	授業内容	世代間交流実践の振り返り②	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	
	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	
15回	授業内容	活動の総括	報告書の提出
	学習成果	報告書作成・発表	
	予習復習の内容	発表に向けての準備	

科目名	韓国語会話実践Ⅰ				担当者	加藤（カトウ）　慧（ケイ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	韓国語入門で学んだ基礎を基にハングルの「書く」「読む」から「聞く」「話す」に進むことができる。										
	②	韓国語の簡単な挨拶や自己紹介ができる。										
	③	韓国語の文型を読解することができる。										
	④	韓国語の日常会話で良く用いられる基本表現を使い会話ができる。										
汎用的学習成果	(1)	外国語を学ぶ学習スキルとそれに伴う教養を身に付け、多文化グローバルな社会を生きる力を付けることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(2)	自分の母国語とは違う外国語を学ぶことによって、国際的な感覚を身に付けることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、多様な人と共に生きることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
授業概要	韓国語会話実践では、「韓国語入門」で学んだ韓国語の基礎を基にして、会話能力即ち「聞く」、「話す」ことに重点を置いて行う。日常生活で良く使われている表現を中心に、相手に通じる韓国語の習得を目指す。そのために授業中には二人ずつ組んで会話の練習をする。また、韓国文化にも触れるため韓国ドラマや映画等も取り入れて行う。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。								
		レポート										
		平常点	50	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
	omo !	『使える会話文で身につくはじめましての韓国語』	池田書店									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①声を出して練習すること。 宿題や課題を真面目に提出すること。 ②毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。											

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	韓国語を学ぶ意義とハングル基礎	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語を学ぶ意義を理解でき、ハングルの基礎が分かる	
	予習復習の内容	韓国語の歴史や特徴、ハングル文字について予習する	
2回	授業内容	存在文とその疑問文	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の存在文やそれを使った疑問文で表現することができる	
	予習復習の内容	ハングルの読み方とその課題をする	
3回	授業内容	場所の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の場所に関する実践会話ができる	
	予習復習の内容	場所の語彙を覚えて、それを使った課題をする	
4回	授業内容	「何をする」文型とその受け答え	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞文で「何をする」文型の会話ができる	
	予習復習の内容	動詞文の本文を暗記し、その関連の課題をする	
5回	授業内容	「何をしますか」文の実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語で「何をしますか」の質問と答えの会話ができる	
	予習復習の内容	「何をしますか」の答えを調べ、その関連の課題をする	
6回	授業内容	時間表現とその文型	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の時間表現を使った会話ができる	
	予習復習の内容	韓国語の固有語数詞や時間表現を覚え、その関連の課題をする	
7回	授業内容	趣味の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語で趣味を話題にした会話ができる	
	予習復習の内容	趣味に関連する語彙を覚え、その関連の課題をする	
8回	授業内容	動詞・形容詞の否定文	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の否定文を作ることができる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞の否定文の作り方を覚え、その関連の課題をする	
9回	授業内容	動詞・形容詞否定文とその実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の否定形の会話ができる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞の否定の例文を作り、その関連の課題をする	
10回	授業内容	「～から～まで」と手段の「～で」	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の起点と終点、手段・方法の文を作ることができる	
	予習復習の内容	起点と終点、手段・方法関連の語彙を覚え、その関連の課題をする	
11回	授業内容	会話文体の作り方とその実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の書き言葉と話し言葉の違いが分かる	
	予習復習の内容	会話文体の例文を作り、その関連の課題をする	
12回	授業内容	動詞・形容詞の不規則体の会話文	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の不規則体の会話ができる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞文の不規則体の例文を作り、その関連の課題をする	
13回	授業内容	不規則「-ㅂ」体の会話とその実践	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の会話体の不規則語彙の会話ができる	
	予習復習の内容	不規則「-ㅂ」体の例文を作り、その関連の課題をする	
14回	授業内容	名詞文の過去表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の名詞文の過去形の作り方が分かる	
	予習復習の内容	名詞文の過去形を作り、その関連の課題をする	
15回	授業内容	名詞文の過去表現とその実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の過去表現の使った会話ができる	
	予習復習の内容	名詞の過去形の例文を作り、その関連の課題をする	

科目名	K- カルチャー入門				担当者	専任教員　・　ゲストスピーカー						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1 年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	初回の授業時に周知し、Classroom（登録必須）にて対応する。											
専門的学習成果	①	韓国の古代から現代に至る歴史の流れを理解し、現代韓国社会の成立過程を説明できる。										
	②	韓国の現代社会が抱える課題について、日本との比較を通して理解し、その背景を考察できる。										
	③	ハングルの基本的なしくみを理解し、基礎的な韓国語表現を用いて簡単な意思疎通ができる。										
	④	文学・昔話・絵本などの文化作品を通して、韓国およびアジアの価値観や文化的特徴を理解できる。										
	⑤	デザインやIT、観光などの事例から、社会背景と文化表現の関係を多角的に捉えることができる。										
	⑥	食文化・スイーツ・カフェ文化・発酵食品を通して、韓国の生活文化と国際的広がりを説明できる。										
	⑦	スポーツ、美容、衣装などの分野における日韓交流を理解し、異文化理解の視点から自分の考えを表現できる。										
汎用的学習成果	(1)	歴史・社会・文化など多様な視点から物事を捉え、複雑な社会現象を総合的に理解できる。（専門的学習成果①④⑤⑥）										
	(2)	日本と韓国をはじめとする異文化を比較し、共通点や相違点を論理的に分析できる。（専門的学習成果②⑤⑦）										
	(3)	文献やインターネット、SNSなどから必要な情報を収集・整理し、根拠をもって考察できる。（専門的学習成果②⑤⑦）										
	(4)	学んだ内容や自分の考えを、口頭や文章で分かりやすく他者に伝えることができる。（専門的学習成果③⑦）										
授業概要	本授業では、韓国の歴史、社会、言語、文学、デザイン、食文化、スポーツ、美容などを幅広く取り上げ、現代韓国社会の特徴と背景を多角的に学ぶ。古代から現代に至る歴史的流れを基盤とし、日本との比較や国際的視点を通して、韓国社会が抱える課題や文化的多様性への理解を深める。講義や事例を通じて、異文化理解力と情報を整理・発信する力の養成を目指す。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	80	毎回の授業について感想をまとめ、期日までに振り返りシートを提出する。
		平常点	20	授業への参加態度。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①④⑤⑥により行う。 (2) は専門的学習成果②⑤⑦により行う。 (3) は専門的学習成果②⑤⑦により行う。 (4) は専門的学習成果③⑦により行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		テキストとして講義資料・レジュメ・参考資料を配布する。	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業で配布する資料を活用して授業を進める。＜事前学習＞インターネット等を活用して、授業内容に関する基本事項を確認する。（予習：週１時間程度）＜事後学習＞授業内容を振り返り、配布資料を用いて理解を整理・深化させる（復習：週１時間程度） ②提出されたシートについては、授業内でフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	韓国の歴史①（ゲストスピーカー）	毎回の授業終了後、授業で得たことや今後に生かしたい点、疑問点について振り返りシートを提出する。授業内容に応じてグループワークを行い、理解の共有を図るとともに、発言や参加態度も評価の対象とする。
	学習成果	古代から中世（古朝鮮・三国時代・高麗）までの歴史を概観し、国家の形成過程や文化の特徴について基礎的な理解を深める。	
	予習復習の内容	古代から中世に至る韓国の歴史の流れを事前に確認し、授業後は国家の形成過程や文化の特徴について内容を整理し理解を深める。	
2 回	授業内容	韓国の歴史②（ゲストスピーカー）	
	学習成果	朝鮮王朝から近現代に至る歴史を概観し、日本との関係や戦後の分断を含め、現代韓国社会の成立過程について理解する。	
	予習復習の内容	朝鮮王朝から近現代に至る歴史の流れを事前に確認し、授業後は日本との関係や戦後の分断を踏まえて、現代韓国社会の成立過程について整理し理解を深める。	
3 回	授業内容	韓国語入門　ハングルのしくみと基本的な挨拶表現（川辺）	
	学習成果	ハングルのしくみを理解し、基本的な挨拶表現を声に出すことができる。	
	予習復習の内容	見聞きしたことのある韓国語の単語や挨拶表現をまとめておく。	
4 回	授業内容	韓国における現代社会のいまと課題（齋藤）	
	学習成果	韓国の現代社会が抱える主要な課題（少子高齢化、雇用問題、家族観の変化、社会格差など）について理解し、その背景や要因を説明できる。	
	予習復習の内容	韓国の現代社会に関する基本的な状況を確認し、授業内容を振り返りながら、韓国社会が抱える課題とその背景について整理し、自分なりの考えをまとめる。	
5 回	授業内容	韓国におけるキャリア教育の現状について（堀）	
	学習成果	韓国におけるキャリア教育を日本との比較を通して、学習する。	
	予習復習の内容	文献やインターネットで韓国におけるキャリア教育を確認しておくこと。	
6 回	授業内容	韓国を中心とするアジアの文学・昔話・絵本について学ぶ（関根）	
	学習成果	アジア圏の文学・昔話・絵本について知見が深まる。	
	予習復習の内容	クラスルームで事前に伝える作品に目を通しておくこと。	
7 回	授業内容	国家とITが形づくった韓国デザインの基盤（村上）	
	学習成果	韓国におけるデザインおよびWeb表現の変遷を社会背景や技術発展と結び付けて理解し、現代の韓国Webデザインの特徴を説明できるようになる。	
	予習復習の内容	韓国のWebサイトやデザイン事例を事前に閲覧し、印象に残った点を整理する。復習では、授業で扱った社会背景や事例を振り返りまとめる。	
8 回	授業内容	世界を前提に設計される韓国のデザイン	
	学習成果	日本のデザイン表現との比較を通じて、視覚表現やUI/UXに対する多角的な視点を身につけ、今後の制作活動に活かす力を養う。	
	予習復習の内容	韓国のWebサイトやデザイン事例を事前に閲覧し、印象に残った点を整理する。復習では、授業で扱った社会背景や事例を振り返りまとめる。	
9 回	授業内容	韓国の世界遺産について学ぶ（山川）	
	学習成果	韓国観光＝芸能、食に偏りがちな印象から、「世界遺産」に目を向け、学び、より深く韓国を知る。	
	予習復習の内容	歴史的な部分にも着目し、文化的理解を深める。	
10回	授業内容	日本と韓国のブライダルの違い（山川）	
	学習成果	二カ国を比較しながら、お互いの文化を知る。	
	予習復習の内容	日本で行う韓国式、韓国で行う日本式、など様々な応用を考え、より理解を深める。	
11回	授業内容	K- スイーツと世界のスイーツ文化論（相良）	
	学習成果	世界のデザートの成立と変化を歴史的・地理的背景から理解し、韓国の伝統・現代・海外要素の融合によるK- スイーツの特徴を具体例を用いて説明できる。また、SNS等から国際的なスイーツトレンドを捉え、その拡散要因を文化的・マーケティングの視点から分析できる。	
	予習復習の内容	次回授業で扱うスイーツについて発祥地や主要な材料、文化的背景を調べるとともに、実際に話題となっている世界のスイーツを試食し、その味や見た目の感想を授業で学んだ文化的背景と結びつけて考察する。	
12回	授業内容	現代の韓国の食文化とカフェ文化を理解する（梅津・吉田）	
	学習成果	韓国大衆食事やカフェについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り身近にある韓国の食の理解を深める。	
13回	授業内容	韓国の発酵食品（丸山）	
	学習成果	醗酵の仕組みを知り、韓国の「食」への応用を説明できる。	
	予習復習の内容	韓国や日本、中国など、各国の醗酵食品について身近なものを挙げてみる。	
14回	授業内容	スポーツによる日韓交流　美容とフィットネス（高間）	
	学習成果	スポーツと国際交流、日本と韓国のスポーツ文化、美容とフィットネスについて正しく理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スポーツの意義を理解する。	
15回	授業内容	民族衣装・K- ビューティー（金澤）	
	学習成果	韓国の歴史的な民族衣装や韓国の美容について知識を得ることができる。	
	予習復習の内容	韓国の民族衣装や韓国コスメについて調査し、理解を深める。	

科目名	K-カルチャー実践				担当者	辻（ツジ）　幸恵（ユキエ）　・　宮城民団婦人会（ミヤギミンダンフジンカイ）　・　朴澤（ホウザワ）　蓉子（ヨウコ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	16	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	初回の授業時に周知し、Classroom（登録必須）にて対応する。

専門的学習成果	①	韓国美容・大衆文化・伝統衣装・伝統料理の歴史・特徴・現代的変化を説明できる。
	②	各分野の文化的意義や社会的背景を分析・説明できる。
	③	インターネットや配布資料を活用して授業内容を整理・深化させることができる。
	④	専門的知識や考察力を高め、学習内容を応用・発展的に考えることができる。
汎用的学習成果	(1)	専門分野の歴史や特徴、現代的変化を理解できる。（専門的学習成果①②③④）
	(2)	文化的・社会的意義や背景を分析・説明できる。（専門的学習成果①②③④）
	(3)	資料やインターネットを活用して学習内容を整理・深化させ、専門知識をもとに考察・応用できる。（専門的学習成果①②③④）

授業概要	本授業では、韓国美容（スキンケア・メイク）、大衆文化（音楽・ドラマ・映画）、伝統衣装（韓服）、伝統料理（韓国料理）の歴史・特徴・現代的変化を学ぶ。各分野の文化的意義や社会的背景を理解し、資料やインターネットを活用して授業内容を整理・深化させることで、専門的知識や考察力を高めることを目指す。授業には一部学外演習を含む。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	50	毎回の授業について感想をまとめ、期日までに振り返りシートを提出する。
		実践	50	演習への参加態度。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④により行う。 (2) は専門的学習成果①②③④により行う。 (3) は専門的学習成果①②③④により行う。 (4) は専門的学習成果①②③④により行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		テキストとして講義資料・レジュメ・参考資料を配布する。	

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①学外演習の場合は、現地集合、現地解散となる。授業で配布する資料を活用して授業を進める。 ＜事前学習＞インターネット等を活用して、授業内容に関する基本事項を確認する。＜事後学習＞授業内容を振り返り、配布資料を用いて理解を整理・深化させる。 ②提出されたシートについては、授業内でフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	K-Beauty ①	実践授業における学習内容や経験をレポートとして整理・記述し、その理解度や技能、考察力などを通して評価する。
	学習成果	韓国美容の歴史や文化、特徴を理解する。	
	予習復習の内容	インターネット等で授業内容の基本事項を確認し、配布資料を用いて授業内容を振り返り理解を整理・深化させる。	
2回	授業内容	K-Beauty ②	
	学習成果	代表的な製品や最新トレンド、海外展開までを学び、韓国美容の全体像を把握できる。	
	予習復習の内容	インターネット等で授業内容の基本事項を確認し、配布資料を用いて授業内容を振り返り理解を整理・深化させる。	
3回	授業内容	民族衣装文化①（学外演習の予定）	
	学習成果	韓国の伝統衣装の歴史や特徴を理解できる。	
	予習復習の内容	インターネット等で授業内容の基本事項を確認し、配布資料を用いて授業内容を振り返り理解を整理・深化させる。	
4回	授業内容	民族衣装文化②（学外演習の予定）	
	学習成果	現代における衣装の変化や日常・特別行事での着用を学び、韓国衣装文化の全体像を把握できる。	
	予習復習の内容	インターネット等で授業内容の基本事項を確認し、配布資料を用いて授業内容を振り返り理解を整理・深化させる。	
5回	授業内容	伝統料理①（学外演習の予定）	
	学習成果	韓国の代表的な伝統料理とその歴史・特徴を理解できる。	
	予習復習の内容	インターネット等で授業内容の基本事項を確認し、配布資料を用いて授業内容を振り返り理解を整理・深化させる。	
6回	授業内容	伝統料理②（学外演習の予定）	
	学習成果	現代の食文化やフュージョン料理の事例を学び、韓国料理の伝統と現代的変化の全体像を把握できる。	
	予習復習の内容	インターネット等で授業内容の基本事項を確認し、配布資料を用いて授業内容を振り返り理解を整理・深化させる。	
7回	授業内容	K-POP・韓国ドラマ①	
	学習成果	音楽や映像作品の特徴や歴史を理解できる。	
	予習復習の内容	インターネット等で授業内容の基本事項を確認し、配布資料を用いて授業内容を振り返り理解を整理・深化させる。	
8回	授業内容	K-POP・韓国ドラマ②	
	学習成果	グローバルな人気や文化的影響、ファン文化を学び、韓国大衆文化の魅力と影響を把握できる。	
	予習復習の内容	インターネット等で授業内容の基本事項を確認し、配布資料を用いて授業内容を振り返り理解を整理・深化させる。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	韓国ファッション美容研修				担当者	金澤千晶（カナザワチアキ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的学習成果	①	韓国のファッションやメイク、美容の体験や最新の調査をすることができる。										
	②	事前に調査・計画した研修内容を韓国で実践できる。										
	③	韓国語の語学力を習得して、現地で活用できる。										
	④	韓国で得た知識を、帰国後に日常生活や地域貢献活動に際し、実践や貢献することができる。										
汎用的学習成果	(1)	ファッションや美容に関して、日本と韓国の違いに触れて、自分自身や他者に対して日常で実践できる。（専門的学習成果①②③に連動）										
	(2)	韓国語での会話スキルを身に付け、店頭での交渉やコミュニケーション能力を持ち、主体的に行動することができる。（専門的学習成果①②③に連動）										
	(3)	ファッションのトレンドや美容の材料や技術および施術の進化に対して、自己啓発を続け、グローバルな観点で常に最新の情報に敏感になり、活用することができる。（専門的学習成果①②③に連動）										
授業概要	韓国で3泊4日程度の研修を行い、ファッションや美容の材料や技術について学ぶ。また、学生自信が主体的に店舗で店員との交渉にも取り組みたい。授業は前期の集中講義で行い、研修にあたり、事前学習として現地の調査、旅券申請手続き、語学学習などを行い研修に必要な知識と教養を身につける。研修後（帰国後）はレポートを提出する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	30	研修後（帰国後）にレポートを提出する。
		平常点	10	事前学習での取り組み、意欲、理解度により評価する。
		研修	60	研修期間中の取り組み、意欲により評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①1・2年共に受講できる。具体的な計画は新年度開講期に伝える。研修参加費用として約15～20万円を予定している。事前学習として韓国のファッションや美容、韓国の歴史について情報を収集しておくこと（予習：週2時間程度）。授業後は学習内容を振り返り、課題や疑問点について調べ、理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②レポートや課題については、添削し返却する。 ③受講者が少ない場合は中止となる可能性がある。また、外務省により安全への注意が促された場合にも、実施を見送る。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス　概要説明	授業において受講学生にシラバスの内容を質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
2回	授業内容	申請等の手続き、研修内容の確認や自主研修の計画	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	ファッションや美容の研修および自主研修の内容を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
3回	授業内容	韓国のファッション、美容、文化（歴史と発展）	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	韓国のファッションや美容の特徴を知り、歴史と発展を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
4回	授業内容	韓国語学習（研修準備）	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	韓国語を学習して研修で活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
5回	授業内容	最終案内・確認	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	韓国に渡航するにあたり自己管理と危機管理を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
6回	授業内容	美容研修①	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
7回	授業内容	美容研修②	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
8回	授業内容	美容研修③	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
9回	授業内容	ファッション研修①	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
10回	授業内容	ファッション研修②	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
11回	授業内容	韓国文化研修①	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
12回	授業内容	韓国文化研修②	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
13回	授業内容	自主研修①	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
14回	授業内容	自主研修②	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
15回	授業内容	研修報告	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
	学習成果	研修内容について、報告書の作成方法を知り、報告ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	

科目名	観光英会話				担当者	ブシェーポール						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける											
専門的 学習成果	①	英語の単語、表現、会話を身につけ、海外での様々な場面で英会話で対応できる。										
	②	英語の単語、表現、会話を身につけ、訪日外国人と英語のコミュニケーションを行うことができる。										
	③	日本人が苦手意識をもちやすい英語の発音について点検し、正しい発音で英会話を行うことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	英会話の学びを通して、言語の背景である異文化への理解を深め、国際社会で通用する幅広い視野でものごとをとらえることができる。(専門的学習成果①、②、③)										
授業概要	テキストに沿って海外旅行中の様々な場面で役に立つ英語を実践的に学習する。単語、表現、会話をしっかり覚え、旅行中だけでなく、日本に来る外国人観光客にも対応できるように練習する。日本人が不安を感じやすいのが発音であるが、これを重点的に指導し、そのコツも覚え、分かりやすい通じる英語を身につけることを目指す。そして授業やプレゼンテーションなど通して異文化への理解を深め、国際社会に興味を持って幅広い視野を育む。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		期末テスト	50	前期・後期とも最後の授業で実施する。
		平常点	50	授業での取り組みや宿題、小テストの達成度で評価する。
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、専門的学習成果①、②、③で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名
		『Let's Read Aloud & Learn English』	Seibido

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 毎週の授業の予習（30分）と復習（30分）をすること。宿題が課された場合は、次の授業までに必ずやっておくこと。単語やフレーズの小テストを実施することもあるので、常に単語やフレーズを復習すること。配布資料はしっかり管理すること。 ②小テストとプレゼンテーションの内容についてのフィードバックは授業中に行う。しっかり受け止めて改善に努めること。

授業計画			学習成果の評価	授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション（授業への取り組み方と自己紹介）	取り組む態度・英語力	16回	授業内容	病院　How long have you felt this way? p. 50-52	取り組む態度・英語力
	学習成果	英語で挨拶と自己紹介ができます			学習成果	期間を尋ねる、症状を述べる	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
2回	授業内容	入国審査　This is my first trip abroad. p. 8-10	取り組む態度・英語力	17回	授業内容	病院　How long have you felt this way? p. 50-52	取り組む態度・英語力
	学習成果	予定を尋ねる、別れ際の挨拶			学習成果	期間を尋ねる、症状を述べる	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
3回	授業内容	入国審査　This is my first trip abroad. p. 11-13	取り組む態度・英語力	18回	授業内容	道案内　I think I'm lost. p. 57-58	取り組む態度・英語力
	学習成果	予定を尋ねる、別れ際の挨拶			学習成果	援助を求める、道順を示す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
4回	授業内容	税関検査　Do you have anything to declare? p. 14-16	取り組む態度・英語力	19回	授業内容	道案内　I think I'm lost. p. 59-61	取り組む態度・英語力
	学習成果	指示する、依頼する			学習成果	援助を求める、道順を示す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
5回	授業内容	税関検査　Do you have anything to declare? p. 17-19	取り組む態度・英語力	20回	授業内容	観光地　Do you want me to take your picture? p. 62-64	取り組む態度・英語力
	学習成果	指示する、依頼する			学習成果	援助を申し出る、確認を求める	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
6回	授業内容	空港での出迎　How was your flight to Los Angeles? p. 20-22	取り組む態度・表情・発音・積極性	21回	授業内容	観光地　Do you want me to take your picture? p. 65-67	取り組む態度・英語力
	学習成果	自己紹介する、感謝する			学習成果	援助を申し出る、確認を求める	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
7回	授業内容	空港での出迎え　How was your flight to Los Angeles? p. 23-25	取り組む態度・英語力	22回	授業内容	遺失物取扱所　I've lost my phone. p. 68-70	取り組む態度・英語力
	学習成果	自己紹介する、感謝する			学習成果	問題を述べる、確信を示す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
8回	授業内容	ホームステイ１　Are you still feeling tired? p. 26-28	取り組む態度・英語力	23回	授業内容	遺失物取扱所　I've lost my phone. p. 71-73	取り組む態度・表情・発音・積極性
	学習成果	提案する、許可を求める			学習成果	問題を述べる、確信を示す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
9回	授業内容	ホームステイⅠ　Are you still feeling tired? p. 29-31	取り組む態度・英語力	24回	授業内容	アミューズメントパーク　I love roller coasters! p. 74-76	取り組む態度・英語力
	学習成果	提案する、許可を求める			学習成果	賛同する、感想を述べる	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
10回	授業内容	語学研修　What are we going to do in the afternoon? p. 32-34	取り組む態度・英語力	25回	授業内容	アミューズメントパーク　I love roller coasters! p. 77-79	取り組む態度・英語力
	学習成果	予定を述べる、詳細を尋ねる			学習成果	賛同する、感想を述べる	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
11回	授業内容	語学研修　What are we going to do in the afternoon? p. 35-37	取り組む態度・英語力	26回	授業内容	ホームステイ　Let me introduce my friend. p. 80-82	取り組む態度・英語力
	学習成果	予定を述べる、詳細を尋ねる			学習成果	人を紹介する、手みやげを渡す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	テストでの誤りを復習	
12回	授業内容	ホームステイ２　It's called Mountain Grove. p. 38-40	取り組む態度・表情・発音・積極性	27回	授業内容	ホームステイ　Let me introduce my friend. p. 83-85	取り組む態度・表情・発音・積極性
	学習成果	様子を尋ねる、あいづちを打つ			学習成果	人を紹介する、手みやげを渡す	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	テストでの誤りを復習	
13回	授業内容	ホームステイ２　It's called Mountain Grove. p. 41-43	準備・英語の表現力・発音・表情	28回	授業内容	ショッピング　I'd like to pay by credit card. p. 86-91	準備・英語の表現力・発音・表情
	学習成果	様子を尋ねる、あいづちを打つ			学習成果	お好みを述べる、意向を尋ねる	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
14回	授業内容	レストラン　How would you like your steak? p. 44-49	取り組む態度・英語力	29回	授業内容	空港での見送り　I'm looking forward to seeing you again. p. 92-97	取り組む態度・英語力
	学習成果	注文する、希望を尋ねる			学習成果	意思を示す、話題を変える	
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習	
15回	授業内容	学期末テスト	取り組む態度・英語力 期末テスト	30回	授業内容	学期末テスト	期末テスト
	学習成果	さまざまな場面で英語を使ってコミュニケーションを行うことができる。			学習成果	さまざまな場面で英語を使ってコミュニケーションを行うことができる。	
	予習復習の内容	テストでの誤りを復習			予習復習の内容	テストでの誤りを復習	

科目名	中国語会話実践				担当者	魏　小花（ギ　ショウカ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はＥメールで行う。 wei.xiaohua@m.seiwa.ac.jp											

専門的学習成果	①	中国語とはどんな言葉かについて理解でき、概要を説明できる
	②	中国語の発音要領と声調の特徴を理解し、短母音、複母音、鼻母音と子音の発音ができるようになる
	③	中国語の述語文（動詞・形容詞・名詞）の使用について区別できる
	④	中国語の疑問詞及び疑問文が使用できる
	⑤	中国語の時制構文を習得する。
	⑥	使役文「让」と受身文「被」を区別して使用できる
	⑦	モダリティ・助動詞が使えるようになる。
汎用的学習成果	(1)	中国語の基礎知識を理解し、コミュニケーション活動に必要な基礎力を身に付ける。（専門的学習成果①②に関連）
	(2)	学生生活に密着した語彙・表現について理解を深め、中国語で会話する能力を高める。（専門的学習成果③④⑤⑥⑦に関連）
	(3)	日常生活に密着したモデル会話の勉強を通して、中国語の“聴く・話す・読む・書く”4技能をバランスよく身に付ける。（専門的学習成果③④⑤⑥⑦に関連）
授業概要	この授業は学習者の皆さんが楽しみながら中国語の基礎力を身に付けるとともに、聞く・話す・読む・書く4技能をバランスよく修得することを目的とする。簡単な会話のやり取りや、文章を読んだり書いたりすることを通して、語彙及び文法のポイントを定着させ、実践的なコミュニケーションができるようにする。さらに、中国語の学習にあたっては、中国の文化や社会に興味を持つことも重要であり、授業ではそうした面にも目を向けられるよう工夫する。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	30	各回５％を６回実施する。２～４回分の講義内容について理解の程度を評価する。
		筆記試験	70	第15回目と第30回目の授業後半に筆記と口頭試験形式で行い、全30回分の講義内容の理解について評価を行う。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①②で評価を行う。 （2）は専門的学習成果③④⑤⑥⑦で評価を行う。 （3）は専門的学習成果③④⑤⑥⑦で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	上野　恵司	『標準中国語・基礎編』	白帝社
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、２回目以降の授業から、音節の発音、語彙の発音を読み予習してくること。日本語との違いを考えながら、理解を深めておくこと（予習：週２時間程度）。事後学習としては、授業の内容について振り返りを行い、朗読の練習及び確認問題を通して理解を深めること（復習：週２時間程度）。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。期末試験は実施後に正解を示し、解説を行う。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	中国語の基礎知識と短母音の発音	
	学習成果	中国語の基礎知識を理解し、短母音の発音を身に付ける。	
	予習復習の内容	中国語の短母音の発音について理解を深めておくこと。	
2回	授業内容	中国語の複母音の発音	
	学習成果	中国語の複母音の発音を身に付ける。	
	予習復習の内容	中国語の複母音について理解を深めておくこと。	
3回	授業内容	中国語の子音（前半）の発音	小テスト（短母音・複母音について）第３回に実施
	学習成果	中国語の子音（前半）の発音を身に付ける。	
	予習復習の内容	中国語の子音（前半）の発音について理解を深めておくこと。	
4回	授業内容	中国語の子音（後半）の発音	
	学習成果	中国語の子音（後半）の発音を身に付ける。	
	予習復習の内容	中国語の子音（後半）の発音について理解を深めておくこと。	
5回	授業内容	中国語の鼻母音の発音	
	学習成果	中国語の鼻母音の発音を身に付ける。	
	予習復習の内容	中国語の鼻母音について理解を深めておくこと。	
6回	授業内容	中国語の音節、数字と簡単な挨拶	小テスト（子音と鼻母音について）第６回に実施
	学習成果	中国語の音節を理解し、数字の読み方と簡単な挨拶を身に付ける。	
	予習復習の内容	数字の言い方及び簡単な挨拶文の理解を深めておくこと。	
7回	授業内容	第１課 「はじめまして、林林！」（語彙・会話・文法）	
	学習成果	動詞「是」の構文と人称代名詞を理解し、簡単な自己紹介ができる。	
	予習復習の内容	第１課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
8回	授業内容	第１課 「はじめまして、林林！」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、簡単な自己紹介ができる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第１課の文法について整理・確認しておくこと。	
9回	授業内容	第２課 「趣味は何ですか？」（語彙・会話・文法）	
	学習成果	名詞述語文と疑問詞疑問文を理解し、趣味や年齢の尋ね方を身に付け、会話できる。	
	予習復習の内容	第２課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
10回	授業内容	第２課 「趣味は何ですか？」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、趣味や年齢の尋ね方について会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第２課の文法について整理・確認しておくこと。	
11回	授業内容	第３課 「彼氏がいますか？」（語彙・会話・文法）	小テスト（第１課と第２課について）第11回に実施
	学習成果	動詞「在」と「有」を理解し、自分の家族について紹介できる。	
	予習復習の内容	第３課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
12回	授業内容	第３課 「彼氏がいますか？」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、自分の家族について紹介できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第３課の文法について整理・確認しておくこと。	
13回	授業内容	第４課 「毎日が充実していて楽しい！」（語彙・会話・文法）	
	学習成果	形容詞述語文と反復疑問文を理解し、健康や勉強の状況について会話できる。	
	予習復習の内容	第４課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
14回	授業内容	第４課 「毎日が充実していて楽しい！」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、健康や勉強の状況について会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第４課の文法について整理・確認しておくこと。	
15回	授業内容	ユニット１のまとめ「林林の自己紹介」（読解）	期末試験（全15回分の内容について）第15回後半に実施
	学習成果	名前、年齢、趣味、家族構成及び自分の大学生活について紹介できる。	
	予習復習の内容	ユニット１の語句をマスターするよう学習しておくこと。	

	授業計画		学習成果の評価
16回	授業内容	第５課 「横浜に行こう！」（語彙・会話・文法）	
	学習成果	動詞述語文と動詞「喜欢」を理解し、自分や友達の日常生活について会話できる。	
	予習復習の内容	第５課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
17回	授業内容	第５課 「横浜に行こう！」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、自分や友達の日常生活について会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第５課の文法について整理・確認しておくこと。	
18回	授業内容	第６課 「いい曲ですね」（語彙・会話・文法）	小テスト（第５課について）第18回に実施
	学習成果	副詞「在」と様態補語を理解し、自分や友達の得意なことについて会話できる。	
	予習復習の内容	第６課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
19回	授業内容	第６課 「いい曲ですね」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、自分や友達の得意なことについて会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第６課の文法について整理・確認しておくこと。	
20回	授業内容	第７課 「山中君、バイクでけがをする」（語彙・会話・文法）	
	学習成果	「了」と結果補語を理解し、自分や友達の体調の変化について会話できる。	
	予習復習の内容	第７課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
21回	授業内容	第７課 「山中君、バイクでけがをする」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第７課の文法について整理・確認しておくこと。	
22回	授業内容	第８課 「夏合宿の計画」（語彙・会話・文法）	小テスト（第６～７課について）第22回に実施
	学習成果	選択疑問文と助動詞を理解し、自分ができることや、やりたいことについて会話できる。	
	予習復習の内容	第８課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
23回	授業内容	第８課 「夏合宿の計画」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、自分ができることや、やりたいことについて会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第８課の文法について整理・確認しておくこと。	
24回	授業内容	第９課 「ぼくたちは絶対に成功できる！」（語彙・会話・文法）	
	学習成果	前置詞と経験を表す構文「过」を理解し、自分の学校生活やアルバイトについて会話できる。	
	予習復習の内容	第９課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
25回	授業内容	第９課 「ぼくたちは絶対に成功できる！」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、自分の学校生活やアルバイトについて会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第９課の文法について整理・確認しておくこと。	
26回	授業内容	第10課 「スカイツリーを見に行こう！」（語彙・会話・文法）	小テスト（第８～９課について）第26回に実施
	学習成果	持続を表す構文「着」と比較表現を理解し、友達を誘ったり、物事を比較したりすることができる。	
	予習復習の内容	第10課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
27回	授業内容	第10課 「スカイツリーを見に行こう！」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、友達を誘ったり、物事を比較したりすることができる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第10課の文法について整理・確認しておくこと。	
28回	授業内容	第11課 「ホワイトクリスマスね」（語彙・会話・文法）	
	学習成果	使役「让」と無主語文を理解し、天候などの自然現象について会話できる。	
	予習復習の内容	第11課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。	
29回	授業内容	第11課 「ホワイトクリスマスね」（４技能練習）	
	学習成果	４技能のバランスを取りながら、天候などの自然現象について会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第11課の文法について整理・確認しておくこと。	
30回	授業内容	第12課 「道中ご無事で」	期末試験（全15回分の内容について）第30回後半に実施
	学習成果	受身「被」と方向補語を理解し、別れの表現を身に付け、会話できる。	
	予習復習の内容	確認問題を通して、第12課の文法について整理・確認しておくこと。	

科目名	英語ベーシック 英検４級～準２級				担当者	永野（ナガノ） 篤（アツシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	１年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。											
専門的学習成果	①	基礎的な英語文法を理解し正しく使うことができる。										
	②	英検４級～準２級相当の語彙を活用することができる。										
	③	短い英文を読み内容を正確に理解することができる。										
	④	基本的な英語表現を用いて意思を伝えることができる。										
汎用的学習成果	(1)	学習課題を把握し計画的に学習を進めることができる。										
	(2)	繰り返し学習を通して基礎力を定着させることができる。										
	(3)	学んだ知識を実生活や学習場面で生かすことができる。										
	(4)	他者と協働しながらグリーバル社会に貢献することができる。										
授業概要	本授業は、英検４級から準２級レベルを目標とし、英語の基礎的な文法・語彙・読解力の習得を目的とする。英語を暗記科目として学ぶのではなく、文の構造や意味のつながりを理解しながら、実際に使える基礎力を身につけることを重視する。授業では、文法解説と演習を組み合わせ、段階的に理解を深めていく。また、英検の出題形式にも触れながら、試験対策としても有効な学習を行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		小テスト	85	毎回、小テストを実施する。[15回、各15問]
		小レポート	15	毎回、小リポートが課される。[15回]
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 英語は単に単語や文法を暗記する科目ではなく、他者と意思を伝え、情報を理解するための基礎的な技能である。本授業では、英検４級から準２級レベルの英語力を目標とし、英文の構造や意味のつながりを意識しながら、英語を「使える知識」として捉える姿勢をもって授業に臨んでほしい。 ② 授業では、基礎的な文法事項や語彙を段階的に学習し、読解や演習を通して理解を深めていく。事前学習として、配布資料や指定された内容を確認し、文法や語彙の概要を把握してから授業に参加すること（予習：週１時間程度）。事後学習としては、授業で扱った例文や問題を振り返り、理解の定着を図ること（復習：週２～３時間程度）。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	英語学習の目的と基礎的な学習方法を確認する。	小テスト 小リポート
	学習成果	英語学習への姿勢と授業の進め方を理解できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み学習の流れを確認する。	
2回	授業内容	アルファベットと基本的な発音規則を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	英語の音と文字の関係を理解できる。	
	予習復習の内容	音読練習を行い発音を復習する。	
3回	授業内容	be 動詞と一般動詞の基本文を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	基本的な英文構造を理解できる。	
	予習復習の内容	例文を確認し文の形を整理する。	
4回	授業内容	肯定文・否定文・疑問文の作り方を学ぶ。	小テスト 小リポート
	学習成果	基本的な文の変化を使い分けできる。	
	予習復習の内容	例文を用いて文型を復習する。	
5回	授業内容	名詞・代名詞と冠詞の使い方を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	名詞表現の基本的な使い分けができる。	
	予習復習の内容	単語の意味と使い方を確認する。	
6回	授業内容	形容詞・副詞の基礎的用法を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	語の役割の違いを理解できる。	
	予習復習の内容	例文を読み語順を整理する。	
7回	授業内容	時制（現在・過去・未来）の基本を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	時制の違いを用いて文を理解できる。	
	予習復習の内容	例文を確認し時制を復習する。	
8回	授業内容	助動詞の基本的な意味と用法を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	助動詞を用いた表現を理解できる。	
	予習復習の内容	例文を読み意味の違いを整理する。	
9回	授業内容	前置詞の基本的な使い方を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	場所や時間の表現を理解できる。	
	予習復習の内容	前置詞表現を確認し復習する。	
10回	授業内容	比較表現と数量表現の基礎を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	簡単な比較や程度を表現できる。	
	予習復習の内容	例文を読み使い方を整理する。	
11回	授業内容	英検４級レベルの読解問題に取り組む。	小テスト 小リポート
	学習成果	短い英文の内容を把握できる。	
	予習復習の内容	語彙を確認し読解を復習する。	
12回	授業内容	英検３級レベルの語彙と文法を学習する。	小テスト 小リポート
	学習成果	出題形式に慣れて問題を解ける。	
	予習復習の内容	単語と文法事項を復習する。	
13回	授業内容	英検準２級レベルの基礎問題を扱う。	小テスト 小リポート
	学習成果	やや長い英文を理解できる。	
	予習復習の内容	文構造を意識して復習する。	
14回	授業内容	リスニングの基本的な聞き取りを行う。	小テスト 小リポート
	学習成果	英語音声の要点を聞き取れる。	
		音声を聞き直し内容を確認する。	
15回	授業内容	これまでの学習内容を総合的に整理する。	小テスト 小リポート
	学習成果	英語の基礎力を総合的に説明できる。	
	予習復習の内容	全体を振り返り理解をまとめる。	

科目名	仙台の歴史と文化			担当者	鳴海（ナルミ）　涉（ワタル）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail：narumi.wataru@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom（登録必須）での対応を行う。											
専門的学習成果	①	仙台の歴史と文化について理解し、学んだ知識を説明できる。										
	②	仙台の歴史と文化を観光資源、まちづくりに関連付けることができる。										
	③	仙台の歴史と文化を観光資源、まちづくりの観点から観光課題を指摘できる。										
	④	仙台の歴史と文化について学んだ知識を基に、「仙台観光プラン」などを作成することができる。										
	⑤	仙台の歴史と文化について理解を深めるとともに、公共交通機関等を利用し、博物館、美術館、史料館、図書館、教育機関、各種地域団体と連携を図ることができる。										
汎用的学習成果	(1)	仙台の歴史と文化を学ぶことを通して、歴史・観光・まちづくりに必要な知識と技能を学び、職業的自立につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(2)	仙台の歴史と文化について学んだ知識や技能を使い、仙台の文化遺産等を観光資源として活用し、歴史・観光・まちづくりに貢献することができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	仙台の歴史と文化で学んだ知識を基に、他者のために旅行プランなどを作成することを通して、人との関わり、まちづくりに必要な論理的思考、他者理解ができる。（専門的学習成果④に関連）										
授業概要	①仙台の歴史と文化に関わる事柄や人物、文化遺産等を国内外の歴史の中に位置づけ、資料・写真・地図・映像・インターネット等を参考に古代から現代までの歴史に裏付けられたフィールドワークを活用した観光・歴史・まちづくりを学ぶ。②授業で得られた仙台の歴史と文化に関する知識をもとに仙台の歴史と国際的視野、現代的視点から理解する。③仙台の歴史と文化を歴史的な観光資源、地域資源という観点から見直し、フィールドワーク（現地調査）に基づき観光プラン「仙台観光プラン2026」を作成する意義を理解する。④仙台の歴史と文化をより深く学び、博物館、資料館、仙台城跡等の史跡、お祭り等を利活用して、まちづくりに貢献する方法を理解する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果			
		レポート	55	レポート（ミニッツペーパー）（1回毎の評価基準5点）×11回
		発　表	15	グループ発表（1回毎の評価基準5点）×3回
		フィールドワーク対応	30	フィールドワーク（現地調査）対応（1回毎の評価基準5点）×3回
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (2) は専門的学習成果②③で評価を行う (3) は専門的学習成果④で評価を行う		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	仙台市史編さん委員会	『仙台市史通史編1　原始』	
	同	『仙台市史通史編2　古代中世』	
	同	『仙台市史通史編3　近世1』『仙台市史通史編4　近世2』	
	同	『仙台市史通史編8　現代1』『仙台市史通史編9　現代2』	
	同	『仙台市史特別編3　美術工芸』	
	同	『仙台市史特別編6　民俗』	
	同	『仙台市史特別編7　城館』	
	同	『仙台市史特別編8　慶長遣欧使節』	
	同	『仙台市史特別編9　地域誌』	
	（独法）国立文化財機構奈良文化財研究所	『宮城県－仙台市報告書一覧（仙台市文化財調査報告書）』 https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/list/04/04102	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	授業は、事前にクラスルーム及び配布資料、視聴覚教材を主として進める。 15回の授業のうち11回はクラスルームでミニッツペーパー（興味・関心・疑問点・理解度）の作成、提出を行う。 15回の授業のうちフィールドワーク（現地調査）を3回予定しており、その都度レポートを作成する。 発表は、パワーポイントの使用が望ましいが、模造紙などを使って形に残るものであれば拘らない。 ①事前学習は、第1回目に配布する資料に基づき講義、グループワーク、フィールドワーク（現地視察）によって理解を深める。事後学習は、理解を深めた事項に基づき観光にどう生かせるか作成する。予習、週2時間程度。復習、まとめは週2時間程度。 ②15回目の授業では、「仙台観光プラン」などをグループごとに発表会を行い、全体的なコメントを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス。原始の仙台	グループ編成を行い、自己紹介、歴史や観光に対する考えを交換する。 ミニッツペーパー有
	学習成果	本講座の内容・フィールドワーク（現地調査）実施方法を理解する。原始の仙台の基本情報、概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを理解する。古代の仙台資料、情報を分析し、その内容を理解する。	
2回	授業内容	古代の仙台	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	学習成果	古代の仙台の基本情報、概要を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	古代の仙台の資料、情報を読み、興味・関心事について理解する。	
3回	授業内容	中世の仙台	
	学習成果	中世の仙台の基本情報、概要を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	中世の仙台の資料、情報を読み、興味・関心毎について理解する。	
4回	授業内容	原始から中世の仙台についてフィールドワーク先の決定・課題整理	
	学習成果	フィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランなどを立てられる。	
	予習復習の内容	原始から中世までの資料、情報を読み、フィールドワーク先・調査項目を決定する。	
5回	授業内容	原始から中世の仙台についてフィールドワーク・課題の整理	グループごと調査事項等について聞き取り、課題等整理し、次回までの報告書を評価する。
	学習成果	フィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランなどを立てる。	
	予習復習の内容	フィールドワーク先の現状を調査、課題を取りまとめ、次回まで観光プラン作成する。	
6回	授業内容	前回の調査報告。近世の仙台①伊達政宗の生涯	グループワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	学習成果	近世の伊達政宗の足跡、功績等の基本情報、概要を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	伊達政宗の資料、情報を読み取り、興味・関心事についてまとめる。	
7回	授業内容	近世の仙台②仙台城・仙台の町割り	
	学習成果	仙台城の築城の経過、町割りについて、理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	仙台城の資料、情報を読み取り、興味・関心事についてまとめる。	
8回	授業内容	近世の仙台についてフィールドワーク先の決定・課題整理	
	学習成果	近世の仙台のフィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランなどを立てられる。	
	予習復習の内容	近世の仙台の資料、情報を読み、フィールドワーク先・調査項目を決定する。	
9回	授業内容	近世の仙台についてフィールドワーク・課題の整理	グループごと調査事項等について聞き取り、課題等整理し、次回までの報告書を評価する。
	学習成果	近世の仙台のフィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランなどを立てる。	
	予習復習の内容	フィールドワーク先の現状を調査、課題を取りまとめ、次回まで観光プラン作成する。	
10回	授業内容	前回の調査報告会。明治から終戦までの仙台	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	学習成果	明治から終戦までの仙台の基本情報、概要を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	明治から終戦までの仙台の資料、情報を調査、興味・関心事についてまとめる。	
11回	授業内容	戦後から現代の仙台	
	学習成果	戦後から現代までの仙台の基本情報、概要を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	戦後の仙台の資料、情報を読み取り興味・関心事についてまとめる。	
12回	授業内容	明治から現代の仙台（人物、伝統工芸、まつり、食文化）。フィールドワーク先の決定・課題整理	
	学習成果	明治から現代までの仙台のフィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランなどを立てられる。	
	予習復習の内容	明治から現代までの仙台の資料、情報を読み、フィールドワーク先・調査項目を決定する。	
13回	授業内容	明治から現代までの仙台についてフィールドワーク・課題の整理	グループごと調査事項等について聞き取り、課題等整理し、次回までの報告書を評価する。
	学習成果	明治から現代までの仙台のフィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランなどを立てる。	
	予習復習の内容	フィールドワーク先の現状を調査し、課題を取りまとめ、次回まで観光プランなどを作成する。	
14回	授業内容	前回の調査報告。原始から現代までの仙台の歴史資産を活用した観光プランなどの作成	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。ミニッツペーパー有
	学習成果	3回にわたるフィールドワークの成果まとめ、観光プランなどを立てる。	
	予習復習の内容	原始から現代までの仙台の歴史に基づく特色ある「仙台観光プラン2026」を作成する。	
15回	授業内容	活動の総括・発表	報告書の提出有
	学習成果	報告書作成・発表	
	予習復習の内容	発表に向けての準備	

科目名	小論文基礎				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的学習成果	①	適切・妥当な小論文について評価することができる。										
	②	適切・妥当な小論文に求められる文体について検討することができる。										
	③	適切・妥当な小論文の構成について検討することができる。										
汎用的学習成果	(1)	論理的文章に関する知識を身につけ、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	文体に関する知見を身につけ、表現の幅を広げ実践に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	論理構成に関する知見を身につけ、付与された条件内での説得力のある書き言葉を作成する技術を身につけ、実務に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	既存の考え方を批判なく受容し、それらを自らの思考の結果として表明するのではなく、データを直視し、論理を構成し、まとまりのある見解に構成していく志向・姿勢をもつことは、社会を構成する一員としての重要な責任である。授業では、思考力とその表現の一つである文章化を、各自の認知傾向、文体力、論理性を踏まえ、小論文という形式として成立させていく。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	100	各回のテスト・文章作成により、各回12.5%を配点する。
	汎用的学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①１年次学生の、夏休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布、小テストを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持参すること。 ②小テストおよび文章作成等は、原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。 予習復習には、それぞれ１時間程度かけることが期待されるが、集中授業のため授業と授業の間に行うことは難しいことが予想される。そのため、事前課題、事後学習を入念に行うこと。 紙または電子形式による辞書を携帯すること。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	小論文とは何か？	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	小論文に期待されていることは何かを理解し、適切にアプローチするマインドを身につける。	
	予習復習の内容	複数の小論文を読み、比較検討し、評価を行う。	
2回	授業内容	文体の理解	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	小論文にふさわしい文体について評価することができる。	
	予習復習の内容	複数の文体を読み、比較検討し、評価を行う。	
3回	授業内容	構成の理解	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	小論文にふさわしい構成について評価することができる。	
	予習復習の内容	複数の小論文を読み、比較検討し、構成の観点から評価を行う。	
4回	授業内容	センテンスの理解	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	小論文にふさわしいセンテンスについて評価することができる。	
	予習復習の内容	複数のセンテンスを読み、比較検討し、評価を行う。	
5回	授業内容	センテンスを組み合わせ全体を構成する。	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	小論文として適切な全体構成のあり方について検討することができる。	
	予習復習の内容	複数のセンテンスを、妥当な小論文となるように構成する。	
6回	授業内容	小論文を作成する①300文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	300文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
	予習復習の内容	300文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
7回	授業内容	小論文を作成する②500文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	500文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
	予習復習の内容	500文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
8回	授業内容	小論文を作成する③700文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	700文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	
	予習復習の内容	700文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	国内旅行業務取扱管理者試験講座				担当者	大森 信治郎（オオモリ シンジロウ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室にて受け付ける。											
専門的学習成果	①	旅行業法、及び観光関連約款についてその概要を説明することができ、国家試験の解答を導くことができる。										
	②	国内観光地理の概要を理解し、国家試験の解答を導くことができる。										
	③	JR をはじめとする国内運送の運賃、料金の仕組みを理解し、国家試験の解答を導くことができる。										
	④	旅行業務取扱管理者試験の合格水準の知識を習得し、併せて旅行業における有為な人材として活躍できる基礎を作ることができる。										
汎用的学習成果	(1)	旅行業務業務取扱管理者試験の合格レベルの知識の習得によって、自身の社会生活と社会全般がより豊かになるための一助となる。										
	(2)	観光領域の職業人としての専門的な知識を身に付け、観光のビジネスの領域で活躍できる。										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。										
授業概要	本講義は、毎年９月前半に行われる国家資格試験「国内旅行業務取扱管理者試験」に向けた講座であり、夏季集中の形で展開するものである。本講座の受講のためには１年前期において関連科目である「旅行業実務Ⅰ」「旅行業法」「観光関連約款」「地域観光論」を履修しておく必要がある。講義日程の中には２度の模擬試験が実施され、その結果を踏まえて、各人の達成度に応じた課題が課せられる。資格取得は就職やその後の職業人としての社会生活に大変重要な意味を有している。本講義で同格レベルへの到達を達成する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	模擬試験	65	本番の試験を模した形式の試験を２回程度行い、評価を行う。
		課題	20	模擬試験の結果に基づいた個別の課題を課し、評価を行う。
		小テスト		
		平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	JTB 総合研究所	『2019旅行業務シリーズ　1～4』	JTB 総合研究所
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
		『なるほど知図帳2019』	昭文社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及びレポートに備える。準備学習時間として週４時間必要。 ②模擬試験の結果を反復学習し、問題の形式に慣れる。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	旅行業法の重点ポイント	授業の最後に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	旅行業法の目的、定義、登録制度、などについて簡潔に説明できる。	
	予習復習の内容	特に第一条目的などについては暗唱できる程度に復習を行う。	
2回	授業内容	旅行業約款の重点ポイント	始業と終業時に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	約款の意義と構成を理解し、特に企画旅行について詳しく解説できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
3回	授業内容	JR 運賃料金の重点ポイント	始業と終業時に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	JR 運賃料金について、体系的かつ詳細に理解し、正確な計算ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
4回	授業内容	国内観光地理の重点ポイント	始業と終業時に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	地域別に重要項目を記憶し、各地域の観光資源について解説できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
5回	授業内容	第一回模擬試験	
	学習成果	業法、約款、実務（運賃料金、観光地理）についての模擬試験によって、合格レベルに近づく。	
	予習復習の内容	間違えた問題を、徹底して復習する。	
6回	授業内容	模擬試験解説	
	学習成果	前回の模擬試験の解説を通して、個別の課題を見つけ、強化することができる。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	
7回	授業内容	旅行業法のポイント	始業と終業時に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	業務の適正な運営、組織する団体の適正な活動、について簡潔に説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
8回	授業内容	約款のポイント	始業と終業時に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	航空運送、バス、フェリー、宿泊の各約款の概要と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
9回	授業内容	運賃・料金のポイント	始業と終業時に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	国内航空運賃・料金、バスの運賃・料金、宿泊の運賃・料金について正確な計算ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
10回	授業内容	テーマ別の国内観光地理	始業と終業時に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	温泉、山岳、湖沼、などの自然観光資源、寺社仏閣、年中行事などの人文観光資源について正確に解説できる。	
	予習復習の内容	学習内容を反復して覚える。	
11回	授業内容	第二回模擬試験	
	学習成果	業法、約款、実務（運賃料金、観光地理）についての模擬試験によって、合格レベルに近づく。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	
12回	授業内容	模擬試験解説	
	学習成果	前回の模擬試験の解説を通して、個別の課題を見つけ、強化することができる。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	
13回	授業内容	個別課題の強化	始業と終業時に個別質問形式で解答を求める。
	学習成果	各自の最も弱い部分を見つけ出し、克服することができる。	
	予習復習の内容	曖昧な部分の明確化を図り、反復して復習する。	
14回	授業内容	第三回模擬試験	
	学習成果	業法、約款、実務（運賃料金、観光地理）についての模擬試験によって、合格レベルに近づく。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	
15回	授業内容	模擬試験解説	
	学習成果	前回の模擬試験の解説を通して、個別の課題を見つけ、強化することができる。	
	予習復習の内容	間違えた問題を中心に、徹底して復習する。	

科目名	日商簿記 CBT 対策講座			担当者	永野（ナガノ） 篤（アツシ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期集中
				授業時間数	15	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。

専門的学習成果	①	企業活動における簿記・会計上の取引の基本的内容を素早く正しく仕訳することができる
	②	決算のための勘定、試算表、精算表の一覧のメカニズムを適切に理解している
	③	決算整理を適切に行い貸借対照表、損益計算書の数値を正確に算出することができる
汎用的学習成果	(1)	日商簿記３級から２級レベルの企業における取引およびその情報整理の方法を適切に理解し、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③)
	(2)	日商簿記３級から２級レベルの簿記・会計知識を確実に定着させることで、より範囲の広い企業活動や複雑な取引を整理し発展的な領域へ踏み込むための基礎を固めることができる。(専門的学習成③)

授業概要	現代のビジネス活動において、企業の仕組みを理解する上で会計の知識は必須である。その基礎として、基本的な取引の仕訳や決算書類を作成する手続きを学ぶ重要性は、これまでになく高まっている。その導入として代表的な資格試験に、日本商工会議所および各地商工会議所が主催する日商簿記３級・２級がある。従来のペーパー方式試験に加え、2020年からは３級および２級にネット方式（CBT 方式）が導入された。さらに2024年度以降、東京商工会議所ではネット方式のみでの実施となっている。本授業では、こうした試験制度の変化を踏まえ、CBT 方式のインターフェースに慣れるとともに、問題処理を効率的に行うためのアプローチを身につけることを目指す。受験への心理的・技術的ハードルを下げ、合格を通じて自らの知識水準を客観的に示すことができるよう支援する。なお、授業で扱う問題のレベルと範囲は日商簿記３級を基本とし、理解度に応じて２級商業の課題にも取り組む。

	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
評価方法基準等	専門的学習成果	定期試験	0	
		実技		
		小テスト	80	毎回実施する。各10点×８回
		小リポート	20	毎回レポート課題がある。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等			
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	CPA 会計学院	『いちばんわかる日商簿記３級の教科書　第２版』	CPA 出版
	CPA 会計学院	『いちばんわかる日商簿記２級の教科書』	サンクチュアリ出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①簿記検定Ｉの受講または、授業内容への適切な理解があること、そして日商簿記３級合格を指向しているという前提に授業は行われる。(予習：週１時間程度）事後学習としては、テキスト・参考文献等で指定された範囲の演習問題を解くこと。(復習：週３時間程度）電卓は必ず持参すること。 ②テキスト及び参考文献のデータはインターネットから PDF でダウンロードできるため、紙媒体の書籍を購入する必要はない。同書内にある問題をインターネット上から解答・採点する方式をとるため、インターネットに接続できる PC を持参すること。 ③不正解となった問題の理解の方法について、個別に説明を行う。不明確な点については、必ず自分が持っている参考書等（日商簿記３級について最新かつ体系的・網羅的に記述されている参考書であれば、どのようなものでも概ね構わない）

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	日商簿記３級／２級の試験範囲とレベルと CBT の概要	小テスト 小リポート
	学習成果	模擬テストを通じて、試験の全体観を把握する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
2回	授業内容	模擬テスト①第１問：仕訳問題の確認、第２問：勘定のルール	
	学習成果	第１問の基本的な仕訳群と間違いやすい仕訳および第２問の論点を確認する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
3回	授業内容	模擬テスト②第３問：決算整理仕訳をもとにした精算表の作成	
	学習成果	未処理事項の処理、誤処理の訂正、現金過不足の処理、減価償却の処理など重要論点を確認する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4回	授業内容	模擬テスト③第１問：仕訳問題の確認、第２問：補助簿の種類	
	学習成果	第１問の基本的な仕訳群と間違いやすい仕訳および第２問の論点を理解する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
5回	授業内容	模擬テスト④第３問：決算整理仕訳をもとにした貸借対照表・損益計算書の作成	
	学習成果	当座借越の処理、貸倒引当金の設定、未払消費税の計上、法人税等の計上など重要論点を確認する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
6回	授業内容	模擬テスト⑤第１問：仕訳問題の確認、第２問：伝票記入	
	学習成果	第１問の基本的な仕訳群と間違いやすい仕訳および第２問の論点を理解する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
7回	授業内容	模擬テスト⑥第３問：決算整理仕訳をもとにした貸借対照表・損益計算書の作成	
	学習成果	費用と収益の前受け・前払、費用と収益の未収・未払い、売上原価の算定など重要論点を確実に解答する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
8回	授業内容	総合的確認演習：第１問、第２問、第３問に取り組む	
	学習成果	これまでの課題を踏まえ、幅広い種類の問題に対し、概ね７割以上の正答が導き出せるようにする	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	AI時代のロボット			担当者	永野（ナガノ） 篤（アツシ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。											
専門的学習成果	①	ロボット制御の基本構造と仕組みを理解できる。										
	②	クラウド環境でのロボット操作を体験的に理解できる。										
	③	ROS、Linux、Python の役割を踏まえた活用ができる。										
	④	AI 支援を活用しプログラムを作成・修正できる。										
汎用的学習成果	(1)	課題を分担し協力して解決に取り組むことができる。										
	(2)	試行錯誤を通して柔軟に考え方を修正できる。										
	(3)	新しい技術に対し主体的に学び続けることができる。										
	(4)	活動内容を整理し分かりやすく説明できる。										
授業概要	本授業では、AI時代におけるロボット活用の基礎を学ぶことを目的とし、実際のロボット（TOMOT）操作とクラウド上でのシミュレーションを組み合わせた実践的な学習を行う。ROS、Linux、Python を用いたロボット制御の基本構造を理解し、AI によるプログラミング支援を活用しながら効率的に操作・検証を進める。授業はグループワークを中心に行い、試行錯誤を通してロボットと人間、AI の役割分担について考察し、現実社会での応用可能性を探る。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		小レポート	64	課題に対するレポートを作成する［8回、各200文字］
		発表	10	ロボット制御の実際について発表する。
		平常点	26	授業への協力的・協調的・積極的な貢献によって評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	株式会社日本ビジネスデータープロセシングセンター	『らくらくロボット工学ことはじめ - 入門編』	オーム社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① ロボットや AI は一部の専門家だけのものではなく、仕組みを理解し適切に活用することで、誰もが使いこなすことのできる技術である。本授業では、実際のロボット操作やクラウド上でのシミュレーションを通して、試しながら学ぶことを重視するため、失敗を恐れず主体的に取り組む姿勢をもって授業に臨んでほしい。 ② 授業では、ROS・Linux・Python の基礎を踏まえ、グループワークを中心にロボット制御や動作検証を行う。事前学習として、配布資料や指定された内容を確認し、ロボットやプログラムの基本的な仕組みを把握してから授業に参加すること（予習：週1時間程度）。事後学習としては、授業内で行った操作やシミュレーション結果を振り返り、AI 支援の活用方法や課題点を整理すること（復習：週2～3時間程度）。

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	AI時代におけるロボット活用の全体像を学ぶ。	小レポート①
	学習成果	ロボットと AI の基本的な役割を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み授業の流れを整理する。	
2回	授業内容	ロボット（TIMOT）の基本操作を体験する。	小レポート②
	学習成果	ロボット操作の基礎を理解できる。	
	予習復習の内容	操作手順を振り返り整理する。	
3回	授業内容	クラウド上でのロボットシミュレーションを行う。	小レポート③
	学習成果	仮想環境での動作検証を理解できる。	
	予習復習の内容	シミュレーション結果を整理する。	
4回	授業内容	ROS の基本構造と役割について学習する。	小レポート④
	学習成果	ROS の仕組みを踏まえて活用できる。	
	予習復習の内容	資料を確認し理解を整理する。	
5回	授業内容	Linux 環境と Python の基礎を学習する。	小テスト⑤
	学習成果	開発環境の役割を理解できる。	
	予習復習の内容	基本操作を復習する。	
6回	授業内容	AI 支援を用いたプログラミングを行う。	小レポート⑥
	学習成果	AI を活用した作業効率化を理解できる。	
	予習復習の内容	生成されたコードを整理する。	
7回	授業内容	グループでロボット制御課題に取り組む。	小レポート⑦
	学習成果	協力して課題解決に取り組める。	
	予習復習の内容	作業内容を振り返る。	
8回	授業内容	ロボット活用の可能性を整理する。	小レポート⑧ 発表
	学習成果	学習内容を応用して説明できる。	
	予習復習の内容	全体を振り返り理解をまとめる。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	ミュージックテクニックの基礎			担当者	星（ホシ）　律子（リツコ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中又は講師室にて対応する。											
専門的 学習成果	①	音楽理論の基礎を理解し演奏又は作曲、編曲に応用することが出来る。										
	②	楽譜を読む力を身につけ演奏をすることが出来る。										
	③	自身で楽譜を制作し詳細を説明することが出来る。										
	④	基本のコードを理解し演奏に応用することが出来る。										
汎用的 学習成果	(1)	音楽の基礎知識、読譜力の専門的知識を習得することによって音楽的表現につなげることが出来る。（専門的学習成果①②）										
	(2)	コードを習得し曲を分析発表することで自己表現や他者との理解をすることが出来る。（専門的学習成果③④）										
授業概要	演奏、作曲等音楽に関するあらゆることに共通する音楽理論の基礎を学び土台を築くことによって積極的に音楽に関わり豊かな感性で音楽表現を養い表現する喜びや達成感、満足感を持つことが出来る。技術的な礎となる基礎と自ら音楽活動をする基本を身につける。一次表現である創作においては自身の意図が旋律やリズムに反映していくことが出来る。また、ソルステージュで音階を学びながら読譜力を身につけることにより二次表現である演奏で個性を取り入れ独自の表現を完成させていくことが出来る。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	50	小テストを３回実施し各項目の理解を確認し評価する。
		提出物	30	既存の曲を譜面作成しコードネームの理解をキーボードで確認して評価する。
		平常点	20	授業への意欲、態度、取り組みを評価する。
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
		『音楽通論』	教育芸術社
		『楽典ワーク・基礎知識編』	ドレミ楽譜出版社
		『ジュニアクラスの楽典問題集』	ドレミ楽譜出版社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①毎回の授業で参考資料を配布する。５線ノートを準備し資料を参考に音符の練習をする。また、資料に従った問題集で毎回理解度を確認するので同様に各自保管ファイリングし予習、復習に使用し毎回必ず持参すること。（週２時間程度） ②３回の小テストでは授業中に解答、解説を行い結果のフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	音名（イタリア語、英語、日本語）	小テスト　４回目の終盤15分でこれまでの内容の理解を確認する。
	学習成果	音の高さにつけられている固有の名称である音名を学習する。	
	予習復習の内容	音名（イタリア語、英語、日本語）を区分し説明できるようにする。	
2回	授業内容	音符と休符の長さ	
	学習成果	音符や休符を見てそれらが示す長さの割合をすばやく判断できる。	
	予習復習の内容	音符や休符からリズムを説明することが出来る。	
3回	授業内容	拍子と拍子記号	
	学習成果	単純拍子、複合拍子の違いを理解し説明することが出来る。	
	予習復習の内容	楽譜を見てその曲の拍子を説明することが出来る。	
4回	授業内容	音部記号と譜表	
	学習成果	音部記号の形の由来を理解し譜面に書けるようになる。	
	予習復習の内容	５線譜に高音部、低音部記号を書いて理解を深める。	
5回	授業内容	変化記号（♯、♭、♮）	小テスト　８回目の授業終盤15分でこれまでの理解を確認する。
	学習成果	変化記号が付いた音の高さを譜面上で説明することが出来る。	
	予習復習の内容	既存の曲を見て変化記号を説明することが出来る。	
6回	授業内容	変化記号の効力	
	学習成果	調号と臨時記号の違いを理解し譜面を見ながら説明することが出来る。	
	予習復習の内容	変化記号を鍵盤上で応用することが出来る。	
7回	授業内容	強弱記号の意味と読み方	
	学習成果	音の強さを示す強弱記号の意味とイタリア語を読めるようにする。	
	予習復習の内容	楽譜を用いて強弱記号を応用できる。	
8回	授業内容	速度記号と速度標語	
	学習成果	数字によって示す方法と言葉によって示す方法を使い分けることが出来る。	
	予習復習の内容	メトロノームを使用し大体の速度を示すことが出来る。	
9回	授業内容	奏法に関する用語と記号の理解	小テスト　12回目の授業終盤でこれまでの理解を確認する。
	学習成果	音符に記された記号を理解しキーボードで表現することが出来る。	
	予習復習の内容	記号の読みと意味を説明できる。	
10回	授業内容	反復記号の理解	
	学習成果	楽譜を見やすくする省略記号を理解し楽譜の進み方を説明できる。	
	予習復習の内容	既存の曲からどのように演奏するのか説明できる。	
11回	授業内容	楽譜の書き方	
	学習成果	これまでの授業内容を振り返りながら簡単な楽譜を制作することが出来る。	
	予習復習の内容	既存の曲を写譜し楽譜の基本を理解する。	
12回	授業内容	音階（長音階、短音階）の成り立ち	
	学習成果	理論上からと演奏上から音階の違いと組み立て方を理解する。	
	予習復習の内容	既存の曲をキーを変えて歌ったり演奏して理解する。	
13回	授業内容	和音の種類と和音記号の理解	既存の曲を使って和音とコードネームをつけて楽譜を完成させる。
	学習成果	高さの異なる２つ以上の音が同時に響く和音の組み合わせを理解する。	
	予習復習の内容	３和音の種類と和音記号をつかって楽譜に記してみる。	
14回	授業内容	音程と度数の理解	
	学習成果	音符間の度数から音程を割り出しそれぞれの違いを理解できる。	
	予習復習の内容	キーボード上で音程を確かめる。	
15回	授業内容	コードネームの理解	
	学習成果	３和音についているコードネームを覚えそれだけで楽譜を演奏したり理解できる。	
	予習復習の内容	楽譜に記してあるあらゆる記号の理解を深める。	

科目名	作詞・作曲の基礎			担当者	榊原光裕（サカキバラミツヒロ）							
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	講義の前後にスタジオで受け付ける。											
専門的学習成果	①	作詞作曲のノウハウについて述べることができる。										
	②	自分自身の心の中の言葉を見つけながら作詞することができる。										
	③	メッセージの発信、物語の創作の観点から自己表現をもとにした作詞ができる。										
	④	心に浮かんだメロディを、PCアプリなどを利用して曲として作品化できる。										
	⑤	お互いの自己表現の価値を高めるような相互評価ができる。										
汎用的学習成果	(1)	作詞・作曲に関する知識と技能を習得し、そこから「ものづくり」の考え方を学び、社会的・職業的自立の実践につなげることができる。（専門的学習成果①④に関連）										
	(2)	自分の心象風景を見つめることで、精神的背景を再確認し、自己表現の可能性を高め、他者理解を深めることができる。（専門的学習成果②～⑤に関連）										
	(3)	作詞、作曲の過程で行う様々な作業を活用して、問題解決の能力を高め、他者との協働をすることができる。（専門的学習成果①～⑤に関連）										
授業概要	作詞作曲に関する基礎知識・ノウハウ等を学びながら、オリジナル楽曲を創作し、それを自信の声、または友人の助けを借りて歌唱し、録音して音楽作品として提出する。作品の編曲、伴奏については教師がサポートするが、各個人の知識・経験度などの力量に応じて、それらを行う場合は加点評価する。単に音楽的技術の習熟度や作品の完成度のレベルを評価対象とするのではなく、各自が自分のレベルに応じて、どのように努力し、独自の作品を作り上げるかを評価する。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		課題提出	50	作詞・作曲の過程で提出する課題が各10%（計20%）。最終課題（録音作品）は30%
		作品に対する創意工夫	20	音楽的一定レベルの習得ではなく、各個人の取組姿勢と向上度を評価する。
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は、専門的学習成果①④で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②～⑤で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①～⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①　創作活動は、授業時間内だけで実現できるものではないので、各自が時間外においても創作に対する気持ちを維持することが重要である。（週、最低4時間程度）また、日常的に聞く音楽に対して、その詞の要素、曲の要素に着眼して、分析的に聴くように試みること。特に、曲（詞）の構造、演奏の形態（楽器の使用法）等について、それぞれの楽曲による違いを探ること。また、自分の心の中の風景（イメージ）を見つめ、その中にある物語を表現することを意識すること。　②　各学生の作品を、合評会において相互評価（コメント）する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション（作詞、作曲とは）	作詞作品を提出する 表現方法について教員と論じる機会を設け、平常点として評価する
	学習成果	作詞作曲の概要を説明できる	
	予習復習の内容	日常耳にする音楽を、作詞作曲という観点から聞く習慣を身につける	
2回	授業内容	＜作詞＞　作詞の基礎　―　身のまわりに素材を求める	
	学習成果	自分の言葉を自由連想で羅列するマインドマップを作成できる	
	予習復習の内容	身の回りの何気ないもの、動きなどに意識を向ける	
3回	授業内容	詩と詞の違いは？　詞で表されるストーリーとメッセージ	
	学習成果	自己表現の指向性を意識することができる	
	予習復習の内容	喋り言葉、書き言葉とも異なる歌い言葉を意識する	
4回	授業内容	歌いやすく聴きやすい詞にするには　―　表現のテクニック	
	学習成果	表現のなかでの、言葉の扱いを知り、適切な表現ができる	
	予習復習の内容	論理構造や文法に頼らない言葉の持つ力を感じる	
5回	授業内容	＜作曲＞　楽器が弾けなくても曲は作れる　―　自分の声に耳をすます	
	学習成果	音楽的知識や楽譜読解、楽器演奏ができなくとも作曲できる	
	予習復習の内容	「だれでも歌える」ことを意識する	
6回	授業内容	歌いやすいメロディ、覚えやすいメロディとは	
	学習成果	言葉やメロディの繰り返しの効果を説明できる	
	予習復習の内容	日常聞く音楽の「繰り返し」を意識する	
7回	授業内容	コード　曲作りの強力アイテム	作曲（メロディ）作品を提出する 表現方法について教員と論じる機会を設け、平常点として評価する
	学習成果	コード（和音）が曲の雰囲気を変えることを実践できる	
	予習復習の内容	曲による雰囲気の違いに耳を傾ける	
8回	授業内容	曲の構造を知る　―　サビの威力	
	学習成果	サビが聞く人の心に与える力について実践できる	
	予習復習の内容	曲を構造的に聞く	
9回	授業内容	＜編曲＞　アレンジの力　―　ジャンルと楽器編成を知る	
	学習成果	世界の様々なジャンルの音楽について論じることができる	
	予習復習の内容	自分の好きなジャンルが、どのような楽器で演奏されているか意識する	
10回	授業内容	曲を料理する　―　素材を活かしながら、思い思いの味付けを	
	学習成果	楽器や伴奏法などによって、曲の性質が変化することを論じることができる	
	予習復習の内容	様々な音楽のバラエティ（表現の広さ）を意識する	
11回	授業内容	曲で表現する　―　誰に聞いてもらうのか	
	学習成果	表現の受け手（相手）の心の動きを意識した作曲ができる	
	予習復習の内容	自分の感じることを、他者の気持ちに置き換えることを意識する	
12回	授業内容	＜実習＞　自分の歌を録音し、作品化する	最終作品（録音された音楽）を提出
	学習成果	自分の声に耳を傾け、推敲しながら作品化できる	
	予習復習の内容	鼻歌を歌ってみる	
13回	授業内容	録音作品化（継続）	
	学習成果	表現の幅を広げた作品を作ることができる	
	予習復習の内容	他者に伝える声を意識する	
14回	授業内容	録音作品化（継続）	
	学習成果	今までの技術をもとに、より完成度を高めた作品を作ることができる	
	予習復習の内容	音楽として完成していく過程を意識する	
15回	授業内容	合評会、自己評価	相互評価を受け、最終的自己評価を行う
	学習成果	他者の評価を受け取り、自分の創作・表現を再認識することができる	
	予習復習の内容	（鑑賞者＝消費者としてではなく）創作者としての評価の仕方を考える	

科目名	リズムトレーニング			担当者	星（ホシ）　律子（リツコ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中又は講師室にて行う。											
専門的学習成果	①	アンサンブルを通してお互いの役割を理解しあい実践することが出来る。										
	②	楽譜を読む力を養い瞬時に対応することが出来る。										
	③	読譜を通してテンポ感、リズム感、ビート感を養い応用することが出来る。										
	④	完成した曲を学内で発表することによって演奏者、聴衆の関係の中で他者との共感を持つことが出来る。										
汎用的学習成果	(1)	トーンチャイムアンサンブルを習得することにより自己表現と他者理解が出来る。（専門的学習成果①④）										
	(2)	ジャンベ、トーンチャイムを表現の手段とし専門的知識や技能を身につけ積極的な表現方法を探求することが出来る。（専門的学習成果①②③）										
授業概要	ジャンベ、トーンチャイムを使用し音楽の基本であるリズムを楽譜から又は聴き取りながらテクニックを身につける。各楽器での演奏は主旋律と伴奏の担当がありその区別を理解することにより演奏しながらお互いの音に注意を向けることによって役割が明確になる。また、観察力、判断力が養われ関心→意欲→創造→音楽表現へとアンサンブル内容が充実したものとなり表現する喜びと他者との協力の上に成り立つ責任感、満足感、達成感を理解し社会生活においても応用することが出来る。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	20	各20%を２回実施し正確にリズム譜を演奏できるかの評価を行う。
		学内発表	60	各自のパートに責任を持ち演奏できることを判断する。
		平常点	20	発表やアンサンブルへの取り組み、意欲を判断する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果の評価は上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	大石由紀子著	『トーンチャイムのためのブライダル曲集』	サーベル社
	大石由紀子著	『トーンチャイムのためのスタジオジブリ作品集』	サーベル社
	大石由紀子著	『トーンチャイムのためのクリスマスソング集』	サーベル社
	大石由紀子著	『トーンチャイムのためのＪポップ集』	サーベル社
	大石由紀子著	『トーンチャイムのためのクラシック曲集』	サーベル社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①配布される楽譜は各自ファイリングし自分のパートに印をつけ保管すること。事前学習として受け持ちのパートのリズム譜を練習すること。（週１時間程度）アンサンブル終了後出来ない場所を反復練習すること。（週１時間程度） ②小テスト、各回のアンサンブルでリズム譜を確認、解説し小テスト実施後フィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ジャンベ、簡易打楽器の奏法	小テスト　４回目授業の終盤に行う。ビートに合わせて反復リズムが出来るようになる。
	学習成果	楽器の奏法を理解し反復練習でリズムを体で表現できる。	
	予習復習の内容	覚えたリズムを繰り返し練習すること。	
2回	授業内容	リズムとビート	
	学習成果	リズムとビートの違いを理解しお互いの音を聴きとることが出来る。	
	予習復習の内容	普段聴いている曲のビートを理解する。	
3回	授業内容	ジャンベアンサンブル	
	学習成果	違うリズムを組み合わせビートに乗りながら演奏できる。	
	予習復習の内容	自身の受け持ったリズムを反復練習する。	
4回	授業内容	ラテンのリズム	
	学習成果	リズム譜を使って読譜力を身につけ、曲に合わせてアンサンブルを体験する。	
	予習復習の内容	ラテン楽器の奏法と名称を覚える。	
5回	授業内容	トーンチャイム奏法	学内発表を通して受け持ちのチャイムを正確に読譜してアンサンブルの質を高める。
	学習成果	トーンチャイムで簡単な曲の主旋律を演奏しながら読譜力を養う。	
	予習復習の内容	音名を読めるようにする。	
6回	授業内容	トーンチャイムアンサンブルの基礎	
	学習成果	クリスマスコンサートに向けて６曲、曲目選択と受け持ちの音を決め楽譜を制作する。	
	予習復習の内容	自分の受け持ちの音名を読めるようにする。	
7回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル１　クラシック曲とジブリ作品集	
	学習成果	コンサートの曲２曲を個々に練習し授業終盤にアンサンブルで役割を理解する。	
	予習復習の内容	担当の音を演奏するリズムを確認する。	
8回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル２　クリスマス曲集	
	学習成果	前回の曲をアンサンブル練習し完成させ新の曲を譜読みする。	
	予習復習の内容	担当のチャイムでできないところは個々に練習する。	
9回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル３　クリスマス曲とＪポップ曲集	
	学習成果	クリスマス曲を完成させ新曲の譜読みと個々の練習をする。	
	予習復習の内容	担当の音に印をつけリズムを理解する。	
10回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル４　クリスマス曲とブライダル曲	
	学習成果	Ｊポップアンサンブルのビート感覚を理解する。	
	予習復習の内容	ジャンベで学んだビートをトーンチャイムアンサンブルに応用する。	
11回	授業内容	トーンチャイムアンサンブル５	
	学習成果	コンサート全曲のアンサンブルを練習しお互いの役割を再確認する。	
	予習復習の内容	楽譜を理解し自分の担当に責任を持つ。	
12回	授業内容	学内発表	
	学習成果	演奏者として音楽表現を聴衆に伝えることとアンサンブルの楽しさを理解する。	
	予習復習の内容	自分達の演奏結果と聴衆がどのように反応したのかを分析する。	
13回	授業内容	２重奏のアンサンブル	小テスト15回目の終盤で行う。デュエット、トリオの小編成アンサンブルから役割分担を理解し全パートをリズム演奏できるようにする。
	学習成果	二人組でリズム譜をジャンベを使って演奏し読譜力を確認する。	
	予習復習の内容	担当のリズムを個々に練習する。	
14回	授業内容	３重奏のアンサンブル	
	学習成果	ジャンベでトリオを組みビートとリズム担当に別れそれぞれの音を聴きあう。	
	予習復習の内容	リズムが明確に聞こえるよう反復練習をする。	
15回	授業内容	２重奏と３重奏のアンサンブル	
	学習成果	これまでの曲を役割を変えながら復習しどのパートでも演奏可能にする。	
	予習復習の内容	担当のパート以外も譜読みをしておく。	

科目名	ヴォーカルトレーニング			担当者	庄子（ショウジ） 眞理子（マリコ）							
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後											
専門的学習成果	①	腹式呼吸で発声できる。										
	②	発声するために身体を使うことができる。										
	③	発声のために必要な呼吸法ができる。										
	④	基本的な音楽用語を覚え読譜力を身につけ音楽を表現できる。										
	⑤	腹式呼吸での発声で歌・音楽・言葉を表現できる。										
汎用的学習成果	(1)	腹式呼吸による発声で言葉をはっきり話すなど職業的自立に活用できる。（専門的学習成果①②③⑤）										
	(2)	腹式呼吸の発声で人前で話すこと、声を出すことに自信を持ち自己表現ができる。（専門的学習成果①②③⑤）										
	(3)	ヴォーカルトレーニングを通して習得した音楽の知識や技能を活用し地域社会の発展に貢献できる。（専門的学習成果①②③④⑤）										
授業概要	ヴォーカルトレーニングでは喉を使った胸式呼吸の発声ではなく、腹式呼吸で身体を使った発声を身に着けていく。そのために必要なストレッチ、呼吸法などのトレーニングを積み重ねていく。カラオケなどでは喉を絞めた状態で歌うことが多いが、喉を開けることを意識した練習も取り入れる。できるだけ一人ずつ発声のチェックを行い指導していく。音楽に必要な読譜力、音楽用語の知識を身に着け音程を正確にとり表現力を高めていき歌う楽しさを学ぶ。また、人前でもはっきりとした言葉で自信をもって声を出し表現する力を養う。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	10	基本的な音楽用語の筆記試験を行い評価する。								
		実技	40	課題曲・ソルフェージュの実技試験を一人ずつ行う。								
		平常点	50	授業態度・取り組み・意欲により評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①ストレッチなど身体を動かすこともあるので動きやすい服装で授業に臨むこと。配布された楽譜・プリントは各自ファイルなどにまとめ忘れないようにすること。単元ごとに行ったプリント・楽譜をよく理解しておくこと（予習１時間程度）。 ②授業の中で音楽用語の課題を行い返却解説を行う。積み重ねが大事な授業なので授業内での発表・態度などが評価の対象となる。定期試験は授業の中で行い音楽用語の筆記試験・一人ずつのソルフェージュ・歌唱発表となる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ヴォーカルトレーニングとは何か	小テスト音楽用語ソルフェージュ
	学習成果	ヴォーカルトレーニングの学習方法を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	配布された楽譜と音楽用語を覚える。	
2回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方	
	学習成果	実際にからだを動かし、腹式呼吸・呼吸法・発声ができる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。	
3回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュで読譜、音程の取り方	
	学習成果	腹式呼吸で、ソルフェージュを歌い発声できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。読譜の練習。	
4回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
	学習成果	腹式呼吸で、ソルフェージュを歌い発声できる。課題曲を覚える。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。課題曲の練習。	
5回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法。発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲を練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し。課題曲を練習。	
6回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	小テスト課題曲
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲を練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し。課題曲を練習。	
7回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲のまとめ。音楽用語の理解	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲をまとめる。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。課題曲を覚える。	
8回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法。発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い、新課題曲を覚える。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。課題曲を覚える。	
9回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	小テスト音楽用語ソルフェージュ
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲を練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し、課題曲を練習。	
10回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲の練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し課題曲を練習。	
11回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解。	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲の練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し課題曲の練習。	
12回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解	小テスト
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲の練習。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し課題曲の練習。	
13回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。ソルフェージュ課題曲の練習。音楽用語の理解。	
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュを歌い課題曲を暗譜する。音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	腹式呼吸の練習。音楽用語を理解し課題曲を暗譜する。	
14回	授業内容	腹式呼吸・呼吸法・発声の仕方。試験に向けて課題曲の練習。	
	学習成果	ソルフェージュ、課題曲、音楽用語を覚える。	
	予習復習の内容	試験範囲の練習。	
15回	授業内容	ソルフェージュ。課題曲。音楽用語の試験。	実技試験　音楽用語試験
	学習成果	腹式呼吸でソルフェージュ、課題曲を歌い音楽用語を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	ソルフェージュ、課題曲、音楽用語を覚える。	

科目名	バンドアンサンブル				担当者	那須尚平（ナス ショウヘイ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける											
専門的学習成果	①	音楽理論を基に楽器を演奏することができる										
	②	ポピュラー音楽の歴史的背景を論じることができる										
	③	アンサンブルの知識やノウハウを習得し総合的な音楽操作ができる										
	④	イベントや制作業務に携ることにより、積極的に社会との繋がりを持つことができる										
汎用的学習成果	(1)	楽器演奏を基に社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる（専門的学習成果①③に関連）										
	(2)	音楽理論や音楽史を基に論理的思考、自己表現、他者理解ができる（専門的学習成果②④に関連）										
	(3)	イベントや制作業務に携ることにより、協働し地域社会の発展に積極的に貢献することができる（専門的学習成果②④に関連）										
授業概要	ギター、ベース、ドラムスやその他の楽器の演奏を通して、ポピュラーミュージックの基礎の理解と、バンドアンサンブル力の習得を目標とする。様々なイベントやライブでの演奏、レコーディングやCDの制作を目指す。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		演奏法習得力	40	授業時の演奏やライブ等の発表で評価する
		授業参加の積極性	40	授業中や制作業務への意欲、態度を評価する
		準備物他	20	授業やイベント、制作業務の準備について総合的に評価する
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		資料随時配布	

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
		各種バンドスコア等	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各々のレベルに応じた演奏技術の習得を目指すため、経験の有無は問わない。 積極的な授業参加とバンド運営を期待する。 １週間に１～２時間、授業中で学習した楽器の演奏方法を復習されたい。 ただし、楽器が使用不可能な場合は、配布したプリントの復習や演奏のイメージトレーニングを奨励する。 ②前回の内容をふまえつつ、授業内で技術のフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション	授業中や制作業務への意欲、態度を評価する。 授業時の演奏を評価する。 授業やイベント、制作業務の準備について総合的に評価する。
	学習成果	このコースの内容や音楽的教養について論じることができる	
	予習復習の内容	五線譜、ギター用ピックの準備	
2回	授業内容	基本リズムの歴史	
	学習成果	資料や音源による音楽基礎について説明できる	
	予習復習の内容	配布資料の復習	
3回	授業内容	ポップスの歴史	
	学習成果	資料や音源による音楽基礎について説明できる	
	予習復習の内容	配布資料の復習	
4回	授業内容	基本コードの歴史	
	学習成果	Eギター、パワーコードを理解し実践できる	
	予習復習の内容	配布資料を使い、パワーコードフォームの復習	
5回	授業内容	ロックの歴史	
	学習成果	Eギター、パワーコードを理解し発展の歴史を説明できる	
	予習復習の内容	パワーコードフォームの復習	
6回	授業内容	バンドアンサンブルの基礎（楽器）	
	学習成果	各楽器の特性や仕組みを説明できる	
	予習復習の内容	各楽器の復習	
7回	授業内容	基礎アンサンブル（読譜）	
	学習成果	課題曲１を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	読譜方法の復習	
8回	授業内容	基礎アンサンブル（理解）	
	学習成果	課題曲１を理解し実践できる	
	予習復習の内容	課題曲の譜面読譜の復習	
9回	授業内容	基礎アンサンブル（実践）	
	学習成果	課題曲１を理解し実践できる	
	予習復習の内容	課題曲の譜面読譜の復習	
10回	授業内容	基礎アンサンブル（総合）	
	学習成果	課題曲１を理解し実践できる	
	予習復習の内容	課題曲の譜面読譜の復習	
11回	授業内容	バンドアンサンブルの基礎（演奏）	
	学習成果	各楽器の基本的な演奏方法について説明できる	
	予習復習の内容	演奏の基礎知識の復習	
12回	授業内容	基礎アンサンブル（ドラム）	
	学習成果	各楽器（ドラム）の基礎的な演奏ができる	
	予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する	
13回	授業内容	基礎アンサンブル（ベース）	
	学習成果	各楽器（ベース）の基礎的な演奏ができる	
	予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する	
14回	授業内容	基礎アンサンブル（バンド）	
	学習成果	バンドを組み、演奏できる	
	予習復習の内容	各楽器の役割を理解する	
15回	授業内容	基礎アンサンブル（バンド）	
	学習成果	バンドを組み、演奏できる	
	予習復習の内容	各楽器の役割を理解する	

授業計画			学習成果の評価
16回	授業内容	バンドアンサンブルの応用（演奏）	
	学習成果	課題曲２を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	読譜力の定着	
17回	授業内容	応用アンサンブル（読譜）	
	学習成果	課題曲２を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	読譜の復習	
18回	授業内容	応用アンサンブル（理解）	
	学習成果	課題曲２を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	読譜の復習	
19回	授業内容	応用アンサンブル（読譜）	
	学習成果	課題曲２を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	読譜の復習	
20回	授業内容	応用アンサンブル（理解）	
	学習成果	課題曲２を理解し読譜できる	
	予習復習の内容	読譜の復習	
21回	授業内容	バンドアンサンブルの応用（楽器）	
	学習成果	各楽器の演奏方法について説明できる	
	予習復習の内容	演奏方法の復習	
22回	授業内容	応用アンサンブル（ドラム）	
	学習成果	各楽器（ドラム）の実践的な演奏ができる	
	予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する	
23回	授業内容	応用アンサンブル（ドラム）	
	学習成果	各楽器（ドラム）の実践的な演奏ができる	
	予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する	
24回	授業内容	応用アンサンブル（ベース）	
	学習成果	各楽器（ドラム）の実践的な演奏ができる	
	予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する	
25回	授業内容	応用アンサンブル（ベース）	
	学習成果	各楽器（ドラム）の実践的な演奏ができる	
	予習復習の内容	各楽器の特性や仕組みを理解する	
26回	授業内容	応用アンサンブル（バンド）	
	学習成果	バンドを組み、実践的な演奏ができる	
	予習復習の内容	読譜の復習	
27回	授業内容	応用アンサンブル（バンド）	
	学習成果	バンドを組み、実践的な演奏ができる	
	予習復習の内容	読譜の復習	
28回	授業内容	ライブ実習１（連続授業）	イベント制作業務の準備やライブでの演奏法を評価する。
	学習成果	制作準備をスムーズにこなし、演奏力が定着できる	
	予習復習の内容	スケジュールの予習、読譜の復習	
29回	授業内容	ライブ実習２（連続授業）	
	学習成果	演奏力の定着	
	予習復習の内容	読譜の予習	
30回	授業内容	ライブ実習３（連続授業）	
	学習成果	演奏力の定着	
	予習復習の内容	読譜の復習、まとめ	

科目名	茶道				担当者	鎌田 文恵（カマタ ブンケイ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後にオフィスアワーを設ける

専門的学習成果	①	茶道における初めの一歩であり、基本動作でもある「薄茶点前」を行うことができる。
	②	利休の教えである「和敬静寂」の理念を説明できる。
	③	「利休七則」に則り、一碗を通して相手を思いやり、もてなすことができる。
	④	茶道の歴史から茶器や墨蹟などの諸芸術に対する造詣を考察することができる。
	⑤	閑寂の知見を広め、自己を内省し、実社会へ適用できる。
汎用的学習成果	(1)	茶道の作法を通して、人との関わりに必要な自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①②③④)
	(2)	人間関係の尊重、集団の規律を遵守を通して、協働し、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果②③④⑤)

授業概要	仏教を建学の精神とする本学園の方針に基づき、日本の伝統的精神文化である茶道の作法を通じて、国際社会に生きる日本人としての基礎的資質を育むとともに豊かな情操を養い人格完成を目指す学習を行う。 具体的には運び、薄茶点前を行う。 特に人間相互の関係を尊重しあいながら集団の規律を遵守し、相手を思いやる心を養い、実技を通じて礼儀作法、点前の基礎、使用する茶器や花を通じて美的感覚を身につける。 具体的には茶会を行う。

	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
評価方法基準等	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		実技試験	50	各種点前、礼儀作法の内容を評価する。
		平常点	50	実習への取り組み・意欲・態度により評価する。随時到達度、理解の程度を確認する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 （2）は専門的学習成果②③④⑤により評価を行う。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等		『裏千家茶道』	淡交社
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①帛紗、古帛紗、扇子、懐紙、足袋（白ソックス）一括購入約5,000円と実習費6,000円がかかる。 裏千家初級が習得できる。(許状申請も可能) 時間外学習（30時間）として、点前に必要な基本動作を習得するまで繰り返し稽古に励むことを挙げたい。一方で茶道の理念ともいうべき精神文化に触れる機会も見いだすこと。 具体的な方法としては茶室を訪れ、露地（茶室の庭）を散策し、さらには博物館や美術館などの文化施設に足を運ぶなどして精神的、普遍的教養を身に付ける。 ②小テスト後や実技試験後に具体的な作法の注意点について指摘し、解説を行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	茶道とは何か。歴史、意義など	美しい姿でお辞儀等の所作振る舞いができるかを確認
	学習成果	茶道の精神性への理解	
	予習復習の内容	四規、和休七則の熟読玩味	
2回	授業内容	基礎、基本の実技	
	学習成果	茶道具の扱い方	
	予習復習の内容	茶道具の名称、使い道を知る	
3回	授業内容	座る、立つ、歩くの基本動作	
	学習成果	滞りない一連の動き	
	予習復習の内容	基本動作の体得	
4回	授業内容	礼節の基本。お辞儀、ふすまの開閉など	
	学習成果	正しい姿勢を保つ	
	予習復習の内容	「真・行・草」の習得	
5回	授業内容	割り稽古	各茶道具の適切な扱いができるかを確認
	学習成果	基本動作、道具扱いの習得	
	予習復習の内容	反復練習	
6回	授業内容	帛紗の扱い方	
	学習成果	茶器を正しく拭き、腰に付ける	
	予習復習の内容	反復練習	
7回	授業内容	棗（なつめ）の清め方	
	学習成果	正しく扱い、帛紗で清める	
	予習復習の内容	反復練習	
8回	授業内容	茶杓の扱い	
	学習成果	正しく扱い、清める	
	予習復習の内容	反復練習	
9回	授業内容	茶巾の扱い	
	学習成果	主旨は清浄、清潔、たたみ方を知り、碗に仕組める	
	予習復習の内容	反復練習	
10回	授業内容	茶筅の扱い	
	学習成果	正しく扱う	
	予習復習の内容	反復練習	
11回	授業内容	茶碗の清め方	
	学習成果	茶巾を仕組み、茶碗を清める	
	予習復習の内容	反復練習	
12回	授業内容	柄杓の扱い　等	
	学習成果	湯水の汲み方、収め方を会得	
	予習復習の内容	置き、切り、引きの反復練習	
13回	授業内容	客の心得、お茶、お菓子のいただき方	
	学習成果	美しい所作で茶をいただく	
	予習復習の内容	茶会への自主的参加	
14回	授業内容	風炉薄茶点前①　道具	上手に茶を点てることができるかを評価
	学習成果	道具を運び、正確な位置に座す	
	予習復習の内容	足の運び、道具の扱いの反復練習	
15回	授業内容	風炉薄茶点前②　建水、柄杓	
	学習成果	建水を持ち出し、柄杓の引き方を学ぶ	
	予習復習の内容	指先、手の動きなど細部にわたる自己研鑽	

授業計画			学習成果の評価
16回	授業内容	茶道の精神	
	学習成果	和敬清寂、利休七則の理解	
	予習復習の内容	自己を顧みつつ、先達に思いを致す	
17回	授業内容	風炉薄茶点前③　運び	上手に茶を点てることができるかを評価
	学習成果	道具を運び、点てることができる	
	予習復習の内容	客と亭主、それぞれの立場を理解する	
18回	授業内容	風炉薄茶点前④　手前	
	学習成果	人前で茶を出し、片付けの手前ができる	
	予習復習の内容	心を込めて茶を点てる	
19回	授業内容	風炉薄茶点前⑤　動作	流れるような点前ができるか一連の動作を確認
	学習成果	滞りない一連の動作ができる	
	予習復習の内容	姿勢、動作の反復練習	
20回	授業内容	風炉薄茶点前⑥　点茶	上手に茶を点てることができるかを評価
	学習成果	滞りない一連の動作ができる	
	予習復習の内容	姿勢、動作の反復練習	
21回	授業内容	風炉薄茶点前⑦　点茶	
	学習成果	滞りない一連の動作ができる	
	予習復習の内容	姿勢、動作の反復練習	
22回	授業内容	風炉薄茶点前⑧　総合	流れるような点前ができるか一連の動作を確認
	学習成果	滞りない一連の動作ができる	
	予習復習の内容	姿勢、動作の反復練習	
23回	授業内容	風炉薄茶点前⑨　確認	上手に茶を点てることができるかを評価
	学習成果	正しい姿勢を保つ	
	予習復習の内容	鏡に自分を映し確認	
24回	授業内容	風炉薄茶点前⑩　確認	
	学習成果	正しい姿勢を保つ	
	予習復習の内容	反復練習	
25回	授業内容	風炉薄茶点前⑪　点前	流れるような点前ができるか一連の動作を確認
	学習成果	滞りない一連の動作ができる	
	予習復習の内容	反復練習	
26回	授業内容	風炉薄茶点前⑫　道具の拝見	客、亭主の立場を理解し適切な立ち居振る舞いができる
	学習成果	無の心での点前の実践	
	予習復習の内容	自己を顧みつつ、茶道の精神の理解	
27回	授業内容	風炉薄茶点前⑬　道具の拝見	
	学習成果	茶道具の鑑賞	
	予習復習の内容	書籍、美術館への探訪	
28回	授業内容	風炉薄茶点前⑭　道具の拝見	
	学習成果	滞りない動作で客をもてなすことができる	
	予習復習の内容	水屋での準備、計画を立てる	
29回	授業内容	客の心得、水屋の心得、道具の拝見	
	学習成果	相手を慮る	
	予習復習の内容	亭主の立場の理解	
30回	授業内容	お祝いの茶事	
	学習成果	茶事を体験し、茶の湯の味わいを知る	
	予習復習の内容	一年間の授業を終え、改めて「茶道とは」に思いを致す	

科目名	ボイストレーニング（声優）			担当者	三浦貴子（ミウラタカコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的学習成果	①	人が声を発する仕組みを理解し、大きく張りのある声が出すことができる。										
	②	敬語、アクセント等を意識し、正しく美しい日本語を話すことができる。										
	③	日常生活の話し方と、声を仕事にする話し方の違いを理解し、表情豊かに表現ができる。										
汎用的学習成果	(1)	正しい日本語の発声を学び、堂々と人と関わる力をつけることを通して、社会的・職業的自立につなげることができる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	敬語の使い方や正しい発音を学ぶことを通して、他者を理解し、論理的な思考で問題を解決する能力を有し、協働することができる。（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	声に関わる仕事の専門的知識や技能を活用して、豊かな自己表現ができる。（専門的学習成果②③に関連）										
授業概要	声の仕事とは何か。声優、ナレーター、MC、レポーター、アナウンサー等、声を使うエンターテイメント業界の仕組みを知り、人を惹きつける活き活きとした話し方を学ぶ。「呼吸」「共鳴」「発音」３段階で正しい日本語の発し方を理解し、日々のトレーニングを重ねることで、自身の魅力的な声を手に入れる。さらに、正しく美しい日本語の使い方、場面にあわせた表現の仕方を覚え、自信を持って人と関わることのできるコミュニケーション能力を高めていく。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		平常点	20	声の大きさ、照れずに取り組む姿勢、態度、学校行事「キャリアフェスティバル」への参加意欲で評価する。
		実技小テスト	20	「外郎売り」「ニュース」の読みで２回の実技試験を行い評価する。
		課題発表	60	「キャラクター」「番組ナレーション」「CMナレーション」の３つの課題の制作内容、作品の仕上がりで評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①で評価を行う。 （2）は専門的学習成果②で評価を行う。 （3）は専門的学習成果②③で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
		プリント配付	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	NHK 放送文化研究所	『日本語発音アクセント新辞典』	NHK 出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①配付するプリント資料をもとに授業を進める。 事前学習として、最初の授業で伝える、胸式・腹式呼吸練習、発音滑舌練習、腹筋を中心とする筋力トレーニングを毎日行うこと。（１日15分＝週１時間45分程度） 授業内容理解のため、テキストを読み、声に出して予習してくること。特に、前の授業で告知する次回の課題については、繰り返し声に出し練習し、授業に臨めるようにしておくこと。（予習：週１時間30分程度） 事後学習として、授業での内容を意識し、数多くの人との「会話」を実践して、理解を深めるようにすること。（復習：週２時間程度） ②実技テストでは、その場で良い点、改善を進める点を指摘する。 課題発表は、終了後にその場で良い点、改善を進める点を伝え、解説評価を行うとともに、同じ受講学生の皆さんからの感想を聞いてもらう。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	声の仕事について	取り組み：発声発音トレーニング
	学習成果	声を使う仕事の概要とプロへの道程を把握し、ふだんの生活の道具である声との違いについて理解を深める。	
	予習復習の内容	ガイダンスで伝える正しい発声のためのトレーニング（呼吸・腹筋）を毎日実践する。	
2回	授業内容	声の基礎をつくる	取り組み：腹式呼吸の習得
	学習成果	声の材料である息の使い方、及び、胸、口、鼻での響かせ方を理解し、豊かな声を発することができる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、響かせ方で変化する自分の声を全身で確認する。	
3回	授業内容	自分の声を確かめる	取り組み：照れなく大きな声が出せるか
	学習成果	喉を開くことを覚える。長時間でも疲れずに、大きな声が出せるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、テキスト内の指示した文章を読みこなせるように練習する。	
4回	授業内容	正しい発音で話す：あ～な行	実技小テスト：「外郎売り」
	学習成果	基本の母音、及び50音の前半「な行」までの正しい口の形を覚え、きれいな発音ができるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、テキストあ～な行の発音練習文を正しく読めるように練習する。	
5回	授業内容	正しい発音で話す：は～わ行	
	学習成果	50音の後半「は～わ行」の正しい口の形を覚え、きれいな発音ができるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、テキストは～わ行の発音練習文を正しく読めるように練習する。	
6回	授業内容	滑舌をよくする	
	学習成果	口の形の切り替えを素早く行い、歯切れの良い発音ができるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、「外郎売り」の練習をはじめる。	
7回	授業内容	アクセント	実技小テスト：「ニュース」
	学習成果	単語の音には一つ一つアクセントがあることを理解し、正しい発音ができるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、アクセント辞典の使い方を把握し、ふだんの生活から意識する。	
8回	授業内容	イントネーション	
	学習成果	文章は音の高低で文脈が変化することを理解し、正しく伝わる表現ができるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、長い文章を安定して読めるように練習する。	
9回	授業内容	イベントMCの基本	取り組み：キャリアフェスティバルMC
	学習成果	学校行事「キャリアフェスティバル」のMCのシナリオを基に司会の仕事の基本を理解する。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、シナリオに頼り切らず、人前で自然に話しかける練習をする。	
10回	授業内容	リポートの基本	
	学習成果	パブリシティ番組や天気予報など、ラジオ・テレビのリポーターの仕事を理解し、表現できるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、周囲に興味を持ち、表現する題材を見つけられるようになる。	
11回	授業内容	プロミネンスとポーズ	
	学習成果	文章の中で、強弱と間を使い分け、相手が理解しやすいように伝えることができる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、多くのラジオ番組を聴き各パーソナリティの表現に触れてくる。	
12回	授業内容	キャラクターの声	課題発表：キャラクター
	学習成果	場面にあわせ、声質を使い分けて表現することができるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、少なくとも３つ以上のキャラクターの声が表現できる。	
13回	授業内容	番組ナレーション	課題発表：番組ナレーション
	学習成果	バラエティ、報道、ドキュメンタリー、制作の意向にそった表現ができるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、自分の声や個性にあいそうな実在の番組をみつけ模倣をする。	
14回	授業内容	CMナレーション：原稿作り・練習	課題発表：CMナレーション
	学習成果	短い言葉で最大限のアピールが必要なCMナレーションで、思い切り表現できるようになる。	
	予習復習の内容	発声のためのトレーニングに重ねて、作品の参考になるように多くのCMナレーションを聴く。	
15回	授業内容	CMナレーション：作品発表	
	学習成果	自分の個性を活かしたオリジナルのCMで、声の魅力を胸を張って伝えることができるようになる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、仕事として声で表現することについて理解を深める。	

科目名	発酵食品概論				担当者	丸山（マルヤマ）　穣（ユタカ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的学習成果	①	醗酵と腐敗の違いを説明できる。										
	②	醗酵に必要な条件を説明できる。										
	③	どのような醗酵食品があるか挙げることができる。										
	④	醗酵食品の有効性を説明できる。										
	⑤	味噌・醤油・酒など、製造の過程を説明できる。										
汎用的学習成果	(1)	食品加工の上で重要な役割をもつ醗酵の基礎を学ぶことで、社会的・職業自立につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(2)	醗酵の過程や先人たちの工夫を学ぶことで、論理的な思考を行うことができる。（専門的学習成果①②④⑤に関連）										
	(3)	正しい醗酵の知識、醗酵食品の活用方法を学ぶことで、疑似科学等を排し、健全な社会形成に貢献できる。（専門的学習成果②③④⑤に関連）										
授業概要	味噌、醤油、納豆はもちろん、パン、コーヒー、紅茶やチョコレートも醗酵の技術を利用している。醗酵というものが何なのか、そこで働く主役、酵素、微生物を知る。様々な醗酵食品を概観する。日本の食文化に特に深く関わりの深い麹菌について、諸性質や働きを知り、どこでどのように活用されているか知る。身近な食品を幾つか取り上げ、その製造過程で微生物や酵素がどのように働いているか、また我々はどう利用しているかを知る。酵素の働きや性質、醗酵食品の正しい知識を学び、生活に活用できるようにする。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	50	講義終了後、指定の期日内にレポートを提出。								
		平常点	50	授業の態度、関心、意欲を評価する。（授業中の口頭試問を含む。）								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③④⑤で評価を行う。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義で習得した知識を実際の生活で確認すること（各コマ２時間程度）。 ネット上などで情報を収集して講義に臨むこと。 ②それらは授業中に適宜確認し、解説を加えていく。授業後も質問を受け付ける。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	醗酵食品、醗酵とは？	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	醗酵が利用されている食品をあげ、醗酵とはなにか説明できる。	
	予習復習の内容	身近な醗酵食品や醗酵の技術の利用を調べる。	
2回	授業内容	醗酵の場面で活躍する微生物について	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	我々が利用している微生物がどのようなものでどのように働くか説明できる。	
	予習復習の内容	微生物の利用を調べる。	
3回	授業内容	酵素の発見、バイオテクノロジーの発展	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	酵素の発見やバイオテクノロジーの発展の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常活用について理解を深める。	
4回	授業内容	酵素の働き・性質	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	酵素の働きや性質が説明でき、正しく活用することができる。誇張広告を見分けることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常活用について理解を深める。	
5回	授業内容	麹菌の働き～麹菌の諸性質	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	国菌「麹菌」について性質や利用方法が説明ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常活用について理解を深める。	
6回	授業内容	麹菌の働き～味噌、醤油、あまさけの作り方	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	麹菌を利用した食品について、どのように麹菌が働いているか説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常活用について理解を深める。	
7回	授業内容	日本酒「巧みな並行複醗酵の活用」、ビール、ウイスキー、ワイン等の製造方法	その回の学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	世界の酒の作り方や並行複醗酵を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常活用について理解を深める。	
8回	授業内容	全体のまとめと課題レポートについて	学習内容の確認を口頭にて行う。
	学習成果	醗酵食品や醗酵の技術の活用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常活用について理解を深める。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	国内語学研修				担当者	山川奈美（ヤマカワナミ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Classroom、Eメールで行う。yamakawa.na@seiwa.ac.jp											
専門的学習成果	①	イギリスの歴史・文化を学習することにより、日本との違いを探求できる。										
	②	英会話を通じ、外国人とコミュニケーションをとることができる。										
	③	国内外の人々との触れ合いにより、生活様式を学習し日常生活に生かすことができる。										
	④	食事マナーを通して社会人としての立ち振る舞いを実践できる。										
汎用的学習成果	(1)	イギリスを始め欧米諸国の研究により異文化を理解し、国際社会でも積極的に行動することができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	社会人として国際的に通用するマナーを実践できる。（専門的学習成果②③）										
授業概要	交通インフラや情報インフラの整備で、世界は驚くほど近く身近なものとなっている。それに伴い海外の人々との交流も活発になっている。広く交流を深めるためには、語学だけではなく生活面においてのマナーが重要になってくる。講座では英国の歴史・文化を研究・理解し、「パスポートのいらない英国」と言われる「ブリティッシュヒルズ」に滞在することで直に外国人と触れ合う。今後社会人として国内外で活躍できる人材を育てることを目的に、実習を行う。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	70	実習後のレポート提出により、実習に対する取り組みを評価する。
		グループワーク		
		平常点	30	授業・実習に対する意欲・取り組みを評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②により評価する。 (2) は専門的学習評価②③により評価する。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①1・2年共に受講できる。事前説明会を実施し、説明会に参加してからの履修も可能とする。研修参加費用は受講者数・諸事情により確定できないが、約3万円程を予定している。また受講者数・諸事情で中止になる場合がある。事前学習として英国についての情報を収集すること。また履修者間等での英会話を心掛ける（予習：週2時間程度）。授業後は講義内容の振り返り、疑問点等を調べ、理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②レポートは後日返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	レポート提出
	学習成果	実習の意義を指摘できる。	
	予習復習の内容	英国の歴史・文化を研究する。	
2回	授業内容	英国の歴史・文化	
	学習成果	英国の歴史・文化を理解できる。	
	予習復習の内容	英国の歴史・文化を研究する。	
3回	授業内容	ブリティッシュヒルズ研究	
	学習成果	実習先施設を説明できる。	
	予習復習の内容	実習先を調査・研究する。	
4回	授業内容	世界のマナー	
	学習成果	主要国の文化を理解できる。	
	予習復習の内容	世界の習慣を研究する。	
5回	授業内容	食事マナー	
	学習成果	食事マナーを実践できる。	
	予習復習の内容	洋食マナー研究	
6回	授業内容	宿泊施設マナー	
	学習成果	ホテル宿泊のマナーを実践できる。	
	予習復習の内容	宿泊マナーの確認	
7回	授業内容	ホテル客室の利用	
	学習成果	ホテル客室内の備品を適切に使用できる。	
	予習復習の内容	ホテル客室内備品研究、ホテルでの過ごし方、マナーの確認	
8回	授業内容	英会話レッスン	
	学習成果	外国人講師と英語での挨拶・自己紹介ができる。	
	予習復習の内容	英会話レッスン	
9回	授業内容	英会話レッスン	
	学習成果	外国人講師と日常会話ができる。	
	予習復習の内容	英会話レッスン	
10回	授業内容	夕食のマナー	
	学習成果	洋食のマナーが実践できる。フォーマルな装いを理解できる。	
	予習復習の内容	ナイフ・フォークの使い方、洋装の場合のフォーマルの種類を調査・研究する。	
11回	授業内容	パブリックスペースの使い方	
	学習成果	ホテル内のパブリックスペースで他者との交わりができる。	
	予習復習の内容	パブリックスペースで過ごす。	
12回	授業内容	アクティビティ	
	学習成果	ホテルスタッフと英語でアクティビティを楽しむことができる。	
	予習復習の内容	英会話レッスン	
13回	授業内容	朝食マナー	
	学習成果	ホテル内朝食会場で食事マナー実践できる。	
	予習復習の内容	朝食マナー	
14回	授業内容	英会話レッスン	
	学習成果	外国人講師とホテル敷地内を英語を使い散策できる。	
	予習復習の内容	英会話レッスン	
15回	授業内容	ホテル散策	レポート提出
	学習成果	ホテル全般を理解できる。	
	予習復習の内容	実習全体をレポートにまとめる。	

科目名	ディズニーホスピタリティ研修			担当者	山川（ヤマカワ）奈美（ナミ）							
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	連絡用に Classroom を前期から作成します。またはＥメール yamakawa.na@m.seiwa.ac.jp まで。											
専門的学習成果	①	欧米の歴史や文化を研究することにより、日本との相違を探求することができる。										
	②	ディズニーリゾートスタッフの「ホスピタリティ」を学習し実践できる。										
	③	観光産業におけるテーマパークの位置付けと意義を論じることができる。										
	④	多くの人々が集う公共の場でのマナーの実践ができる。										
汎用的学習成果	(1)	日常英会話を通して外国人と触れ合い、国際社会で生かすことができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	コミュニケーションの基本である他者の考えを尊重し、思いやることができる。（専門的学習成果②③）										
	(3)	人間関係の構築に積極的に関わりを持ち、行動することができる。（専門的学習成果①②③）										
授業概要	国内外から年間約3000万人の観光客が訪れる東京ディズニーリゾート（ディズニーランド、ディズニーシー、関連ホテル等）におけるホスピタリティを学ぶ。来園者のリピート率は90％を超える理由やディズニーの世界観を守るための企業努力などを学んだ後、実際にディズニーリゾートを実際に体験し、その体験をまとめて理解を深める。 「ホスピタリティ」「おもてなし」「テーマパークの魅力」などを体験することにより、観光産業が社会に及ぼす影響力も学習する。 ランドかシーいずれに行くのかは、基本的に履修者からの希望制（多数決）。ただし履修者全員が同じ場所へ行きます。 １年生前期の「ホスピタリティ概論」を履修してからの履修が望ましい。											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験										
		レポート	50	実習後のレポート提出（個人）により、実習に対する取り組み、成果を評価する。								
		グループワーク	30	現地実習での研修ポイントをグループワークで話し合って決める。								
		研修	20	研修中の取り組み、意欲を評価する。								
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③により評価する。 (2) は専門的学習成果②③により評価する。 (3) は専門的学習成果①②③により評価する。										
テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①１・２年生共に受講可能。事前に説明会を行うか、クラスルームからの連絡をする。基本的に全額自己負担のため約３～５万円程度の実費負担が必要。また、諸事情により中止になる場合もある。事前学習として東京ディズニーリゾートや他のテーマパークについての情報収集すること。（予習：週２時間程度）「ホスピタリティ概論」を受講することを勧めます。（予習にもなります）授業後は講義内容の振り返り、疑問点等を調べ、レポートにまとめると共にグループで意見交換をし、理解を深める（復習：週２時間程度） ②レポートは後日返却するので、復習に充てる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	授業終了時に理解度を確認
	学習成果	実習の意義を指摘できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートを研究する。	
2回	授業内容	テーマパークの研究	
	学習成果	テーマパークの存在価値を説明できる。	
	予習復習の内容	テーマパークを調査・研究	
3回	授業内容	東京ディズニーリゾート研究（ハード）	
	学習成果	東京ディズニーリゾートの建物や周囲の環境について説明できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾート施設研究	
4回	授業内容	東京ディズニーリゾート研究（ハード）	
	学習成果	東京ディズニーリゾートの建物や周囲の環境について説明できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾート施設研究	
5回	授業内容	東京ディズニーリゾート研究（ソフト）	
	学習成果	東京ディズニーリゾートのホスピタリティの概念を説明できる。	
	予習復習の内容	ホスピタリティの研究	
6回	授業内容	東京ディズニーリゾート研究（ソフト）	
	学習成果	東京ディズニーリゾートのホスピタリティの概念を説明できる。	
	予習復習の内容	ホスピタリティの研究	
7回	授業内容	東京ディズニーリゾート研究（ホテル）	
	学習成果	東京ディズニーリゾートオフィシャルホテルについて説明できる。	
	予習復習の内容	オフィシャルホテルと他のホテルについて研究する	
8回	授業内容	東京ディズニーリゾート実地研修	レポート提出
	学習成果	東京ディズニーリゾートの実際のホスピタリティを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートの実地研究	
9回	授業内容	東京ディズニーリゾート実地研修	
	学習成果	東京ディズニーリゾートの実際のホスピタリティを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートの実地研究	
10回	授業内容	東京ディズニーリゾート実地研修	
	学習成果	東京ディズニーリゾートの実際のホスピタリティを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートの実地研究	
11回	授業内容	東京ディズニーリゾート実地研修	
	学習成果	東京ディズニーリゾートの実際のホスピタリティを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートの実地研究	
12回	授業内容	東京ディズニーリゾート実地研修	
	学習成果	東京ディズニーリゾートの実際のホスピタリティを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートの実地研究	
13回	授業内容	東京ディズニーリゾート実地研修	
	学習成果	東京ディズニーリゾートの実際のホスピタリティを理解できる。	
	予習復習の内容	東京ディズニーリゾートの実地研究	
14回	授業内容	東京ディズニーリゾート研修まとめ	実習後の反省や学習理解度をまとめる
	学習成果	東京ディズニーリゾートの実地研修をもとにホスピタリティを理解できる。	
	予習復習の内容	実習全体をレポートにまとめる	
15回	授業内容	東京ディズニーリゾート研修をグループワークで検証する	
	学習成果	意見交換することで、東京ディズニーリゾートのホスピタリティの理解度を深める。	
	予習復習の内容	グループワークの内容を含め、レポートにまとめ総括する	

科目名	宅建士対策講座Ⅰ（宅建業法）				担当者	宮城（ミヤギ） 伸彦（ノブヒコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: miyagi.no@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的学習成果	①	宅地建物取引業法がどのような目的で制定されたのか説明できる。										
	②	不動産取引について専門的知識を用いて説明できる。										
	③	宅地建物取引業者に対する様々な規制を挙げることができる。										
	④	不動産取引の実務について理解し、学んだ知識と関連付けることができる。										
	⑤	不動産取引における重要事項を挙げることができる。										
汎用的学習成果	(1)	不動産に関わる取引について幅広い教養と知識を身につけ社会生活に活かすことができる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(2)	不動産取引の形式と実情を理解し、社会的・職業的自立の実践につなげることができる。（専門的学習効果②③④⑤に関連）										
	(3)	不動産取引に関し、修得した専門知識を活かして社会生活や地域の発展に積極的に貢献できる。（専門的学習効果①②③④⑤に関連）										
授業概要	宅地建物取引士試験に合格するために最も重要となる科目が宅地建物取引業法である。この宅地建物取引業法を、授業ではテキストとレジュメを活用し、基礎知識を固めることを第一とする。授業では過去の本試験で出題された問題を解く時間設け、基礎力に加えて実践力も養う。本試験に合格するためのインプットの基礎固めとアウトプットの過去問演習を効率的に行っていくことで、最終的に宅地建物取引士試験に合格するレベルに到達することを目的とする。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	60	授業内にて小テストを実施。12回実施し、各回５％の評価を行う。
		まとめテスト	40	まとめのテストを最終回に実施し、40%で評価を行う。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習効果①②③④の評価で行う。 (2) は専門的学習効果②③④⑤の評価で行う。 (3) は専門的学習効果①②③④⑤の評価で行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	TAC株式会社（宅建士講座）編著	『2025年度版　わかって合格る宅建士　基本テキスト』	TAC出版
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①あらかじめ次回講義にどのような内容に触れるのかテキストで確認しておく。また、講義後には必ず該当範囲の復習をし、過去問を検討する時間（１時間程度）を作る。 ②授業で取り扱った内容を小テストで出題するため自己管理できるが、重要問題を取り扱うため小テスト後に解説も行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション　宅建士試験の概要	
	学習成果	宅建士試験の概要と準備。対策について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストに目を通しておく。	
2回	授業内容	宅地建物取引の概念	
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
3回	授業内容	宅地建物取引業者	確認テスト①
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
4回	授業内容	宅地建物取引士	確認テスト②
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
5回	授業内容	営業保証金・保証協会	確認テスト③
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
6回	授業内容	取引上の規制①	確認テスト④
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
7回	授業内容	取引上の規制②	確認テスト⑤
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
8回	授業内容	媒介契約書面	確認テスト⑥
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
9回	授業内容	重要事項説明書	確認テスト⑦
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
10回	授業内容	37条書面	確認テスト⑧
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
11回	授業内容	８種規制①	確認テスト⑨
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
12回	授業内容	８種規制②	確認テスト⑩
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
13回	授業内容	報酬	確認テスト⑪
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
14回	授業内容	監督処分・罰則	確認テスト⑫
	学習成果	対象分野の宅地建物取引業法について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストのチェックならびに過去問の復習・検討	
15回	授業内容	まとめ	まとめテスト
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後の学習に繋げることができる。	
	予習復習の内容	この期間内の学習内容を振り返る。	

科目名	マーケティング入門				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択		2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
					授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。												
専門的学習成果	①	マーケティングの基本概念の理解：４P、４C、STP などのマーケティング理論を説明できる。											
	②	消費者行動の分析力の習得：消費者の購買意思決定プロセスを理解し、行動を分析できる。											
	③	市場調査とデータ分析の基礎スキルの習得：アンケートやインタビューの手法を学び、データを活用した意思決定ができる。											
	④	サービスマーケティングの応用力の育成：サービスの特性や顧客体験（CX）を考慮した戦略を設計できる。											
	⑤	教育サービスの設計と提案能力の向上：学生を顧客と捉えた教育サービスを設計・提案できる。											
汎用的学習成果	(1)	論理的思考力の養成：論理的にマーケティング戦略を構築し、提案する能力を育む。（専門的学習効果①②③④⑤に関連）											
	(2)	チームでの協働スキルの向上：グループワークを通じて、他者と協力しながら課題を解決する力を養う。（専門的学習効果①④⑤に関連）											
	(3)	プレゼンテーション能力の向上：自分の意見や提案を的確に表現し、他者に伝えるスキルを向上させる。（専門的学習効果⑤に関連）											
授業概要	この科目では、マーケティングの基本概念から応用までを学び、特にサービスマーケティングの視点を取り入れ、学生自身が享受している“教育”をサービスとして捉える考え方を探求します。学生はマーケティング理論（４P、４C、STP など）を理解し、顧客体験（CX）やブランド戦略、プロモーション手法について学びます。また、サービスマーケティングの応用として、学生自身が教育サービスを設計・提案するワークショップを実施し、実践的なスキルを養います。本授業を通じて、マーケティング理論の理解だけでなく、問題解決能力やコミュニケーションスキルを身につけることを目指します。												

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	20	課題に対するレポートを作成する。［２回、各1500文字］
		小レポート	15	毎回小レポートを実施し、理解度を確認する。
		小テスト	30	小テストを実施、理解度を確認する。［３回］
		発表	20	課題に対する内容検討・成果物の妥当性・プレゼンテーションにより評価する。
		平常点	15	授業への協力的・協調的・積極的な貢献によって評価する。
	汎用的学習成果	（1）は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 （2）は専門的学習成果①④⑤で評価を行う。 （3）は専門的学習成果⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	フィリップ・コトラー	『コトラーのマーケティング5.0 デジタル・テクノロジー時代の革新戦略』	朝日新聞出版
	フィリップ・コトラー	『コトラーのマーケティング・マネジメント - ミレニアム版』	ピアソン・エデュケーション
	クリストファー ラブロック，ローレン ライト他	『サービス・マーケティング原理』	白桃書房

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①現代社会はあらゆる物質・サービスが“販売”の対象となっていると言っても過言ではない。そのような社会においてマーケティングの影響は皆さん方の身近に溢れています。日常の出来事やニュースなどを積極的にマーケティングの現実に触れる機会と捉え情報収集とその精査を日常化することができるよう努めて下さい。 ②マーケティングは何よりも「現実」として何が起こっているのかを観察し洞察することが大切です。事前学習として参考資料等を読み、日常的なニュースにも関心をもち知識の範囲を広め洞察を深めてください。（予習：週１ 時間程度）事後学習としては、指定された範囲の課題に取り組むこと。（復習：週３ 時間程度）。提出されたレポートは全体的な講評を行い評価します。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーションとマーケティングの概要：マーケティングとは何か、歴史と基本的な役割を学ぶ。	小レポート①
	学習成果	マーケティングの定義と重要性について認識することができる。	
	予習復習の内容	マーケティングの歴史的変遷について調査する。	
2回	授業内容	マーケティングの基本概念（４Pと４C）：内容：製品（Product）、価格（Price）、場所（Place）、プロモーション（Promotion）と４C（顧客視点）の説明。	小レポート②
	学習成果	４Pと４Cの違いを理解し、具体例を挙げられるようになる。	
	予習復習の内容	ニーズとウォンツの実例を調べ、その違いについて検討する。	
3回	授業内容	消費者行動と購買プロセス：消費者が購入に至るプロセスを学び、購買意思決定の流れを理解する。	小レポート③
	学習成果	消費者行動を分析する基本スキルを習得し具体例が挙げられるようになる。	
	予習復習の内容	自らがどのように商品・サービスを購入するかの過程を分析する。	
4回	授業内容	市場調査とデータ分析の基礎内容：アンケート調査やインタビュー、データ分析の手法を学ぶ。	小レポート④
	学習成果	市場調査の基本手順を説明できるようになる。	
	予習復習の内容	質的、量的調査の違いについて調べる。	
5回	授業内容	ターゲティングとセグメンテーション：セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング（STP）の概念と実践。	小レポート⑤ 小テスト①
	学習成果	効果的なターゲティング方法を理解し、適切な手法について認識できるようになる。	
	予習復習の内容	特定の商品についてのSTPについて調査する。	
6回	授業内容	ブランドとブランド戦略：ブランドの価値、イメージ形成の方法を学ぶ。	小レポート⑥ レポート①
	学習成果	ブランド戦略の基本を理解し、具体例を挙げられるようになる。	
	予習復習の内容	ブランドと消費者行動の実際について調査する。	
7回	授業内容	プロモーション戦略：広告、販売促進、PR、ダイレクトマーケティングの活用法。	小レポート⑦
	学習成果	さまざまなプロモーション戦略を比較し、適切に選ぶための観点に留意することができる。	
	予習復習の内容	効果的なプロモーションのモデルについて検討する。	
8回	授業内容	デジタルマーケティングの基礎：SNSマーケティング、SEO、コンテンツマーケティングの基礎を学ぶ。 • 内容：SNSマーケティング、SEO、コンテンツマーケティングの基礎を学ぶ。	小レポート⑧
	学習成果	デジタルマーケティングの基本ツールの有効性について認識できる。	
	予習復習の内容	WEBを通じたマーケティングの実例に触れる機会を増やす。	
9回	授業内容	ソーシャルマーケティングと倫理：社会的課題を解決するマーケティングの役割とその倫理的側面。	小レポート⑨
	学習成果	倫理的なマーケティング活動の重要性を理解し、自らの見解を述べることができる。	
	予習復習の内容	SNSの実際について触れ、その影響と倫理性について調査する。	
10回	授業内容	サービスマーケティングの基本：サービスマーケティングの特徴（無形性、同時性、変動性、消滅性）を学ぶ。	小レポート⑩ 小テスト②
	学習成果	サービスマーケティングの基礎を理解し、製品マーケティングとの違いを説明できるようになる。	
	予習復習の内容	サービス業における自らの経験について振り返り検討する。	
11回	授業内容	顧客体験（CX）の重要性：サービスにおける顧客体験（CX: Customer Experience）のデザインと事例。	小レポート⑪
	学習成果	優れた顧客体験がサービス成功に与える影響について説明できる。	
	予習復習の内容	顧客体験の実例について調査する。	
12回	授業内容	教育をサービスとして考える：学生を顧客と捉えた教育サービスの設計について学ぶ。	小レポート⑫ レポート②
	学習成果	教育におけるマーケティングの応用方法を理解し、その必要性について説明できる。	
	予習復習の内容	教育の個人に対する影響について調査する。	
13回	授業内容	学生による教育サービスの提案ワークショップ：グループで教育サービスを設計し、ターゲットやサービス内容をまとめる。	小レポート⑬ 小テスト③
	学習成果	学んだ知識をもとに、自分たちで教育プランを作成できるようになる。	
	予習復習の内容	すぐれた教育方法と顧客体験を調査・比較する。	
14回	授業内容	教育サービス提案のプレゼンテーション：各グループが提案した教育サービスをプレゼンテーションし、フィードバックを受ける。	小レポート⑭ プレゼンテーション①
	学習成果	提案内容を効果的に伝える力を養い、他者からの意見を活用することの意義について検討することができる。	
	予習復習の内容	サービスマーケティングを教育に活かす手法について検討する。	
15回	授業内容	授業の総括とフィードバック：授業全体の振り返りを行い、マーケティングとサービスの本質についてディスカッション。	小レポート⑮
	学習成果	マーケティングとその周辺領域について学んだ知識を振り返り、今後の学びと実践に活用できるようになる。	
	予習復習の内容	日常にあるマーケティングの実際につい観察・検討する。	

科目名	会計の基礎				担当者	永野（ナガノ）　篤（アツシ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。											
専門的学習成果	①	経営活動を会計の視点から捉え、基礎的な専門知識を用いて説明できる。										
	②	会計用語や基本概念を理解し、簡単な取引や経営状況を整理できる。										
	③	経営の意思決定のしくみを通して、会計と経営の関係を実践的に理解できる。										
	④	習得した専門知識を用いて、経営や業務の基礎的な判断ができる。										
汎用的学習成果	(1)	経営や学習の場面において課題を見出し、その解決方法を考察できる。（専門的学習効果③④に関連）										
	(2)	他者の意見を踏まえながら、自分の考えをまとめて行動できる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(3)	学習内容を自分の言葉で整理し、場面に応じて分かりやすく表現できる。（専門的学習効果①②③に関連）										
	(4)	経営・会計を学び続ける姿勢をもち、身につけた知識や技能を社会に生かすことができる。（専門的学習効果②③④に関連）										
授業概要	本科目では、会計を単なる計算技術としてではなく、経営活動を理解するための共通言語として捉えることを目的とする。経営活動の実際を通して、取引・利益・資産・負債の関係を体験的に理解し、基本的な会計用語や財務諸表の仕組みを説明できることを目標とする。簡易的な経営シミュレーションを用いながら学習を進める。学生は仮想的な経営活動を行い、その結果を簿記・会計的に整理・分析することで、経営と会計のつながりを段階的に理解していく。											

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		小レポート	64	課題に対するレポートを作成する［8回、各200文字］
		発表	10	企業経営と会計の結びつきについて発表する。
		平常点	26	授業への協力的・協調的・積極的な貢献によって評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	登川雄太	『世界一やさしい 会計の教科書 1年生』	ソーテック社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 会計は計算や用語を覚えること自体が目的ではなく、経営活動や社会の仕組みを理解するための「共通言語」である。本授業では、経営シミュレーションを通して会計の考え方に触れるため、日常の経済活動やニュース、身近な店舗や企業の動きなどを、会計の視点から捉える意識をもって授業に臨んでほしい。 ② 授業では、会計用語や基本概念を段階的に学習し、それらを経営活動の流れの中で理解していく。事前学習として、配布資料や指定された内容に目を通し、用語や仕組みの概要を把握してから授業に参加すること（予習：週1時間程度）。事後学習としては、授業内で扱った内容や演習結果を振り返り、会計と経営の関係を整理すること（復習：週2～3時間程度）

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	会計と経営の関係を学ぶためのイントロダクションを行う。	小レポート①
	学習成果	会計が経営活動に必要な理由を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み授業全体の流れを整理する。	
2回	授業内容	取引の考え方と会計に関する基本用語を学習する。	小レポート②
	学習成果	取引と会計用語の関係を理解できる。	
	予習復習の内容	会計用語の意味を確認し内容を振り返る。	
3回	授業内容	仕訳の基本と簿記の五要素について学習する。	小レポート③
	学習成果	基本的な仕訳の考え方を理解できる。	
	予習復習の内容	仕訳例を確認し会計の考え方を整理する。	
4回	授業内容	簡易的な経営シミュレーションを用いた演習を行う。	小レポート④
	学習成果	経営活動を会計の視点から捉えることができる。	
	予習復習の内容	演習内容を振り返り結果を整理する。	
5回	授業内容	経営活動と損益の考え方について学習する。	小テスト⑤
	学習成果	利益と費用の関係を会計的に説明できる。	
	予習復習の内容	授業資料を確認し損益の考え方を復習する。	
6回	授業内容	貸借対照表の基本構造と役割について学習する。	小レポート⑥
	学習成果	資産・負債・純資産の関係を理解できる。	
	予習復習の内容	図表を用いて貸借対照表の構造を整理する。	
7回	授業内容	決算書を踏まえた経営シミュレーション演習を行う。	小レポート⑦
	学習成果	会計情報を基にした経営判断ができる。	
	予習復習の内容	演習結果を振り返り判断の理由を整理する。	
8回	授業内容	会計と経営の関係を総合的に整理しまとめる。	小レポート⑧ 発表
	学習成果	会計の基礎を用いて経営を説明できる。	
	予習復習の内容	授業全体を振り返り理解をまとめる。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		